道前久保Ⅱ遺跡発掘調査報告書

――工場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書――

2009

安中市埋蔵文化財発掘調査団

道前久保Ⅱ遺跡発掘調査報告書

―― 工場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

２００９

安中市埋蔵文化財発掘調査団

道前久保Ⅱ遺跡全景

道前久保Ⅱ遺跡遠景

序

安中市は群馬県の西南部に位置し、上毛三山に囲まれた田園都市です。道前久保II遺跡は碓氷川南岸の上位段丘に位置しています。

本遺跡は株式会社ユー・コーポレーションの工場建設事業実施に先立ち安中市埋蔵文化財発掘調査団により発掘調査が行われました。

発掘調査によって縄文時代前期・中期・後期の集落跡、平安時代の集落跡及び古代の地震による亀裂等が発見されました。この亀裂は、縄文時代中期の住居を壊していて、地面がズレた状況も良く確認することができました。

発掘調査は、この様な貴重な文化財を後世に残すことを目的とし、記録保存の措置を講ずるものです。

こうした埋蔵文化財はかけがえのない郷土の遺産であり、市民のみなさまに郷土の歴史を学習していただけるよう広く活用を図り、文化財愛護の精神を広く普及するよう努めていく所存です。

終わりに、発掘調査に御協力いただいた株式会社ユー・コーポレーションをはじめとする関係者の皆様、安中市の文化財行政の一端を担い、発掘調査に従事していただいた方々には、この場を借りて感謝の意を表したいと存じます。

平成21年3月

安中市埋蔵文化財発掘調査団

団　長　**中　澤　四　郎**

例　　言

1　本書は株式会社ユー・コーポレーションが計画した、工場建設事業に伴う道前久保Ⅱ遺跡（略称Ｇ－５）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査及び遺物整理は、安中市教育委員会が組織する安中市埋蔵文化財発掘調査団が委託を受けて実施した。発掘調査は1988年に行った。

平成20年度の安中市埋蔵文化財発掘調査団の組織は次のとおりである。

団　　長：中澤四郎　　副 団 長：本多英夫　　事務局長：小島成公

事務局次長：藤巻正勝　経理担当：蜂須賀まゆみ

調 査 員：壁　伸明　　千田茂雄(調査担当)　　深町　真　　井上慎也

3　本書の編集・執筆等は千田が担当し、鬼形敦子がこれを補佐した。

4　今回の調査における記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．道前久保Ⅱ遺跡全体図の縮尺は１／160である。

2．住居址等遺構の縮尺は１／40・１／80である。

3．遺物の縮尺は次のとおりである。

土器　１／４　　石器　１／１・１／２・１／４　土製品　１／４

4．土層説明中での記号、略称は次の通りである。

色調＜：より明るい方向を示す（例１＜２：１より２の方が明るい）

しまり、粘性　◎：あり、○：ややあり、△：あまりない、×：なし

混入物　◎：大量、○：多量、△：少量、＊：若干、×：なし

WP：白色粒子、YP（As-YP）：板鼻黄色軽石層、RP：ローム粒子

RB：ロームブロック、B（As-B）：浅間Ｂ軽石、BP：板鼻褐色軽石層

6．住居址実測図の●はセクション及びエレベーションのポイントを示す。

7．柱穴の深さのスクリントーンは

20～39cm

40～59cm

60cm以上

本文目次

序
例　言
凡　例
本文目次
挿図目次
表目次
写真図版目次

Ⅰ　調査に至る経過……1
Ⅱ　調査の方法と経過……1
Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境……1
Ⅳ　層　序……4
Ⅴ　遺構と遺物……4
Ⅵ　まとめ……94

挿図目次

第1図　遺跡位置図……2
第2図　周辺遺跡分布図……3
第3図　基本層序柱状図……4
第4図　J－1号住・J－4号住住居址実測図……7
第5図　J－2号住・J－3号住住居址実測図……8
第6図　J－5号住・J－6号住住居址・JD－29実測図……9
第7図　J－7号住・J－8号住・J－9・10号住住居址実測図……10
第8図　J－11・12号住(1)住居址実測図……11
第9図　J－11・12号住(2)・J－13号住住居址実測図……12
第10図　J－14号住・J－15号住住居址実測図……13
第11図　土坑実測図(1)……14
第12図　土坑実測図(2)……15
第13図　H－1・9号住・H－2号住住居址実測図……16
第14図　H－3号住・H－4・5号住住居址実測図……17
第15図　H－6号住・H－7号住・H－8号住住居址実測図……18
第16図　H－10号住・H－11・12号住住居址実測図……19
第17図　H－13・14号住住居址実測図……20
第18図　M－1号溝実測図……21
第19図　亀裂実測図(折込)……23
第20図　遺物分割取り上げ図……25
第21図　J－1号住(1)出土の土器……27
第22図　J－1号住(2)・J－2号住出土の土器……28
第23図　J－3号住・J－4号住(1)

出土の土器……29
第24図　J－4号住(2)・J－5号住
出土の土器……30
第25図　J－6号住・J－8号住・J－9号住・
J－11号住(1)出土の土器……31
第26図　J－11号住(2)出土の土器……32
第27図　J－11号住(3)出土の土器……33
第28図　J－11号住(4)・J－12号住(1)
出土の土器……34
第29図　J－12号住(2)・J－14号住・
J－15号住(1)出土の土器……35
第30図　J－15号住(2)出土の土器……36
第31図　J－15号住(3)出土の土器……37
第32図　J－15号住(4)出土の土器……38
第33図　J－15号住(5)出土の土器……39
第34図　JD－1・JD－2・JD－3・JD－4・
JD－5・JD－6(1)出土の土器……40
第35図　JD－6(2)・JD－9・JD－12・
JD－16・JD－21・JD－25・JD－28・
JD－29出土の土器……41
第36図　JD－30・JD－31・JD－33・JD－36・
JD－37(1)出土の土器……42
第37図　JD－37(2)・JD－38・JD－40・JD－41・
JD－44・JD－49・JD－51・JD－55・
JD－56・JD－58出土の土器……43
第38図　JU－1号埋甕・JU－2号埋甕・
グリッド出土の土器……44
第39図　J－1号住出土の石器……45
第40図　J－2号住・J－3号住・
J－4号住(1)出土の石器……46
第41図　J－4号住(2)・J－5号住(1)
出土の石器……47
第42図　J－5号住(2)出土の石器……48
第43図　J－6号住・J－8号住・
J－9号住(1)出土の石器……49
第44図　J－9号住(2)・J－11号住(1)
出土の石器……50
第45図　J－11号住(2)・J－12号住・
J－14号住(1)出土の石器……51
第46図　J－14号住(2)・J－15号住(1)
出土の石器……52
第47図　J－15号住(2)・JD－6土坑・
JD－33号土坑出土の石器……53
第48図　H－2号住・H－3号住・H－4号住
出土の土器……54
第49図　H－7号住・H－8号住・
H－10号住(1)出土の土器……55
第50図　H－10号住(2)・H－13号住・
H－14号住(1)出土の土器……56
第51図　H－14号住(2)出土の土器……57

表　目　次

第1表　遺跡一覧……3
第2表　住居址・土坑観察表……26
第3表　溝観察表……26
第4表　出土遺物観察表……58
第5表　出土遺物観察表……59
第6表　出土遺物観察表……60
第7表　出土遺物観察表……61
第8表　出土遺物観察表……62
第9表　出土遺物観察表……63
第10表　出土遺物観察表……64
第11表　出土遺物観察表……65
第12表　出土遺物観察表……66
第13表　出土遺物観察表……67
第14表　出土遺物観察表……68
第15表　出土遺物観察表……69
第16表　出土遺物観察表……70
第17表　出土遺物観察表……71
第18表　出土遺物観察表……72

第19表　出土遺物観察表……73
第20表　出土遺物観察表……74
第21表　出土遺物観察表……75
第22表　出土遺物観察表……76
第23表　出土遺物観察表……77
第24表　出土遺物観察表……78
第25表　出土遺物観察表……79
第26表　出土遺物観察表……80
第27表　出土遺物観察表……81
第28表　出土遺物観察表……82
第29表　石器観察表……83
第30表　石器観察表……84
第31表　石器器種組成……85
第32表　石器器種組成……86
第33表　石器石材個数重量組成……87
第34表　石器石材個数重量組成……88
第35表　出土遺物観察表……89
第36表　出土遺物観察表……90
第37表　出土遺物観察表……91
第38表　出土遺物観察表……92
第39表　出土遺物観察表……93

写真図版目次

図版１　Ｊ－１住　全景
Ｊ－２住　全景
Ｊ－３住　全景
Ｊ－４住　全景
Ｊ－５住　全景
Ｊ－６住　Ｊ－Ｄ－29　全景
Ｊ－７住　全景
図版２　Ｊ－８住　全景
Ｊ－９住　全景
Ｊ－11・12住　全景
Ｊ－13住　全景
Ｊ－13住　全景
Ｊ－14住　全景
Ｊ－15住　全景
Ｈ－１・９住　全景
図版３　Ｈ－２住　全景
Ｈ－３住　全景
Ｈ－４住　全景
Ｈ－５住　全景
Ｈ－６住　全景
Ｈ－７住　全景
図版４　Ｈ－10住　全景
Ｈ－13・14住　全景
Ｍ－１
亀裂
亀裂
亀裂　断面
亀裂　断面
図版５　Ｊ－１号住出土遺物(1)
図版６　Ｊ－１号住出土遺物(2)
Ｊ－２号住出土遺物
図版７　Ｊ－３号住出土遺物
Ｊ－４号住出土遺物(1)
図版８　Ｊ－４号住出土遺物(2)
Ｊ－５号住出土遺物
図版９　Ｊ－６号住出土遺物
Ｊ－８号住出土遺物
Ｊ－９号住出土遺物
Ｊ－11号住出土遺物(1)
図版10　Ｊ－11号住出土遺物(2)
図版11　Ｊ－11号住出土遺物(3)
図版12　Ｊ－11号住出土遺物(4)
Ｊ－12号住出土遺物(1)
図版13　Ｊ－12号住出土遺物(2)
Ｊ－14号住出土遺物
Ｊ－15号住出土遺物(1)

図版14　Ｊ－15号住出土遺物(2)
図版15　Ｊ－15号住出土遺物(3)
図版16　Ｊ－15号住出土遺物(4)
図版17　Ｊ－15号住出土遺物(5)
図版18　JD－１号土坑出土遺物
JD－２号土坑出土遺物
JD－３号土坑出土遺物
JD－４号土坑出土遺物
JD－５号土坑出土遺物
JD－６号土坑出土遺物(1)
図版19　JD－６号土坑出土遺物(2)
JD－９号土坑出土遺物
JD－12号土坑出土遺物
JD－16号土坑出土遺物
JD－21号土坑出土遺物
JD－25号土坑出土遺物
JD－28号土坑出土遺物
JD－29号土坑出土遺物
図版20　JD－30号土坑出土遺物
JD－31号土坑出土遺物
JD－33号土坑出土遺物
JD－36号土坑出土遺物
JD－37号土坑出土遺物(1)
図版21　JD－37号土坑出土遺物(2)
JD－40号土坑出土遺物
JD－38号土坑出土遺物
JD－44号土坑出土遺物
JD－41号土坑出土遺物
JD－49号土坑出土遺物
JD－51号土坑出土遺物
JD－55号土坑出土遺物
JD－56号土坑出土遺物
JD－58号土坑出土遺物
図版22　Ｊ－１号住出土の石器
Ｊ－２号住出土の石器
Ｊ－３号住出土の石器
Ｊ－４号住出土の石器
図版23　Ｊ－５号住出土の石器
Ｊ－６号住出土の石器
Ｊ－８号住出土の石器
Ｊ－９号住出土の石器(1)
図版24　Ｊ－９号住出土の石器(2)
Ｊ－11号住出土の石器
Ｊ－12号住出土の石器
Ｊ－14号住出土の石器(1)
図版25　Ｊ－14号住出土の石器(2)
Ｊ－15号住出土の石器
JD－６号土坑出土の石器
JD－33号土坑出土の石器
図版26　Ｈ－２号住出土遺物
Ｈ－３号住出土遺物
Ｈ－４号住出土遺物
図版27　Ｈ－７号住出土遺物
Ｈ－８号住出土遺物
Ｈ－10号住出土遺物(1)
図版28　Ｈ－10号住出土遺物(2)
Ｈ－13号住出土遺物
Ｈ－14号住出土遺物(1)
図版29　Ｈ－14号住出土遺物(2)

Ⅰ　調査に至る経過

株式会社ユー・コーポレーション（以下開発者）より、工場増設事業に係る埋蔵文化財の取り扱いに関する協議の申し出が市教育委員会にあった。該当地区は、1985年の同社工場建設事業実施時に発掘調査が行われており、縄文時代前期及び後期の集落跡が確認されている(道前久保遺跡)。今回の工場増設はその隣接地であり、埋蔵文化財の存在する可能性が高いことから開発者と市教育委員会の間で協議を行った。協議に於いては、文化財保護のための計画変更をも含め行われたが、計画変更をしても埋蔵文化財への影響は避けられないことから、当初の計画どおり事業を実施することとなった。

そのため、事業実施により埋蔵文化財に影響を受ける部分について発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることとなった。

Ⅱ　調査の方法と経過

発掘調査は、工場増設に伴い埋蔵文化財に影響が生じる範囲に限定して行った。

調査はまず、発掘調査対象地区全域を網羅するグリッド設定を行った。グリッドは、１グリッドが４ｍ×４ｍで北西隅を基点とし、北から南へＡ、Ｂ、Ｃ…西から東へ１、２、３…と呼称するようにした。また、グリッドをさらに四分した２ｍ×２ｍの細グリッドを設定し、北西、北東、南西、南東の順にアルファベットの小文字でａ、ｂ、ｃ、ｄと呼称することにした。調査はバックホーによりⅣ層（灰色泥流層）上面まで掘削し、その後人力により遺構、遺物の確認作業を実施した。確認された遺構は順次精査を行い、平板測量により遺構図を作成した。各遺構の土層断面図は、それぞれ必要に応じ作成した。

遺構・遺物の写真撮影はその都度必要に応じ撮影した。また気球による航空写真撮影を行った。

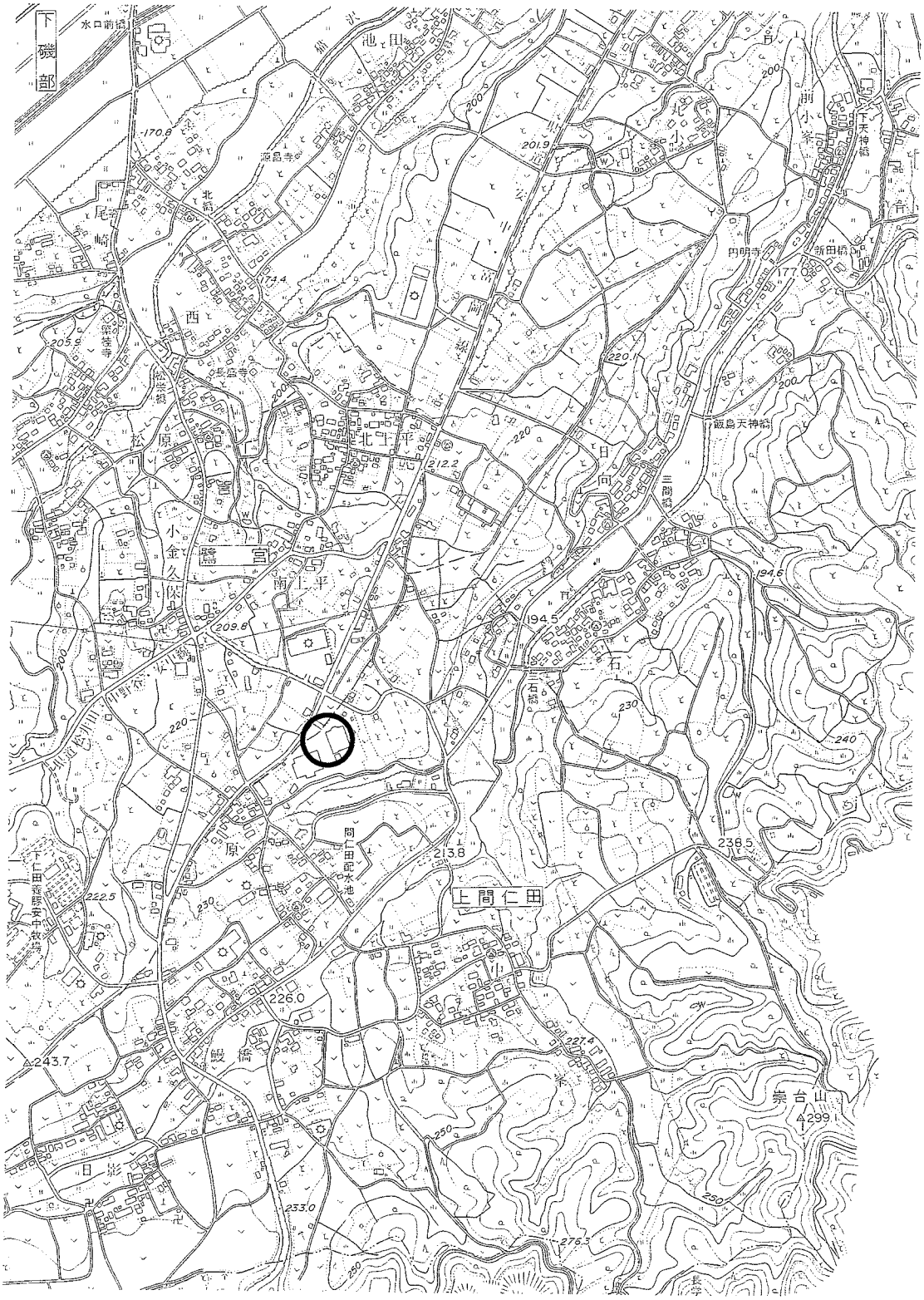
発掘調査終了後、遺物整理を実施した。

作業は、遺物の水洗・注記→接合・復元→実測・拓本→トレース・写真撮影の順で行い、並行して遺構図面の整理・素図作成、トレース、写真整理を行った。

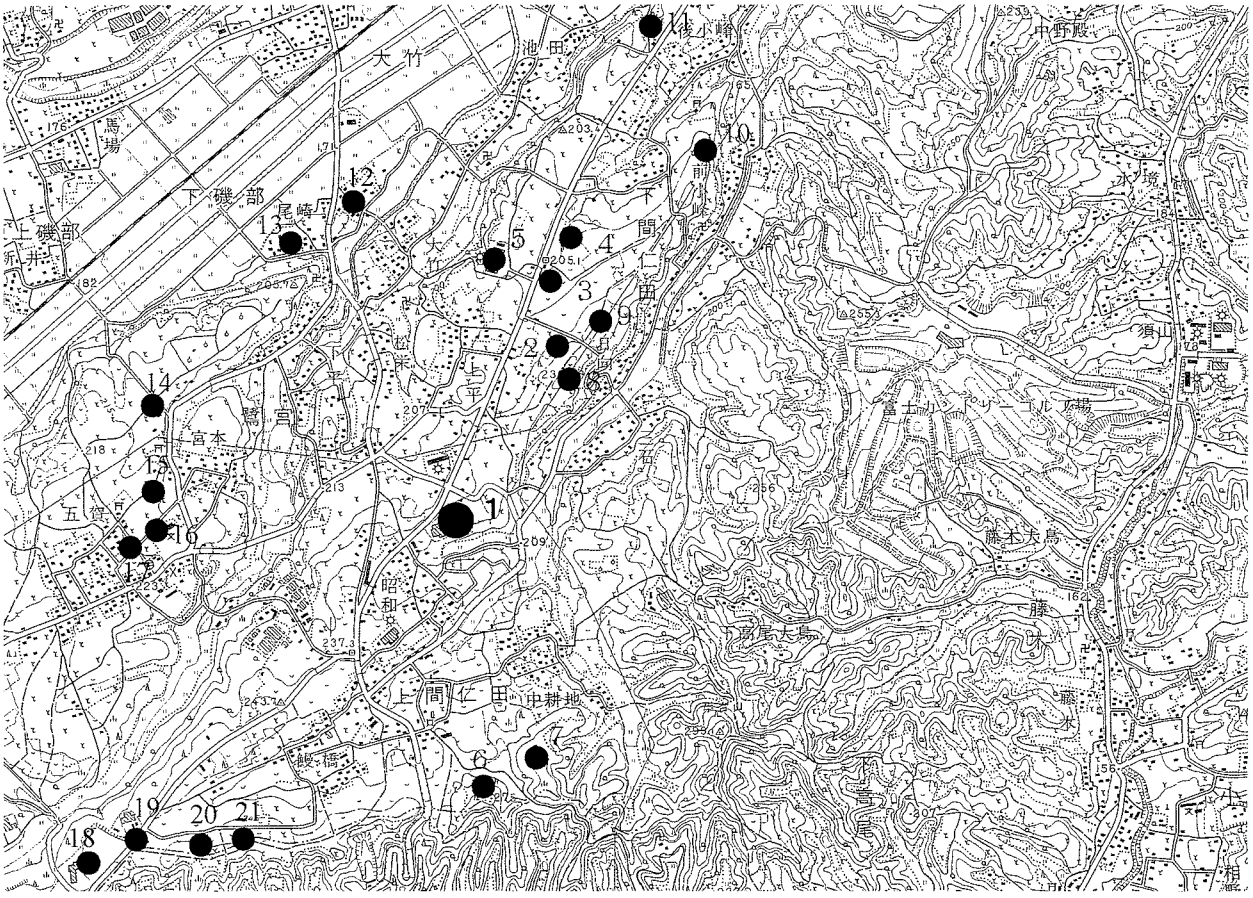
Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境

１　地理的環境

道前久保遺跡Ⅱは群馬県安中市上間仁田字道前久保に存在する。この地区は碓氷川南岸の上位段丘上で、猫沢川と天神川により開析された北東方向にに延びる細長い舌状台地で、本遺跡はその舌状台地のもっとも括れた場所に位置する。遺跡の南には天神川の小支谷が入り込み、谷頭には湧水点が存在する。また遺跡の北には、猫沢川の支谷が入り込んで大きな窪地を形成している。遺跡地の標高は225㍍前後を測る。


下磯部
水口前橋
池田
源島寺
尾崎
北橋
西
長盛寺
松原
北上平
小金
宮
南上平
日向
三間橋
飯島天神橋
新田橋
円明寺
下天神橋
小峯
石
三石橋
上間仁田
間仁田配水池
下仁田
藤安中学校
日影
崇台山
299.1
243.7
226.0
233.0
213.8
236.5
276.3
222.5
209.6
212.2
194.5
194.6
201.9
205.9
174.4
170.8
177.0
220
230
240
250
200

第１図　遺跡位置図



第２図　周辺遺跡分布図（Ｓ＝１/25,000）

	遺跡名	旧	縄文						弥生		古墳				奈良	平安	中世	近世	断層	備考
			草	早	前	中	後	晩	中	後	前	中	後	終						
1	道前久保・同Ⅱ				◎	◎	◎								◎	◎			○	蔵畑・諏訪ノ木遺跡群
2	下原・賽神									◎	○		◎			○			○	蔵畑・諏訪ノ木遺跡群
3	蔵畑										◎	○	◎						○	蔵畑・諏訪ノ木遺跡群
4	蔵畑Ⅱ															◎			○	蔵畑・諏訪ノ木遺跡群
5	諏訪ノ木									◎	○	○	◎						○	蔵畑・諏訪ノ木遺跡群
6	経塚古墳											◎								石製模造品
7	天王山城																◎			山城
8	日向後原										◎					○			○	周溝墓・平安集落
9	野毛良										＊		○	○	○	○				
10	山峰				○	＊				○										
11	三本松								＊											東海系壺出土
12	座光寺館址																◎			
13	尾崎館址																◎			
14	荒神平・吹上				△	◎	○			◎	◎	○	◎		◎	◎				鷺宮地区遺跡群
15	上ノ久保					◎	○			◎			◎		◎	◎	○			鷺宮地区遺跡群
16	桜林															◎				鷺宮地区遺跡群
17	五賀															◎				鷺宮地区遺跡群
18	注連引原				◎			△	◎											弥生集落
19	注連引原Ⅱ	＊			◎	＊	△	△	◎	△	◎					○	△			弥生集落・古代牧
20	大上					○			◎							△				弥生集落
21	日影															△		△		

◎：大規模な遺跡（集落跡・古墳等）　○：中規模な遺跡（住居址・牧関連等）　△：小規模な遺跡（土坑・溝等）
＊：遺物が出土した遺跡

第１表　遺跡一覧

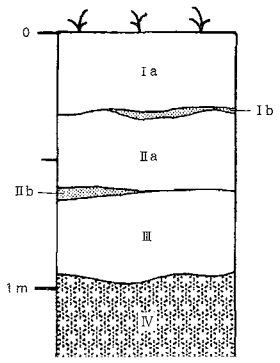
2　歴史的環境

周辺の遺跡を概観すると、本遺跡の存在する舌状台地上には前期古墳及び平安時代の集落跡の日向後原遺跡、古墳時代の豪族居宅の堀（推定）が検出された蔵畑遺跡、弥生後期から平安時代集落跡の下原・賽神遺跡、弥生時代から古墳時代後期まで継続する集落跡の諏訪ノ木遺跡、平安時代集落跡の蔵畑II遺跡がある。本遺跡を含め、これら周辺の遺跡は互いに補完関係があるため「蔵畑・諏訪ノ木遺跡群」として捉えられている。

また断層（地割れ）及び亀裂は、本遺跡の他にも蔵畑遺跡、蔵畑II遺跡、下原・賽神遺跡、諏訪ノ木遺跡、山峰遺跡等で確認されており、これらは地震によるものと考えられ、本遺跡の存在する間仁田地区では縄文時代から平安時代の間、数回の地震により被害が発生したものと推測される。

Ⅳ　層　　序

道前久保II遺跡の基本層序は、第３図のとおりである。土層の堆積状態はこの地域の状況と一致している。



第３図　基本層序柱状図

Ⅰａ層	黒褐色土層	浅間Ａ軽石を多量に混入する。現在の耕作土で、しまり、粘性共にあまりない
Ⅰｂ層	灰白色軽石層	浅間Ａ軽石純層。部分的に確認できる。
Ⅱａ層	黒色土層	粘性はややあるが、しまりはあまりない。As-B 軽石を多量に混入する。
Ⅱｂ層	灰褐色軽石層	浅間Ｂ軽石純層。部分的に確認できる。
Ⅲ層	黒色土層	遺物包含層。Ⅲ層とⅣ層の間で遺構が確認される。
Ⅳ層	暗褐色土層	

Ⅴ　遺構と遺物（第４図～第51図）

1　遺跡概要

道前久保II遺跡は前述のとおり、碓氷川南岸の上位段丘上で、猫沢川と天神川により開析された北東方向にに延びる細長い舌状台地のもっとも括れた場所に位置している。

発掘調査により縄文時代前期から後期にかけてと平安時代の遺構と遺物が検出された。

また、本遺跡からは、過去の地震によると推測される断層（地割れ）を確認した。

2　縄文時代

前期から後期初頭にかけての遺構が検出された。住居址15軒検出された。

Ｊ－１号住は確認面からの堀込みは浅かったが、諸磯ｂ・ｃ式の土器を中心に検出され、諸磯ｂ式の炉体土器が確認された。Ｊ－２号住は敷石住居址で、炉を中心とした部分のみ検出された。炉体土器の状況は良好であった。Ｊ－３号住も敷石住居址で、部分的に堀込みと敷石を確認した。遺物の出土は少なく、前期の土器も混入し出土している。Ｊ－４号住は確認面からの堀込みも深く、良好な状態で検出された。出土遺物も多く、関山式を中心とした土器が多数確認された。Ｊ－５号住も遺存状態は良好で、関山式を中心とした遺物が検出された。Ｊ－６号住はＤ－29号土坑と重複しているが、明確な切り合い関係は確認できなかった。遺物の出土は少なく、諸磯ｂ・ｃ式を中心に確認された。Ｊ－７号住は堀込みも浅く遺物の出土もないため、積極的に住居址と言えるか不確定な部分が多い。Ｊ－８号住も住居址として不確定な面も多く、土坑として認識されるべき可能性も強い。遺物は諸磯ｂ・ｃ式を中心に少量検出された。Ｊ－９号住は確認面からの堀込みも深く遺存状態は良好であったが、遺物出土量は少量であった。Ｊ－10号住はＪ－９号住と重複関係にあり、Ｊ－９号住→Ｊ－10号住の新旧関係が見て取れる。しかしＪ－８号住と同様住居址として不確定な面も多く、土坑として認識されるべき可能性も強い。Ｊ－11号住・Ｊ－12号住は重複関係にある。Ｊ－11号住は確認面からの堀込みは深くはなかったが、直径８ｍを計る大型の住居址で、炉・柱穴等遺存状態は良好であった。遺物は加曽利Ｅ式を中心に多量に出土した。Ｊ－12号住との重複の関係で、遺構北側には諸磯式の遺物が検出されている。Ｊ－12号住は南をＪ－11号住に、北を亀裂に壊されている。遺物は諸磯ｃ式を中心に確認した。Ｊ－13号住は明確な堀込みを確認することが出来なかったが、柱穴の状況から直径８ｍを超える大型の住居址と考えられる。遺構の中心部から北側にかけて土坑状の堀込みを確認したが、本住居址との関係は不明である。Ｊ－14号住は堀込みの深い遺存状態の良好な住居址であったが、その大部分が調査区外で、平面形態等は不明である。Ｊ－15号住も堀込みの深い遺存状態の良好な住居址であったが、約半分ほどが調査区外で平面形態等は明確ではない。遺物は諸磯ｂ・ｃ式を中心に大量に確認されている。

3　平安時代

住居址は14軒検出された。

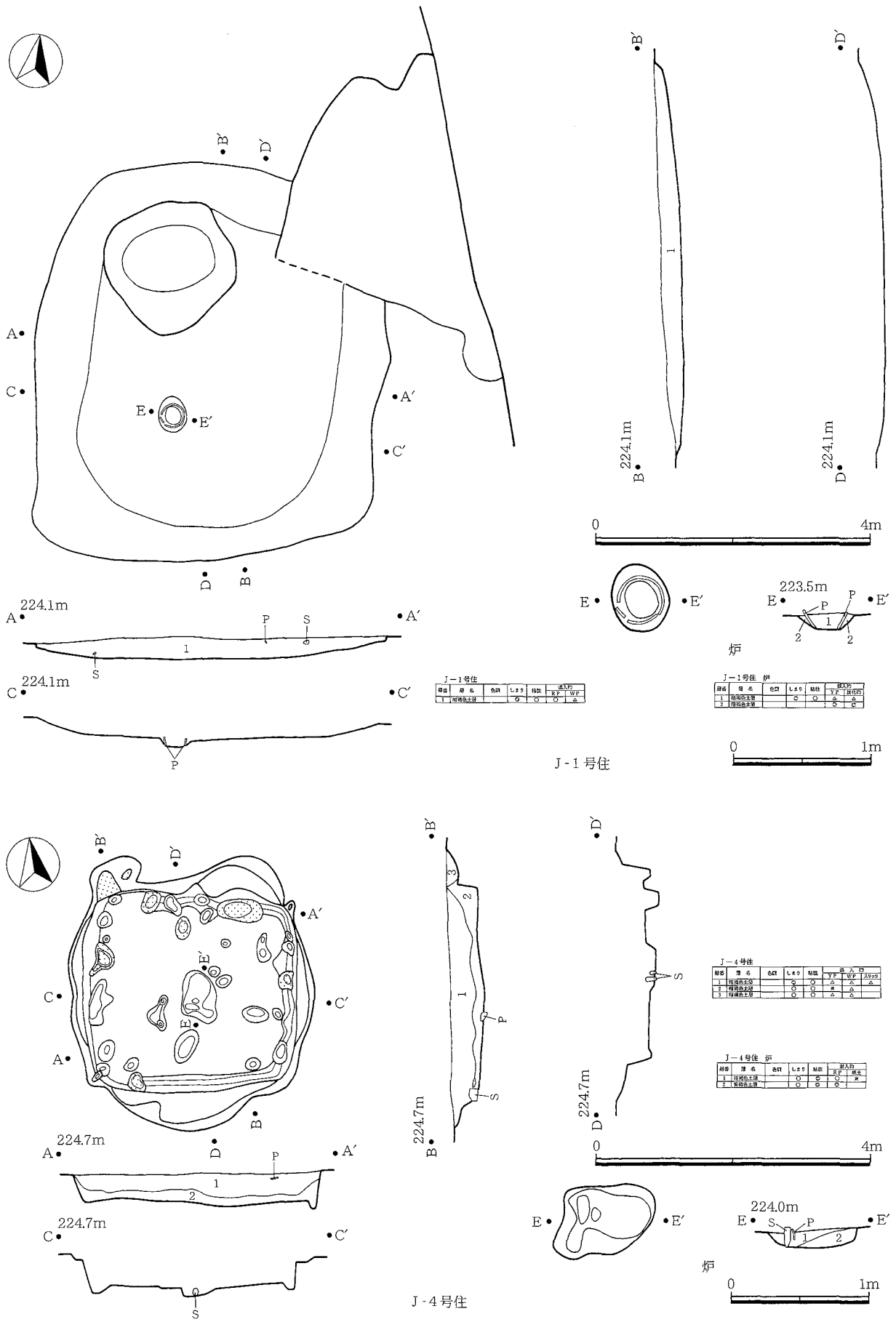
Ｈ－１号住・Ｈ－９号住は重複関係にあり、大部分が調査区外で、新旧関係や遺構の平面形態は不明確である。Ｈ－２号住は約半分が調査区外と思われる。竈も約半分が調査され、出土遺物から９世紀の住居址と考えられる。Ｈ－３号住は一片が３ｍに及ばない小型の住居址で、東に竈を持つ。柱穴は確認されなかったが、住居址北東隅に深い柱穴状の堀込みを確認した。これが貯蔵穴になろうか。出土遺物から、８世紀末から９世紀前半の住居址と考えられる。Ｈ－４号住・Ｈ－５号住は重複していて、Ｈ－５号住→Ｈ－４号住の関係が見て取れる。Ｈ－４号住は東に竈を持ち、柱穴は確認されず床面に堀込みの深い土坑を３基確認した。Ｈ－５号住は明確な堀込みは確認されたが、竈・柱穴・土坑などは検出されず、積極的に住居址と認定するには不確定な面が多い。Ｈ－６号住は竈が確認されたものの堀込みは無く、平面形態等すべて不明である。Ｈ－７号住は小型の長方形の住居址で東に竈を持つ。出土遺物から９世紀の住居址と考えられる。Ｈ－８号住は調査区外の部分が多く平面形態等不明な点が多い。出土

遺物から９世紀の住居址と考えられる。Ｈ－10号住は確認面からの掘込みは深く、遺存状態は良好で、東に竈を持つ。柱穴や貯蔵穴は検出されなかった。出土遺物から９世紀の住居址と考えられる。Ｈ－11号住・Ｈ－12号住は重複関係にあり、Ｈ－12号住→Ｈ－11号住の新旧関係が見て取れる。いずれの住居址も遺存状態は良好なものの、竈や柱穴などの確認は出来なかった。Ｈ－13号住・Ｈ－14号住は重複関係にある。新旧関係は明確ではない。Ｈ－13号住は東壁南よりに竈を持ち壁際に周堀を巡らせる。柱穴は確認されなかった。Ｈ－14号住も東壁南よりに竈を設け、東壁北寄りの部分が東に張り出す平面形態を持つ。柱穴は確認されなかった。両遺構とも９世紀の住居址と考えられる。

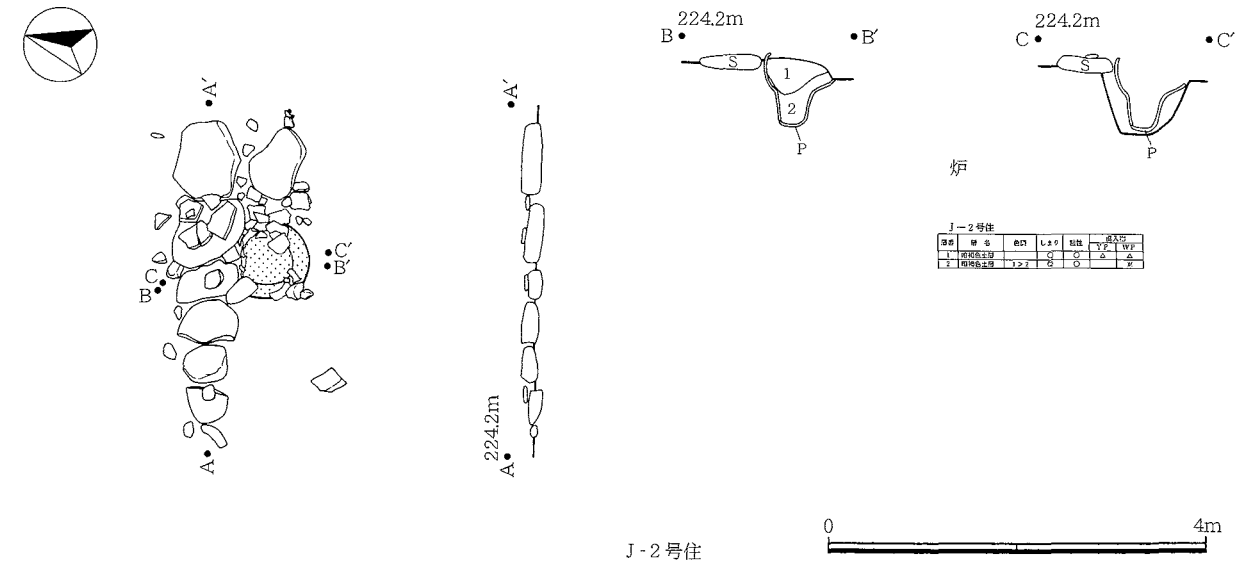
４　そ の 他

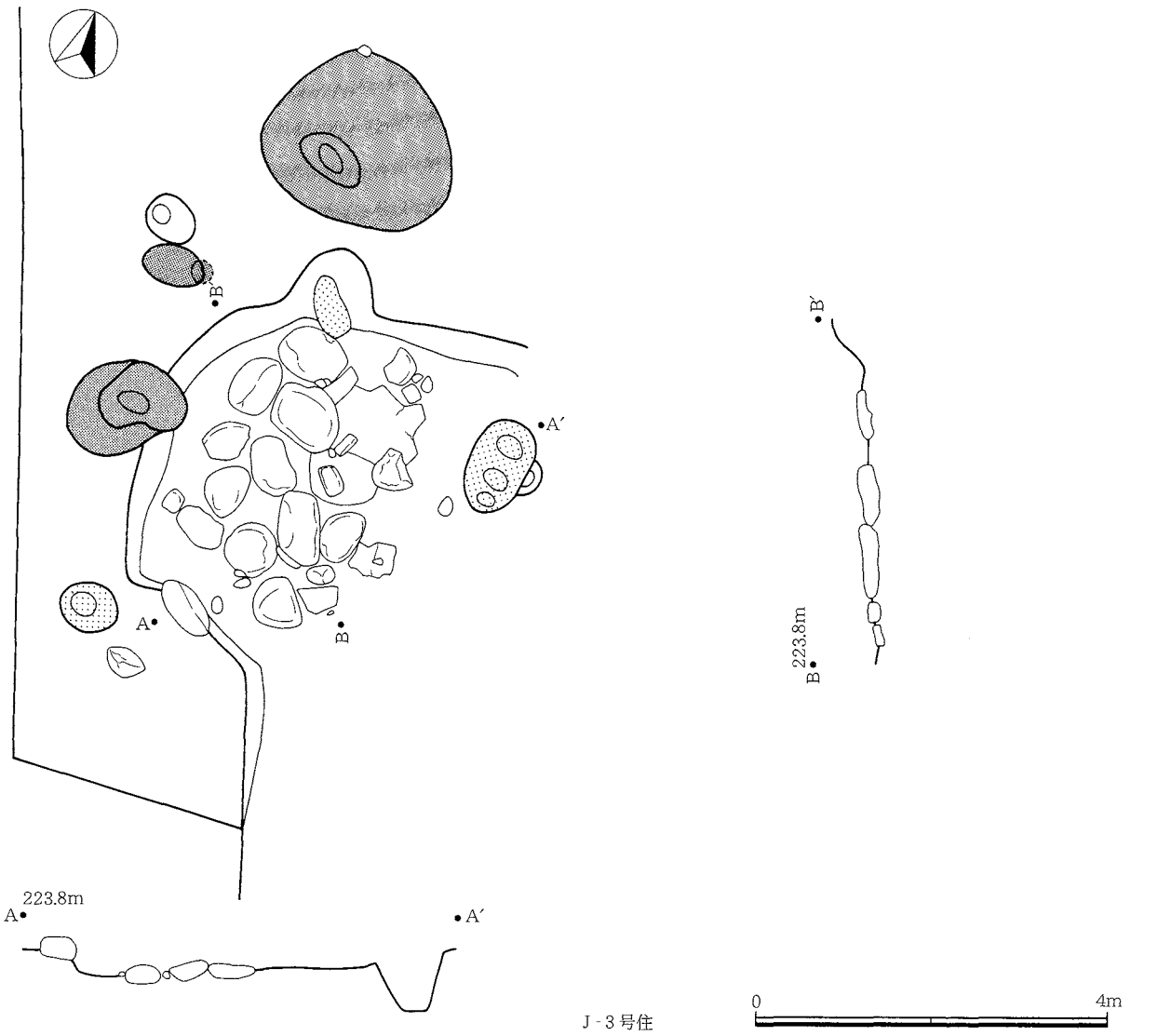
Ｍ－１号溝：調査区南に東西に延びる溝を確認した。幅は最大で２ｍ弱、深さは最大47cmを計り遺存状態も良好であった。Ｊ－15号住埋没後に掘られたものであるが、遺構の時期決定が可能な遺物の出土は無く不明である。

亀裂：調査区北側を東西に長く亀裂を確認した。確認された長さは約24m、幅は最大で約４ｍ、途中Ｊ－12号住を壊す状況で検出された。覆土を観察すると亀裂中央部分の土層が完全にズレ、落ち込んでいる状態が確認できる。また一部には噴砂も確認できることから、地震によって地面が引き裂かれ、中央部分の地面が陥没したものと推測される。

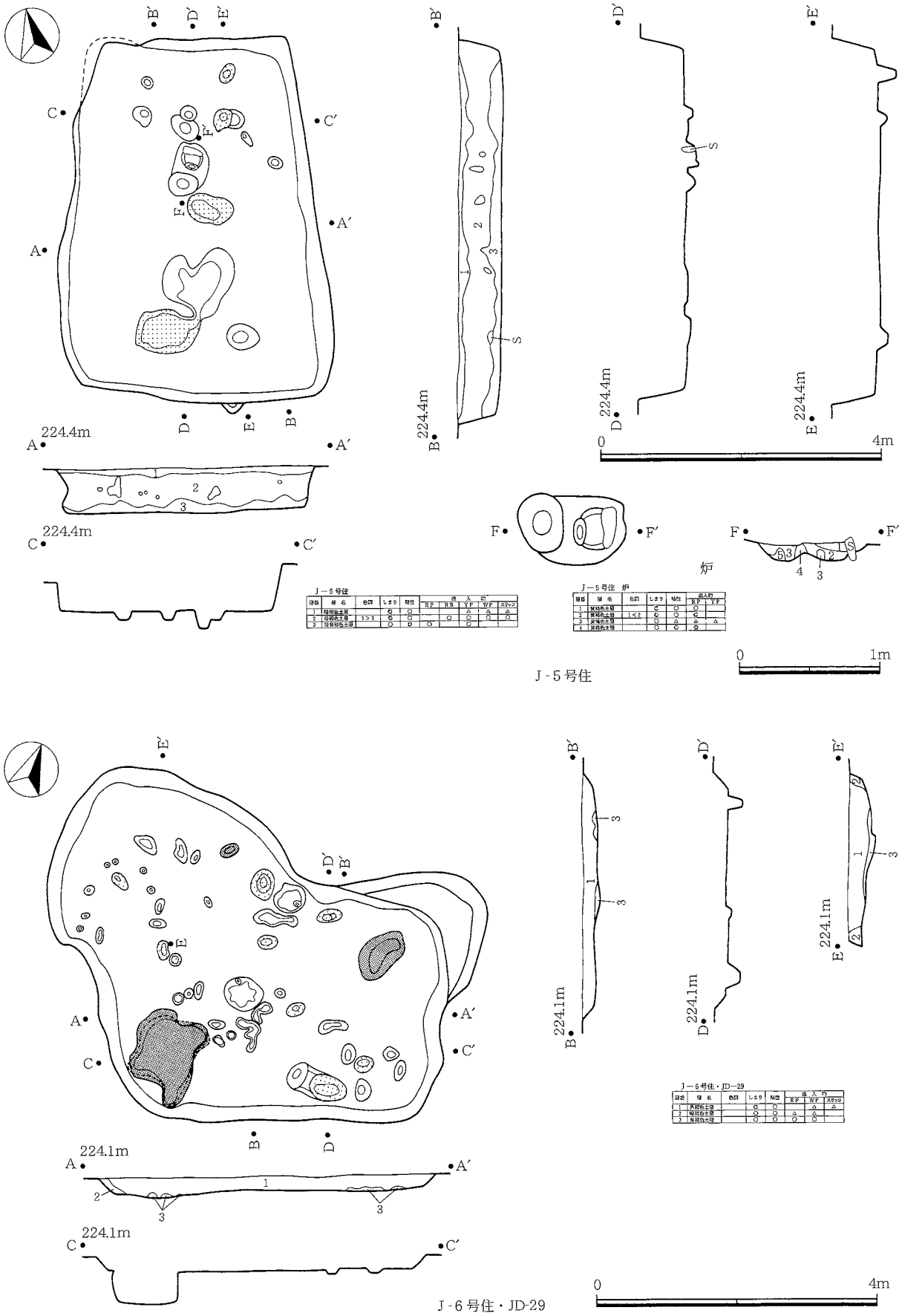


第4図　J－1号住・J－4号住住居址実測図

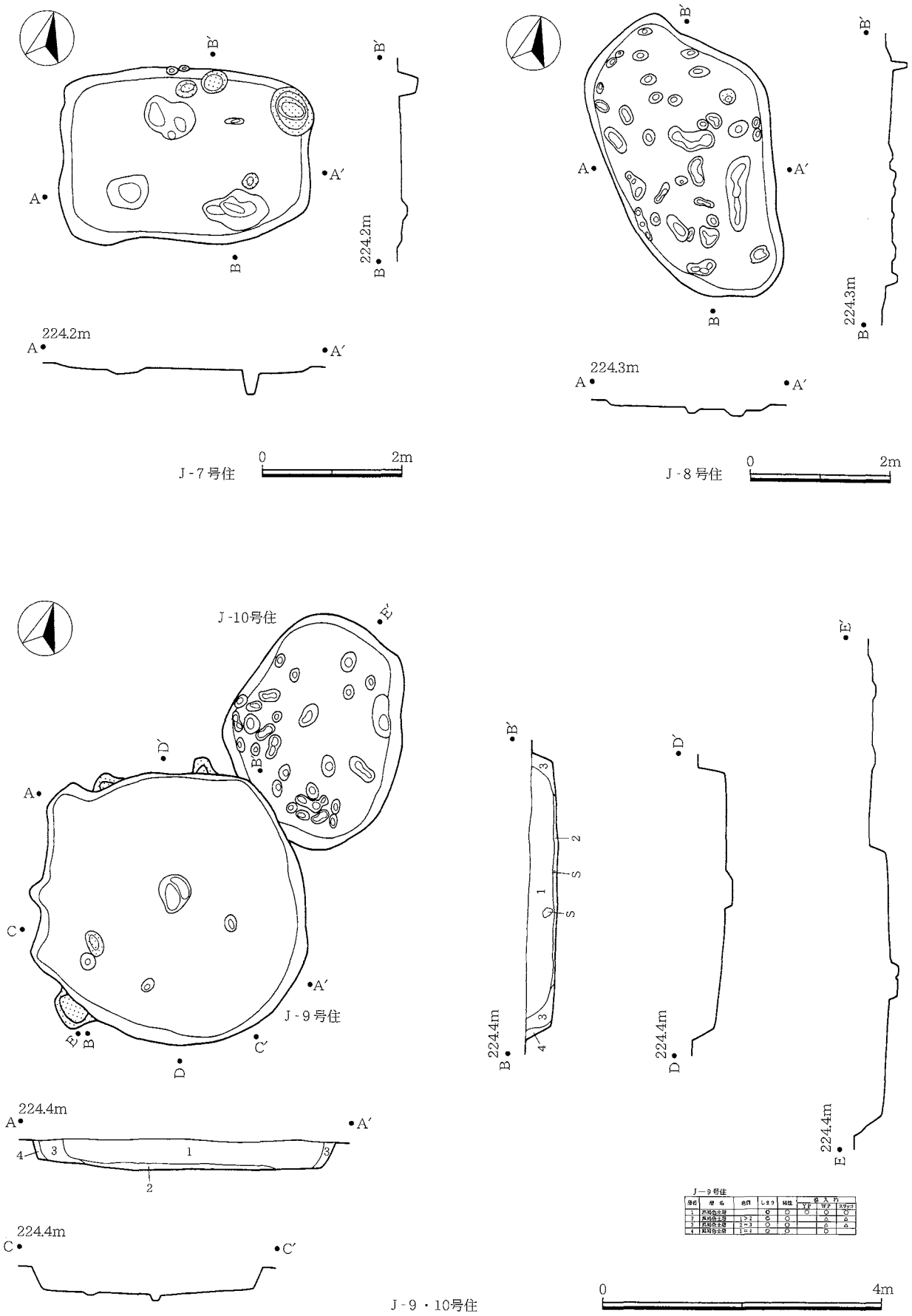




第５図　Ｊ－２号住・Ｊ－３号住住居址実測図



第6図　J－5号住・J－6号住住居址・JD－29実測図



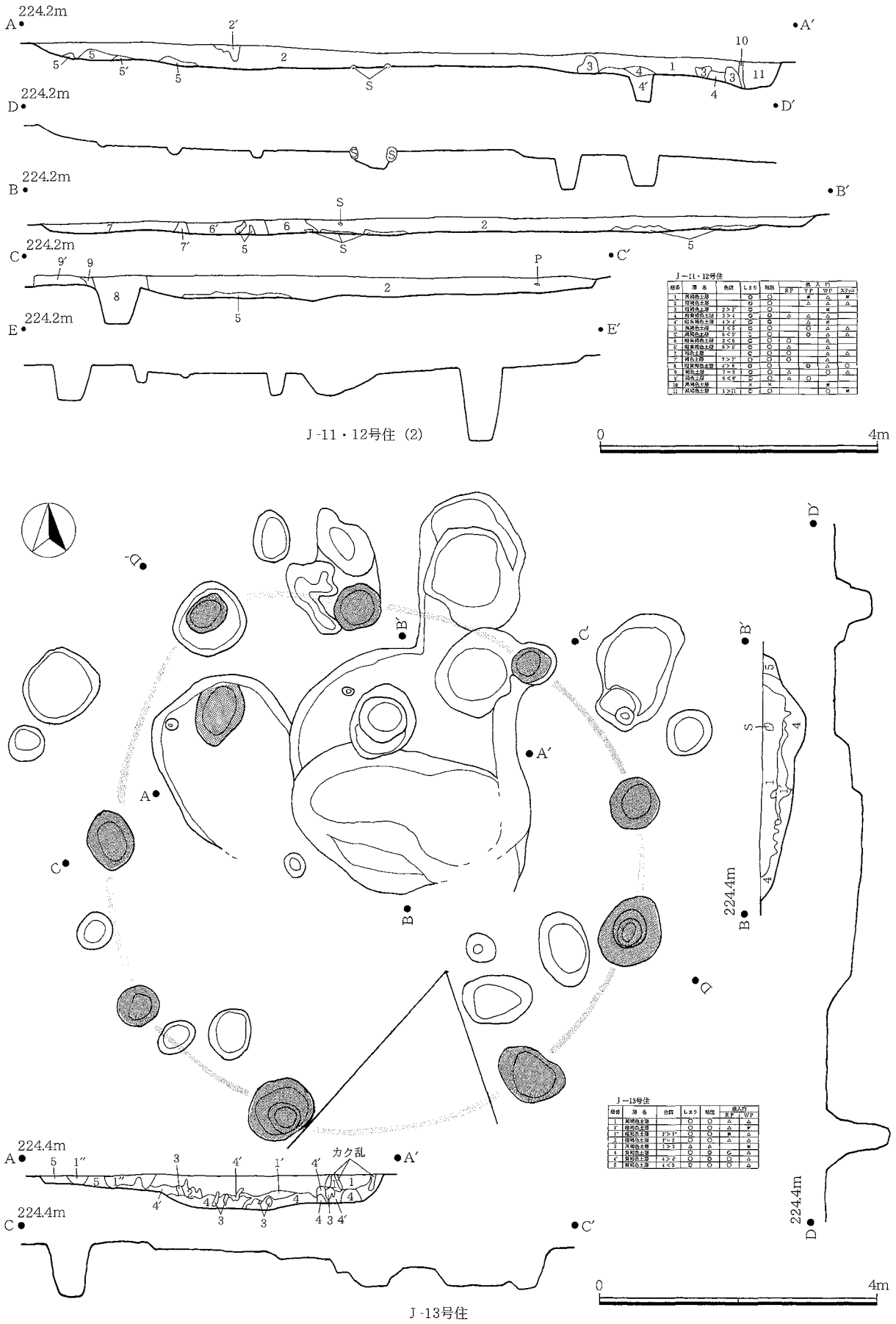
J－9号住

層位	層名	色調	しまり	粘性	含入物 ソデ	ヤキ	スラッグ
1	黒褐色土層		○	○	○	○	○
2	黒褐色土層	1>2	○	○		△	△
3	黒褐色土層	2=3	○	○		△	△
4	黒褐色土層	1=4	○	○		○	

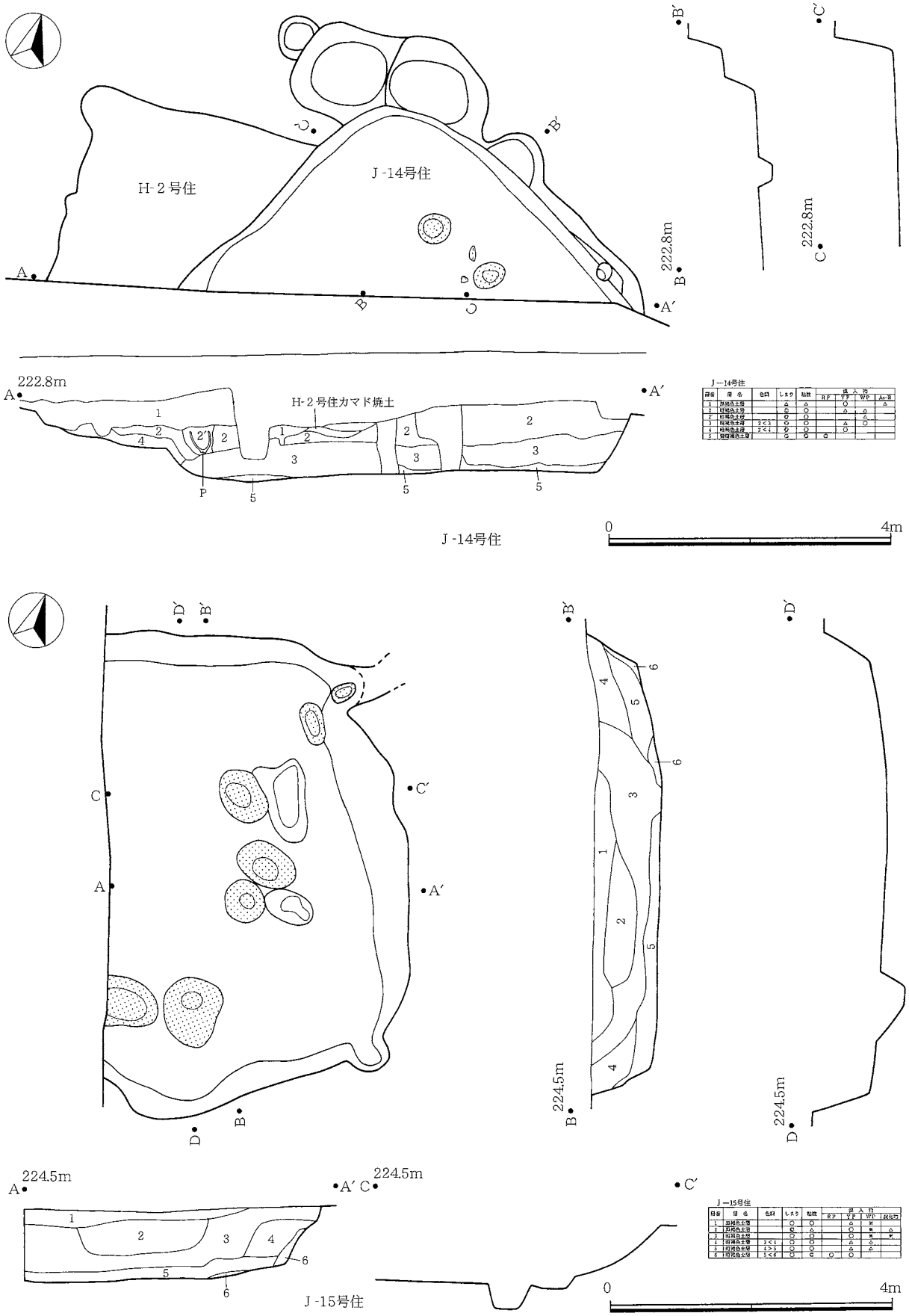
第７図　Ｊ－７号住・Ｊ－８号住・Ｊ－９・10号住住居址実測図

J-11・12号住(1)

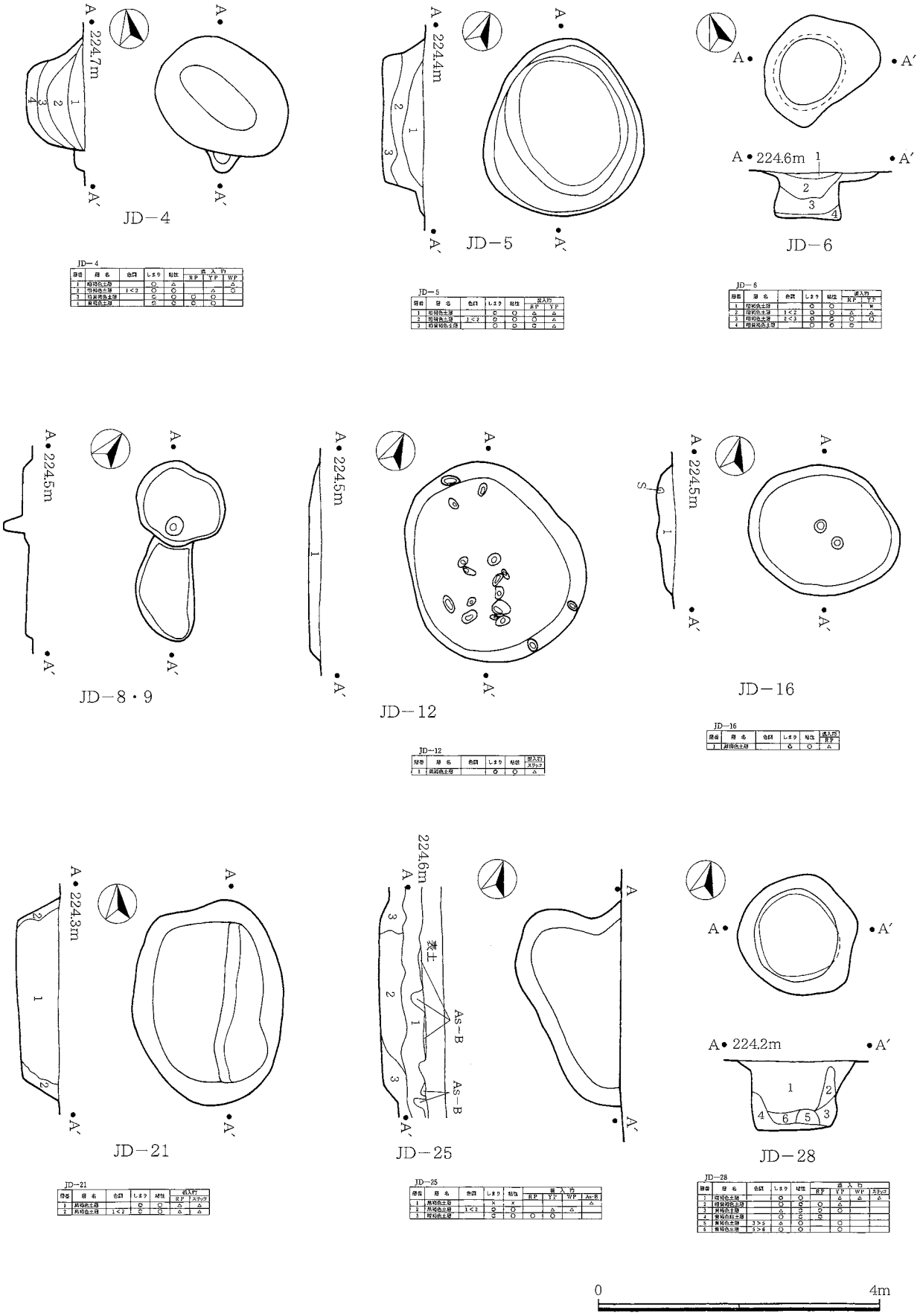
第8図　J—11・12号住(1)住居址実測図



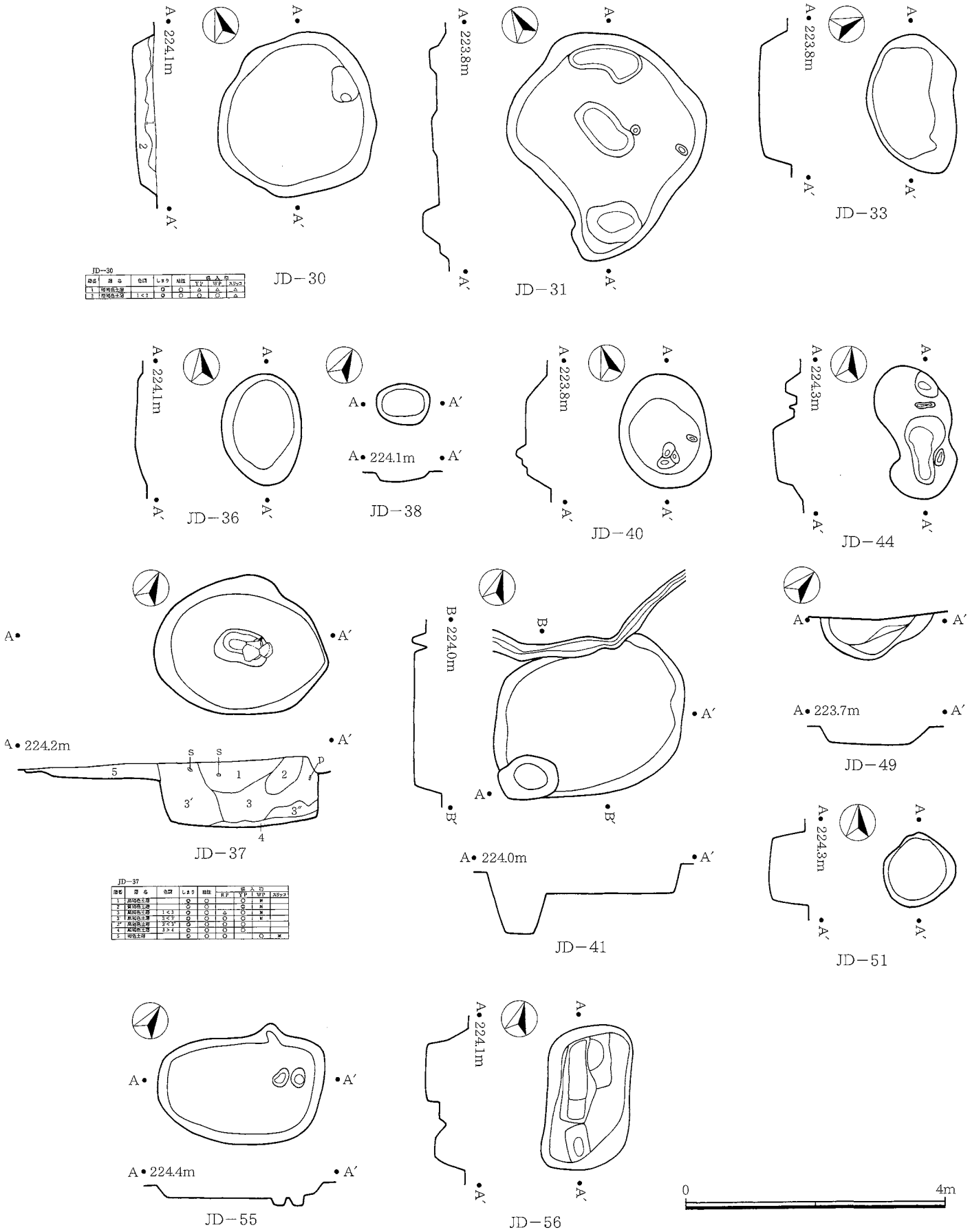
第9図　J—11・12号住(2)・J—13号住住居址実測図



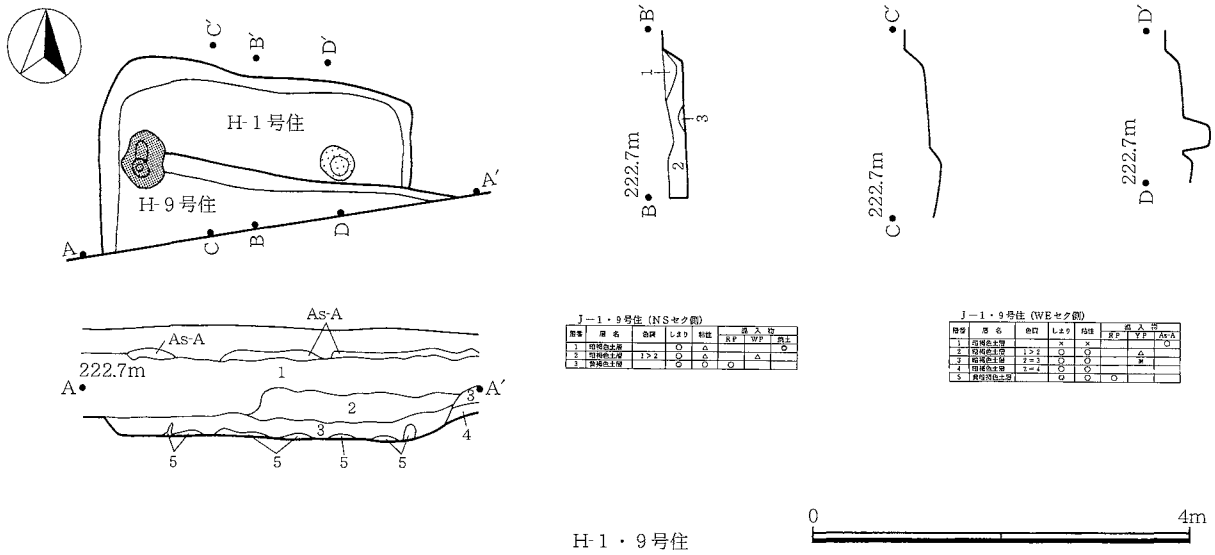
第10図　J—14号住・J—15号住住居址実測図


JD−4
JD−5
JD−6
JD−8・9
JD−12
JD−16
JD−21
JD−25
JD−28
A
A′
224.7m
224.4m
224.6m
224.5m
224.3m
224.2m
S
表土
As−B
0
4m

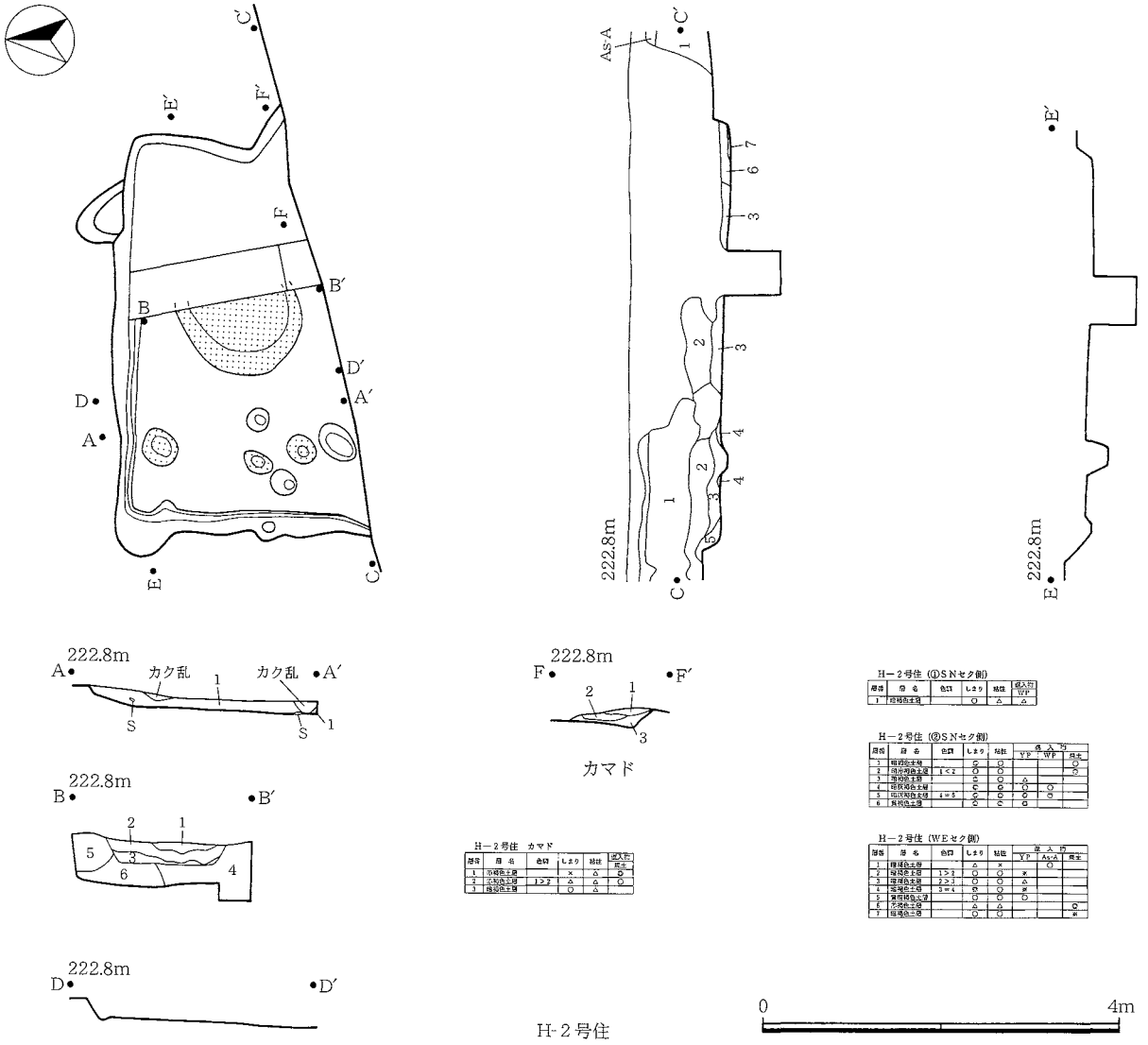
第11図　土坑実測図(1)


JD−30
JD−31
JD−33
JD−36
JD−37
JD−38
JD−40
JD−41
JD−44
JD−49
JD−51
JD−55
JD−56
A• 224.1m
A• 223.8m
A• 224.2m
A• 224.1m
A• 223.8m
A• 224.3m
A• 223.7m
A• 224.3m
A• 224.4m
A• 224.1m
B• 224.0m
A• 224.0m
0
4m

第12図　土坑実測図(2)

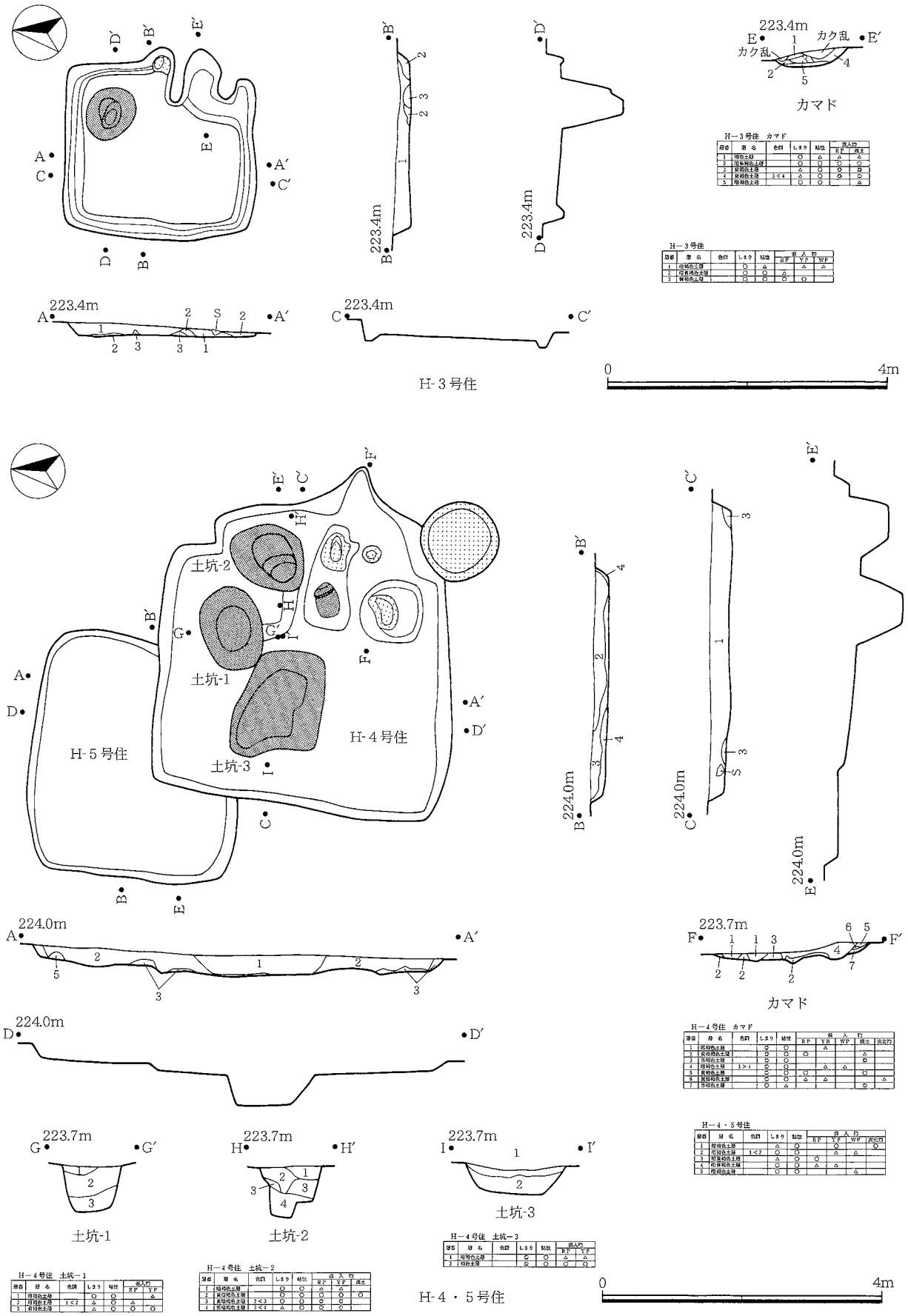


H-1・9号住

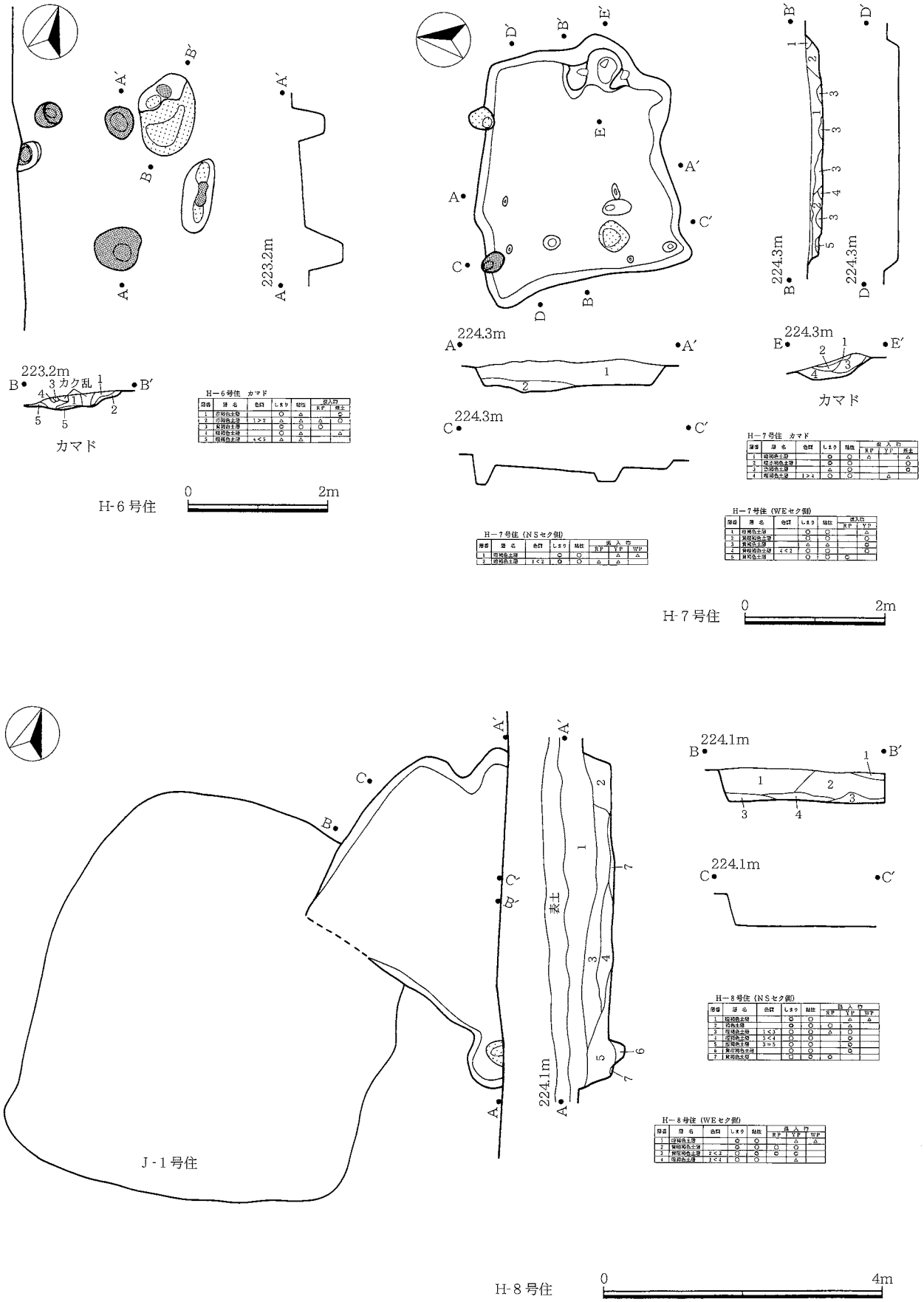


H-2号住

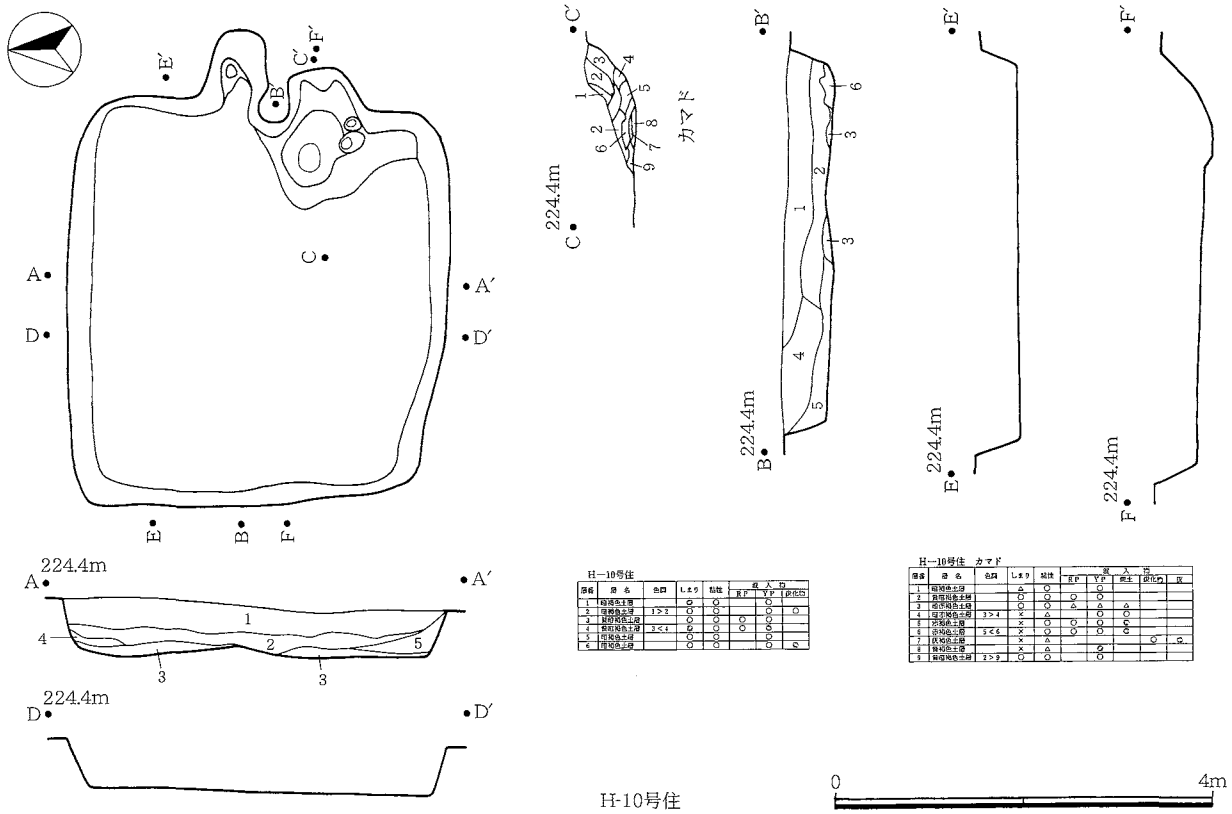
第13図　H－1・9号住・H－2号住住居址実測図

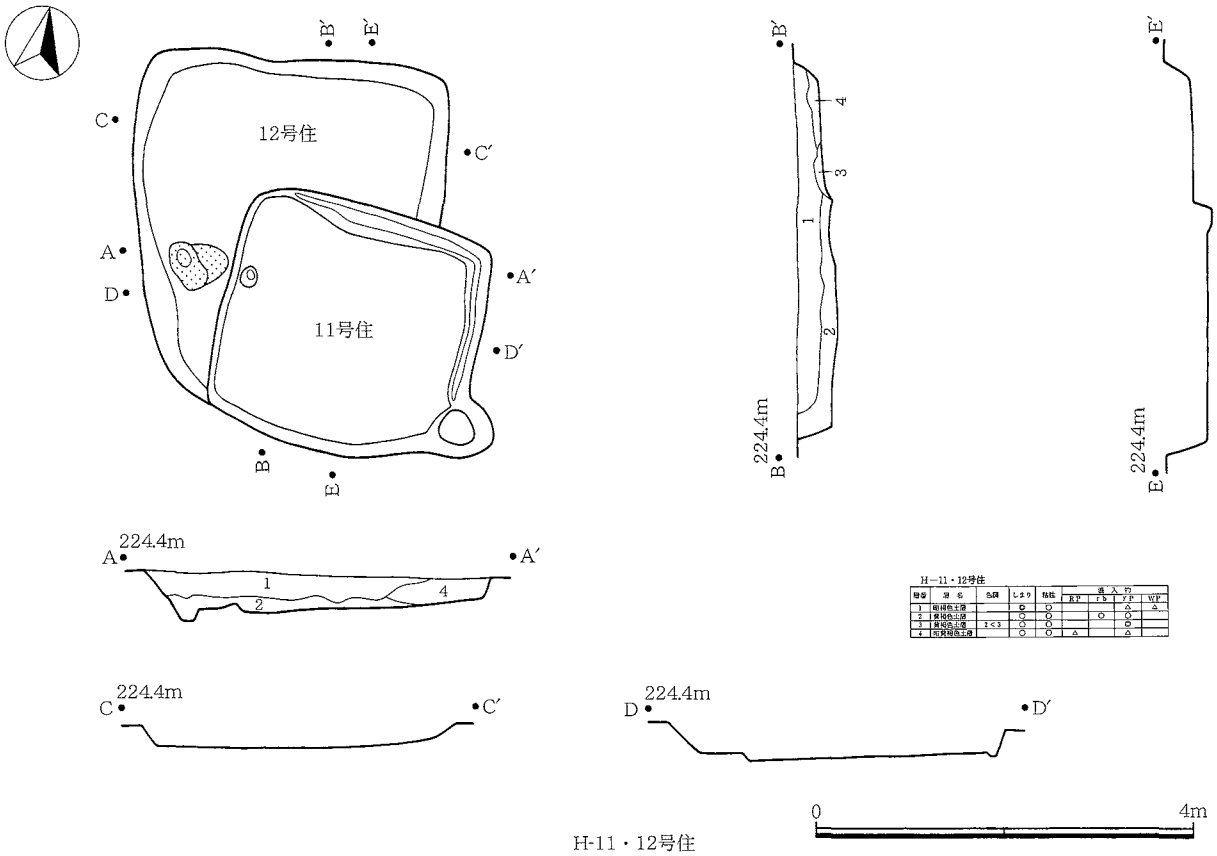


第14図　H－3号住・H－4・5号住住居址実測図

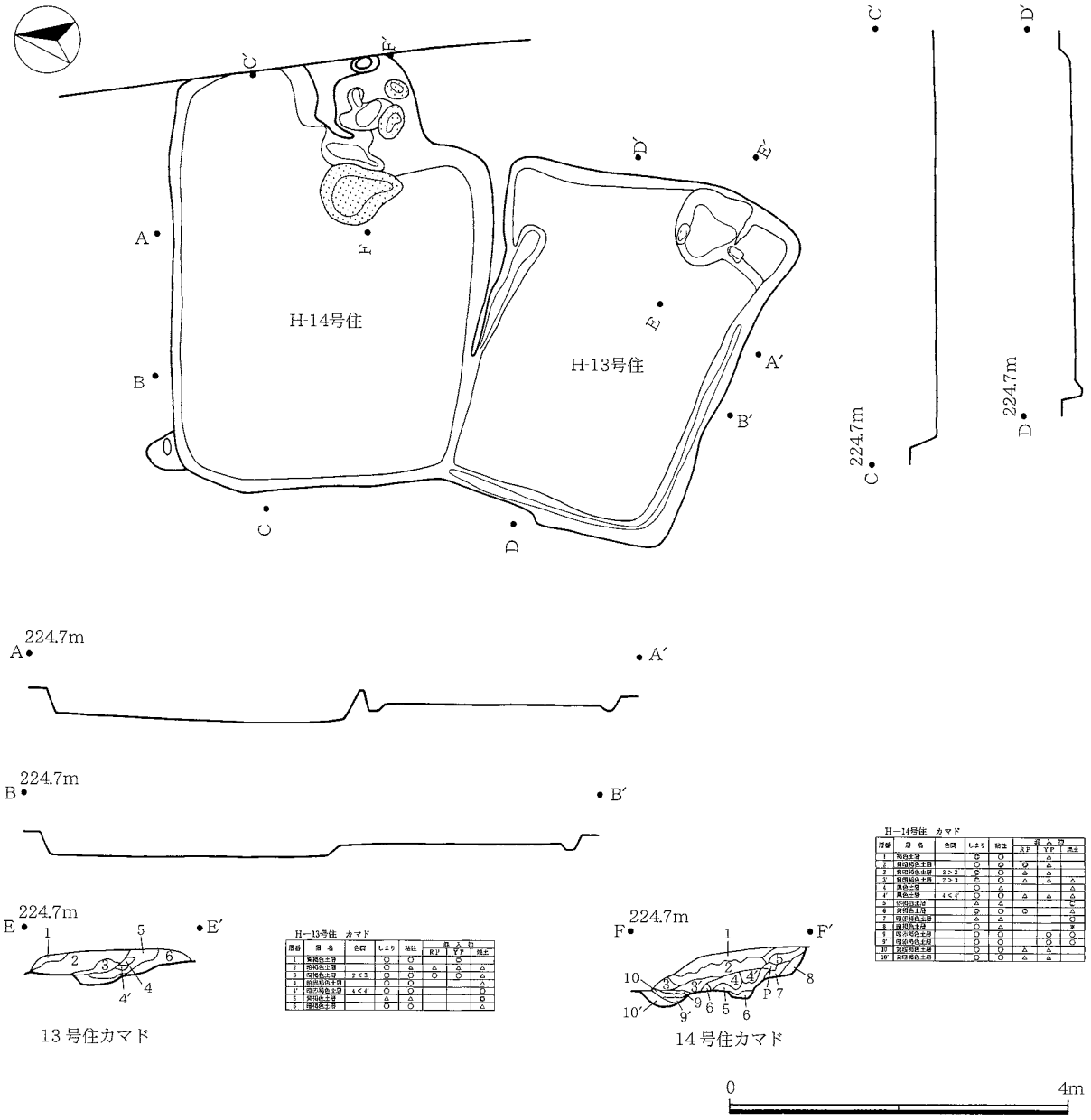


第15図　H－6号住・H－7号住・H－8号住住居址実測図

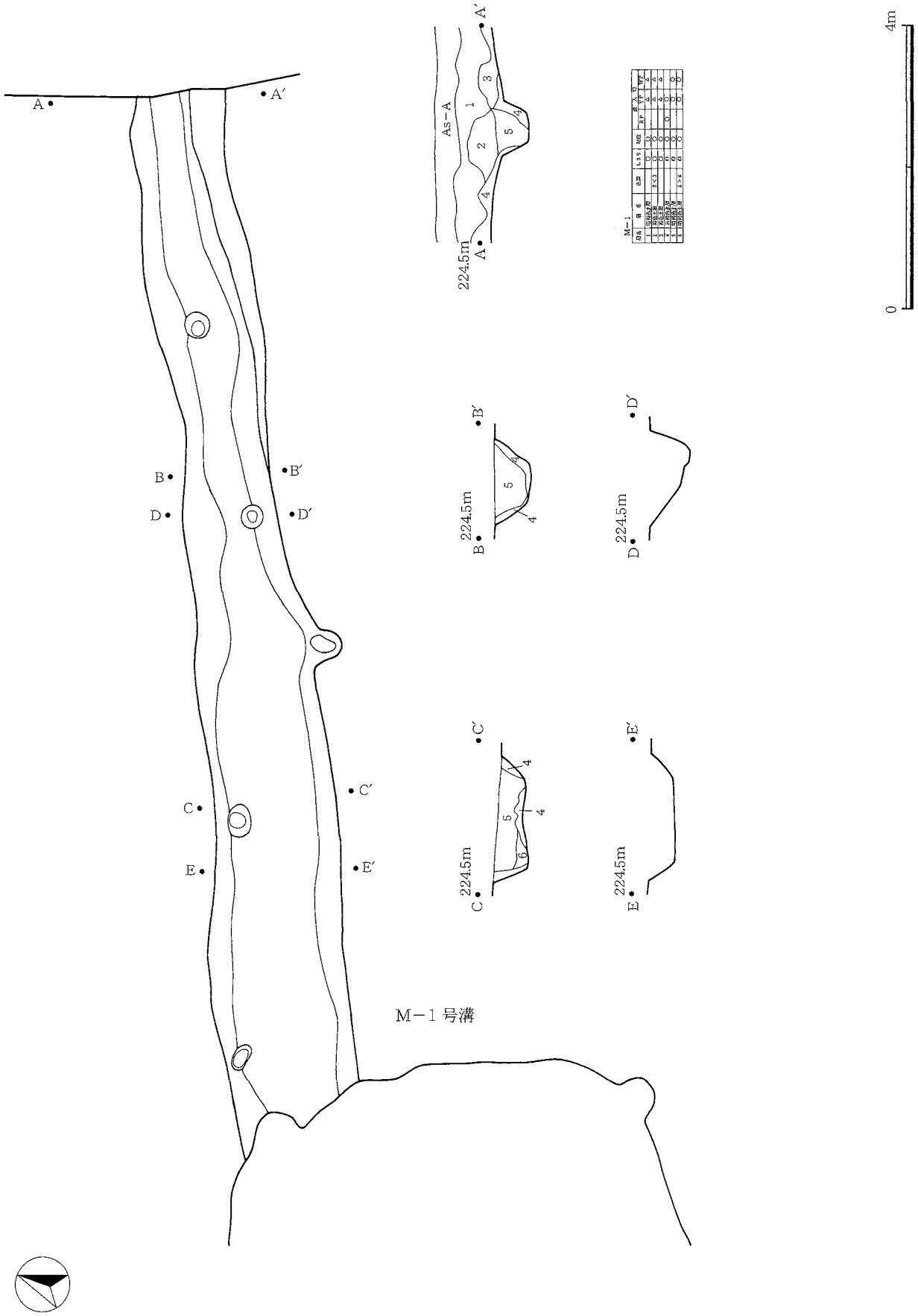




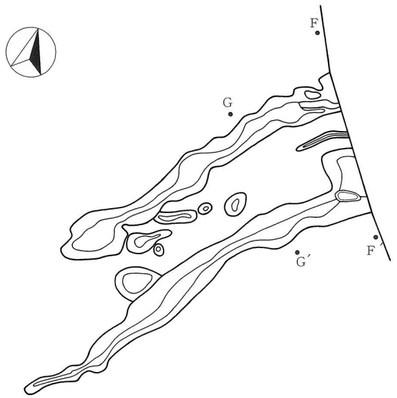
第16図　H—10号住・H—11・12号住住居址実測図



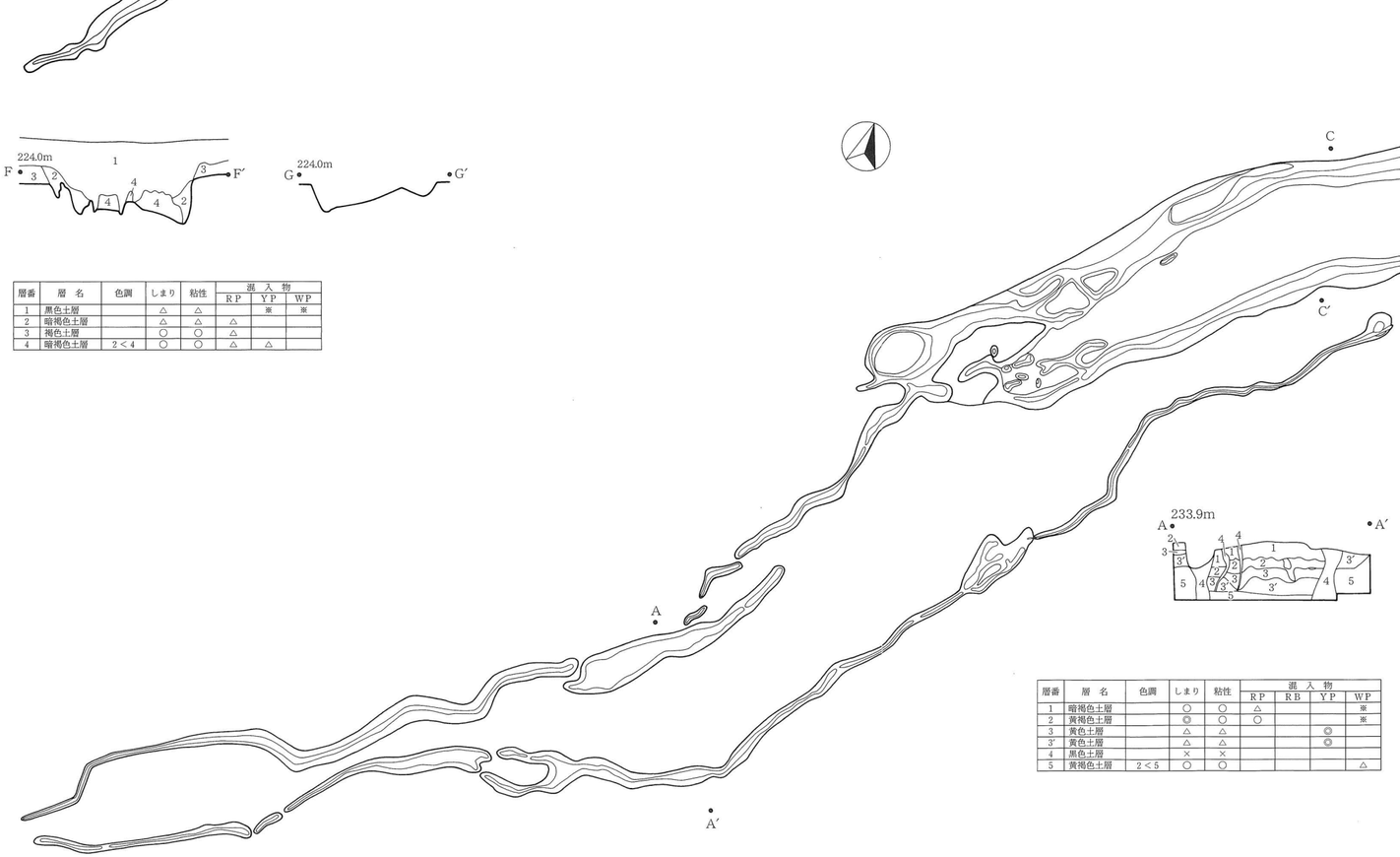
第17図　H—13・14号住住居址実測図

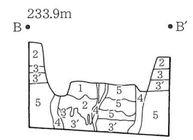


第18図　M－1号溝実測図



層番	層　名	色調	しまり	粘性	混　入　物		
					RP	YP	WP
1	黒色土層		△	△		※	※
2	暗褐色土層		△	△	△		
3	褐色土層		○	○	△		
4	暗褐色土層	2＜4	○	○	△	△	

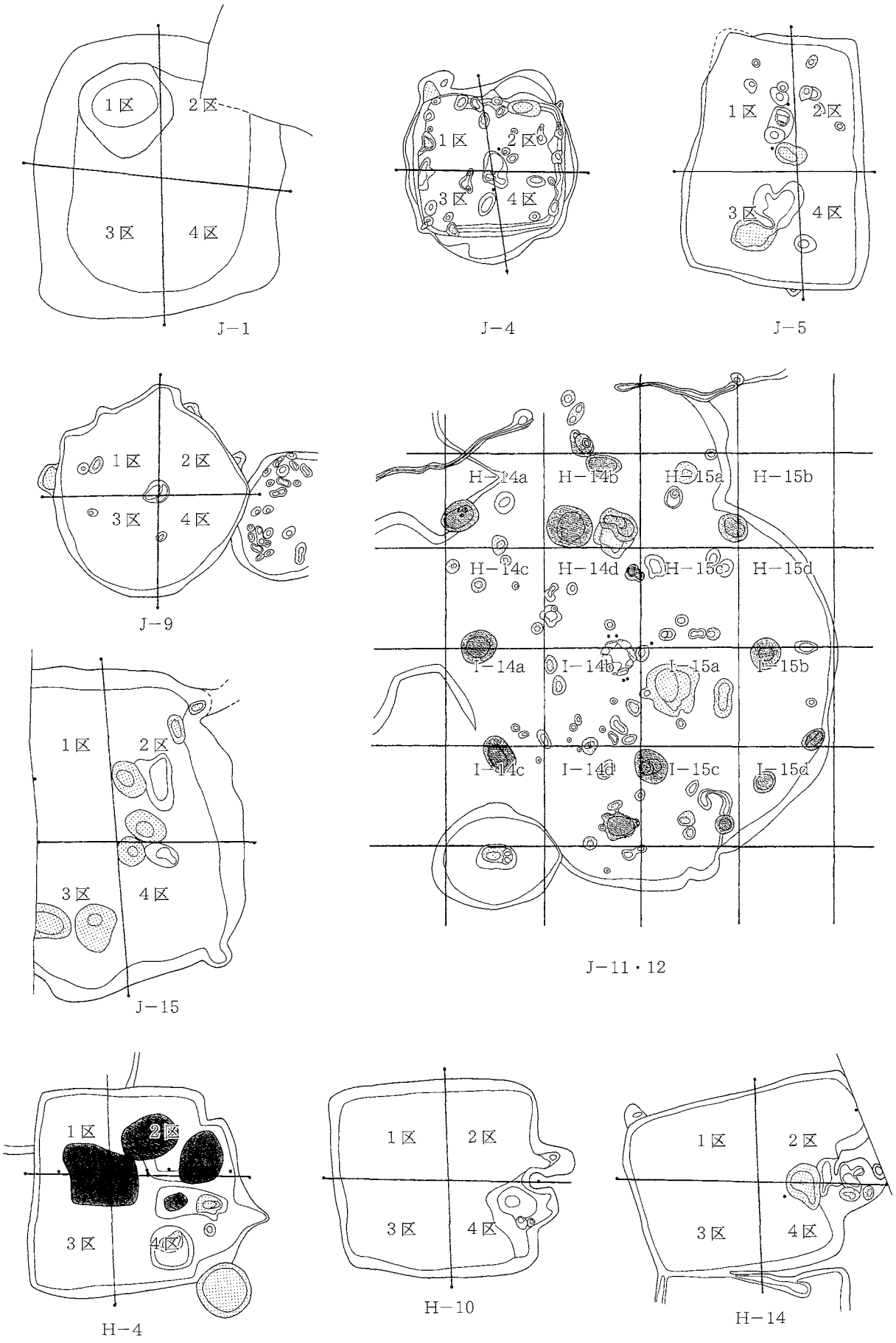




層番	層　名	色調	しまり	粘性	混　入　物			
					RP	RB	YP	WP
1	暗褐色土層		○	○	△			※
2	黄褐色土層		◎	○	○			※
3	黄色土層		△	△			◎	
3′	黄色土層		△	△			◎	
4	黒色土層		×	×				
5	黄褐色土層	2＜5	○	○				△

0　4m

第19図　亀裂実測図



第20図　遺物分割取り上げ図

住居名	平面形態	規模				壁溝	長軸方向	主柱穴	炉	備考
		長軸(m)	短軸(m)	深さ最大(cm)	深さ最小(cm)				位置	
J－1号住	中型長方形	5.84	5.20	27	14	×	N－2°－W	－	中央部南西寄り	
J－2号住	－									敷石住居
J－3号住	－	4.00	－	17	4	×	－	－	－	敷石住居
J－4号住	小型隅丸方形	3.76	3.12	47	35	○	N－8°－E	－	中央部	
J－5号住	中型台形	5.20	3.36	64	41	×	N－15°－E	3	中央北寄り	
J－6号住	中型長方形	4.96	3.44	25	16	×	N－67°－E	－	－	JD－29と重複
J－7号住	小型長方形	3.68	2.40	7	5	×	N－75°－E	－	－	
J－8号住	中型縦長方形	4.32	2.24	11	4	×	N－37°－W	－	－	
J－9号住	隅丸方形	4.00	3.92	38	30	×	N－14°－W	－	－	J－10号住と重複
J－10号住	不正円形	3.20	2.40	9	2	×	－	－	－	J－9号住と重複
J－11号住	大型円形	8.00	8.00	20	10	×	N－55°－E	7	中央部	J－12号住と重複
J－12号住	不明	6.08	〈2.16〉	32	11	×	－	－	－	J－11号住と重複
J－13号住	大型円形	8.00	7.60	－	－	×	N－13°－W	9	－	
J－14号住	不明	〈4.08〉	〈4.00〉	90	80	×	N－28°－E	－	－	一部調査区外
J－15号住	不明	6.80	〈4.24〉	82	42	×	N－20°－W	－	－	一部調査区外

小型4m以下　中型4～6m　大型6m以上　〈 〉残存値

住居名	平面形態	規模				壁溝	主軸方向	主柱穴	竈		貯蔵穴			備考
		長軸(m)	短軸(m)	深さ最大(cm)	深さ最小(cm)				位置	構造	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	
H－1号住	不明	3.20	〈2.00〉	18	9	×	－	－	－	－	－	－	－	H－9号住と重複
H－2号住	不明	4.40	〈2.80〉	24	14	○	S－88°－E	－	東壁	A	－	－	－	
H－3号住	小型正方形	2.80	2.48	27	10	○	N－87°－E	－	東壁南寄り	A	80	64	35	
H－4号住	中型正方形	4.40	4.40	24	8	×	S－87°－W	－	東壁南寄り	A	88	88	34	
H－5号住	小型正方形	3.44	3.12	20	8	×	S－87°－W	－	－	－	－	－	－	
H－6号住	不明	－	－	－	－	－	－	－	不明	A	－	－	－	
H－7号住	小型縦長方形	3.36	2.56	35	11	×	N－84°－E	－	東壁中央	B	－	－	－	
H－8号住	不明	〈3.60〉	〈3.28〉	45	27	×	－	－	－	－	－	－		J－1号住と重複
H－9号住	不明	〈3.44〉	〈0.96〉	12	7	×	－	－	－	－	－	－	－	H－1号住と重複
H－10号住	中型正方形	4.32	4.08	52	39	×	S－89°－W	－	東壁北寄り	A	－	－	－	
H－11号住	小型正方形	2.80	2.64	27	24	○	－	－	－	－	－	－	－	H－12号住と重複
H－12号住	中型縦長方形	(4.00)	3.20	30	14	×	－	－	－	－	－	－	－	H－11号住と重複
H－13号住	中型縦長方形	4.40	3.04	23	9	○	S－75°－E	－	東壁南寄り	B	－	－	－	H－14号住と重複
H－14号住	中型縦長方形	4.96	3.76	35	23	×	N－83°－E	－	東壁中央	A	－	－	－	H－13号住と重複

小型4m以下　中型4～6m　大型6m以上　( ) 推定値　〈 〉残存値
A：ローム＋黒色土　B：ローム＋黒色土＋袖芯河床礫　C：ローム＋黒色土＋袖芯土器

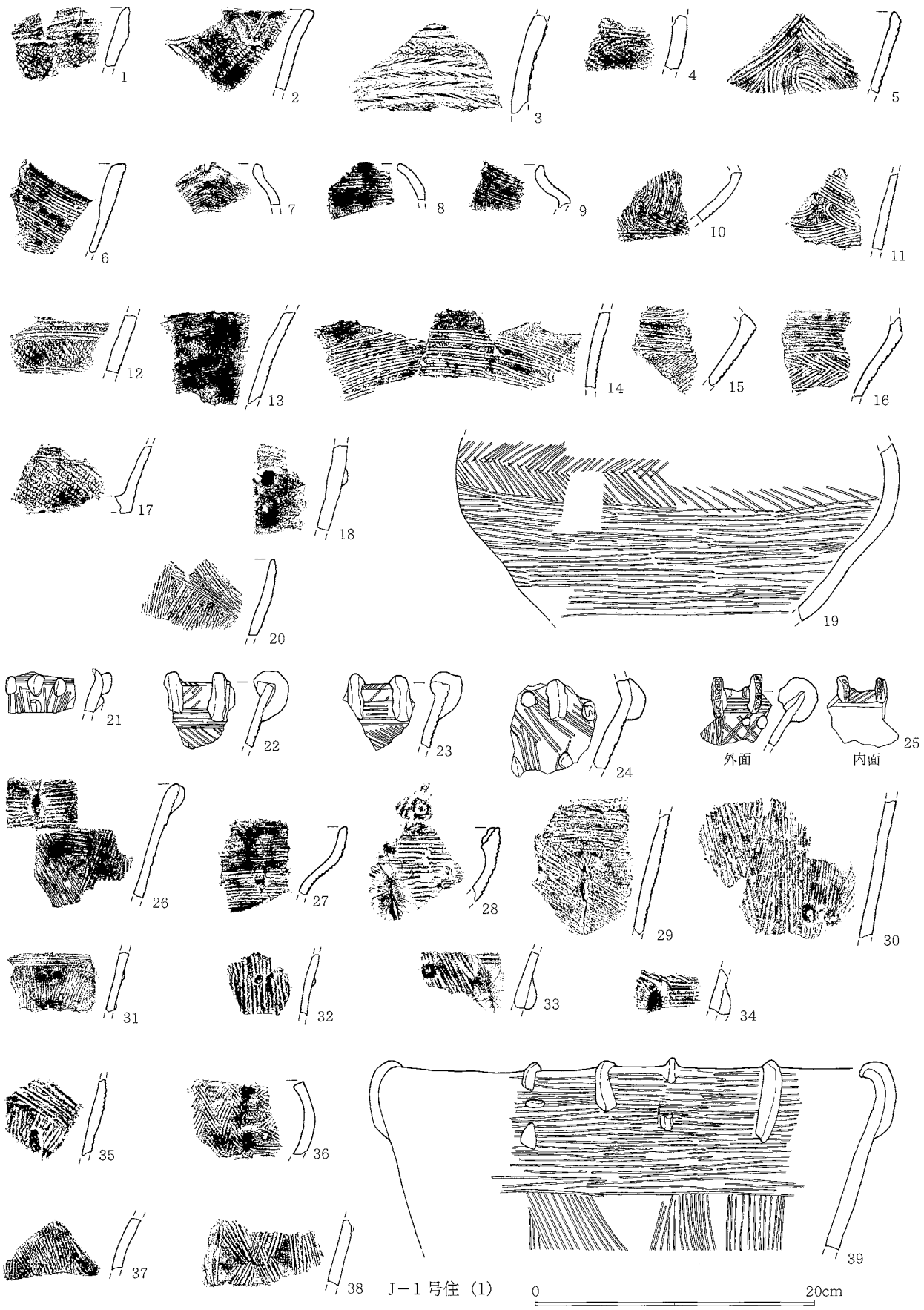
土坑名	規模			長軸方向	備考
	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)		
JD－4号	200	152	83	N－36°－W	
JD－5号	248	240	63	N－24°－W	
JD－6号	168	120	71	N－76°－E	袋状土坑
JD－8号	128	80	12	N－37°－W	
JD－9号	128	112	14	N－89°－W	
JD－12号	280	248	15	N－65°－W	
JD－16号	216	184	22	N－78°－E	
JD－21号	288	216	54	N－3°－E	
JD－25号	280	〈160〉	23	N－20°－W	
JD－28号	176	168	100	N－14°－W	
JD－29号	280	－	19	N－6°－E	
JD－30号	256	240	33	N－32°－E	
JD－31号	352	312	23	N－25°－E	
JD－33号	216	136	49	N－78°－W	
JD－36号	168	128	11	N－2°－E	
JD－37号	272	216	90	N－70°－E	
JD－38号	80	64	16	N－61°－E	
JD－40号	176	136	34	N－7°－E	
JD－41号	304	〈208〉	45	N－60°－E	
JD－44号	208	80	46	N－33°－W	
JD－49号	168	〈64〉	18	N－45°－E	
JD－51号	112	112	64	N－1°－E	
JD－55号	256	168	22	N－55°－E	
JD－56号	224	128	36	N－15°－W	

〈 〉残存値

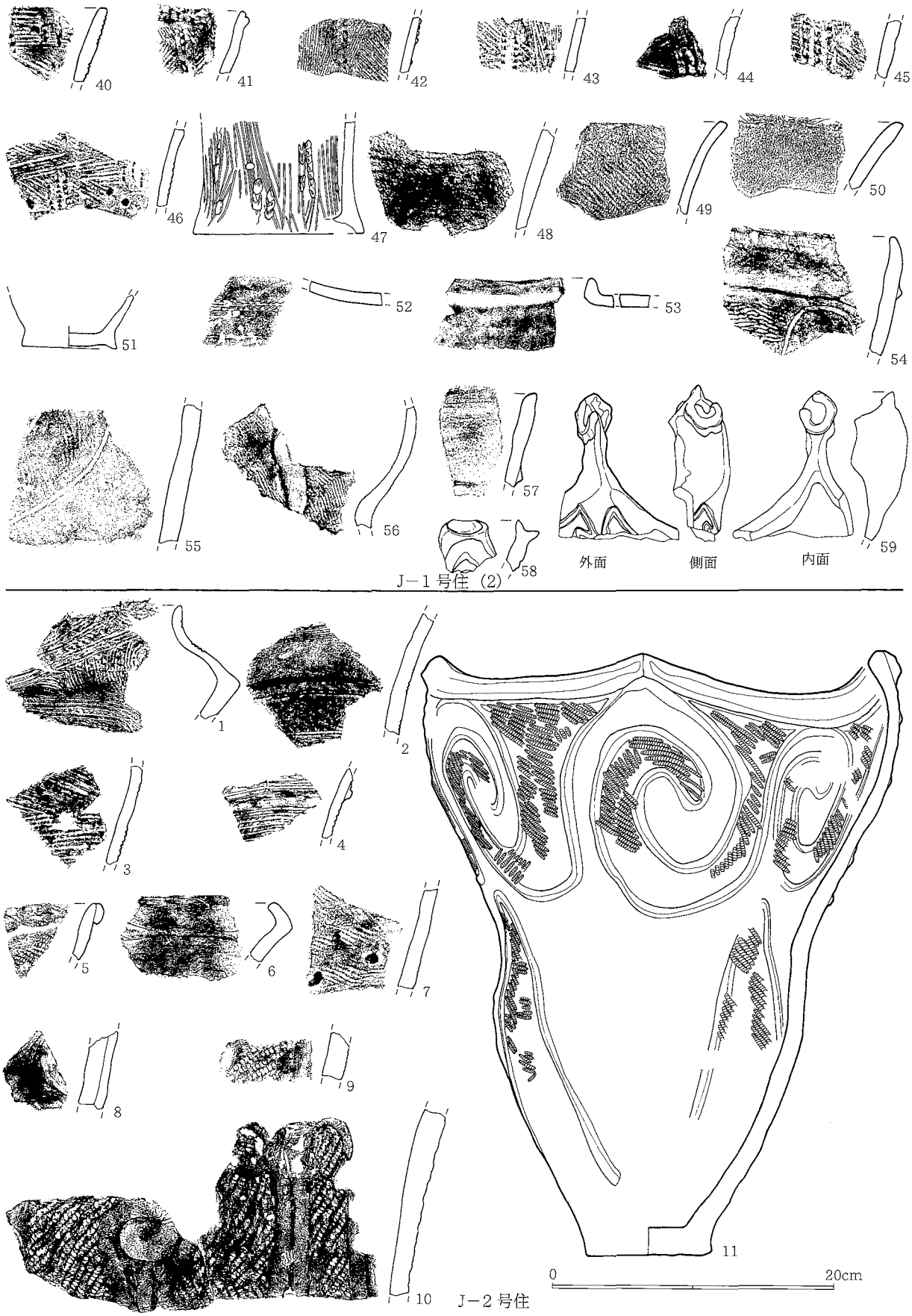
第2表　住居址・土坑観察表

溝名	規模						長軸方向	備考
	上幅最小(cm)	上幅最大(cm)	下幅最小(cm)	下幅最大(cm)	深さ最小(cm)	深さ最大(cm)		
1号	120	196	44	144	17	47	N－62°－E	J－15号住と重複

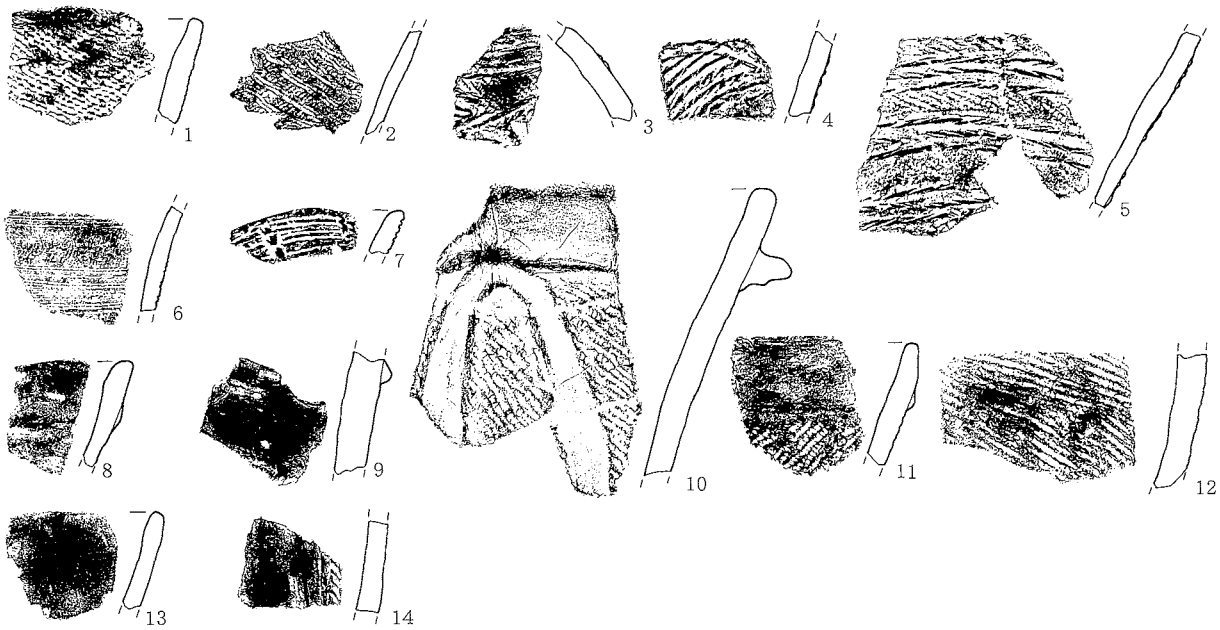
第3表　溝観察表



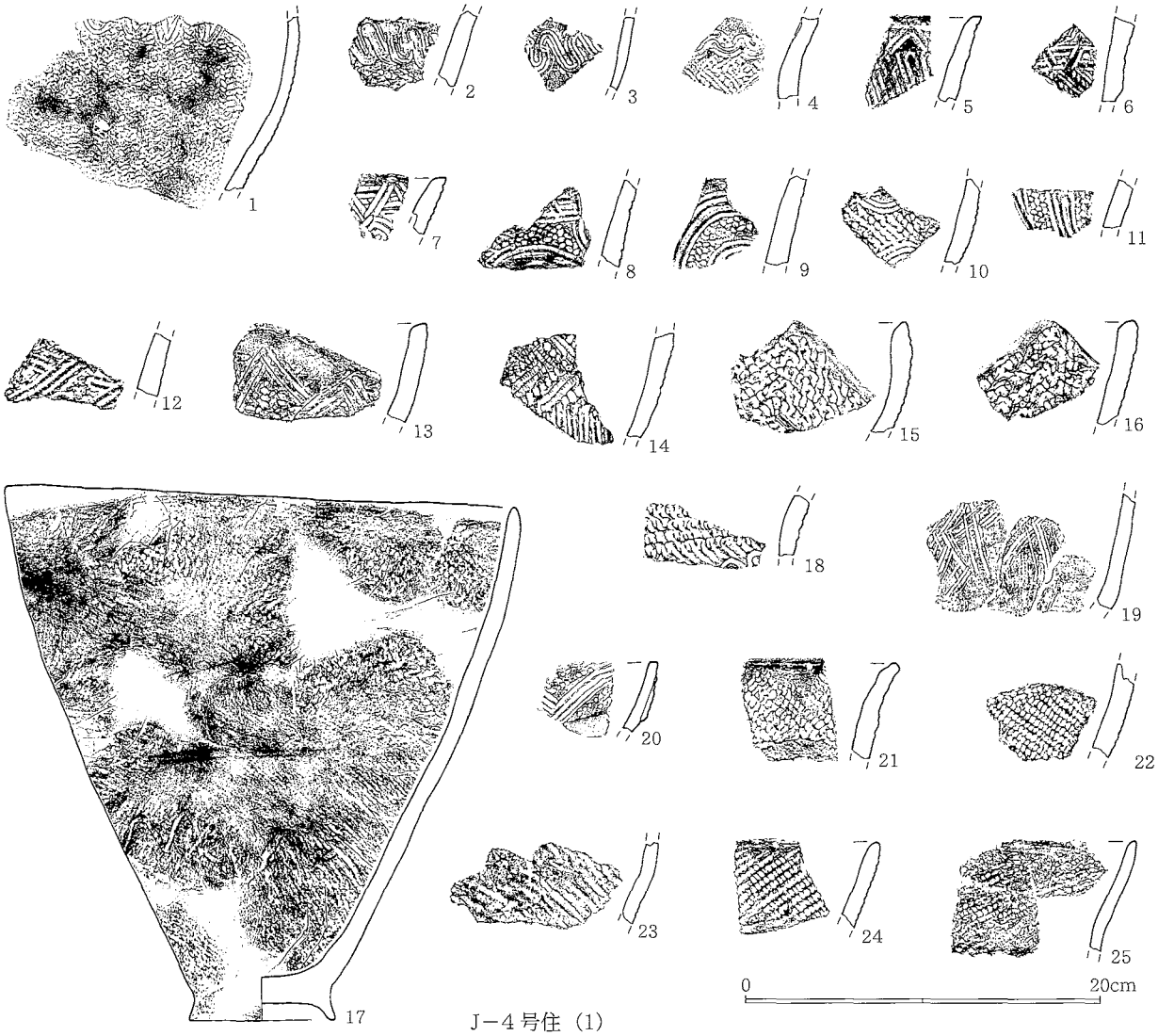
第21図　J－1号住(1)出土の土器



第22図　J－1号住(2)・J－2号住出土の土器

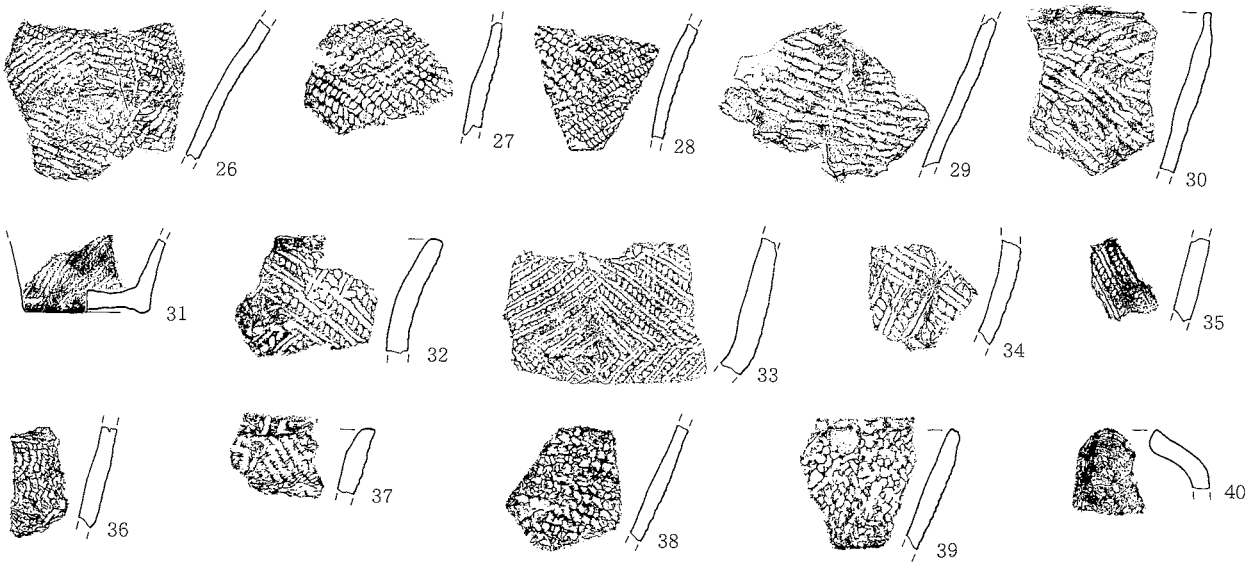


J－3号住

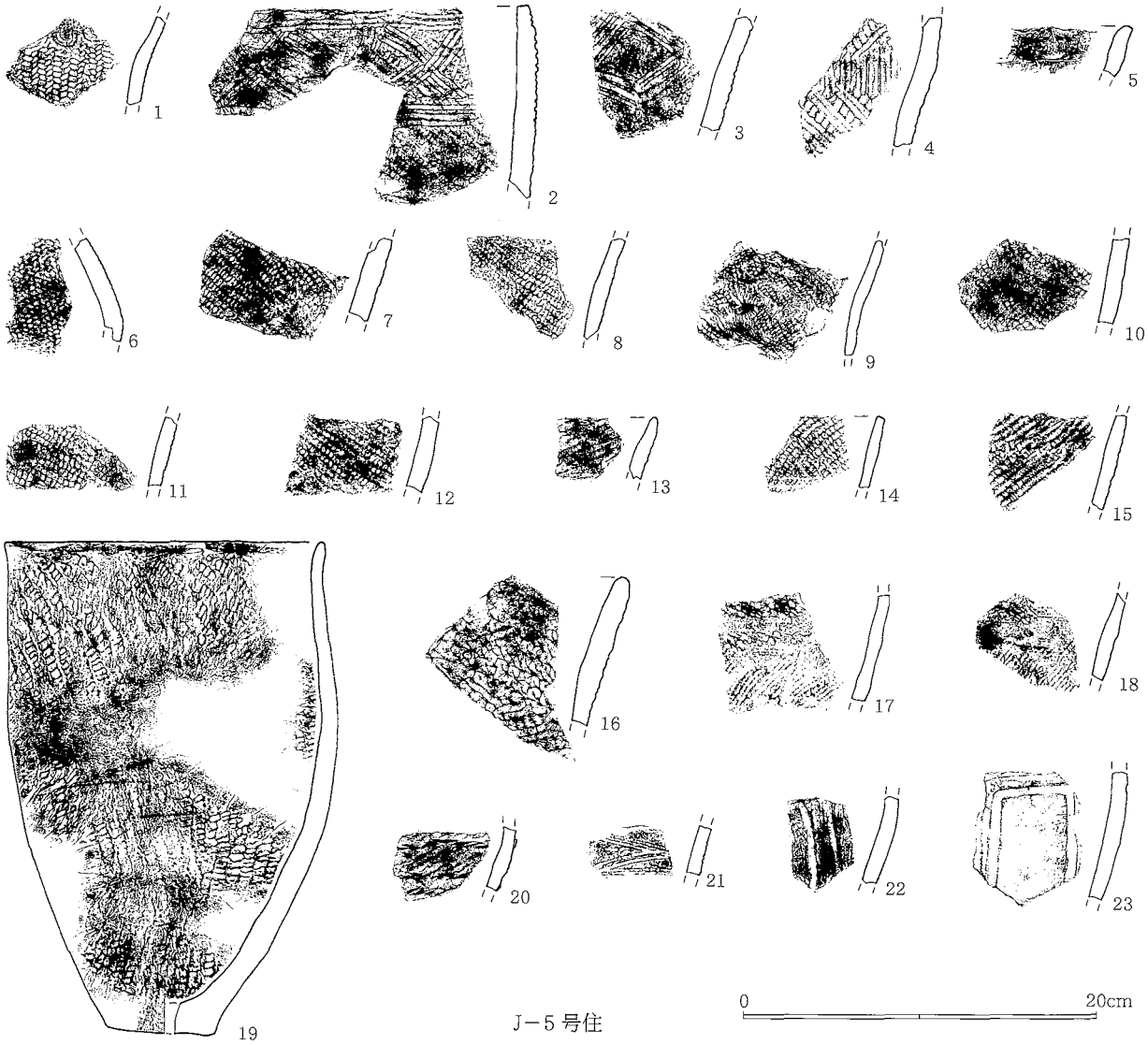


J－4号住（1）

第23図　Ｊ－３号住・Ｊ－４号住(1)出土の土器

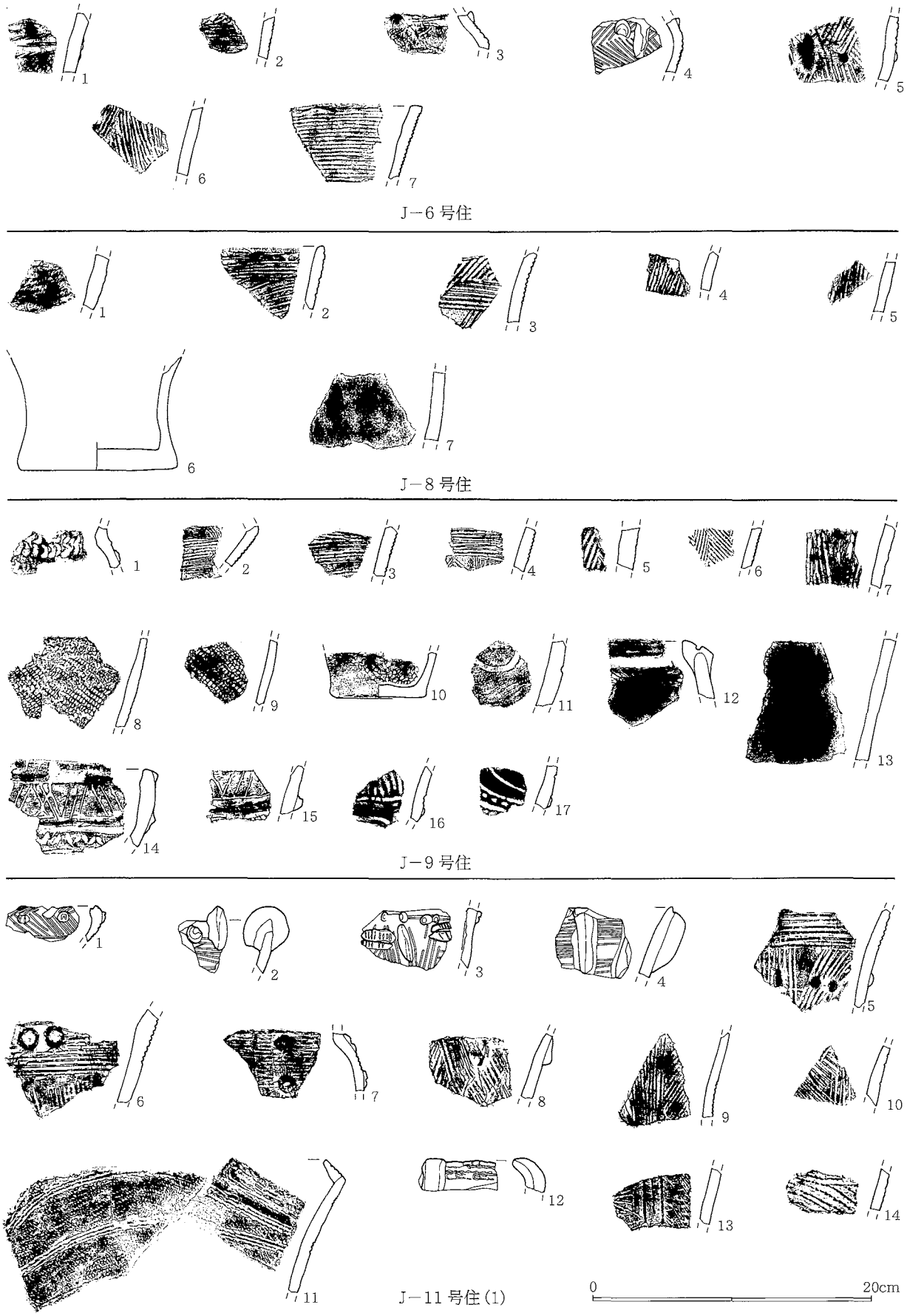


J－4 号住 (2)

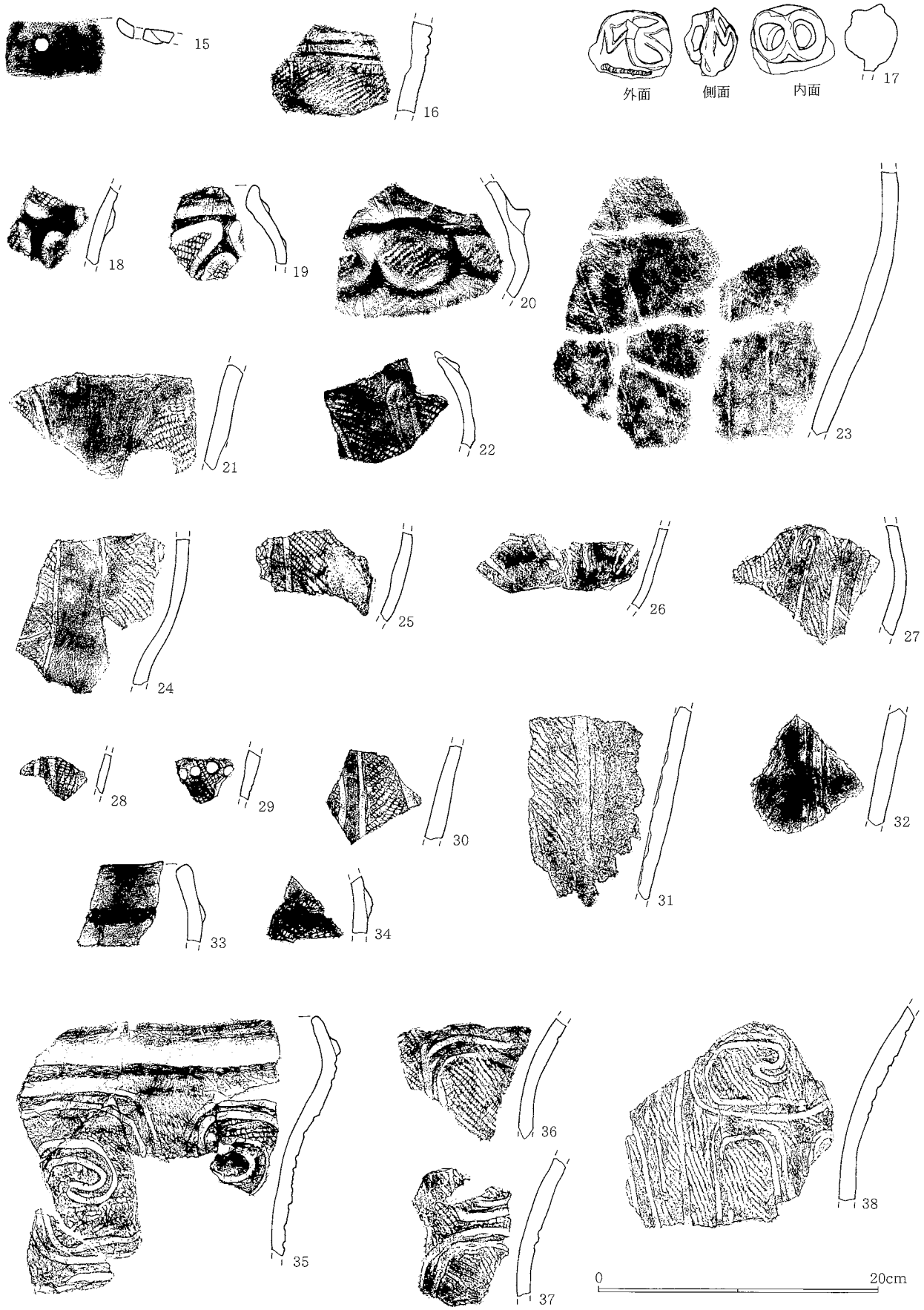


J－5 号住

第24図　Ｊ－４号住(2)・Ｊ－５号住出土の土器

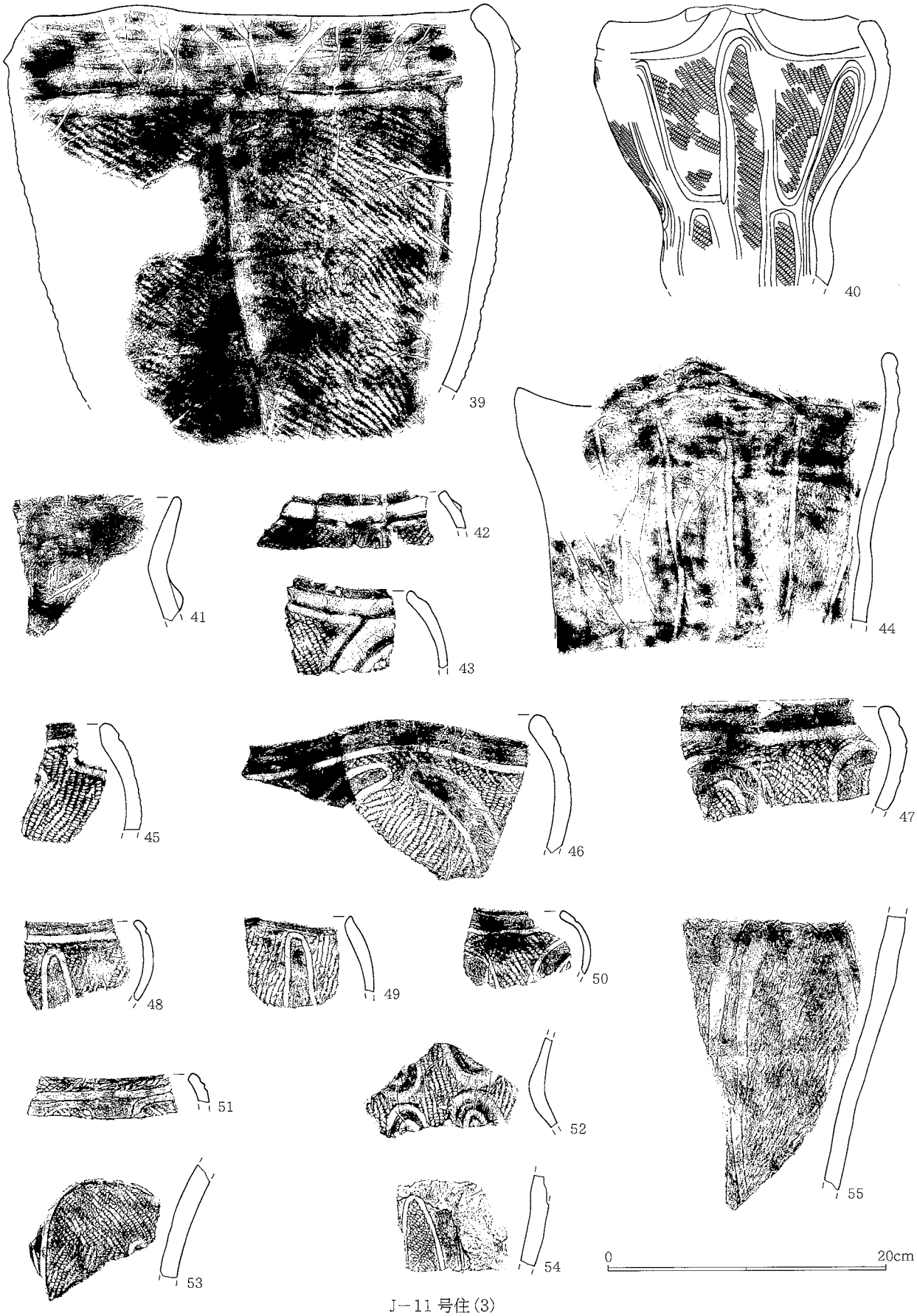


第25図　J－6号住・J－8号住・J－9号住・J－11号住(1)出土の土器



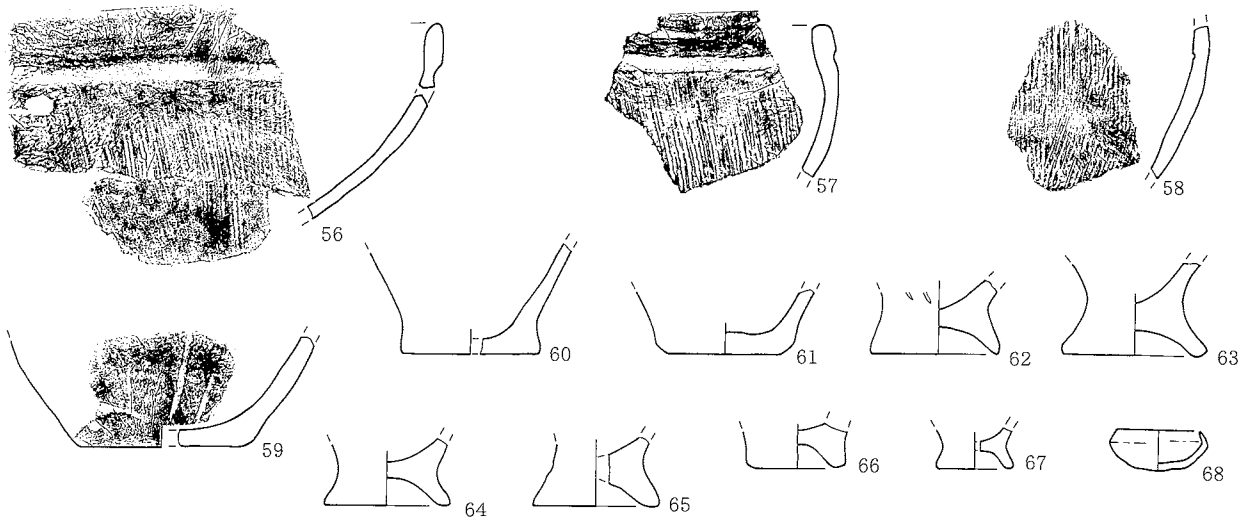
J－11 号住(2)

第26図　J－11号住(2)出土の土器

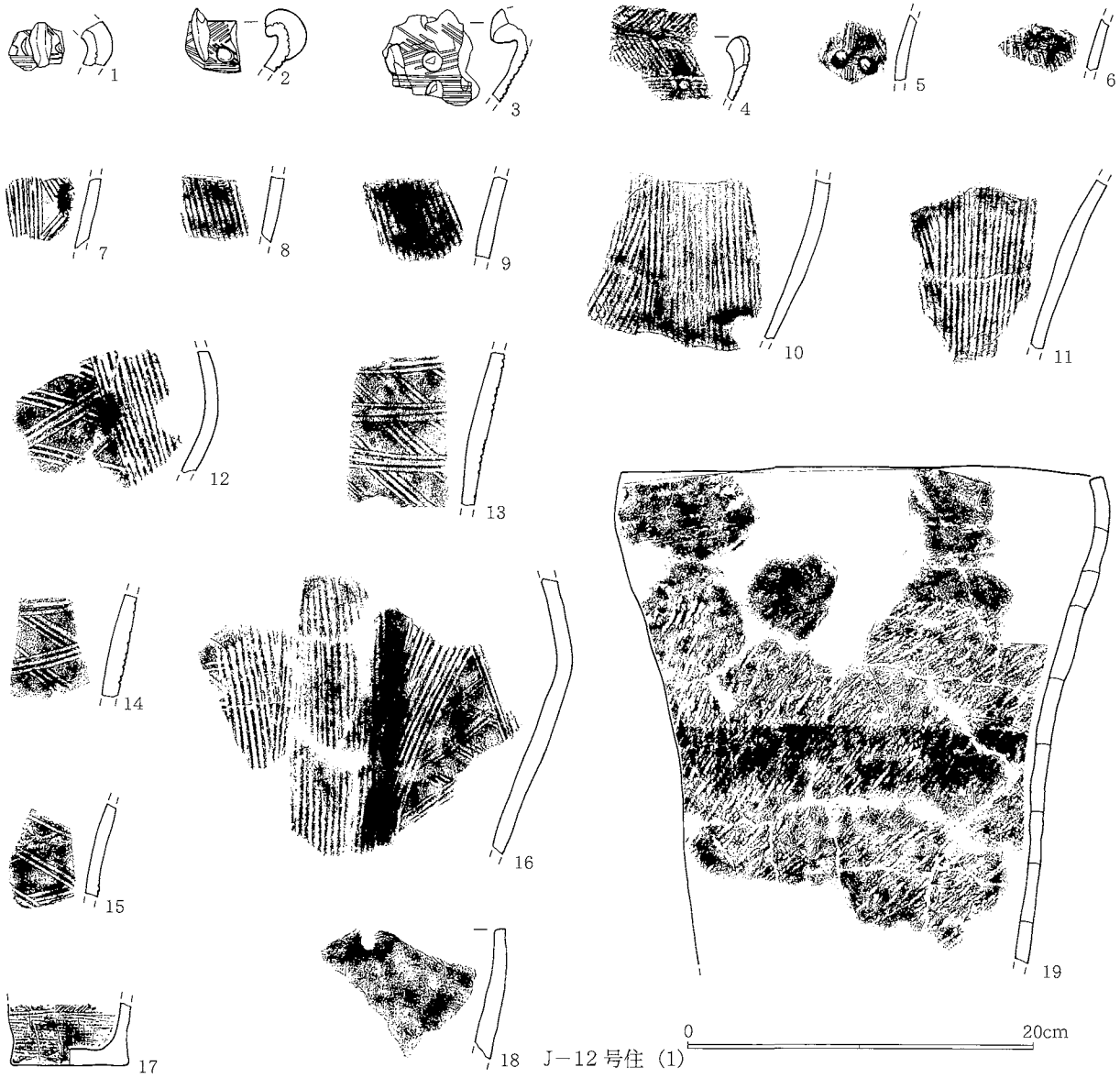


J－11 号住(3)

第27図　J－11号住(3)出土の土器

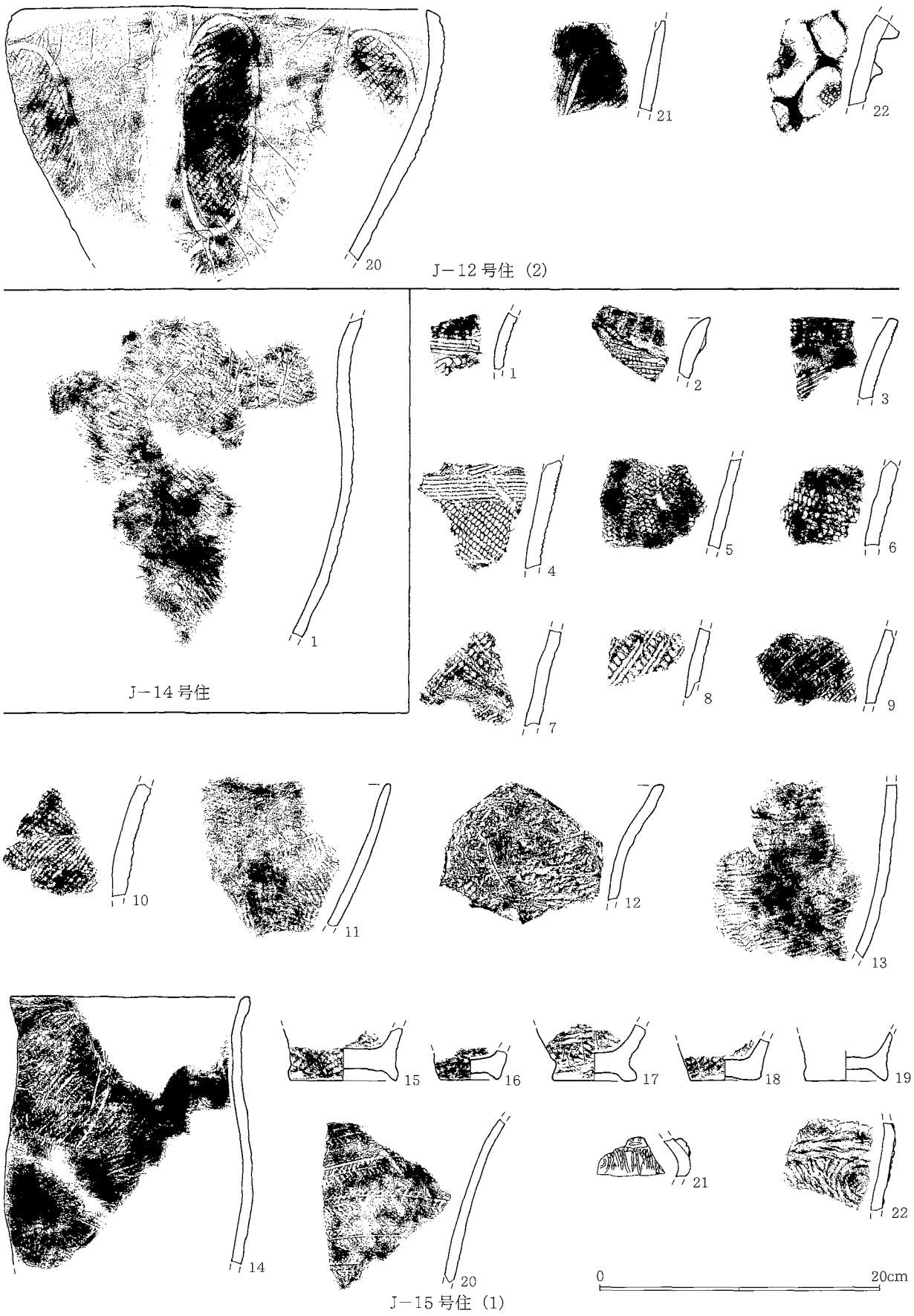


J－11 号住（4）

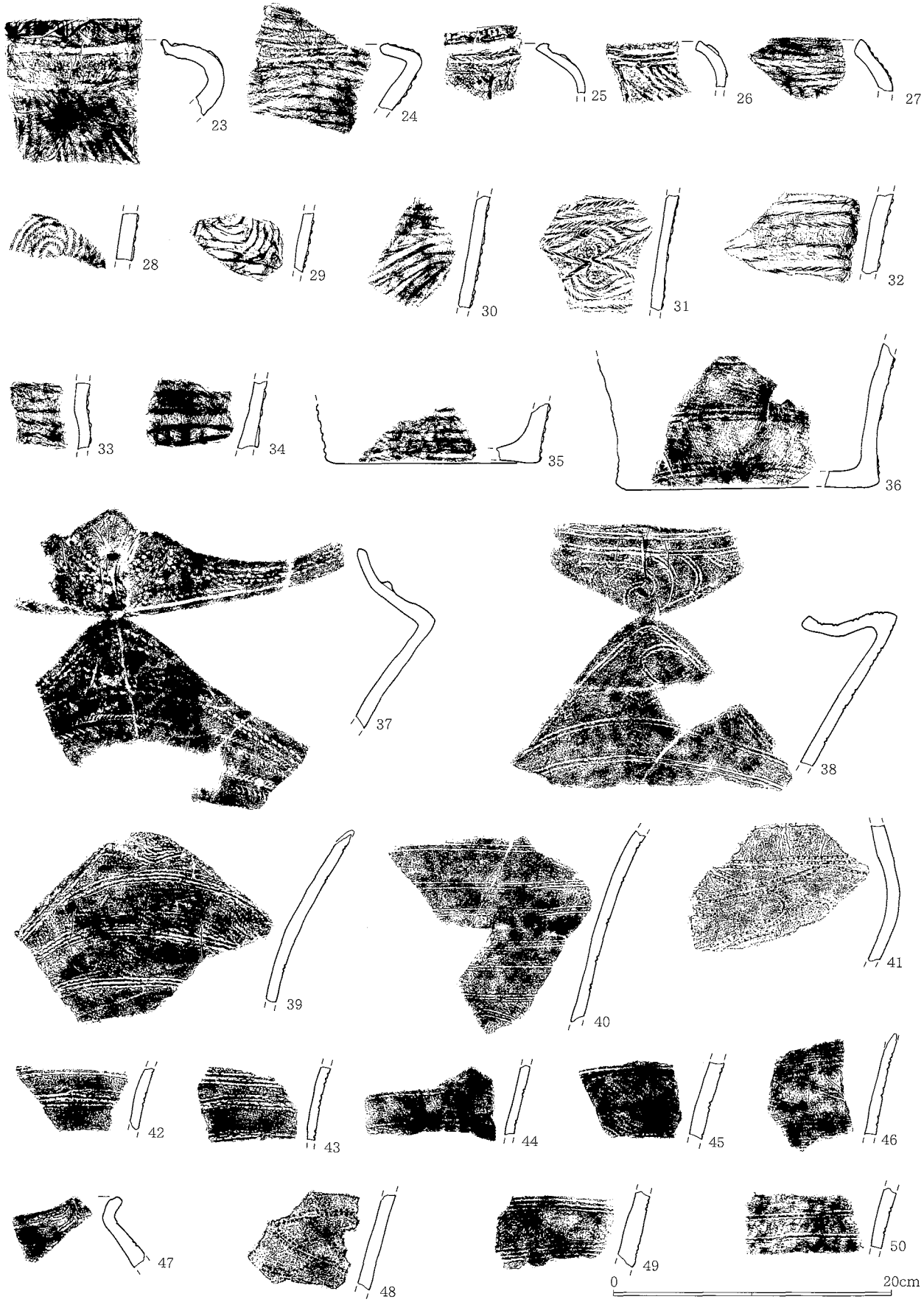


J－12 号住（1）

第28図　Ｊ―11号住(4)・Ｊ―12号住(1)出土の土器

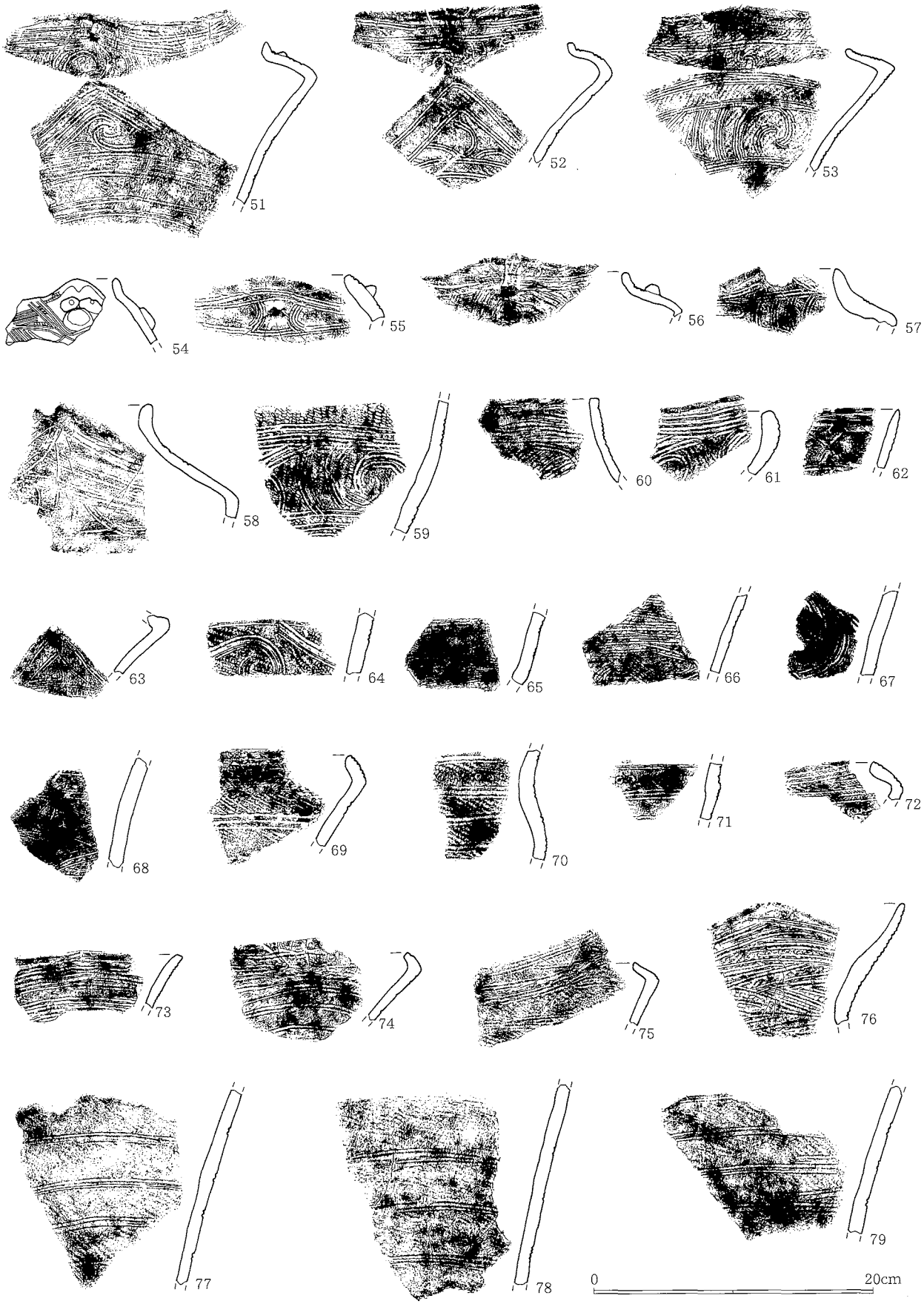


第29図　J－12号住(2)・J－14号住・J－15号住(1)出土の土器



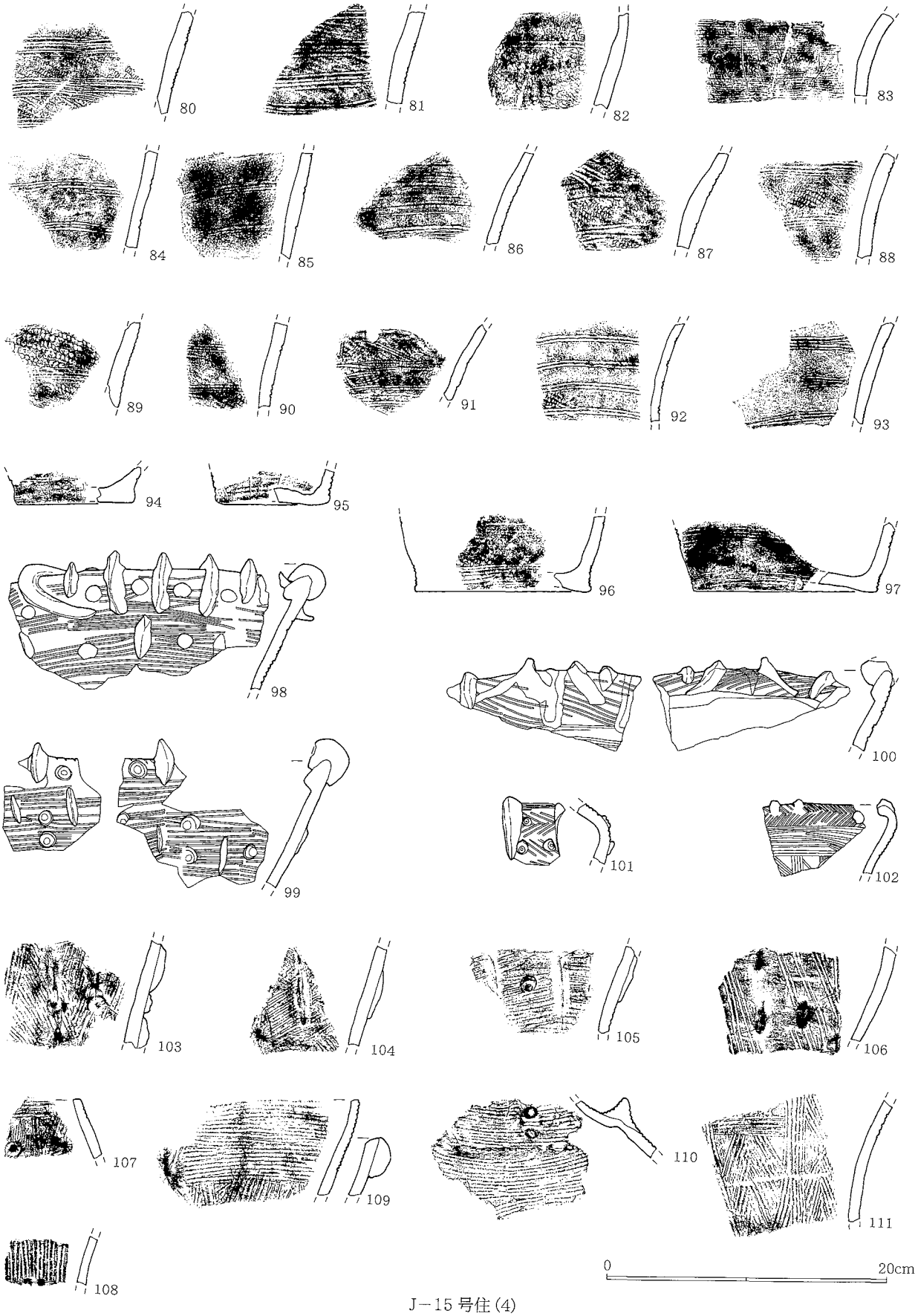
J－15 号住 (2)

第30図　Ｊ―15号住(2)出土の土器



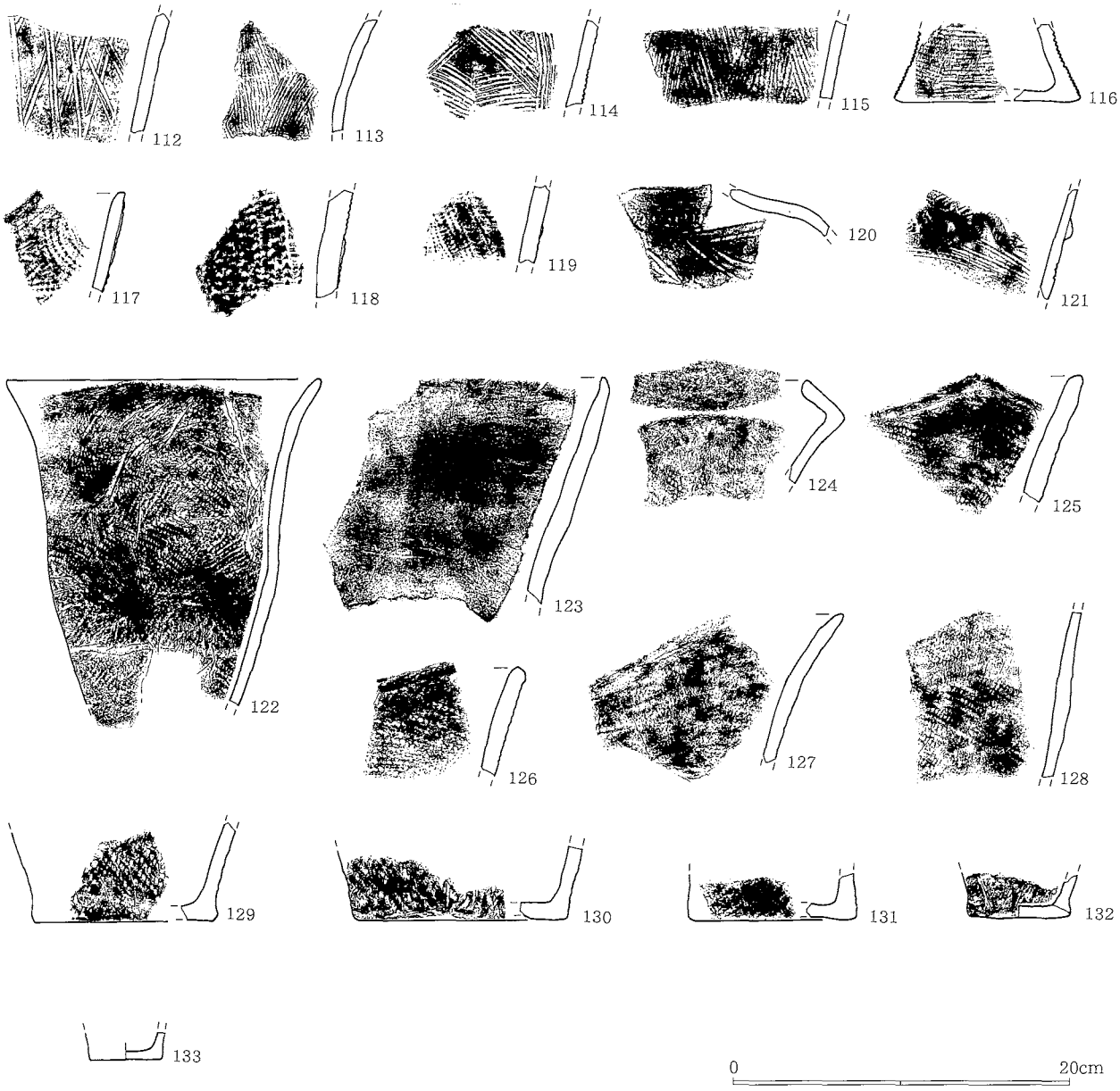
J－15 号住 (3)

第31図　J ―15号住(3)出土の土器



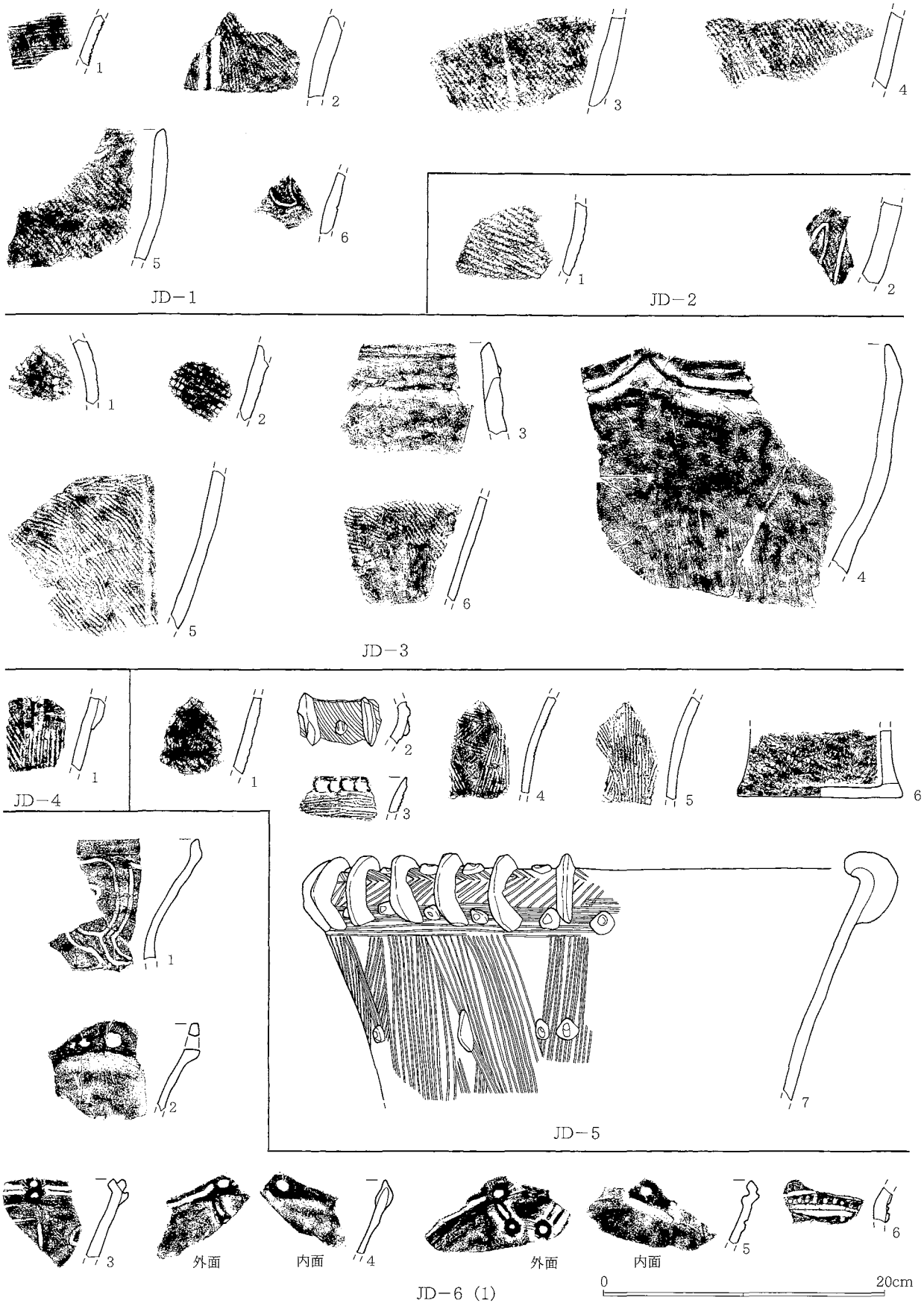
J－15 号住 (4)

第32図　J ―15号住(4)出土の土器

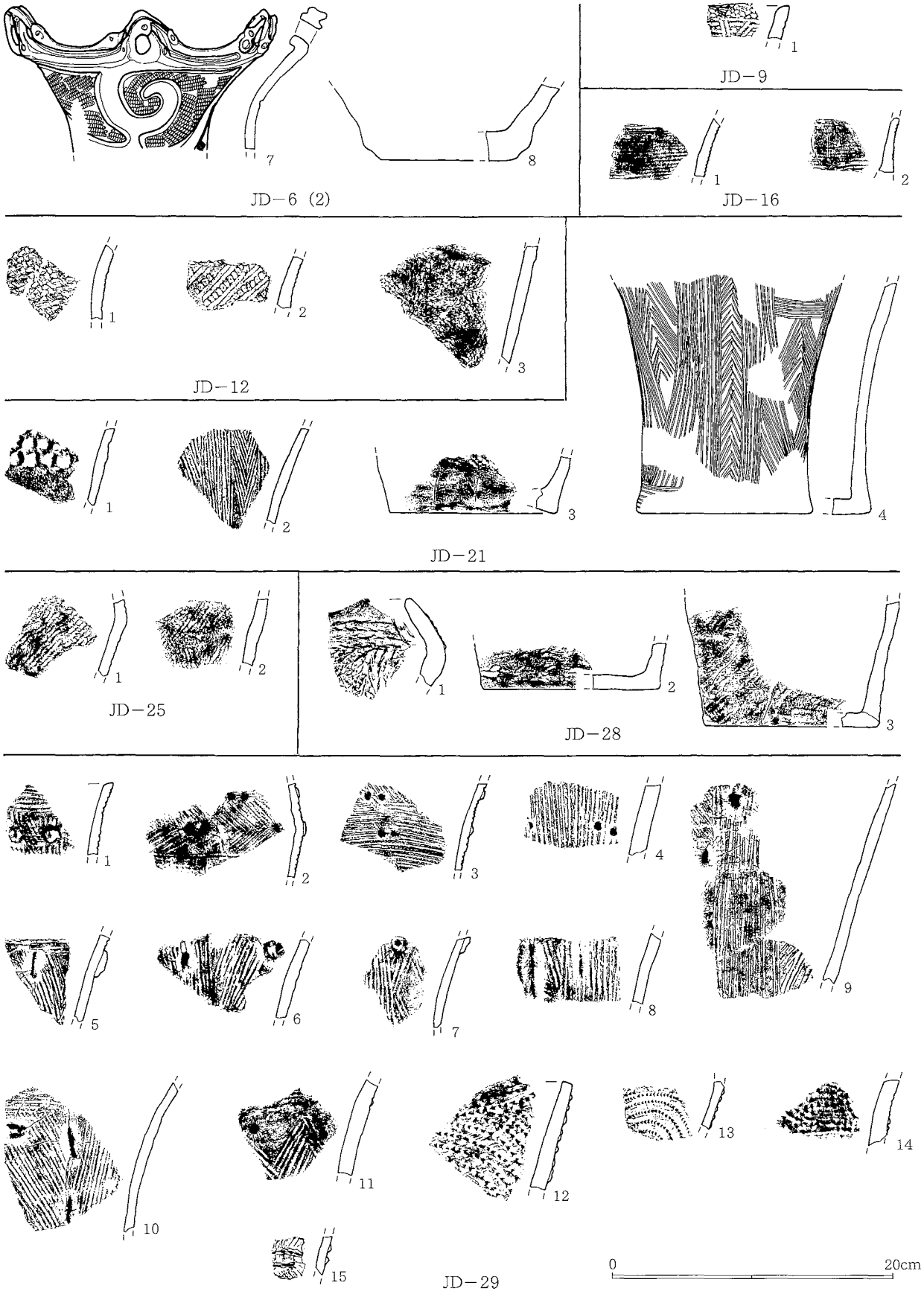


J－15 号住 (5)

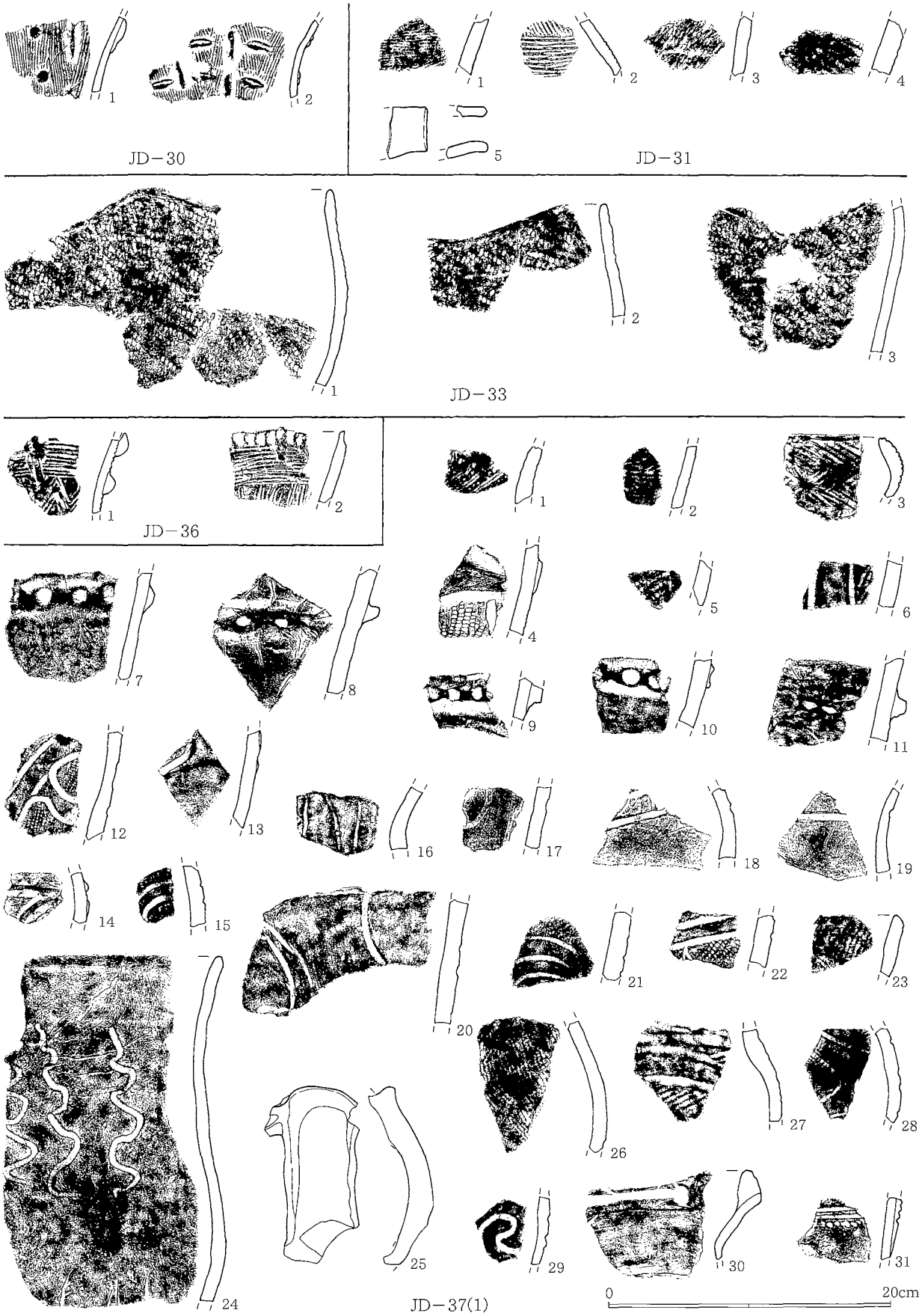
第33図　J ―15号住(5)出土の土器



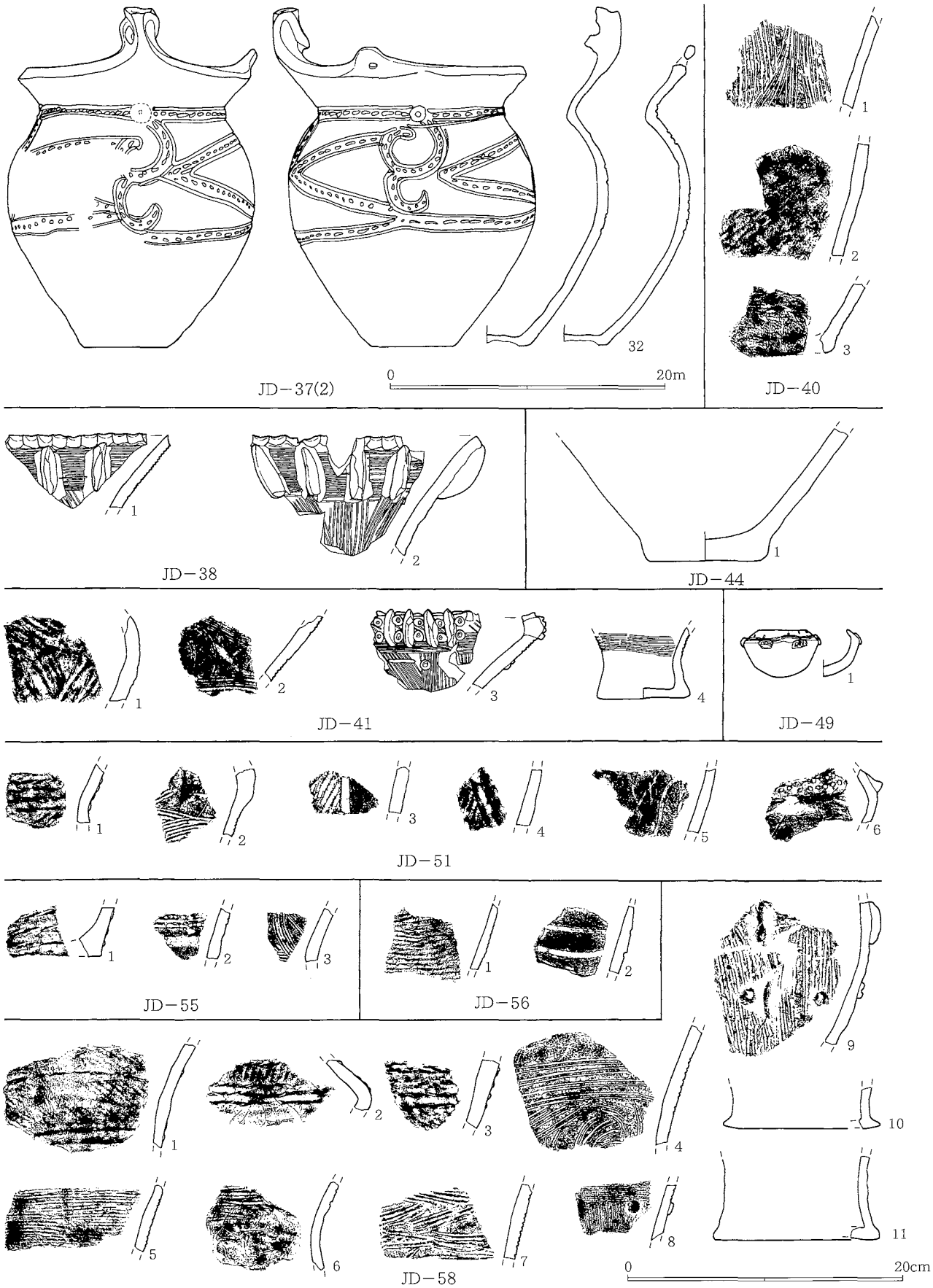
第34図　JD−1・JD−2・JD−3・JD−4・JD−5・JD−6(1)出土の土器



第35図　JD−6(2)・JD−9・JD−12・JD−16・JD−21・JD−25・JD−28・JD−29出土の土器

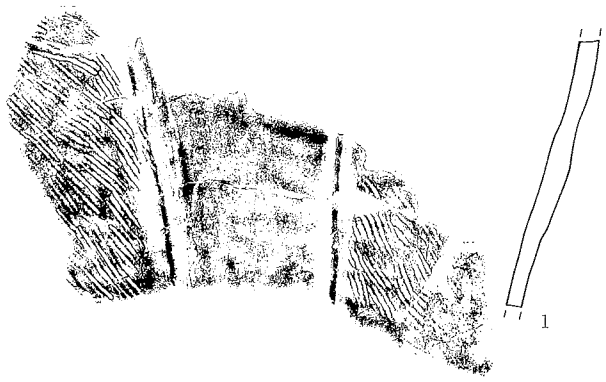


第36図　JD—30・JD—31・JD—33・JD—36・JD—37(1)出土の土器

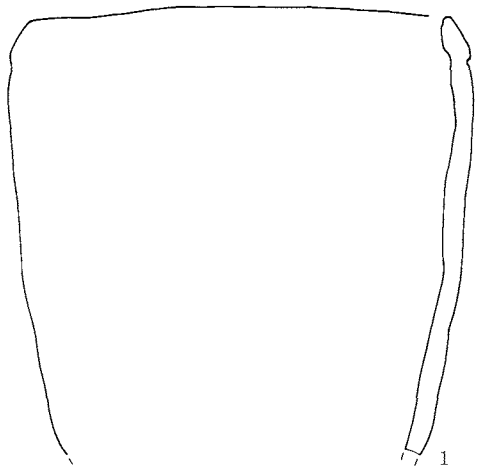


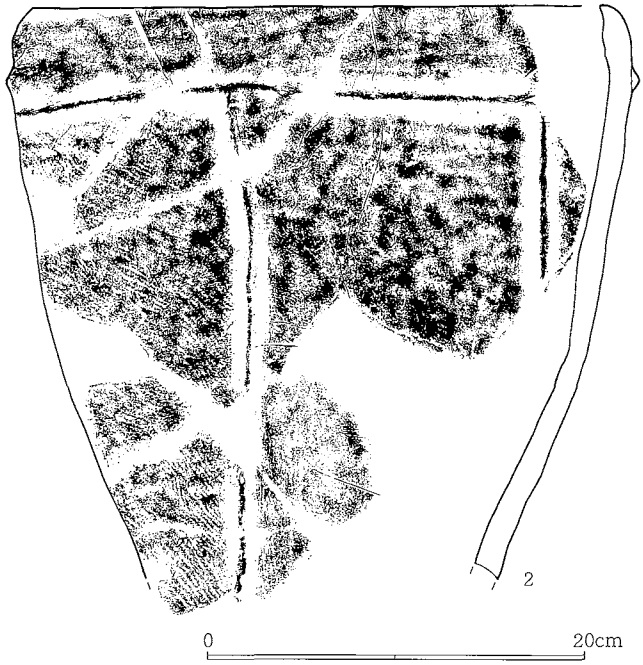
第37図　JD—37(2)・JD—38・JD—40・JD—41・JD—44・JD—49・JD—51・JD—55・JD—56・JD—58出土の土器

JU－1号埋甕



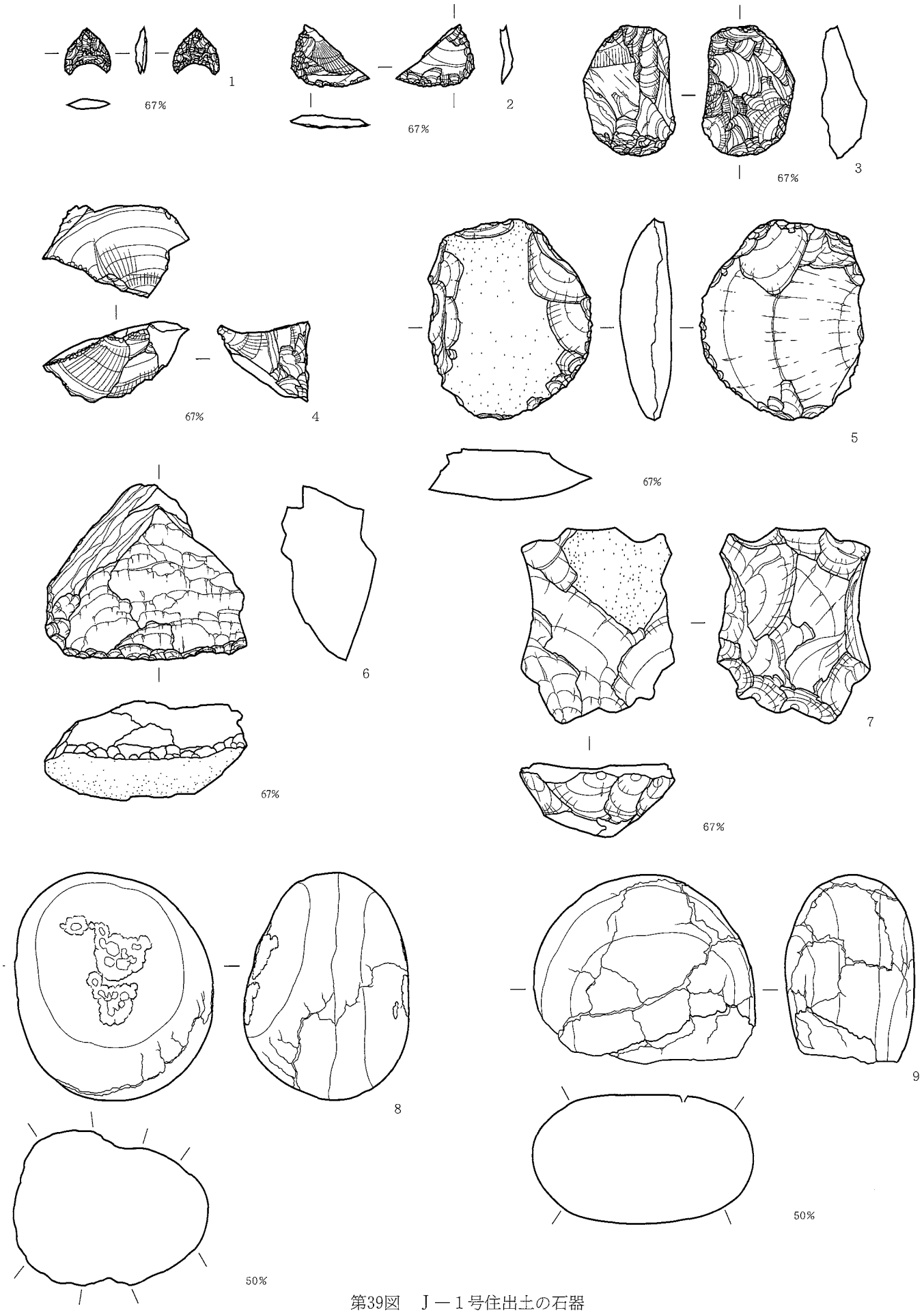
JU－2号埋甕



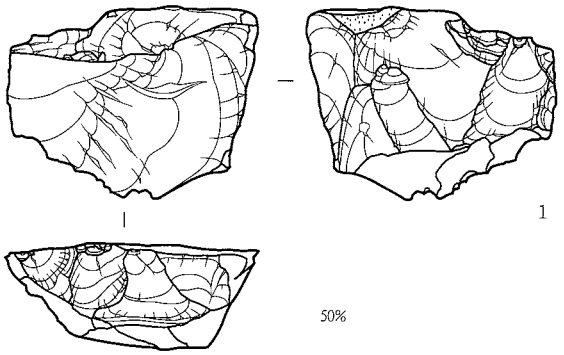


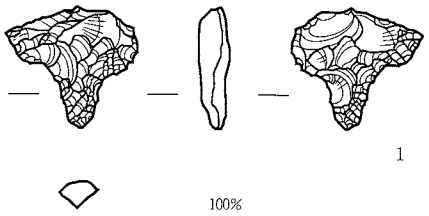
グリッド

第38図　JU—1号埋甕・JU—2号埋甕・グリッド出土の土器

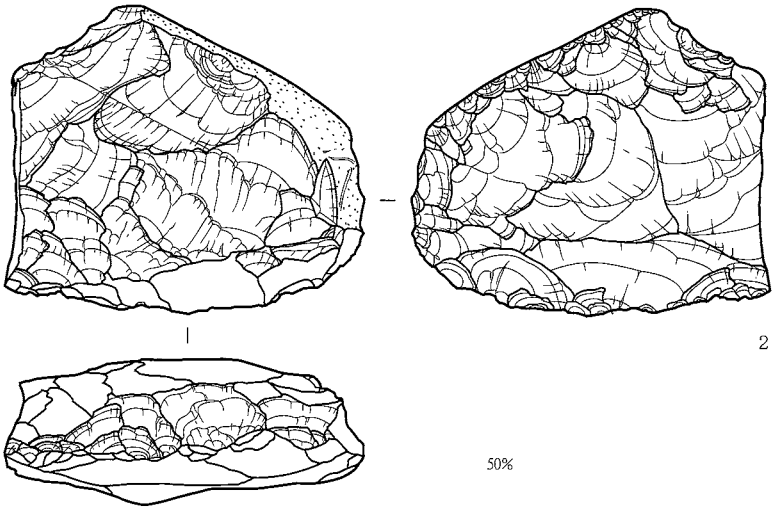


第39図　Ｊ－１号住出土の石器

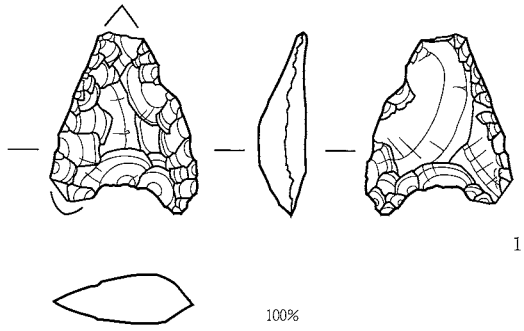


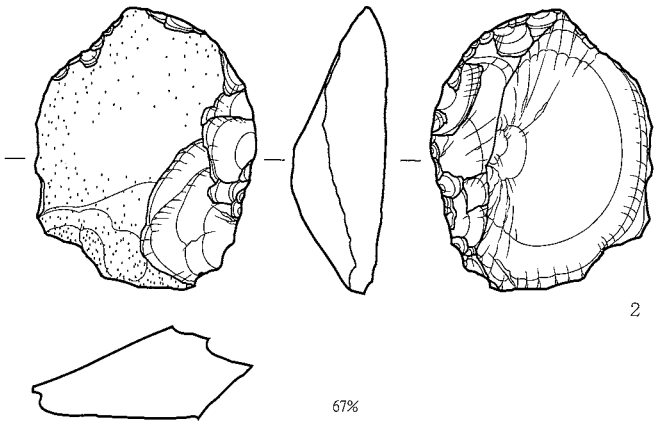


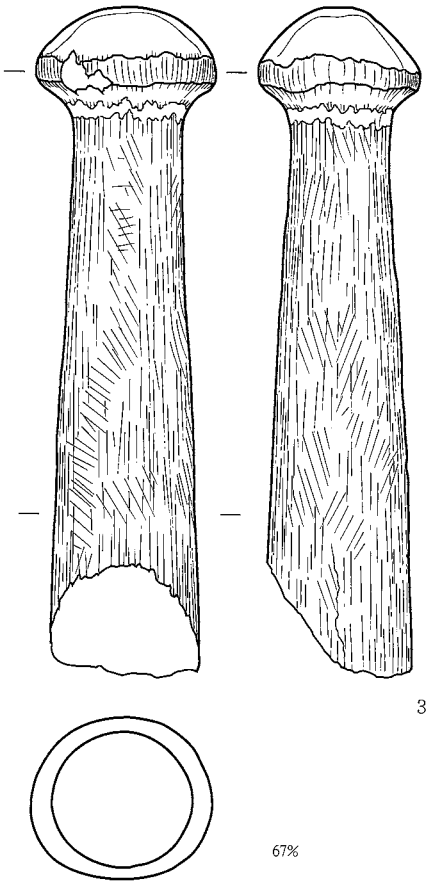
J-2号住



J-3号住

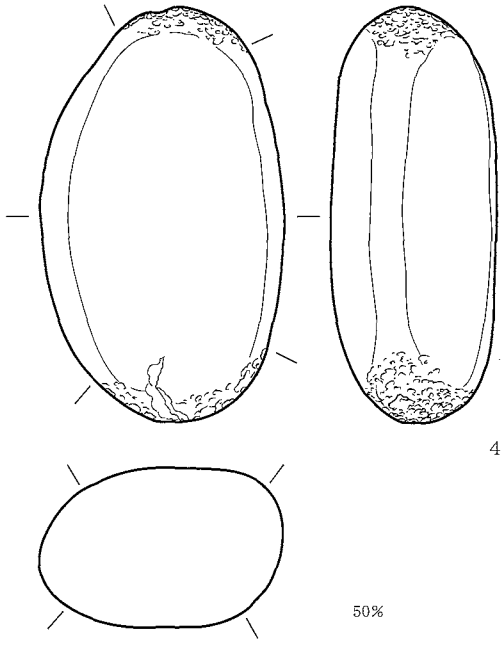


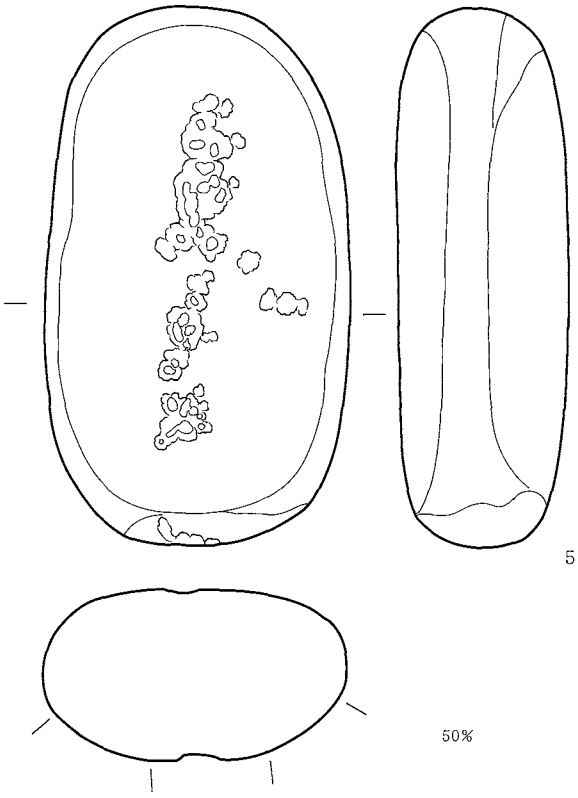


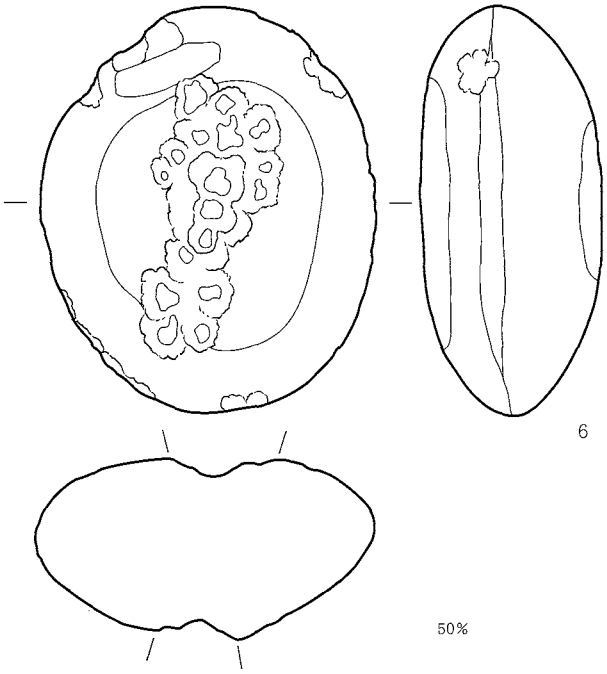


J-4号住（1）

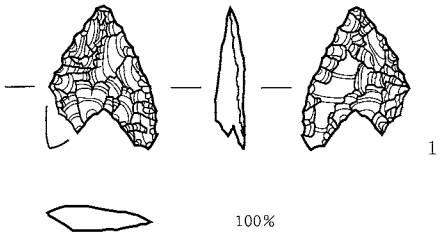
第40図　Ｊ－２号住・Ｊ－３号住・Ｊ－４号住(1)出土の石器

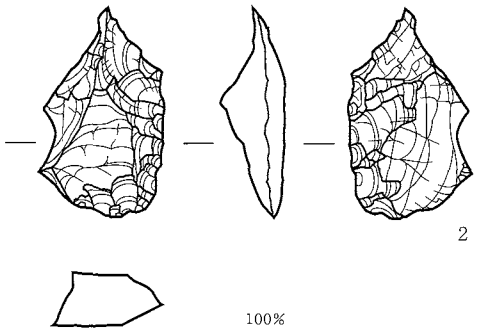




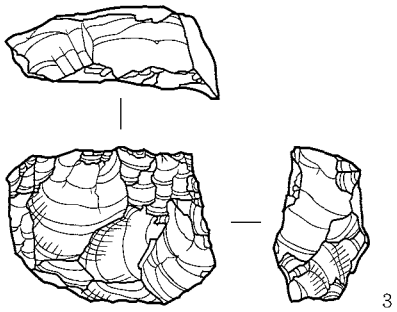


J-4号住（2）



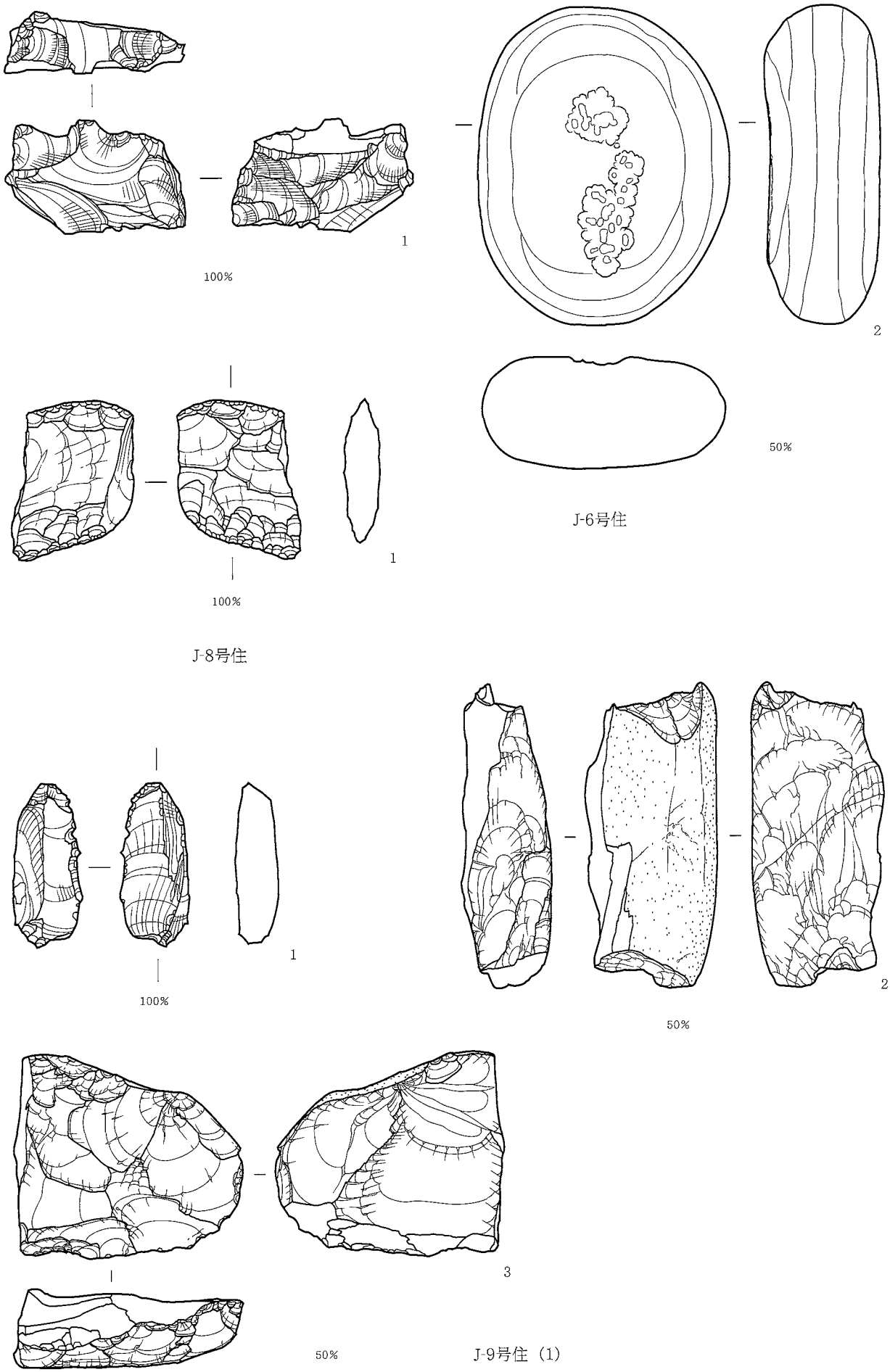


J-5号住（1）

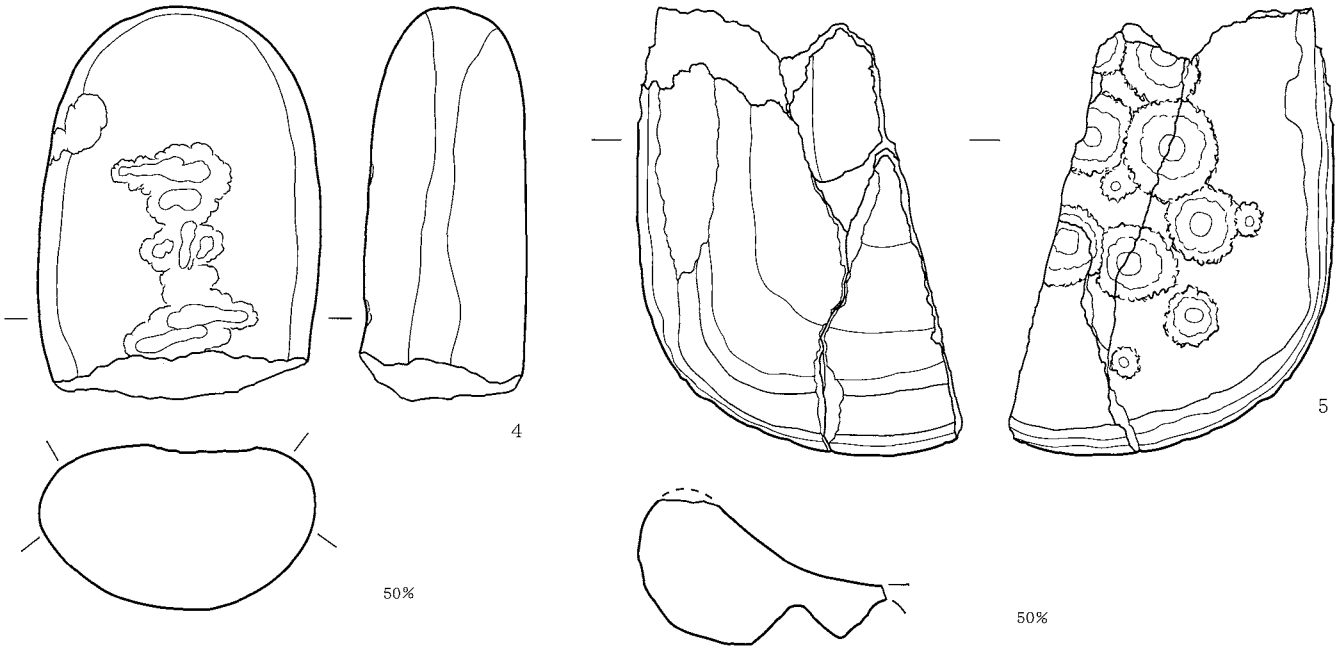


第41図　Ｊ－４号住(2)・Ｊ－５号住(1)出土の石器

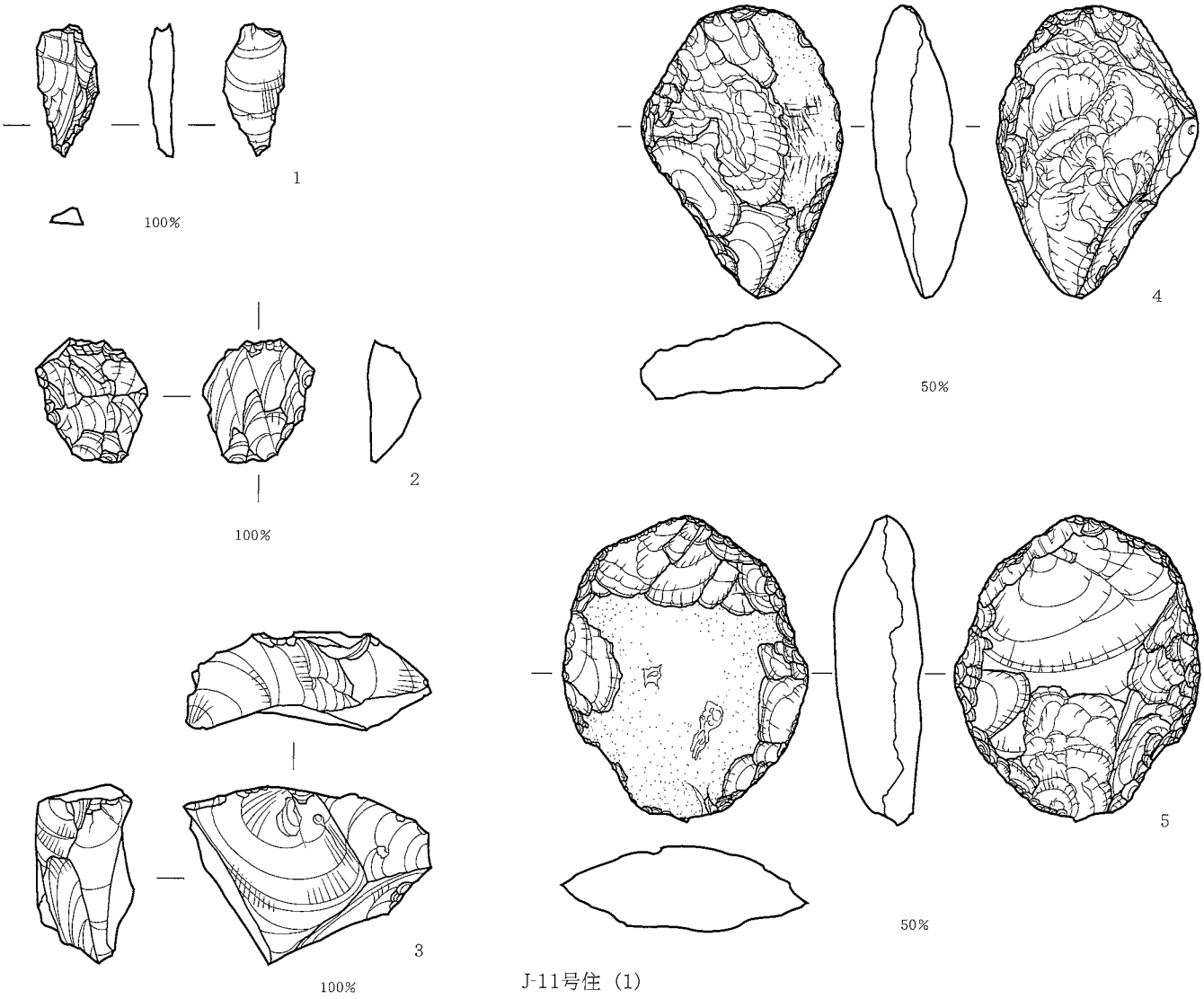
第42図　Ｊ－５号住(2)出土の石器



第43図　Ｊ－６号住・Ｊ－８号住・Ｊ－９号住(1)出土の石器

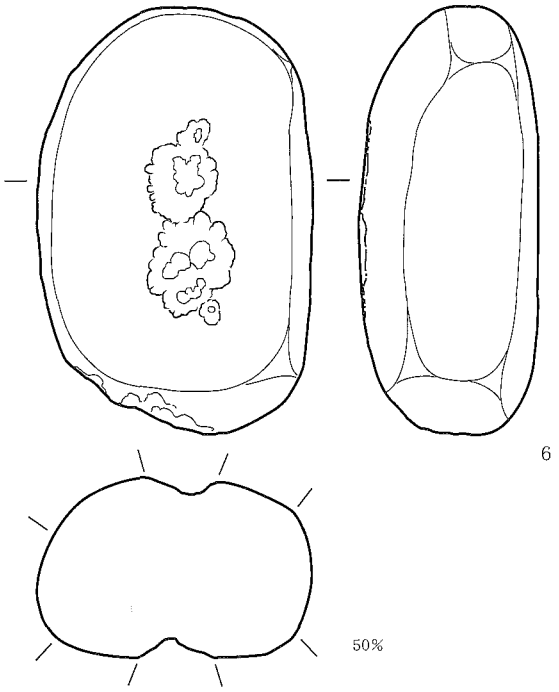


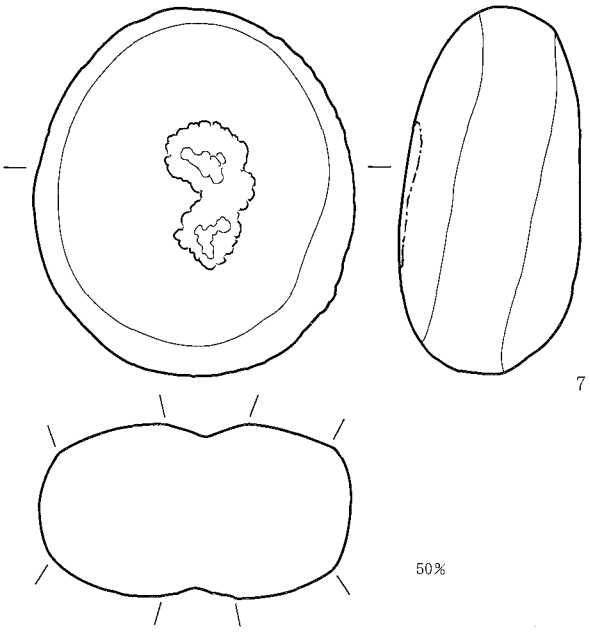
J-9号住（2）

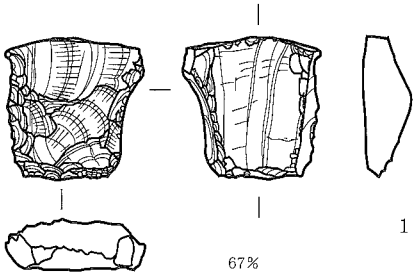


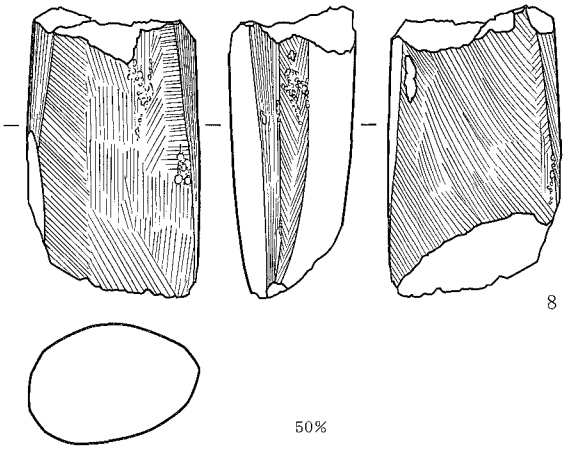
J-11号住（1）

第44図　Ｊ－９号住(2)・Ｊ－11号住(1)出土の石器

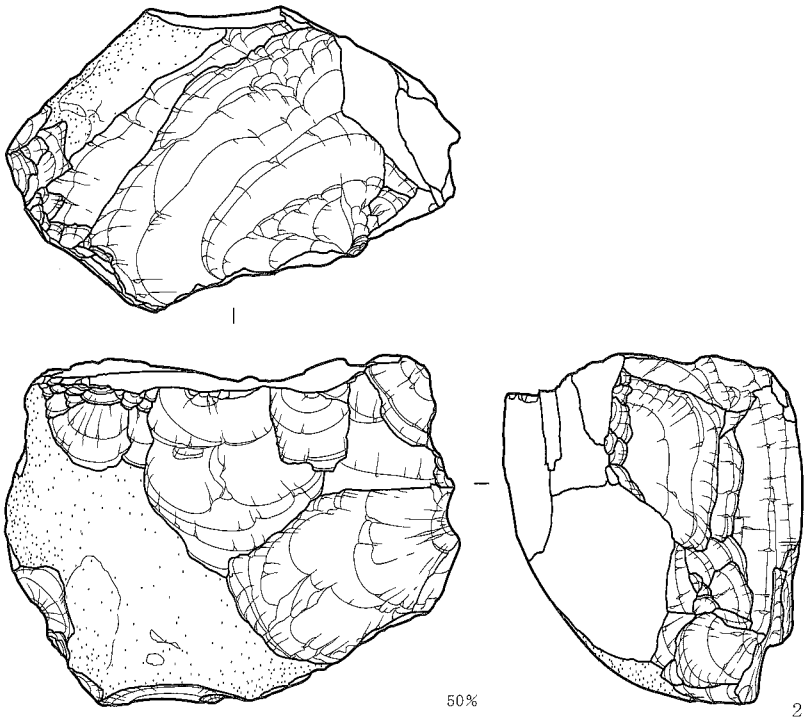




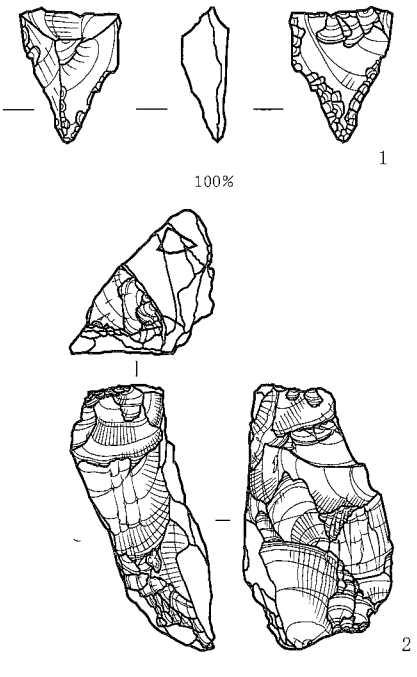




J-11号住（2）

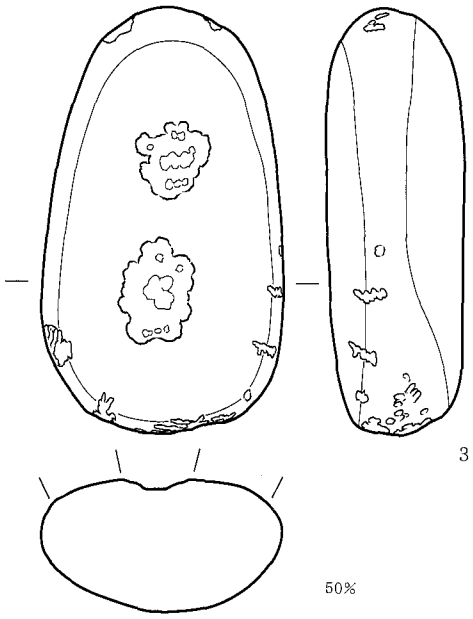


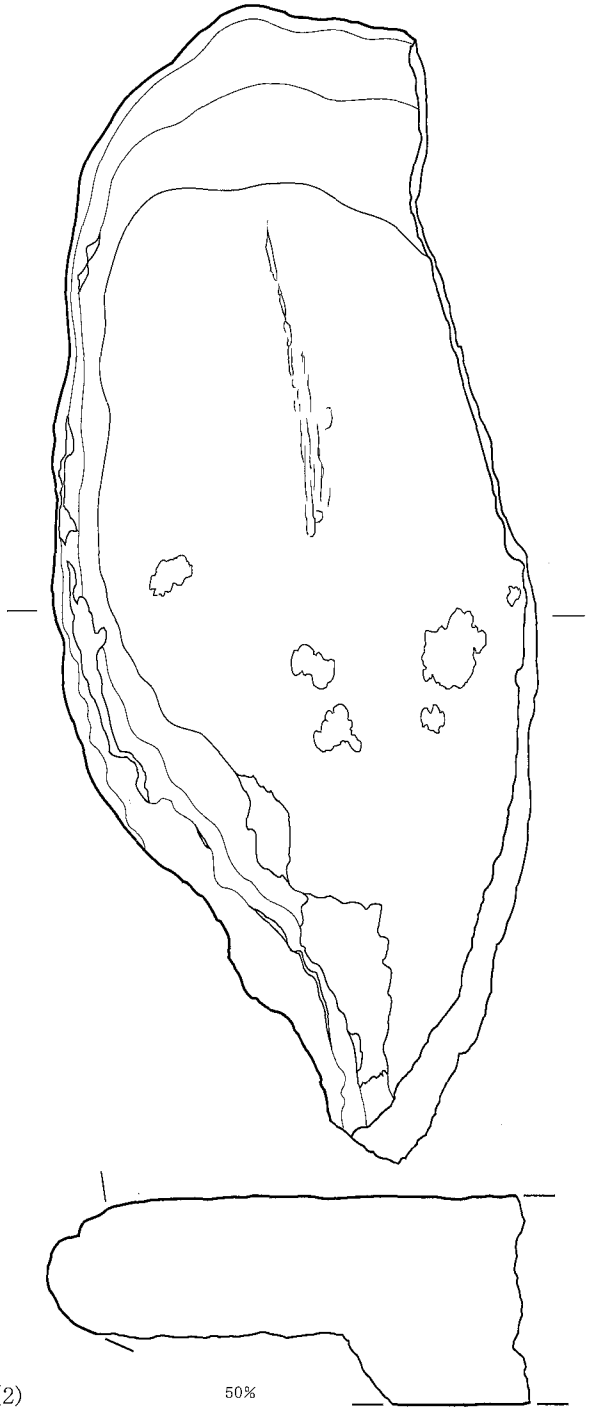
J-14号住（1）

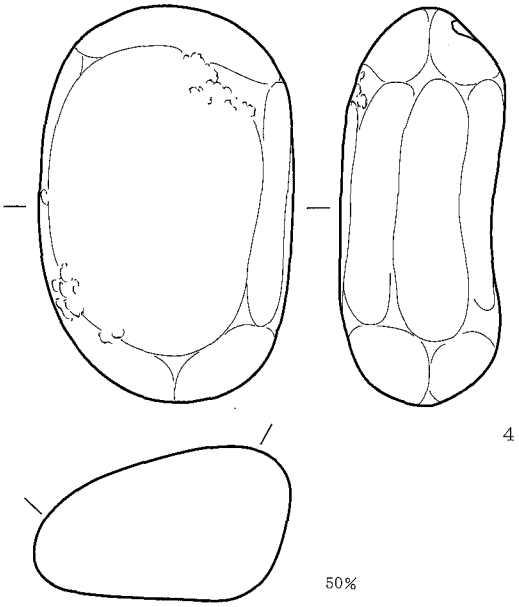


J-12号住

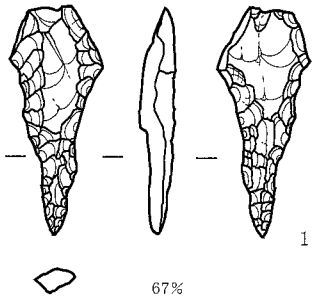
第45図　Ｊ―11号住(2)・Ｊ－12号住・Ｊ－14号住(1)出土の石器

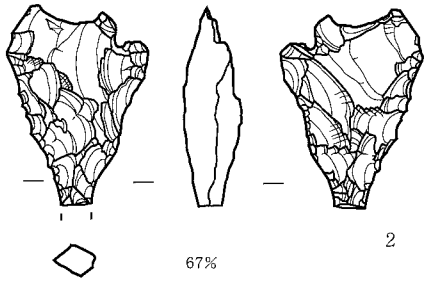


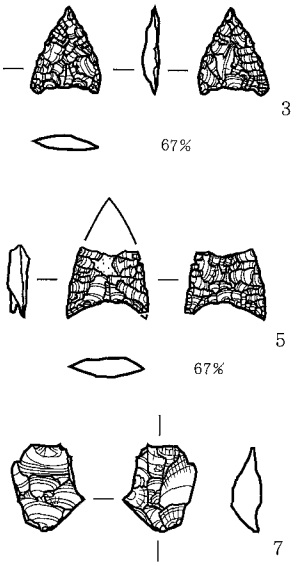


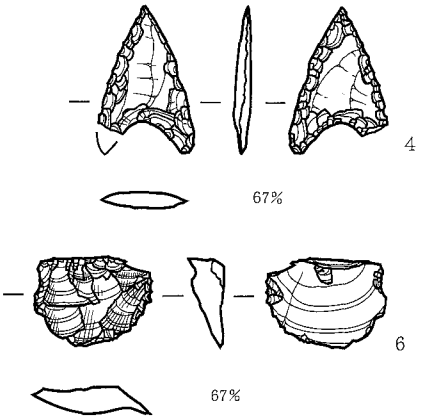


J-14号住（2）



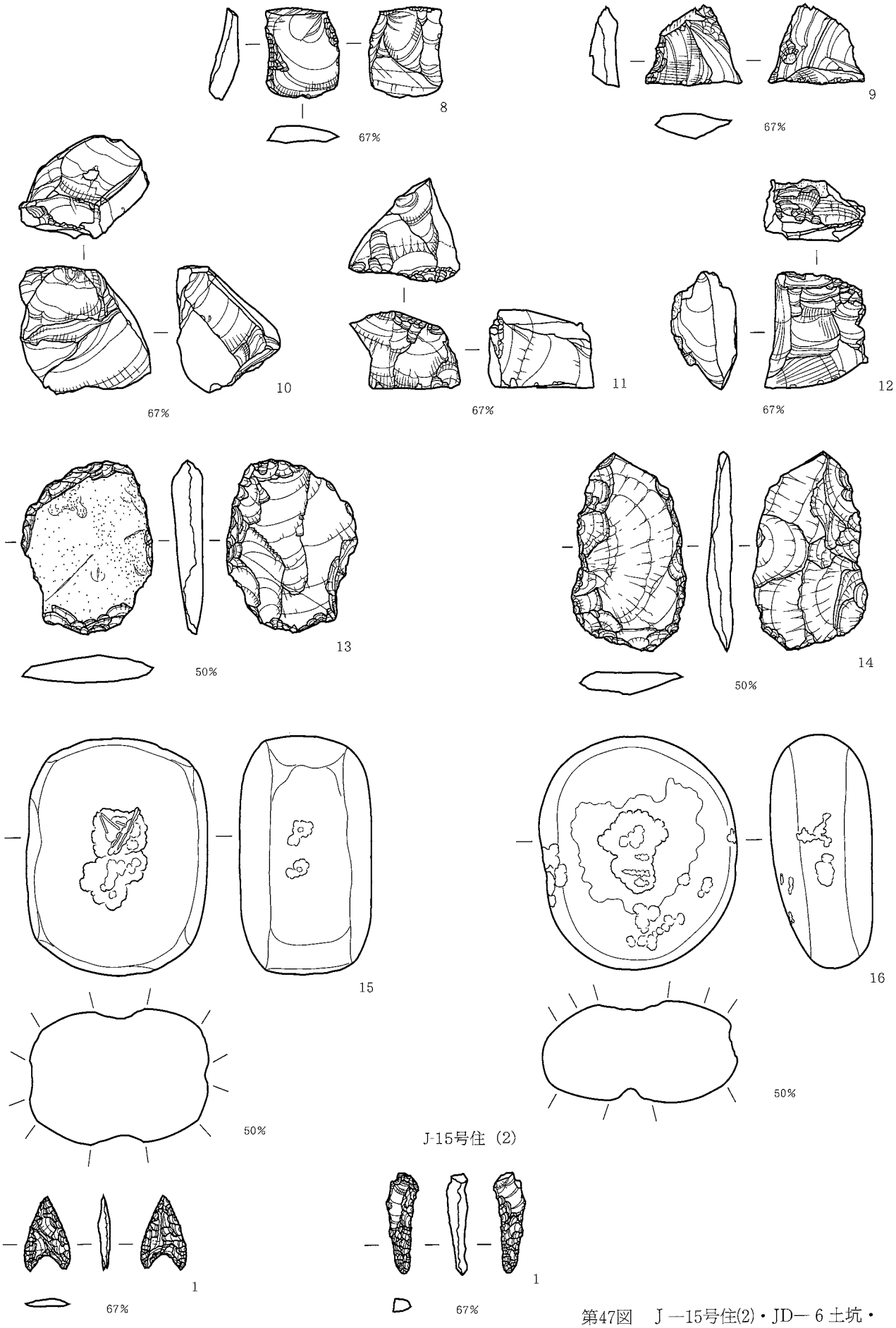






J-15号住（1）

第46図　J―14号住(2)・
J―15号住(1)出土の石器

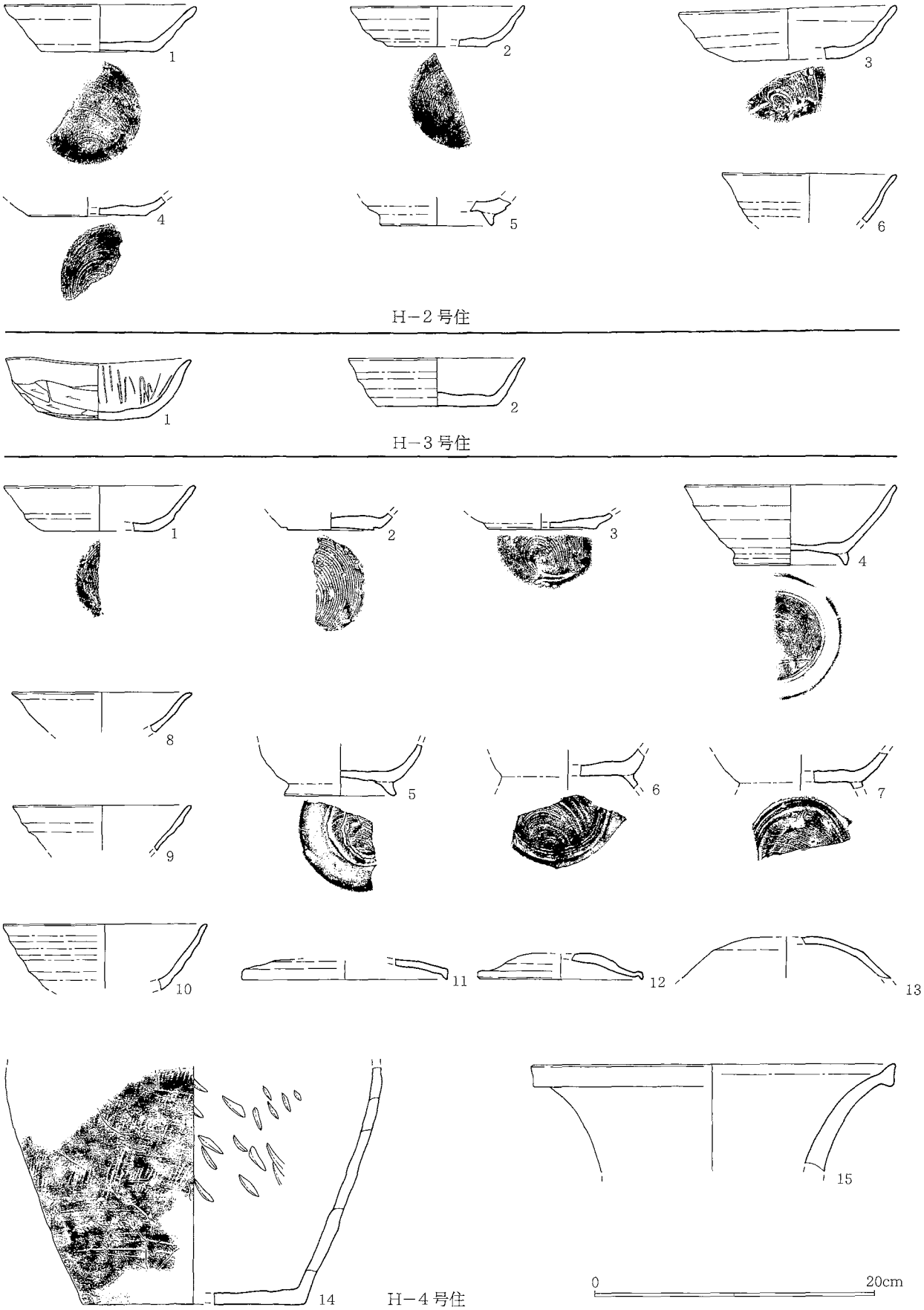


J-15号住（2）

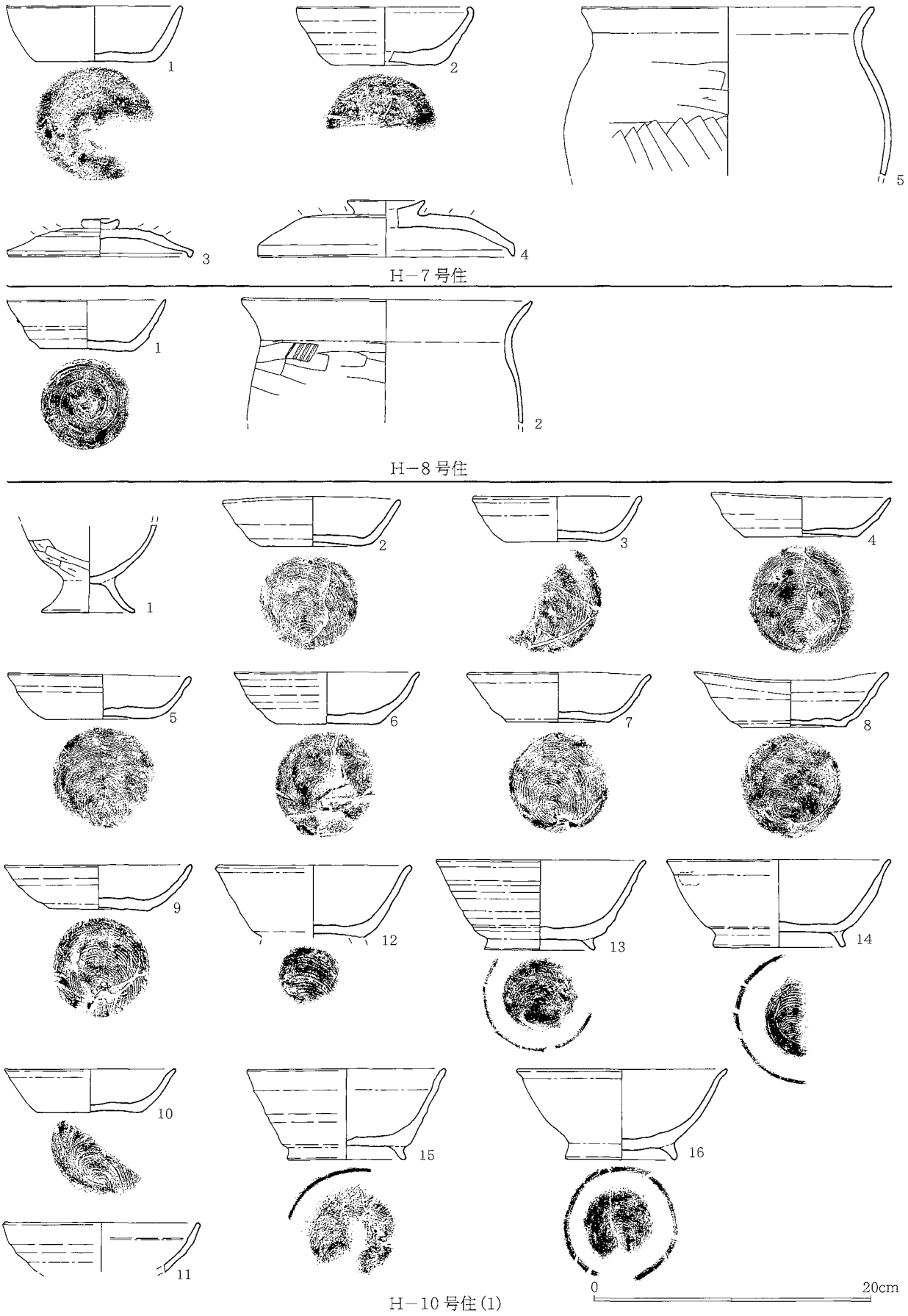
JD-6号土坑

JD-33号土坑

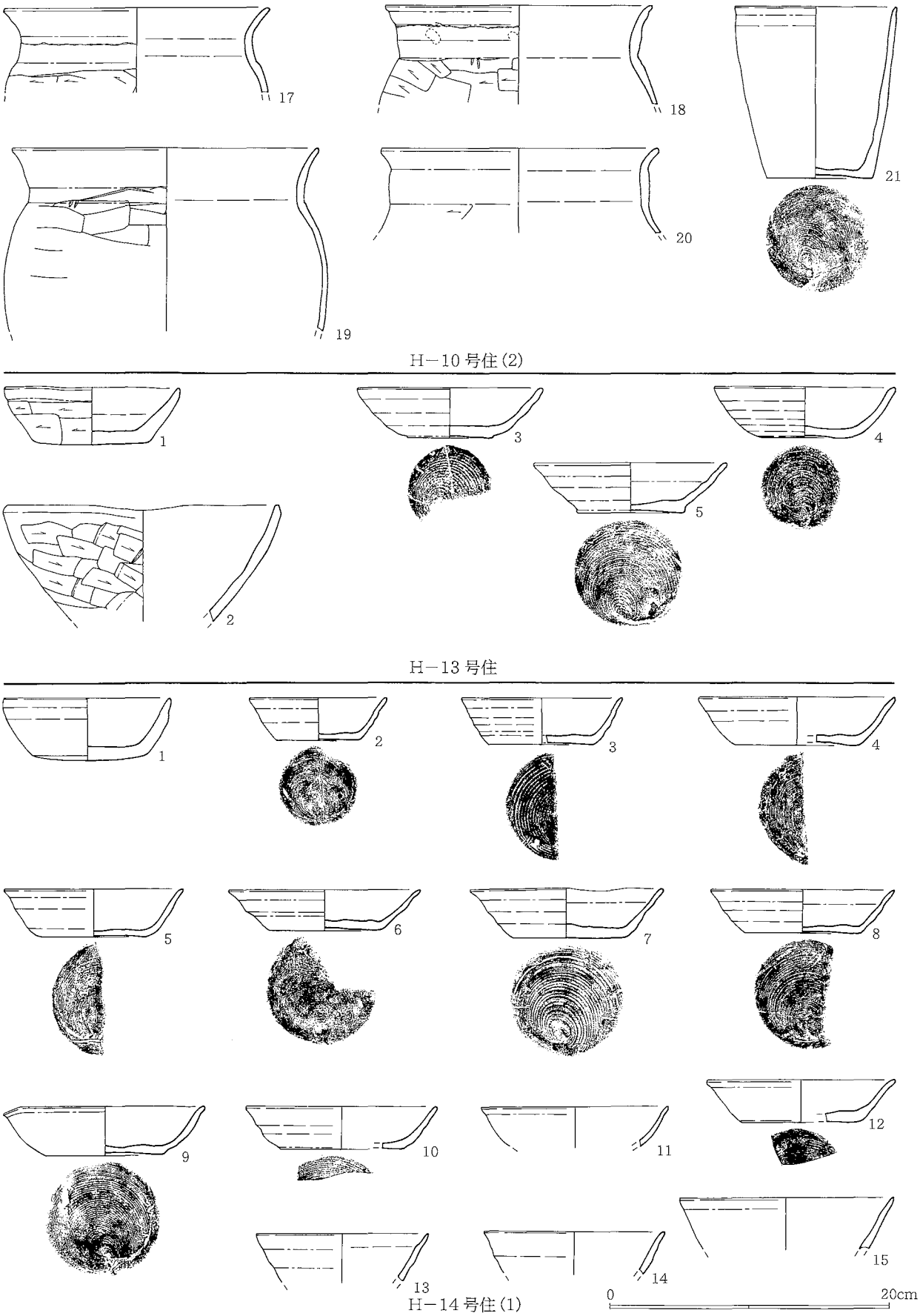
第47図　J—15号住(2)・JD—6土坑・JD—33号土坑出土の石器



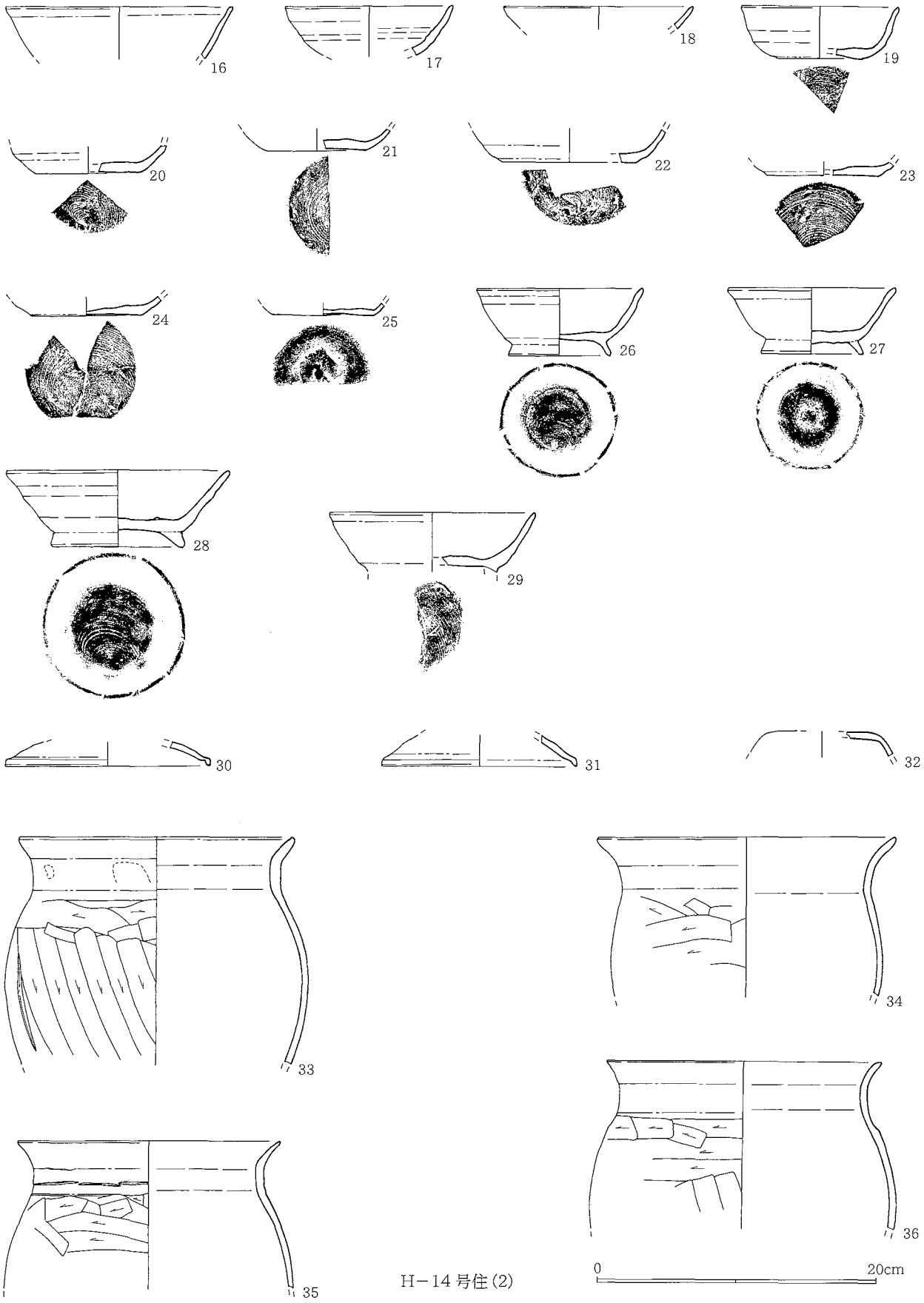
第48図　H－2号住・H－3号住・H－4号住出土の土器



第49図　H－7号住・H－8号住・H－10号住(1)出土の土器



第50図　H—10号住(2)・H—13号住・H—14号住(1)出土の土器



第51図　H－14号住(2)出土の土器

Ｊ－１号住

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	中層	口　— 底　— 高　(4.2)	口縁直下に絡状体圧痕を施し、以下には単節 RL を縦位・横位施文する。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片 胎土中に繊維を多量に含む	関山
2	2区	口　— 底　— 高　(5.8)	口縁に沿ってコンパス文を施す。地文には直前段合撚りが施される。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部の破片	関山Ⅱ
3	床直	口　— 底　— 高　(7.2)	矢羽根状に刻みの加えられた浮線を横位に施す。施文間隔のある場所には地文として結節が見られるが、浮線間が狭い部分はすり消されている。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯 b
4	2区下層	口　— 底　— 高　(3.9)	半截竹管による平行沈線と爪形文を横位・弧状に施す。地文には単節 RL を横位施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯 b
5	1区下層	口　— 底　— 高　(5.9)	波状口縁を呈す。半截竹管による平行沈線を口縁に沿って施す。波頂部下には平行沈線で渦巻文を描く。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯 b
6	3区下層	口　— 底　— 高　(6.5)	波状口縁を呈し、波頂部が双頭となる。半截竹管による集合化された平行沈線を口縁に沿って廻らす。	色　にぶい褐色 焼　良	口縁部の破片	諸磯 b
7	3区上層	口　— 底　— 高　(3.0)	波状口縁を呈し、波頂部が双頭になる。半截竹管による平行沈線を山形に施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯 b
8	2区上層	口　— 底　— 高　(2.6)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位に廻らす。	色　にぶい黄褐色 焼　良	口縁部の破片	諸磯 b
9	2区上層	口　— 底　— 高　(3.1)	波状口縁を呈し、強く屈曲する。半截竹管による平行沈線を口縁に沿って斜位に施す。	色　黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯 b
10	2区下層	口　— 底　— 高　(3.5)	半截竹管による平行沈線で、風車状弧線文を描くと推定される。	色　にぶい褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯 b
11	3区下層	口　— 底　— 高　(5.4)	半截竹管による平行沈線を斜位に施すことにより菱形の無文帯を構成する。その中に平行沈線で鉤の手状の文様を描く。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯 b
12	下層	口　— 底　— 高　(5.2)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らした後、細い単沈線を弧状に施す。地文には単節 RL を横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯 b
13	4区上層	口　— 底　— 高　(6.6)	半截竹管による平行沈線を数段横位に廻らす。地文には単節 RL を横位施文する。	色　明赤褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯 b
14	1区下層	口　— 底　— 高　(5.5)	半截竹管により集合化された平行沈線を横位に廻らす。地文には単節 RL を縦位・横位施文する。	色　赤褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯 b
15	2区上層	口　— 底　— 高　(5.1)	口辺部が屈曲する器形。半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施す。地文を有すが平行沈線を狭い区画で施すため不明。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口辺部の破辺	諸磯 b
16	2区下層	口　— 底　— 高　(6.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・横位の矢羽根状に施す。	色　赤褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯 b
17	床直	口　— 底　— 高　(4.8)	半截竹管による平行沈線を数段廻らす。地文には単節 RL を横位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴下部の破片	諸磯 b
18	下層	口　— 底　— 高　(6.0)	単節 RL を横位施文後、ボタン状貼付文を付す。	色　にぶい橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯 b
19	炉	口　— 底　— 高　(12.7)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・横位の矢羽根状に施す。	色　明黄褐色 焼　良	胴上部～胴中央部	諸磯 b
20	4区下層	口　— 底　— 高　(5.2)	波状口縁を呈し、波頂部は双頭になると推定される。半截竹管による集合化された平行沈線を口縁に沿って廻らし、以下は斜位に施す。地文には縄文施文されるが平行沈線を狭い区画で施すため縄文原体不明。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部の破片	諸磯 c
21	1区下層	口　— 底　— 高　(2.9)	半截竹管による集合化された平行沈線を屈曲部より上には横位に、下には縦位に施す。小さい棒状貼付文を付す。	色　黄橙色 焼　良	口辺部の破片	諸磯 c
21	下層	口　— 底　— 高　(5.4)	内面口唇部を肥圧させ、半截竹管により集合化された平行沈線を斜位に施す。外面から内面へ貼付文を付す。外面は平行沈線を横位・斜位に施す。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片 No.22と同一個体	諸磯 c
22	4区上層	口　— 底　— 高　(5.3)	内面口唇部を肥圧させ、半截竹管により集合化された平行沈線を斜位に施す。外面から内面へ貼付文を付す。外面は平行沈線を横位・斜位に施す。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片 No.21と同一個体	諸磯 c
24	2区下層	口　— 底　— 高　(7.0)	半截竹管による集合化された平行沈線が、口縁部文様帯には斜位に、胴部文様帯には縦位に施される。棒状・ボタン状貼付文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口辺部の破片	諸磯 c

第４表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
25	2区下層	口　— 底　— 高　(5.1)	口縁部を内面に折り返し、半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施す。外面口唇部はつまむことにより小突起状を呈す。平行沈線を横位施文し、半截竹管により刺突を加えられた貼付文が外面から内面へ貼付される。平行沈線を縦位・格子目状に施し、棒状・ボタン状貼付文を付す。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c
26	2区下層	口　— 底　— 高　(8.1)	口縁部には半截竹管による集合化された平行沈線を横位に施し、棒状貼付文を付す。胴上部には平行沈線で「x」字状の文様を描く。	色　にぶい橙色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	諸磯c
27	2区下層	口　— 底　— 高　(4.8)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位に施す。爪形刺突を加えた棒状貼付文を付す。貼付文が剝落した痕跡有り。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c
28	4区下層	口　— 底　— 高　(5.3)	内面口唇部には半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施し、竹管で刺突を加えられたボタン状貼付文を付す。外面口縁部には平行沈線を横位に施し、棒状貼付文を施す。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c
29	2区下層	口　— 底　— 高　(8.5)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施すことにより、逆三角形の無文帯を構成する。棒状貼付文を施す。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
30	2区下層	口　— 底　— 高　(9.8)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位の矢羽根状に施す。刺突の加えられたボタン状貼付文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
31	3区上層	口　— 底　— 高　(4.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施す。対のボタン状貼付文と半截竹管による刺突を加えられた棒状の貼付文を付す。	色　にぶい褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
32	2区下層	口　— 底　— 高　(4.3)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位に施す。対のボタン状貼付文を付す。	色　黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
33	2区下層	口　— 底　— 高　(4.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施し、刺突の加えられたボタン状・棒状貼付文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
34	2区上層	口　— 底　— 高　(3.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施し、棒状貼付文を付す。	色　にぶい褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
35	床直	口　— 底　— 高　(5.5)	半截竹管による集合化された平行沈線を斜位・縦位に施す。棒状貼付文を付す。	色　にぶい黄褐色 焼　良	口辺部の破片	諸磯c
36	1区上層	口　— 底　— 高　(4.5)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位の矢羽根状に施す。縦位の無文帯を境に平行沈線を横位・横位の矢羽根状に施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c
37	4区上層 4区下層	口　— 底　— 高　(3.7)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・縦位の矢羽根状に施す。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
38	3区下層	口　— 底　— 高　(4.7)	半截竹管による集合化された平行沈線で縦位区画し、区画内に平行沈線で「x」字状の文様を描く。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
39	2区下層	口　34.1 底　— 高　(13.5)	口辺部には半截竹管により集合化された平行沈線を横位に施し、縦長の棒状貼付文・短い棒状貼付文・横位の短い棒状貼付文とを交互に付す。胴上部には平行沈線を縦位・斜位に施す。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1／6	諸磯c
40	2区下層	口　— 底　— 高　(5.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施す。棒状の結節浮線文と刺突の加えられたボタン状貼付文を付す。	色　黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c
41	1区上層	口　— 底　— 高　(4.5)	波状口縁を呈す。半截竹管による集合化された平行沈線を横位の矢羽根状に施す。口縁に沿ってとそれに直行する様に棒状結節浮線文を付す。	色　明赤褐色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c
42	下層	口　— 底　— 高　(4.0)	半截竹管により集合化された平行沈線を縦位・斜位に施し、棒状結節浮線文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
43	2区下層	口　— 底　— 高　(3.9)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・斜位に施す。棒状結節浮線文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
44	1区上層	口　— 底　— 高　(4.2)	半截竹管による平行沈線で菱形を構成する。3条の棒状結節浮線文を付す。	色　灰黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
45	2区下層	口　— 底　— 高　(4.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施し、棒状結節浮線文を付す。	色　黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
46	1区下層	口　— 底　— 高　(5.5)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位の矢羽根状に施し、ボタン状貼付文・棒状結節浮線文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
47	下層	口　— 底　— 高　(8.0)	半截竹管により集合化された平行沈線を縦位施文し、ボタン状貼付文と棒状結節浮線文を付す。	色　黄橙色 焼　良	胴下部の1/2	諸磯c
48	3区下層	口　— 底　— 高　(7.1)	単節RLと推定される縄の斜位施文による条の横走する縄文が施文される。	色　にぶい褐色 焼　良	胴部の破片	前期後半

第5表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
49	3区上層	口　— 底　— 高　(6.6)	口唇部直下に無文帯を有す。0段多条RLを横位施文する。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	前期後半
50	4区下層	口　— 底　— 高　(4.8)	無文。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	前期後半
51	1区下層	口　— 底　6.3 高　(3.8)	上げ底を呈す。無文。	色　明黄褐色 焼　良	底部	前期後半
52	床直	口　— 底　— 高　(1.7)	浅鉢。半截竹管による平行沈線を横位に施し、沈線内に刺突を加える。	色　橙色 焼　良	口辺部の破片	諸磯b
53	3区下層	口　— 底　— 高　(2.1)	有孔浅鉢。口唇部が外反し、口辺部は外へ強く張り出す器形。無文。穿孔は内外面の両方から穿ったと推定される。	色　赤褐色 焼　良	口辺部の破片 胎土中に雲母を少量含む。	諸磯b～諸磯c
54	中層	口　— 底　— 高　(8.4)	口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。沈線で曲線文を描き文様内を無文とする。無節Lrを縦位・横位施文する。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	加曾利E4
55	中層	口　— 底　— 高　(9.8)	沈線間に0段多条LRを縦位施文した幅広の帯縄文で文様を描く。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利E4
56	3区上層	口　— 底　— 高　(8.6)	2条の隆帯で文様施文後、無節Lrを縦位施文する。	色　にぶい褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利E4
57	中層	口　— 底　— 高　(6.7)	隆帯を横位に廻らす。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	加曾利E4
58	1区下層	口　— 底　— 高　(3.8)	2条の沈線で文様を描く。	色　赤褐色 焼　良	突起部	加曾利E4
59	中層	口　— 底　— 高　(10.4)	突起部上端内面の渦巻文より正面の背部に向かって隆帯で逆「J」字状のモチーフを配す。口縁部には沈線で文様を描く。	色　明黄褐色 焼　良	突起部～口縁部の破片	堀之内

J－2号住

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	1区下層	口　— 底　— 高　(8.0)	波状口縁を呈す。半截竹管による平行沈線を口縁に沿って廻らす。口縁部文様帯には平行沈線で弧線文を描く。胴部には平行沈線を横位に施す。地文には単節RLを縦位・横位施文する。	色　橙色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	諸磯b
2	2区下層	口　— 底　— 高　(8.6)	半截竹管による平行沈線を数段横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色　明赤褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
3	1区下層	口　— 底　— 高　(6.9)	半截竹管による集合化された平行沈線を、横位・横位の矢羽根状に施す。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
4	2区下層	口　— 底　— 高　(4.9)	上下に文様帯を画すと推定される隆帯が廻る。上部区画帯には半截竹管による集合化された平行沈線を横位に施す。下部区画帯には無節Lrを横位施文後、平行沈線を横位に施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
5	2区下層	口　— 底　— 高　(4.0)	折り返し口縁。単節RLを横位施文する。	色　黄褐色 焼　良	口縁部の破片	前期後半
6	2区下層	口　— 底　— 高　(4.2)	口縁部が屈曲する器形。無文。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	前期後半
7	埋甕	口　— 底　— 高　(7.1)	0段多条RLを横位施文後、ボタン状貼付文を付す。波状の粘土紐を貼付すると推定される。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	大木系
8	埋甕	口　— 底　— 高　(5.5)	隆帯で文様を描く。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4
9	埋甕	口　— 底　— 高　(3.3)	単節RLを縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4
10	埋甕	口　— 底　— 高　(13.1)	単節LRを縦位・横位施文後「∩」状沈線と、先端が蕨手状の沈線を垂下する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4
11	埋甕 (炉)	口　31.4 底　9.0 高　42.5	キャリパー形を呈す深鉢形土器で、4単位の波状口縁を呈す。波頂部から隆帯が垂下して幅狭の口縁部無文帯を区画した微隆起線と連結する。胴上部には微隆起線で「J」字文を8単位施文後、単節LRを縦位・横位施文する。胴下部には微隆起線で「へ」状区画文を施文後、区画文内に単節LRを縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	4/5	称名寺

第6表　出土遺物観察表

Ｊ－３号住

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	下層	口　－ 底　－ 高　(5.5)	縄文施文されるが、縄文原体不明。	色　にぶい黄褐色 焼　良	口縁部の破片	関山
2	Ｊ－３号住 西側	口　－ 底　－ 高　(5.1)	直前段合撚りの縄文を施文する。	色　にぶい褐色 焼　良	胴部の破片	関山
3	Ｊ－３号住 西側	口　－ 底　－ 高　(5.6)	矢羽根状に刻みの加えられた浮線を横位・斜位に施す。地文には単節 RL を横位施文する。	色　浅黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｂ
4	Ｊ－３号住 西側上層	口　－ 底　－ 高　(4.5)	刻みの加えられた浮線を弧状に施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｂ
5	Ｊ－３号住 西側	口　－ 底　－ 高　(9.2)	矢羽根状に刻みの加えられた浮線を数段横位に廻らす。地文には単節 RL を横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｂ
6	下層	口　－ 底　－ 高　(5.7)	半截竹管による平行沈線を数段横位に廻らす。地文には無節 Lr を横位施文する。	色　にぶい橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｂ
7	床直	口　－ 底　－ 高　(2.3)	波状口縁を呈す。半截竹管による集合化された平行沈線を廻らし、棒状結節浮線文を付す。	色　黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯ｃ
8	Ｊ－３号住 西側上層	口　－ 底　－ 高　(5.5)	隆帯を横位に廻らす。	色　明褐色 焼　良	口縁部の破片	加曾利Ｅ４
9	床直	口　－ 底　－ 高　(6.5)	隆帯を横位に廻らす。	色　にぶい橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ４
10	床直	口　－ 底　－ 高　(15.1)	幅広の口縁部無文帯下に隆帯を廻らす。胴上部に施文された隆帯による「∩」状のモチーフの頂部が無文帯下の横位の隆帯と接して突起を形成する。単節 LR を縦位施文する。	色　にぶい橙色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	加曾利Ｅ４
11	床直	口　－ 底　－ 高　(6.5)	口縁部無文帯下に隆帯を廻らす。単節 RL を縦位施文する。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	加曾利Ｅ４
12	Ｊ－３号住 西側上層	口　－ 底　－ 高　(6.7)	無節 Lr を縦位施文する。	色　赤褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ３～Ｅ４
13	床直	口　－ 底　－ 高　(5.1)	無文。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	加曾利Ｅ４
14	床直	口　－ 底　－ 高　(4.9)	粘土を幅広に貼付し、無節 Lr を縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ３～Ｅ４

Ｊ－４号住

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	４区上層	口　－ 底　－ 高　(9.7)	半截竹管によるコンパス文を横位施文する。地文には組紐を施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	関山
2	４区中層	口　－ 底　－ 高　(4.3)	半截竹管によるコンパス文を横位施文する。地文に縄文施文されるが、縄文原体不明。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	関山
3	４区上層	口　－ 底　－ 高　(4.1)	半截竹管によるコンパス文を横位施文する。地文には前々段合撚りの縄文を施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	関山
4	南北ベルト 下層	口　－ 底　－ 高　(4.6)	半截竹管によるコンパス文を横位施文する。地文には直前段合撚りの縄文を羽状に施文し、菱形を構成する。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	関山
5	２区上層	口　－ 底　－ 高　(4.7)	口縁に沿って半截竹管による平行沈線を廻らした後、鋸歯状文を描く。以下には平行沈線を斜位に施す。地文には縄文施文されるが、平行沈線を狭い間隔で施すため縄文原体不明。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	関山
6	４区上層	口　－ 底　－ 高　(4.8)	半截竹管による平行沈線を横位施文後、平行沈線で鋸歯状文を描く。地文には直前段合撚りの縄文を施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	関山
7	４区上層	口　－ 底　－ 高　(3.2)	口縁に沿って半截竹管による平行沈線を廻らした後、鋸歯状文と曲線文を描く。地文に縄文施文されるが、平行沈線を狭い間隔で施すため縄文原体不明。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	関山
8	南北ベルト 下層	口　－ 底　－ 高　(4.9)	半截竹管による平行沈線で鋸歯状文と曲線文を組み合わせた幾何学文様を描く。地文には組紐を施文する。	色　浅黄橙色 焼　良	胴部の破片	関山
9	４区中層	口　－ 底　－ 高　(5.0)	半截竹管による平行沈線で曲線文を描く。地文には組紐を施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	関山

第７表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
10	1区上層	口　— 底　— 高　(4.8)	半截竹管による平行沈線で文様を描く。地文には前々段反撚りの縄文を施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	関山
11	4区中層	口　— 底　— 高　(2.7)	半截竹管による平行沈線で曲線文を描く。地文には組紐を施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	関山
12	4区下層	口　— 底　— 高　(3.6)	半截竹管による平行沈線で文様を描く。地文には縄文施文されるが、磨滅が著しく縄文原体不明。	色　暗灰黄色 焼　良	胴部の破片	関山
13	1区上層	口　— 底　— 高　(5.5)	波状口縁を呈す。半截竹管による平行沈線で鋸歯状文を描く。鋸歯状文内に地文として組紐が施文される。	色　明褐色 焼　良	口縁部の破片	関山
14	2区下層	口　— 底　— 高　(5.8)	半截竹管による平行沈線を縦位に施す。地文は直前段合撚りの縄文で羽状縄文を構成する。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	関山
15	3区上層	口　— 底　— 高　(6.2)	波状口縁を呈し、波頂部が双頭になる。半截竹管による平行沈線を斜位に施す。地文には末端が環状を呈すループ文を多段に施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片 No.16と同一個体	関山
16	4区中層	口　— 底　— 高　(5.8)	波状口縁を呈し、波頂部が双頭になる。末端が環状を呈すループ文を多段に施す。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片 No.15と同一個体	関山
17	2区下層 南北ベルト 東西ベルト 中層	口　28.7 底　8.2 高　28.5 ～30.0	口縁部に向かって直線的に開き、口辺部が僅かに内湾する器形。上げ底を呈す。胴中央部やや下と胴下部に、単沈線による波状文を横位に廻らす。地文には複節 RLR を横位施文する。	色　橙色 焼　良	3/4	関山
18	1区下層	口　— 底　— 高　(3.4)	半截竹管による平行沈線を波状に施す。地文には末端が環状を呈すループ文を多段に施す。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	関山
19	3区上層	口　— 底　— 高　(6.5)	半截竹管による平行沈線を斜位に施す。	色　黒褐色 焼　良	胴部の破片	前期中葉
20	1区下層	口　— 底　— 高　(3.9)	口縁部文様帯部分に粘土を貼付して肥圧させる。半截竹管による平行沈線で文様を描き、櫛歯状工具による刺突を沿わせる。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	前期中葉
21	3区下層	口　— 底　— 高　(5.4)	単節 RL を横位施文する。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	関山
22	4区下層	口　— 底　— 高　(5.3)	単節 RL を横位施文する。	色　暗灰黄色 焼　良	胴部の破片	関山
23	4区下層	口　— 底　— 高　(4.6)	単節 RL を横位施文する。	色　黄橙色 焼　良	胴部の破片	関山
24	1区下層	口　— 底　— 高　(4.8)	単節 LR を横位施文する。	色　にぶい赤褐色 焼　良	口縁部の破片	関山
25	2区下層 南北ベルト 下層	口　— 底　— 高　(6.3)	単節 LR を横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	関山
26	4区下層	口　— 底　— 高　(7.4)	単節 RL と単節 LR を横位施文することにより羽状縄文を構成する。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	関山
27	2区中層	口　— 底　— 高　(6.1)	単節 RL と単節 LR を横位施文することにより羽状縄文を構成する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	関山
28	2区中層	口　— 底　— 高　(6.1)	単節 RL と単節 LR を横位施文することにより羽状縄文を構成する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	関山
29	南北ベルト 下層 4区中層	口　— 底　— 高　(7.9)	無節 Lr を縦位施文する。	色　明赤褐色 焼　良	胴部の破片	関山
30	南北ベルト 下層	口　— 底　— 高　(8.5)	無節 Rl と無節 Lr の横位施文により羽状縄文を構成する。	色　にぶい黄褐色 焼　良	口縁部の破片	関山
31	1区下層	口　— 底　6.7 高　(3.9)	無節 Lr を横位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	底部	関山
32	2区下層	口　— 底　— 高　(6.0)	直前段合撚りの縄文で羽状縄文を構成する。	色　黄橙色 焼　良	口縁部の破片	関山
33	南北ベルト 下層	口　— 底　— 高　(7.2)	直前段合撚りの縄文を羽状に施文し、菱形を構成する。	色　黄橙色 焼　良	胴部の破片	関山
34	3区上層	口　— 底　— 高　(5.6)	直前段合撚りの縄文を羽状に施文し、菱形を構成する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	関山

第8表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
35	4区上層	口　— 底　— 高　(5.5)	直前段合撚りの縄文を施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	関山
36	4区下層	口　— 底　— 高　(5.4)	0段多条LRを横位施文する。	色　褐色 焼　良	胴部の破片	関山
37	2区下層	口　— 底　— 高　(3.5)	口唇部に棒状工具で押圧する。0段多条RLを横位施文する。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	関山
38	南北ベルト下層	口　— 底　— 高　(6.2)	前々段合撚りの縄文を施文する。	色　黒褐色 焼　良	胴部の破片	関山
39	3区下層	口　— 底　— 高　(6.3)	縄文施文されるが、縄文原体不明。口唇部にも縄文施文される。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部の破片	関山
40	3区下層	口　— 底　— 高　(3.1)	複節を施文する。	色　橙色 焼　良	片口部	関山

J－5号住

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	1区	口　— 底　— 高　(5.0)	半截竹管によるコンパス文を横位施文する。地文には組紐を施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	関山
2	2区 3区	口　— 底　— 高　(11.0)	半截竹管による平行沈線を口縁に沿ってと、口縁部文様帯を区画するように横位に廻らす。区画内には平行沈線を「X」字状に連結して施文する。地文には単節RLを横位施文する。	色　にぶい赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	関山
3	2区	口　— 底　— 高　(6.4)	半截竹管による平行沈線で菱形を構成する。地文には組紐を施文する。	色　にぶい褐色 焼　良	胴部の破片	関山
4	2区	口　— 底　— 高　(7.4)	半截竹管による平行沈線を縦位に施す。地文には直前段合撚りの縄文を施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	関山
5	3区	口　— 底　— 高　(2.9)	小波状口縁を呈す。単沈線を横位・斜位に施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	関山 or 黒浜
6	1区	口　— 底　— 高　(5.8)	組紐を施文する。	色　明赤褐色 焼　良	胴部の破片	関山
7	1区	口　— 底　— 高　(4.8)	単節RLを横位施文する。	色　赤褐色 焼　良	胴部の破片	関山
8	1区	口　— 底　— 高　(5.6)	単節RLを横位施文する。	色　明赤褐色 焼　良	胴部の破片	関山
9	2区	口　— 底　— 高　(6.5)	単節RLを横位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	関山
10	1区	口　— 底　— 高　(4.8)	単節RLを横位施文する。	色　暗灰黄色 焼　良	胴部の破片	関山
11	3区	口　— 底　— 高　(3.9)	単節RLを横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	関山
12	3区	口　— 底　— 高　(4.3)	単節RLを横位施文する。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	関山
13	1区覆土	口　— 底　— 高　(3.5)	単節LRを横位施文する。	色　にぶい黄色 焼　良	口縁部の破片	関山
14	2区	口　— 底　— 高　(4.0)	単節RLと単節LRを横位施文することにより羽状縄文を構成する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	関山
15	1区	口　— 底　— 高　(5.4)	0段多条LRを横位施文する。	色　暗灰黄色 焼　良	胴部の破片	関山
16	1区	口　— 底　— 高　(8.4)	波状口縁を呈す。末端が環状を呈すループ文を口縁に沿って多段に施す。直前段合撚りの縄文を施文する。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部の破片	関山
17	3区	口　— 底　— 高　(6.0)	複節RLRと無節Lrを横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片 No.18と同一個体	関山

第9表　出土遺物観察表

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
18	4区	口 — 底 — 高 (6.5)	複節 RLR と無節 Lr を横位施文する。	色 浅黄色 焼 良	胴部の破片 No.17と同一個体	関山
19	1・15・130 45・128 13・138 120・129 43・147 137	口 18.1 底 6.2 高 27.8	胴中央部に最大径を有し口辺部が僅かに外反する器形。単節 RL を横位施文する。	色 明赤褐色 焼 良	1/2	関山
20	2区	口 — 底 — 高 (3.7)	刻みの加えられた浮線を数段横位に廻らす。地文には無節 Lr を横位施文する。	色 浅黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯 b
21	1区	口 — 底 — 高 (2.8)	半截竹管による平行沈線で菱形を構成する。沈線内に刺突が加えられる。	色 黄橙色 焼 良	胴部の破片	阿玉台
22	1区覆土	口 — 底 — 高 (4.9)	2条の沈線を「II」状に施す。単節 LR を横位施文する。	色 にぶい褐色 焼 良	胴部の破片	加曾利E 3～E 4
23	1区覆土	口 — 底 — 高 (7.3)	2条の沈線を「II」状に施す。	色 にぶい黄褐色 焼 良	胴部の破片	加曾利E 3～E 4

J－6号住

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	K－15 b	口 — 底 — 高 (4.3)	矢羽根状に刻みの加えられた浮線を数段横位に廻らす。地文には単節 RL を横位施文する。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯 b
2	—	口 — 底 — 高 (3.1)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施す。	色 にぶい黄褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯 b
3	K－16 a	口 — 底 — 高 (2.7)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施す。ボタン状貼付文を付す。棒状貼付文を付したと推定される痕跡有り。	色 明赤褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯 c
4	J－15 d	口 — 底 — 高 (4.0)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位の矢羽根状に施す。刺突の加えられたボタン状貼付文と棒状貼付文を付す。	色 明赤褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯 c
5	K－15 b	口 — 底 — 高 (4.7)	半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施し、ボタン状・棒状貼付文を付す。	色 灰黄褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯 c
6	J－15 d	口 — 底 — 高 (5.0)	半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施す。	色 灰黄色 焼 良	胴部の破片	諸磯 c
7	J－15 c	口 — 底 — 高 (5.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位に施す。	色 橙色 焼 良	口縁部の破片	諸磯 c

J－8号住

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	床直	口 — 底 — 高 (3.9)	無節 Lr を横位施文する。	色 暗灰黄色 焼 良	胴部の破片	関山
2	床直	口 — 底 — 高 (4.5)	半截竹管による平行沈線を横位・斜位に施す。	色 にぶい黄色 焼 良	口縁部の破片	諸磯 b
3	床直	口 — 底 — 高 (5.0)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位の矢羽根状に施す。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯 b ?
4	床直	口 — 底 — 高 (2.9)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位に施す。	色 にぶい黄褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯 c
5	床直	口 — 底 — 高 (3.6)	半截竹管による平行沈線を斜位に施す。	色 にぶい橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯 c
6	床直	口 — 底 11.5 高 (8.0)	無文。	色 明黄褐色 焼 良	胴下部～底部の1/2	前期後半
7	床直	口 — 底 — 高 (4.9)	無文。	色 橙色 焼 良	胴部の破片	加曾利E 3～E 4

第10表　出土遺物観察表

Ｊ－９号住

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　　期
1	２区	口　－ 底　－ 高　(3.0)	爪形文と爪形文が施文された隆帯を横位に廻らす。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｂ
2	１区	口　－ 底　－ 高　(2.9)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位･斜位に施す。	色　赤褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｂ or 諸磯ｃ
3	－	口　－ 底　－ 高　(3.5)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位･斜位に施す。	色　褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｂ
4	２区	口　－ 底　－ 高　(3.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・縦位・斜位に施す。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｃ
5	２区	口　－ 底　－ 高　(3.0)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位の矢羽根状に施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｃ
6	４区	口　－ 底　－ 高　(3.0)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位の矢羽根状に施す。	色　褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｃ
7	２区	口　－ 底　－ 高　(4.7)	半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施す。	色　赤褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｃ
8	－	口　－ 底　－ 高　(6.3)	単節 RL を横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	前期後半
9	２区	口　－ 底　－ 高　(4.7)	単節 RL を横位施文と、条が横走する斜位に施文する。	色　明赤褐色 焼　良	胴部の破片	前期後半
10	４区	口　－ 底　6.9 高　(3.3)	単節 RL を横位施文する。	色　橙色 焼　良	底部	前期後半
11	３区	口　－ 底　－ 高　(4.6)	沈線で曲線文を描く。無節 Lr を横位施文する。	色　明褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ３～Ｅ４
12	３区	口　－ 底　－ 高　(4.1)	口辺部を肥厚させ、沈線を廻らす。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	加曾利Ｅ４
13	３区	口　－ 底　－ 高　(8.7)	無文。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ３～Ｅ４
14	３区	口　－ 底　－ 高　(5.5)	口縁部文様帯を区画する両脇に沈線を伴う隆帯を横位に廻らし、区画内に平行沈線で鋸歯状文を描く。口縁部文様帯下には沈線で鋸歯状文を描く。	色　明赤褐色 焼　良	口縁部の破片 No.15と同一個体	中期前半
15	３区	口　－ 底　－ 高　(3.5)	口縁部文様帯を区画する両脇に沈線を伴う隆帯を横位に廻らし、区画内に平行沈線で鋸歯状文を描く。	色　明赤褐色 焼　良	口辺部の破片 No.14と同一個体	中期前半
16	－	口　－ 底　－ 高　(4.0)	隆帯で文様を描き、平行沈線を横位に廻らした後縦位に施す。	色　暗赤褐色 焼　良	胴部の破片	中期前半
17	３区	口　－ 底　－ 高　(3.1)	押し引きの施された隆帯の両脇に添った沈線と、沈線で文様を描く。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	堀之内

Ｊ－11号住

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　　期
1	－	口　－ 底　－ 高　(2.5)	口唇部を肥厚させる。半截竹管による集合化された平行沈線を内面には斜位に、外面には横位・横位の矢羽根状に施し、内外面共に半截竹管による刺突の加えられたボタン状貼付文を付す。	色　黒褐色 焼　良	口縁部の破片	諸磯ｃ
2	Ｉ－15ｃ	口　－ 底　－ 高　(4.7)	内面から外面にかけて耳状貼付文を付す。外面には半截竹管による集合化された平行沈線を横位に施し、半截竹管による刺突が加えられたボタン状貼付文を付す。内面には平行沈線を斜位に施し、ボタン状貼付文を付す。	色　浅黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯ｃ
3	Ｉ－15ｃ	口　－ 底　－ 高　(4.3)	円形の刺突が加えられたボタン状貼付文と棒状貼付文を付し、刻みの加えられた棒状貼付文を横位に付す。半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施す。内面剝落著しい。	色　にぶい橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｃ
4	Ｈ－15ｄ	口　－ 底　－ 高　(5.1)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位に施し、棒状貼付文を付す。口唇部に押捺を施す。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯ｃ
5	１区上層	口　－ 底　－ 高　(7.1)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施すことにより、逆三角形の空白部分を有す。ボタン状・棒状貼付文を付す。	色　浅黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｃ
6	Ｉ－15ｃ	口　－ 底　－ 高　(6.7)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位･縦位に施し、円形刺突の加えられた対のボタン状貼付文を付す。	色　にぶい赤褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｃ

第11表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
7	Ⅰ－15a	口　－ 底　－ 高　(4.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・縦位に施す。半截竹管による刺突が加えられたボタン状貼付文を付す。棒状貼付文が剝落した痕跡有り。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
8	Ⅰ－15a	口　－ 底　－ 高　(4.7)	半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施し、棒状貼付文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
9	H－15c	口　－ 底　－ 高　(6.1)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・横位に施し、半截竹管による刺突を加えられたボタン状貼付文と棒状貼付文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
10	Ⅰ－15c	口　－ 底　－ 高　(4.4)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・斜位に施す。	色　黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
11	－	口　－ 底　－ 高　(9.5)	波状口縁を呈し、口縁部で屈曲する。結節沈線を横位に廻らし、地文には単節RLを横位・縦位・条の横走する斜位に施文する。内面剝落著しい。	色　橙色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	諸磯b
12	Ⅰ－15d Ⅰ－15c	口　－ 底　－ 高　(2.3)	棒状貼付文を付し、口縁に沿って横位の棒状結節浮線文を貼付する。	色　浅黄色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c
13	Ⅰ－15b	口　－ 底　－ 高　(4.1)	半截竹管による平行沈線を乱雑に斜位に施し、棒状結節浮線文を縦位に貼付する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
14	1区上層	口　－ 底　－ 高　(3.0)	結節浮線文を横位・弧状に施す。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
15	Ⅰ－15a	口　－ 底　－ 高　(1.9)	浅鉢。穿孔有り。無文。	色　にぶい黄褐色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c
16	Ⅰ－14b	口　－ 底　－ 高　(6.6)	単節RLを縦位施文後、半截竹管による平行沈線を縦位・横位に施す。胎土中に雲母を多量に含む。	色　にぶい褐色 焼　良	胴部の破片	阿玉台
17	Ⅰ－15a	口　－ 底　－ 高　(4.8)	中空の把手部。隆帯で文様を描き、横位に爪形状の刺突を施す。	色　橙色 焼　良	把手部	勝坂
18	Ⅰ－14d	口　－ 底　－ 高　(5.6)	隆帯で文様を描き、単節RLを縦位施文する。	色　にぶい赤褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4
19	Ⅰ－14d	口　－ 底　－ 高　(5.7)	波状口縁を呈す。波頂部下が連携部分になるように隆帯で楕円形区画文を横位に配すと推定される。区画文内には隆帯に先立ち単節RLを横位施文する。区画文外には単節RLを縦位施文する。	色　黒褐色 焼　良	口縁部の破片	加曾利E3
20	Ⅰ－15c	口　－ 底　－ 高　(8.2)	幅狭の口縁部無文帯を有すと推定される。無文帯とを画す隆帯が廻り、円形区画文上部で鍔状になる。隆帯で円形区画文と楕円形区画文と推定される区画文を横位に配し、区画文内には単節LRを横位施文する。以下には単節LRを縦位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3
21	Ⅰ－15a	口　－ 底　－ 高　(7.5)	沈線で「∩」状区画文を配し、区画文内に単節RLを縦位・横位施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4
22	Ⅰ－15b	口　－ 底　－ 高　(6.5)	隆帯を横位に廻らし、沈線で「∩」状文を描く。単節LRを縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口辺部の破片	加曾利E3～E4
23	Ⅰ－15b Ⅰ－15c	口　－ 底　－ 高　(18.6)	沈線を垂下して縦位区画する。縄文施文されるが、磨滅により縄文原体不明。	色　明赤褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4
24	Ⅰ－15a	口　－ 底　－ 高　(10.4)	沈線を垂下して縦位区画し、単節LRを縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4
25	Ⅰ－15b	口　－ 底　－ 高　(6.3)	沈線を垂下して縦位区画し、単節LRを縦位施文する。	色　灰黄褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4
26	Ⅰ－15b	口　－ 底　－ 高　(5.7)	沈線を垂下して縦位区画し、単節LRを縦位施文する。	色　黄褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4
27	Ⅰ－15c	口　－ 底　－ 高　(7.8)	沈線と上端が蕨手状の沈線を垂下して縦位区画し、単節LRを縦位施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4
28	H－14c	口　－ 底　－ 高　(2.7)	2条の沈線を垂下して縦位区画し、単節RLを縦位施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4
29	Ⅰ－15b	口　－ 底　－ 高　(3.6)	単節LRを縦位施文後、沈線で文様を描く。円形押捺を施す。	色　暗灰黄色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4
30	H－15d	口　－ 底　－ 高　(6.6)	2条の沈線を垂下して縦位区画し、単節RLを縦位施文する。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4

第12表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
31	Ⅰ－14d	口　－ 底　－ 高　(13.6)	沈線を垂下して縦位区画し、無節 Lr を縦位施文する。内面全面剝落著しい。	色　赤褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ３～Ｅ４
32	Ⅰ－15a	口　－ 底　－ 高　(8.3)	２条の沈線を垂下して縦位区画し、無節 RL を縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ３～Ｅ４
33	Ⅰ－14b	口　－ 底　－ 高　(5.6)	波状口縁を呈す。口縁部無文帯を区画する隆帯が廻り、隆帯上に単節 RL を横位施文する。隆帯を垂下して縦位区画し、単節 RL を縦位施文する。	色　灰褐色 焼　良	口縁部の破片 No.34と同一個体	加曾利Ｅ３～Ｅ４
34	Ⅰ－14a	口　－ 底　－ 高　(4.1)	口縁部無文帯を区画する隆帯が廻り、隆帯上に単節 RL を横位施文する。以下にも単節 RL を横位施文する。	色　にぶい褐色 焼　良	胴部の破片 No.33と同一個体	加曾利Ｅ４
35	Ⅰ－15b Ⅰ－15c	口　－ 底　－ 高　(16.8)	幅狭の口縁部無文帯を区画する隆帯が廻る。沈線による帯状無文帯で渦巻文を描き、単節 LR を縦位・横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部～胴中央部の一部 No.36・37・38と同一個体	加曾利Ｅ４
36	Ⅰ－15b	口　－ 底　－ 高　(8.6)	２条の沈線で文様施文後、単節 LR を縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片 No.35・37・38と同一個体	加曾利Ｅ４
37	Ⅰ－15b	口　－ 底　－ 高　(9.7)	単節 LR を縦位施文後、沈線で文様を描く。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片 No.35・36・38と同一個体	加曾利Ｅ４
38	Ⅰ－15a	口　－ 底　－ 高　(13.8)	沈線による帯状無文帯で渦巻文を描き、２条の沈線で「II」状区画文を配す。数条の沈線を垂下して縦位区画する。沈線で文様施文後単節 LR を縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片 No.35・36・37と同一個体	加曾利Ｅ３～Ｅ４
39	Ⅰ－15b	口　32.4 底　－ 高　(27.5)	口縁部無文帯を区画する隆帯が廻り、隆帯を垂下して縦位区画する。単節 LR を縦位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部～胴下部の1/5	加曾利Ｅ４
40	Ⅰ－15a Ⅰ－15b １区下層	口　19.2 底　－ 高　(20.2)	キャリパー形を呈す器形。正面口縁部に把手が付いていた痕跡有り。把手部より沈線を垂下して廻らし、口縁部無文帯を区画する。単節 LR を縦位施文後、括れ部を境に上部には沈線で横位の波状文を、下部には「∩」状区画文を配す。波頂部に接するように施された「∩」状区画文は胴上部から胴下部にまで及んでいる。磨滅している。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部～胴下部	加曾利Ｅ４
41	Ｈ－15c	口　－ 底　－ 高　(8.9)	頸部が括れ口縁部が外反する。頸部に隆帯が廻る。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部の破片	加曾利Ｅ４
42	Ⅰ－15b Ⅰ－15c	口　－ 底　－ 高　(2.7)	幅狭の口縁部無文帯を区画する隆帯が廻り、隆帯を垂下して縦位区画する。単節 RL を縦位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部の破片	加曾利Ｅ４
43	Ⅰ－15c	口　－ 底　－ 高　(5.6)	波状口縁を呈す。幅狭の口縁部無文帯を区画する隆帯を廻らす。単節 LR を縦位施文後、脇に凹線が伴った隆帯で文様を描く。	色　にぶい橙色 焼　良	口縁部の破片	加曾利Ｅ４
44	Ⅰ－15c Ⅰ－15b Ｈ－14b	口　26.2 底　－ 高　(21.2)	波状口縁を呈す。沈線を垂下して縦位区画し、無節 Lr を縦位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部～胴中央部の1/3	加曾利Ｅ４
45	Ⅰ－14d	口　－ 底　－ 高　(7.6)	波状口縁を呈す。幅狭の口縁部無文帯を区画する沈線を廻らす。沈線による帯状無文帯で文様を描く。単節 RL を縦位・横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片 No.46と同一個体	加曾利Ｅ４
46	Ⅰ－15b Ⅰ－15a	口　－ 底　－ 高　(9.9)	波状口縁を呈す。幅狭の口縁部無文帯を区画する沈線を廻らす。沈線による帯状無文帯で文様を描くが、波頂部で途切れる。単節 RL を縦位・横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片 No.45と同一個体	加曾利Ｅ４
47	Ⅰ－15a	口　－ 底　－ 高　(7.5)	口縁部無文帯を区画する沈線を廻らし、沈線による帯状無文帯で曲線文を描く。単節 LR を縦位・横位施文する。	色　黒褐色 焼　良	口縁部の破片	加曾利Ｅ４
48	Ⅰ－15c	口　－ 底　－ 高　(5.8)	幅狭の口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。沈線による帯状無文帯を「∩」状に描く。単節 RL を縦位・横位施文する。	色　明赤褐色 焼　良	口縁部の破片	加曾利Ｅ４
49	Ⅰ－15b	口　－ 底　－ 高　(5.5)	波状口縁を呈す。無節 Rl を縦位施文後、沈線による帯状無文帯で「∩」状区画文を描く。	色　黒褐色 焼　良	口縁部の破片	加曾利Ｅ４
50	Ⅰ－15a	口　－ 底　－ 高　(4.6)	波状口縁を呈す。幅狭の口縁部無文帯を区画する沈線が廻る。単節 LR を縦位・横位施文後、沈線による帯状無文帯で文様を描く。	色　灰黄褐色 焼　良	口縁部の破片	加曾利Ｅ４
51	Ⅰ－15b Ⅰ－15a	口　－ 底　－ 高　(2.1)	口縁には単節 LR を横位施文後沈線を廻らし、以下には単節 LR を縦位施文後沈線で「∩」状区画文を配すと推定される。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	加曾利Ｅ４
52	Ｈ－14c	口　－ 底　－ 高　(6.4)	２条の沈線で上下に「∩」状・「∪」状区画文を配す。単節 RL の斜位施文により条が縦走する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ４
53	Ⅰ－15b	口　－ 底　－ 高　(8.0)	単節 RL を縦位・横位施文し、２条の沈線で文様を描く。	色　にぶい橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ４
54	Ⅰ－15a	口　－ 底　－ 高　(6.5)	単節 RL を縦位施文後、２条の沈線で「∩」状区画文を描く。剝落著しい。	色　にぶい橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ４

第13表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
55	Ⅰ－15b	口　－ 底　－ 高　(19.6)	２条の沈線で「∩」状区画文を配し、無節 Rl を縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ４
56	Ⅰ－15b	口　－ 底　－ 高　(10.3)	幅狭の口縁部無文帯を区画する隆帯が廻り、沈線以下に櫛歯状工具による条線を縦位施文する。沈線下に穿孔有り。浅鉢。	色　にぶい黄褐色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	加曾利Ｅ４
57	Ⅰ－15b	口　－ 底　－ 高　(8.0)	幅狭の口縁部無文帯を区画する沈線が廻り、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	色　暗灰黄色 焼　良	口縁部の破片 No.58と同一個体	加曾利Ｅ４
58	Ⅰ－15b	口　－ 底　－ 高　(8.1)	櫛歯状工具による条線を縦位・横位施文する。	色　暗灰黄色 焼　良	胴部の破片 No.57と同一個体	加曾利Ｅ４
59	Ｈ－15d	口　－ 底　8.4 高　(5.9)	２条の沈線を垂下して縦位区画する。	色　明黄褐色 焼　良	胴下部～底部の1/3	加曾利Ｅ３～Ｅ４
60	Ｈ－15c	口　－ 底　7.0 高　(5.8)	無文。	色　橙色 焼　良	胴下部～底部の1/2	加曾利Ｅ３～Ｅ４
61	Ⅰ－15b	口　－ 底　6.0 高　(3.4)	無文。	色　橙色 焼　良	底部の3/4	加曾利Ｅ３～Ｅ４
62	Ⅰ－15b	口　－ 底　6.7 高　(3.8)	沈線を垂下する。	色　橙色 焼　良	脚部	加曾利Ｅ３～Ｅ４
63	Ⅰ－14b	口　－ 底　7.3 高　(4.9)	無文。	色　橙色 焼　良	脚部の1/4	加曾利Ｅ３～Ｅ４
64	Ⅰ－15c	口　－ 底　6.6 高　(3.5)	縄文施文されるが、磨滅により縄文原体不明。	色　にぶい黄橙色 焼　良	脚部	加曾利Ｅ３～Ｅ４
65	Ｈ－15c	口　－ 底　6.5 高　(3.5)	無文。	色　明赤褐色 焼　良	脚部	加曾利Ｅ３～Ｅ４
66	Ⅰ－15a	口　－ 底　5.2 高　(2.4)	無文。	色　明黄褐色 焼　良	脚部	加曾利Ｅ３～Ｅ４
67	Ⅰ－14b	口　－ 底　3.8 高　(2.1)	無文。	色　にぶい黄橙色 焼　良	脚部の1/2	加曾利Ｅ３～Ｅ４
68	Ｈ－14c	口　4.4 底　－ 高　(2.2)	口辺部で内湾する器形。無文。	色　浅黄橙色 焼　良	3/4 ミニチュア土器	

Ｊ－12号住

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	Ｇ－14d	口　－ 底　－ 高　(2.8)	半截竹管による平行沈線を横位・斜位に施し、爪形文を横位に廻らす。棒状貼付文を付す。	色　にぶい橙色 焼　良	口辺部の破片	諸磯ｃ
2	Ｇ－15c	口　－ 底　－ 高　(3.7)	半截竹管による集合化された平行沈線を斜位・横位・横位の矢羽根状に施し、棒状・ボタン状貼付文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯ｃ
3	Ｈ－14b	口　－ 底　－ 高　(5.5)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・横位の矢羽根状に施し、円形の刺突が加えられたボタン状貼付文と棒状貼付文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯ｃ
4	Ｇ－15c	口　－ 底　－ 高　(3.6)	口唇部内面を肥厚させ、半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施す。外面も平行沈線を斜位に・横位に施し、刺突の加えられたボタン状貼付文を付す。	色　浅黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯ｃ
5	Ｇ－14d	口　－ 底　－ 高　(3.8)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・斜位に施し、刺突の加えられたボタン状貼付文を付す。	色　にぶい橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｃ
6	Ｇ－14d	口　－ 底　－ 高　(3.0)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位施文し、円形の刺突が加えられたボタン状貼付文を付す。	色　にぶい褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｃ
7	Ｈ－15a	口　－ 底　－ 高　(4.1)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・斜位に施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｃ
8	Ｈ－14b	口　－ 底　－ 高　(3.9)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位に施す。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片 No.9・10・11・12・13・14・15・16と同一個体	諸磯ｃ
9	Ｈ－14b	口　－ 底　－ 高　(4.7)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位に施す。	色　橙色 焼　良	胴部の破片 No.8・10・11・12・13・14・15・16と同一個体	諸磯ｃ
10	Ｈ－15a	口　－ 底　－ 高　(9.1)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・斜位に施す。	色　明褐色 焼　良	胴部の破片 No.8・9・11・12・13・14・15・16と同一個体	諸磯ｃ

第14表　出土遺物観察表

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
11	G－14d	口　－ 底　－ 高　(9.8)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・斜位に施す。	色　橙色 焼　良	胴部の破片 No.8・9・10・12・13・14・15・16と同一個体	諸磯c
12	H－14b	口　－ 底　－ 高　(6.9)	半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施す。平行沈線を斜位に施す。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片 No.8・9・10・11・13・14・15・16と同一個体	諸磯c
13	H－14b	口　－ 底　－ 高　(8.8)	半截竹管による平行沈線を斜位に施す。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片 No.8・9・10・11・12・14・15・16と同一個体	諸磯c
14	G－14d	口　－ 底　－ 高　(5.9)	半截竹管による平行沈線を斜位に施す。	色　橙色 焼　良	胴部の破片 No.8・9・10・11・12・13・15・16と同一個体	諸磯c
15	H－15a	口　－ 底　－ 高　(5.4)	半截竹管による平行沈線を斜位に施す。	色　橙色 焼　良	胴部の破片 No.8・9・10・11・12・13・15・16と同一個体	諸磯c
16	H－14b G－14d	口　－ 底　－ 高　(15.8)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・斜位に施す。半截竹管による平行沈線を斜位に施す。	色　明褐色 焼　良	胴部の破片 No.8・9・10・11・12・13・14・15と同一個体	諸磯c
17	G－14d	口　－ 底　7.0 高　(3.6)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施す。	色　明赤褐色 焼　良	胴下部～底部	諸磯c
18	H－14a	口　－ 底　－ 高　(7.5)	波状口縁を呈し、波頂部が双頭になる。無文。	色　灰黄褐色 焼　良	口縁部の破片	前期後半
19	H－15a	口　27.8 底　－ 高　(28.6)	緩やかな波状口縁を呈す。直前段反撚りを施文する。	色　橙色 焼　良	口縁部～胴中央部の1/3	前期後半
20	H－14b	口　29.0 底　－ 高　(17.9)	沈線で紡錘状の区画文を上下に配す。沈線に先立ち単節RLを縦位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部の1/3～胴中央部の一部	加曽利E 4
21	H－14b	口　－ 底　－ 高　(6.5)	沈線で上下に「∪」・「∩」状区画文を配す。区画文内には単節RLを縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曽利E 4
22	H－14b	口　－ 底　－ 高　(6.5)	波状口縁を呈す。単節RLを横位施文し、隆帯で文様を描く。	色　浅黄色 焼　良	口縁部の破片	加曽利E 3～E 4

J－14号住

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	床直	口　－ 底　－ 高　(22.7)	単節RLを横位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴上部～胴中央部	関山

J－15号住

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	4区中層	口　－ 底　－ 高　(4.0)	櫛歯状工具による押し引きと沈線を斜位に施し、ループ文を施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	神之木
2	3区下層	口　－ 底　－ 高　(4.3)	波状口縁を呈す。櫛歯状工具による刺突を縦位に施す。縄文施文されるが、縄文原体不明。	色　褐色 焼　良	口縁部の破片	有尾式
3	ベルト下層	口　－ 底　－ 高　(5.8)	胎土に繊維を含む。櫛歯状工具による刺突を口縁に垂直に加える。櫛歯状工具による条線と刺突を斜位に施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	有尾式
4	4区下層	口　－ 底　－ 高　(7.7)	集合沈線と櫛歯状工具による横位の刺突によって上下に文様帯を区画する。上部文様帯には集合沈線を斜位に施し、下部文様帯には単節RLを横位施文する。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	関山
5	2区上層 ベルト4中層	口　－ 底　－ 高　(6.4)	組紐を施文する。	色　明赤褐色 焼　良	胴部の破片	前期前半
6	1区上層	口　－ 底　－ 高　(6.0)	単節RLを横位施文する。	色　明褐色 焼　良	胴部の破片	前期前半
7	2区上層	口　－ 底　－ 高　(6.8)	直前段合撚りの縄文を縦位・横位施文する羽状縄文で菱形を構成する。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	前期前半
8	2区上層	口　－ 底　－ 高　(4.9)	直前段合撚りの縄で羽状縄文を構成する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	前期前半
9	2区下層	口　－ 底　－ 高　(5.3)	直前段合撚りの縄文を施文する。	色　明赤褐色 焼　良	胴部の破片	前期前半

第15表　出土遺物観察表

（　）残存値

No	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　　期
10	3区上層	口　— 底　— 高　(8.1)	単節RLと単節LRを横位施文することにより羽状縄文を構成する。	色　にぶい褐色 焼　良	胴部の破片	前期前半
11	1区中層	口　— 底　— 高　(10.0)	単節LRを縦位・横位施文することにより羽状縄文を構成する。磨滅著しい。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	前期前半
12	ベルト3下層	口　— 底　— 高　(8.2)	波状口縁を呈す。無節Lrを横位施文する。剝落・磨滅著しい。	色　黄橙色 焼　良	口縁部の破片	前期前半
13	ベルト4区中層	口　— 底　— 高　(12.2)	無節Lrを横位施文する。	色　明褐色 焼　良	胴部の破片	前期前半
14	ベルト4中層	口　17.0 底　— 高　(18.9)	無節Lrを横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の一部～胴中央部の1/3	前期前半
15	ベルト4下層	口　— 底　7.8 高　(3.7)	上げ底を呈す。直前段合撚りを施文する。	色　にぶい赤褐色 焼　良	胴下部～底部の1/2	前期前半
16	ベルト3下層	口　— 底　4.0 高　(2.1)	上げ底を呈す。単節LRを横位施文する。	色　にぶい橙色 焼　良	胴下部～底部	前期前半
17	2区下層	口　— 底　6.0 高　(4.0)	上げ底を呈す。無節Lrを縦位・条の横走する斜位に施文後、半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。	色　赤褐色 焼　良	胴下部～底部	前期前半
18	3区下層	口　— 底　5.0 高　(2.9)	無節Lrを横位施文する。	色　黄褐色 焼　良	胴下部～底部	前期前半
19	3区下層	口　— 底　6.0 高　(3.5)	上げ底を呈す。無文。	色　橙色 焼　良	胴下部～底部の1/6	前期前半
20	3区下層	口　— 底　— 高　(11.5)	半截竹管による平行沈線を横位に施文後、爪形文を施す。	色　にぶい橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
21	ベルト2上層	口　— 底　— 高　(3.0)	獣面付き土器。獣面全体を口縁部側面に貼付すると推定される。粘土瘤に鼻・口が表現され、獣面の輪郭を刻みの加えられた浮線で弧状に描く。以下には浮線を弧状に施す。	色　暗灰黄色 焼　良	口辺部の破片	諸磯b
22	1区中層	口　— 底　— 高　(6.3)	刻みの加えられた浮線を横位に廻らし、渦巻文と弧状文を描く。地文には単節LRを横位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
23	4区下層	口　— 底　— 高　(5.3)	内面口唇部に浮線を横位に廻らす。山形文を連続して描き、山形の頂部と底部より縦位に浮線を貼付する。外面口縁部には矢羽根状に刻みの加えられた浮線を横位に廻らす。胴上部の張り出し部には浮線を弧状に施す。地文には縄文施文されるが、浮線を狭い間隔で施し撫でるため縄文原体不明。磨滅・剝落している。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	諸磯b
24	2区中層	口　— 底　— 高　(4.8)	口縁が強く屈曲する。刻みの加えられた浮線を横位に廻らす。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯b
25	4区中層	口　— 底　— 高　(3.6)	波状口縁を呈し、口唇部に浮線を縦位・横位に施す。刻みの加えられた浮線を横位に施し、弧状文を描く。地文には単節RLを横位施文する。	色　にぶい黄褐色 焼　良	口縁部の破片	諸磯b
26	4区下層	口　— 底　— 高　(3.3)	刻みの加えられた浮線を横位・弧状に施す。地文には単節RLを横位施文する。	色　赤褐色 焼　良	口縁部の破片	諸磯b
27	4区上層	口　— 底　— 高　(3.7)	刻みの加えられた浮線を口縁に沿って廻らし、弧状に施すと推定される。地文には単節RLを横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯b
28	ベルト3中層	口　— 底　— 高　(3.3)	刻みの加えられた浮線で渦巻文を描く。	色　にぶい褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
29	4区中層	口　— 底　— 高　(4.4)	刻みの加えられた浮線で渦巻文を描く。地文には無節Lrを横位施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
30	4区下層	口　— 底　— 高　(8.0)	まばらに刻みの加えられた浮線で弧状文を描く。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
31	4区中層	口　— 底　— 高　(8.3)	刻みの加えられた扁平の浮線を横位に廻らし、横位の矢羽根状・対弧状に施す。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
32	トレンチ	口　— 底　— 高　(5.8)	刻みの加えられた浮線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
33	3区中層	口　— 底　— 高　(4.8)	刻みの加えられた浮線を横位に廻らす。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b

第16表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
34	ベルト3中層	口　— 底　— 高　(4.8)	刻みの加えられた浮線を横位に廻らす。刻みの加えられない横位の浮線間を縦位の浮線でつなぐ。地文には単節RLを横位施文する。	色　明褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
35	3区中層	口　— 底　15.4 高　(4.2)	矢羽根状に刻みを加えられた浮線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色　赤褐色 焼　良	胴下部～底部の1/6	諸磯b
36	3区下層	口　— 底　18.8 高　(10.3)	矢羽根状に刻みの加えられた浮線を横位に廻らし、浮線間に刺突を加える。地文には単節RLを横位施文する。	色　明赤褐色 焼　良	胴下部～底部の1/6	諸磯b
37	セクション拡張下層 3区下層	口　— 底　— 高　(12.8)	口縁部が強く内湾しながら大きく張り出す器形。波状口縁を呈し、波頂部がさらに波状になる。波頂部下には粘土瘤を貼付する。口縁部文様は、強く張り出した部分の全面にわたり描かれる。半截竹管による押し引きで波頂部下の口縁部文様帯に文様が描かれるが、磨滅が著しく不明。胴上部には、斜位･弧状に描き、平行沈線を横位に廻らした後、矢羽根状に刻みを施す。	色　橙色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	諸磯b
38	3区下層 4区上層	口　— 底　— 高　(11.0)	口縁部が強く内湾しながら大きく張り出す器形。波状口縁を呈す。口縁部文様は、強く張り出した部分の全面にわたり描かれる。半截竹管による平行沈線内に刺突を施した沈線で波頂部下の口縁部文様帯には渦巻文を、胴上部には弧状文を描く。	色　橙色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	諸磯b
39	セクション拡張下層	口　— 底　— 高　(12.2)	波状口縁を呈す。半截竹管による平行沈線内に刺突を施した沈線を、口縁に沿って廻らす。波頂部下には弧状文を描き、以下には横位に施す。縄文施文されているか確認	色　橙色 焼　良	口縁部～胴上部の破片 No.42・43と同一個体	諸磯b
40	4区上層	口　— 底　— 高　(13.5)	半截竹管による平行沈線内に刺突を施した沈線で対弧文を描き、横位に廻らす。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
41	4区中層	口　— 底　— 高　(9.8)	半截竹管による平行沈線内に刺突を施した沈線で入組文を描く。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
42	—	口　— 底　— 高　(4.4)	半截竹管による平行沈線内に刺突を施した沈線を横位に廻らす。内面剝落著しい。	色　赤褐色 焼　良	胴部の破片 No.39・43と同一個体	諸磯b
43	セクション	口　— 底　— 高　(5.3)	半截竹管による平行沈線内に刺突を施した沈線を横位に廻らす。	色　明赤褐色 焼　良	胴部の破片 No.39・42と同一個体	諸磯b
44	3区中層	口　— 底　— 高　(5.0)	半截竹管による平行沈線内に刺突を施した沈線を横位に廻らす。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
45	ベルト3中層	口　— 底　— 高　(5.5)	半截竹管による平行沈線内に刺突を施した沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
46	4区上層	口　— 底　— 高　(7.3)	半截竹管による平行沈線内に刺突を施した沈線を斜位に施す。地文には単節RLを条の横走する斜位に施す。	色　暗灰黄色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
47	1区上層	口　— 底　— 高　(5.1)	口縁が強く屈曲し、波状口縁を呈す。半截竹管による平行沈線内に刺突を施した沈線を口縁に沿ってと横位・斜位に施す。	色　浅黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯b
48	ベルト2中層	口　— 底　— 高　(6.9)	半截竹管による平行沈線内に刺突を施した沈線で弧状文を描く。	色　黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
49	3区下層	口　— 底　— 高　(5.5)	半截竹管による平行沈線内に刺突を施した沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
50	3区下層	口　— 底　— 高　(4.4)	半截竹管による平行沈線内に刺突を施した沈線を横位に廻らす。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
51	4区上層	口　— 底　— 高　(11.5)	靴先状に尖った大波状口縁を呈し、波頂部下に粘土瘤を貼付する。半截竹管による平行沈線で波頂部下の口縁部には渦巻文を、胴部には蕨手状のモチーフを描く。地文には縄文施文されるが、縄文原体不明。	色　にぶい褐色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	諸磯b
52	2区中層	口　— 底　— 高　(8.5)	靴先状に尖った大波状口縁を呈す。波頂部下に半截竹管による平行沈線で渦巻文を描く。胴上部には弧状文を描く。地文には単節RLを横位施文する。	色　橙色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	諸磯b
53	ベルト3区中層	口　— 底　— 高　(8.6)	口縁部が強く屈曲し、波状口縁を呈す。波頂部下に半截竹管による平行沈線で渦巻文と弧線文を描く。胴上部にも同様のモチーフを描く。平行沈線を数段横位に廻らす。地文には単節LRを横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	諸磯b
54	ベルト3下層	口　— 底　— 高　(4.7)	獣面付き土器。波状口縁を呈す。獣面全体を口縁部側面に貼付する。頭部は波頂部と一体となり、ボタン状貼付文により目・鼻が表現され、獣面の輪郭を半截竹管による平行沈線で弧状に描く。平行沈線で入組弧線が描かれると推定される。地文には単節RLを条が横走する斜位に施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯b
55	2区上層	口　— 底　— 高　(3.4)	口縁部が強く屈曲し、波状口縁を呈す。波頂部下に粘土瘤を貼付する。半截竹管による平行沈線を横位と粘土瘤を囲むように弧状に施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯b

第17表　出土遺物観察表

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
56	3区中層	口 — 底 — 高 (3.3)	靴先状に尖った大波状口縁を呈し、波頂部下に粘土瘤を貼付する。半截竹管による平行沈線で渦巻文と弧状文を描く。	色 橙色 焼 良	口縁部の破片	諸磯b
57	3区中層	口 — 底 — 高 (4.2)	波状口縁を呈す。半截竹管による平行沈線を口縁に沿ってと横位に廻らし、弧状文を描く。	色 にぶい黄橙色 焼 良	口縁部の破片	諸磯b
58	3区下層	口 — 底 — 高 (8.0)	口縁部が強く屈曲し、波状口縁を呈す。波頂部が双頭になる。半截竹管による平行沈線を横位・斜位に施し、渦巻文・弧状文を描く。磨滅が著しい。	色 橙色 焼 良	口縁部の破片	諸磯b
59	4区上層	口 — 底 — 高 (9.4)	半截竹管による平行沈線を横位に施す。横位の沈線間には平行沈線を渦巻・弧状に施す。地文には単節LRを横位施文と条の縦走する斜位に施文する。	色 にぶい黄褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
60	4区上層	口 — 底 — 高 (6.0)	半截竹管による集合化された平行沈線を口縁部には横位に、以下には弧状・斜位に施す。	色 にぶい赤褐色 焼 良	口縁部の破片	諸磯b
61	3区中層	口 — 底 — 高 (4.6)	波状口縁を呈す。半截竹管による平行沈線を口縁に沿ってと弧状に施す。	色 明赤褐色 焼 良	口縁部の破片	諸磯b
62	ベルト4区下層	口 — 底 — 高 (4.2)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らし、「X」字状の文様を描く。	色 にぶい黄褐色 焼 良	口縁部の破片	諸磯b
63	1区上層	口 — 底 — 高 (4.1)	靴先状に尖った口縁を呈す。半截竹管による平行沈線を横位・斜位に施し、三角形を構成する。三角形の内側に平行沈線で渦巻状の文様を描く。	色 にぶい黄橙色 焼 良	口縁部の破片	諸磯b
64	2区上層	口 — 底 — 高 (4.3)	半截竹管による平行沈線を横位に施し、渦巻文と弧状文を描く。地文には単節RLを横位施文する。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
65	3区中層	口 — 底 — 高 (5.2)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らし、入組文を描くと推定される。地文に縄文施文されるが縄文原体不明。	色 黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
66	4区上層	口 — 底 — 高 (5.7)	半截竹管による平行沈線を横位に施し、弧状文を描く。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
67	3区上層	口 — 底 — 高 (6.0)	半截竹管による平行沈線を斜位に施し、弧状文を描く。地文には単節LRを横位施文する。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
68	4区中層	口 — 底 — 高 (7.8)	半截竹管による平行沈線で鉤の手状のモチーフを描く。	色 黄褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
69	—	口 — 底 — 高 (6.5)	強く屈曲した口縁に矢羽根状に刻みの加えられた浮線が廻る。胴上部には半截竹管による平行沈線を廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色 にぶい黄色 焼 良	口縁部～胴上部の破片	諸磯b
70	4区中層	口 — 底 — 高 (8.4)	半截竹管による平行沈線と、竹管による円形の刺突を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色 黄褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
71	ベルト2中層	口 — 底 — 高 (4.1)	半截竹管による平行沈線と、竹管による円形の刺突を横位に廻らす	色 にぶい褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
72	1区上層	口 — 底 — 高 (2.8)	口縁が強く屈曲し、波状口縁を呈す。半截竹管による平行沈線内に刻みを加え、横位に廻らす。	色 黄橙色 焼 良	口縁部の破片	諸磯b
73	4区上層	口 — 底 — 高 (3.8)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。	色 にぶい黄橙色 焼 良	口縁部の破片	諸磯b
74	ベルト2下層	口 — 底 — 高 (4.8)	口縁が強く屈曲する。半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。	色 黄褐色 焼 良	口縁部の破片	諸磯b
75	3区中層	口 — 底 — 高 (4.6)	口縁部が強く屈曲し、波状口縁を呈す。半截竹管による平行沈線を横位・斜位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色 暗灰黄色 焼 良	口縁部の破片	諸磯b
76	4区中層	口 — 底 — 高 (8.6)	波状口縁を呈す。半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施す。地文には無節Lrを横位施文する。	色 明黄褐色 焼 良	口縁部の破片	諸磯b
77	ベルト3中層	口 — 底 — 高 (13.7)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色 黒褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
78	4区中層	口 — 底 — 高 (14.1)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色 褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
79	ベルト3中層	口 — 底 — 高 (10.4)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色 黄褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
80	3区下層	口 — 底 — 高 (7.2)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色 浅黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯b

第18表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
81	4区中層	口　— 底　— 高　(6.5)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
82	4区中層	口　— 底　— 高　(6.7)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを条が縦走する斜位に施す。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
83	2区上層	口　— 底　— 高　(5.9)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色　赤褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
84	4区中層	口　— 底　— 高　(7.5)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。	色　橙色 焼　良	胴部の破片 No.85と同一個体	諸磯b
85	4区中層	口　— 底　— 高　(7.6)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。	色　橙色 焼　良	胴部の破片 No.84と同一個体	諸磯b
86	3区中層	口　— 底　— 高　(6.6)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色　赤褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
87	3区下層	口　— 底　— 高　(6.9)	半截竹管による平行沈線を横位・鋸歯状に施す。地文には単節RLを横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
88	3区中層	口　— 底　— 高　(7.6)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
89	ベルト	口　— 底　— 高　(6.0)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色　赤褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
90	ベルト3中層	口　— 底　— 高　(6.1)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
91	2区中層	口　— 底　— 高　(5.4)	半截竹管による平行沈線を縦位・横位・斜位に施す。地文には単節RLを横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
92	ベルト	口　— 底　— 高　(7.0)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
93	1区上層	口　— 底　— 高　(7.2)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
94	3区中層	口　— 底　8.4 高　(2.6)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。	色　黄橙色 焼　良	胴下部～底部の1/4	
95	4区上層	口　— 底　8.2 高　(2.5)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。	色　明赤褐色 焼　良	胴下部～底部の1/2	諸磯b
96	ベルト3上層	口　— 底　12.6 高　(5.4)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色　浅黄橙色 焼　良	胴下部～底部の1/6	諸磯b
97	3区下層	口　— 底　13.0 高　(5.0)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。	色　橙色 焼　良	胴下部～底部の1/4	諸磯b
98	1区上層	口　— 底　— 高　(9.8)	内面口縁部を肥厚させ、半截竹管による平行沈線を斜位に施し、ボタン状貼付文を付す。内面から外面にかけて棒状・耳朶状の貼付文を付す。外面は平行沈線を横位に施し、ボタン状・棒状貼付文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	諸磯c
99	ベルト1上層 3区上層	口　— 底　— 高　(10.5)	口縁部を折り返し、半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施し、竹管による刺突が加えられたボタン状貼付文と、外面から内面にかけて耳状貼付文を付す。外面は平行沈線を斜位に施し、刺突の加えられたボタン状貼付文と棒状貼付文を付す。	色　黄褐色 焼　良	口縁部～胴上部	諸磯c
100	ベルト2上層	口　— 底　— 高　(6.6)	内面には半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施す。外面には平行沈線を横位・斜位に施す。内面から外面にかけて耳朶状・耳状の貼付文を付すが、外面のものはほとんどが剝落している。	色　にぶい橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c
101	ベルト2上層	口　— 底　— 高　(4.9)	半截竹管による集合化された平行沈線を口縁に沿って廻らし、横位の矢羽根状に施す。棒状貼付文と半截竹管による円形の刺突が加えられたボタン状貼付文を付す。	色　黄橙色 焼　良	口辺部の破片	諸磯c
102	ベルト3上層	口　— 底　— 高　(5.4)	口縁が強く屈曲する。半截竹管による集合化された平行沈線を屈曲部には横位の矢羽根状に施し、耳状・ボタン状貼付文を付す。以下には平行沈線を横位に廻らし、縦位・斜位に施す。	色　黒褐色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c
103	2区上層	口　— 底　— 高　(7.7)	半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施し、棒状貼付文と竹管による円形の刺突が加えられたボタン状貼付文を付す。	色　浅黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c

第19表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
104	カク	口　— 底　— 高　(7.1)	半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施し、棒状貼付文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
105	1区上層	口　— 底　— 高　(6.3)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施し、棒状貼付文と半截竹管による円形の刺突が加えられたボタン状貼付文を付す。	色　灰黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
106	ベルト2上層	口　— 底　— 高　(6.8)	半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施し、棒状貼付文を付す。	色　浅黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
107	3区上層	口　— 底　— 高　(4.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・縦位に施文し、竹管による円形の刺突が加えられたボタン状貼付文を付す。	色　にぶい橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c
108	4区上層	口　— 底　— 高　(3.5)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位に施し、小さいボタン状貼付文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
109	3区上層	口　— 底　— 高　(6.9)	半截竹管による集合化された平行沈線を口縁に沿って廻らし、ボタン状貼付文を付す。ボタン状貼付文のすぐ上が口唇部となるため切れ込みが入っていたものと推定される。横位の平行沈線以下には平行沈線を斜位に施す。地文には無節Lrを横位施文する。	色　にぶい褐色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c
110	3区上層	口　— 底　— 高　(4.3)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位に施し、円形刺突の加えられたボタン状貼付文を付す。	色　明黄褐色 焼　良	口辺部の破片	諸磯c
111	3区上層 3区中層	口　— 底　— 高　(8.7)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・横位・「X」字状に施す。	色　にぶい褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
112	3区上層	口　— 底　— 高　(7.0)	半截竹管による平行沈線を格子目状に施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
113	3区上層	口　— 底　— 高　(6.7)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・縦位・斜位に施す。	色　褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
114	4区上層	口　— 底　— 高　(5.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・山形・弧状に施すことにより菱形の無文帯を構成する。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
115	3区上層	口　— 底　— 高　(4.7)	半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施す。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
116	トレンチ	口　— 底　11.0 高　(4.6)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位に廻らす。	色　にぶい褐色 焼　良	胴下部～底部の1/6	諸磯c
117	1区上層	口　— 底　— 高　(5.9)	波状口縁を呈す。地文には半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。口縁に沿って結節浮線文を廻らし、渦巻文を描く。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c or 下島
118	1区上層	口　— 底　— 高　(6.4)	結節浮線文を弧状に施し、地文には半截竹管による平行沈線を横位に施す。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c or 下島
119	カク	口　— 底　— 高　(4.6)	地文には半截竹管による平行沈線を横位施文し、結節浮線文を縦位に施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c or 下島
120	4区中層	口　— 底　— 高　(2.7)	半截竹管による平行沈線で木の葉文を描く。浅鉢。	色　赤褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
121	カク	口　— 底　— 高　(6.5)	半截竹管による平行沈線を斜位に施し、粘土紐を鋸歯状に貼付する。	色　灰黄色 焼　良	胴部の破片	大木
122	3区下層	口　18.6 底　— 高　(19.1)	単節RLと単節LRを横位施文することにより羽状縄文を構成する。	色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴下部の1/2	前期後半
123	1区上層	口　— 底　— 高　(13.2)	無文。	色　黒褐色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	
124	4区中層	口　— 底　— 高　(6.1)	波状口縁を呈す。単節RLを横位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	諸磯b
125	3区下層	口　— 底　— 高　(7.6)	波状口縁を呈す。単節RLを横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	前期後半
126	ベルト2中層	口　— 底　— 高　(6.4)	波状口縁を呈す。口縁に沿って爪形が押捺された浮線を廻らし、単節RLを横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯b
127	—	口　— 底　— 高　(8.8)	波状口縁を呈す。無文。	色　にぶい褐色 焼　良	口縁部の破片	前期後半

第20表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
128	4区中層	口　— 底　— 高　(9.7)	単節RLを横位施文する。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	前期後半
129	4区上層	口　— 底　11.0 高　(5.8)	単節RLを横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴下部～底部の1/7	前期後半
130	ベルト3中層	口　— 底　12.6 高　(4.4)	縄文施文されるが、縄文原体不明。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴下部～底部の1/4	前期後半
131	4区下層	口　— 底　10.0 高　(2.7)	単節LRを横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴下部～底部の1/6	前期後半
132	3区下層	口　— 底　6.2 高　(2.6)	単節RLを横位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴下部～底部の3/4	前期後半
133	ベルト3中層	口　— 底　4.2 高　(1.6)	無文。	色　赤褐色 焼　良	胴下部～底部	

JD－1号土坑

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD－1一括	口　— 底　— 高　(3.6)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
2	JD－1一括	口　— 底　— 高　(9.2)	単節LRを縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	中期
3	JD－1一括	口　— 底　— 高　(6.3)	単節LRを縦位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	中期
4	JD－1一括	口　— 底　— 高　(4.4)	帯状無文帯で文様を描く。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	称名寺
5	JD－1一括	口　— 底　— 高　(5.8)	単節RLを横位施文後、微隆起線を垂下して縦位区画する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4
6	JD－1一括	口　— 底　— 高　(5.4)	単節LRを縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	中期

JD－2号土坑

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD－2一括	口　— 底　— 高　(5.2)	単節LRを縦位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	中期
2	JD－2一括	口　— 底　— 高　(5.8)	帯状無文帯で文様を描く。単節LRを縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	称名寺

JD－3号土坑

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD－3一括	口　— 底　— 高　(11.2)	隆帯を垂下して縦位区画後、無節Lrを縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E3～E4
2	JD－3一括	口　— 底　— 高　(4.5)	縄文施文されるが、縄文原体不明。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	前期前半
3	JD－3一括	口　— 底　— 高　(7.3)	単節LRを縦位施文する。	色　浅黄橙色 焼　良	胴部の破片	中期
4	JD－3一括	口　— 底　— 高　(5.3)	単節LRを縦位施文する。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	中期
5	JD－3一括	口　— 底　— 高　(16.2)	口縁部が小波状を呈し、内湾する。口縁に平行に廻る微隆起線が波頂部で口端に抜けている。以下全面を無文とする。	色　にぶい褐色 焼　良	口縁部～胴中央部の破片	加曾利E4
6	JD－3一括	口　— 底　— 高　(6.5)	口縁に平行に微隆起線を廻らす。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	加曾利E4

第21表　出土遺物観察表

JD―4号土坑

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD―4一括	口　― 底　― 高　(5.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・斜位に施す。	色　暗灰黄色 焼　良	胴部の破片	諸磯c

JD―5号土坑

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD―5一括	口　― 底　― 高　(3.7)	半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施し、半截竹管による刺突が加えられたボタン状貼付文と棒状貼付文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口辺部の破片	諸磯c
2	JD―5一括	口　― 底　― 高　(5.4)	単節RLを横位施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	前期前半
3	JD―5一括	口　― 底　― 高　(2.5)	口縁直下につまみ出したと推定される凹凸文が廻る。半截竹管による集合化された平行沈線を横位に廻らす。	色　にぶい橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c
4	JD―5一括	口　― 底　― 高　(6.9)	半截竹管による平行沈線を縦位・斜位・横位の矢羽根状に施す。	色　明褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
5	JD―5一括	口　― 底　― 高　(7.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・斜位に施す。	色　にぶい褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
6	JD―5一括	口　40.6 底　― 高　(17.5)	口縁が内湾し、底部に向かってすぼまる器形。口縁部には半截竹管による集合化された平行沈線を横位の矢羽根状・横位に施し、大きい棒状貼付文と竹管による円形の刺突が加えられたボタン状貼付文を付す。胴部には平行沈線を縦位・斜位に施し、同様の貼付文を付す。	色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴中央部の1/4	諸磯c
7	JD―5一括	口　― 底　11.8 高　(4.8)	単節RLを横位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴下部～底部の2/3	前期後半

JD―6号土坑

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD―6一括	口　― 底　― 高　(6.2)	波状口縁を呈す。波頂部が台形状を呈し、穿孔を有す。穿孔脇に刺突を加える。波頂部全体を肥厚させる。	色　黒褐色 焼　良	口縁部の破片	堀之内
2	JD―6一括	口　― 底　― 高　(4.5)	波状口縁を呈し、波頂部が双頭になると推定される。内外面共に口縁直下を肥厚させ、波頂部に刺突を施す。外面は刺突を起点として口縁に沈線を廻らす。それぞれの波頂部より沈線が施された扁平の隆帯と円形の刺突が加えられた円形の隆帯とを斜位に配す。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部の破片 No.4と同一個体	堀之内
3	JD―6一括	口　― 底　― 高　(2.5)	丸棒状の原体による押捺が施された隆帯と、その脇に添う沈線を横位に廻らす。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	堀之内
4	JD―6一括	口　― 底　― 高　(5.3)	波状口縁を呈す。内外面共に口縁直下を肥厚させ、波頂部に刺突を施す。外面は刺突を起点として口縁に沈線を廻らす。波頂部より沈線が施された扁平の隆帯を斜位に施す。	色　黄褐色 焼　良	口縁部の破片 No.2と同一個体	堀之内
5	JD―6一括	口　― 底　― 高　(5.5)	口縁直下に2条の沈線を廻らし、上下に刺突を加えた粘土瘤を貼付する。胴部には沈線で文様を描く。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	堀之内
6	JD―6一括	口　― 底　― 高　(8.6)	帯状無文帯で文様を描く。	色　黄灰色 焼　良	口縁部～胴中央部の破片	称名寺
7	JD―6一括	口 底　― 高　(10.5)	装飾された4単位の突起を有す。口縁部には突起をつなぐ隆帯と沈線が廻り、胴部には口縁部の無文部から「J」字状の帯状無文帯が垂下する。縄文は単節LRを縦位・横位施文する。	色　にぶい黄褐色 焼　良	口縁部～胴中央部	堀之内
8	JD―6一括	口　― 底　9.0 高　(5.0)	無文。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴下部～底部の1/3	中期

JD―9号土坑

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD―9一括	口　― 底　― 高　(2.4)	波状口縁を呈す。半截竹管による平行沈線で幾何学文を施文する。地文には組紐を施文する。	色　橙色 焼　良	口縁部の破片	関山

JD―12号土坑

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD―12一括	口　― 底　― 高　(3.7)	直前段合撚りを施文する。	色　褐色 焼　良	胴部の破片	前期前半

第22表　出土遺物観察表

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
2	JD—12一括	口 — 底 — 高 (8.3)	縄文施文されるが、縄文原体不明。	色 赤褐色 焼 良	胴部の破片	前期前半
3	JD—12一括	口 — 底 — 高 (5.3)	組紐を施文する。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	前期前半

JD—16号土坑

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—16一括	口 — 底 — 高 (3.8)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。	色 暗灰黄色 焼 良	胴下部の破片	諸磯b
2	JD—16一括	口 — 底 — 高 (4.1)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。	色 明赤褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯b

JD—21号土坑

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—21一括	口 — 底 — 高 (6.8)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・縦位の矢羽根状に施す。内面ほぼ全面剝落。	色 にぶい褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯c
2	JD—21一括	口 — 底 — 高 (5.3)	刺突して粘土を掘り起こした凹凸文を横位に配す。	色 褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯c
3	JD—21一括	口 — 底 12.0 高 (4.1)	単節RLを横位施文する。	色 赤褐色 焼 良	胴下部～底部の1／6	前期前半
4	JD—21一括	口 — 底 12.6 高 (16.3)	半截竹管による集合化された平行沈線を胴中央部と胴下部には横位に施し、その間に縦位・斜位縦位の矢羽根状に施す。	色 橙色 焼 良	胴中央部～底部	諸磯c

JD—25号土坑

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—25一括	口 — 底 — 高 (5.4)	単節LRを横位施文する。	色 明黄褐色 焼 良	胴部の破片	前期前半
2	JD—25一括	口 — 底 — 高 (4.7)	無節Lrを縦位・横位施文する。	色 灰黄褐色 焼 良	胴部の破片	前期前半

JD—28号土坑

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—28一括	口 — 底 12.6 高 (9.0)	無節Lrを縦位と条の横走する斜位に施す。	色 橙色 焼 良	胴下部～底部の1/5 No.2と同一個体	前期後半
2	JD—28一括	口 — 底 12.6 高 (3.3)	結節が見られる。	色 明黄褐色 焼 良	胴下部～底部の1/6 No.1と同一個体	前期後半
3	JD—28一括	口 — 底 — 高 (6.2)	口縁が強く内湾し、波状口縁を呈す。刻みの施された浮線を横位・弧状に施す。地文には単節RLを横位施文する。	色 明黄褐色 焼 良	口縁部の破片	諸磯b

JD—29号土坑

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	J —15c	口 — 底 — 高 (7.7)	波状口縁を呈す。結節浮線を口縁に平行と弧状に施す。地文には半截竹管による平行沈線を斜位に施す。	色 明赤褐色 焼 良	口縁部の破片	諸磯c
2	J —15d	口 — 底 — 高 (5.0)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位に施し、対の小さいボタン状貼付文を付す。	色 明褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯c
3	J —15c	口 — 底 — 高 (14.1)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・斜位に施し、短い棒状貼付文を付す。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯c
4	J —15c	口 — 底 — 高 (6.6)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・横位の矢羽根状・格子状に施し、対の小さいボタン状貼付文を付す。	色 明黄褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯c
5	J —15c	口 — 底 — 高 (6.8)	結節浮線と思われる粘土紐を横位に貼付し、半截竹管による平行沈線を縦位の矢羽根状に施す。対の小さいボタン状貼付文を付す。	色 橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯c

第23表　出土遺物観察表

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
6	J—15c	口 — 底 — 高 (2.8)	結節浮線を横位に施す。地文には半截竹管による平行沈線を横位の矢羽根状に施す。	色 黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯c
7	J—15c	口 — 底 — 高 (6.4)	半截竹管による平行沈線を縦位・斜位に施し、竹管による円形の刺突が加えられたボタン状貼付文を付す。	色 明黄褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯c
8	J—15c	口 — 底 — 高 (3.4)	結節浮線を弧状に施す。地文には半截竹管による平行沈線を横位に施す。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯c
9	J—15c	口 — 底 — 高 (5.1)	口縁下には半截竹管による集合化された平行沈線を横位に施す。以下には平行沈線を縦位・斜位に施し、竹管による円形の刺突が加えられたボタン状貼付文を付す。	色 にぶい黄橙色 焼 良	口縁部の破片	諸磯c
10	J—15c	口 — 底 — 高 (5.6)	半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施し、半截竹管による刺突が加えられたボタン状貼付文と棒状貼付文を付す。	色 浅黄色 焼 良	胴部の破片	諸磯c
11	J—15d	口 — 底 — 高 (5.0)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・斜位に施し、棒状貼付文を付す。	色 黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯c
12	J—15c	口 — 底 — 高 (6.1)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施し、棒状貼付文を付す。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯c
13	J—15c	口 — 底 — 高 (6.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施し、対の小さいボタン状貼付文を付す。	色 明赤褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯c
14	J—15c	口 — 底 — 高 (10.6)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施し、棒状貼付文と横位に沈線の施された粘土瘤を付す。	色 明黄褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯c
15	上層	口 — 底 — 高 (4.7)	結節浮線を斜位・弧状・横位に貼付する。	色 赤褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯c

JD—30号土坑

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—30一括	口 — 底 — 高 (5.3)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・斜位に施し、棒状貼付文とボタン状貼付文を付す。	色 黒褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯c
2	JD—30一括	口 — 底 — 高 (5.6)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・縦位の矢羽根状に施し、棒状貼付文と横位の沈線が施された粘土瘤を付す。	色 明黄褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯c

JD—31号土坑

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—31一括	口 — 底 — 高 (3.9)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施す。	色 褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
2	JD—31一括	口 — 底 — 高 (4.0)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施す。	色 明赤褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
3	JD—31一括	口 — 底 — 高 (3.9)	単節LRを縦位施文する。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	中期
4	JD—31一括	口 — 底 — 高 (4.2)	無節Lrを横位施文する。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	前期後半
5	JD—31一括	口 — 底 — 高 (3.7)	無文。	色 にぶい黄橙色 焼 良	注口部	

JD—33号土坑

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	下層 JD—32下層	口 — 底 — 高 (13.8)	波状口縁を呈す。単節RLを横位施文する。	色 褐色 焼 良	口縁部～胴中央部の破片 No.2・3と同一個体	前期後半
2	下層	口 — 底 — 高 (8.0)	波状口縁を呈す。単節RLを横位施文する。	色 褐色 焼 良	口縁部の破片 No.1・3と同一個体	前期後半
3	下層	口 — 底 — 高 (10.3)	単節RLを横位施文する。	色 にぶい褐色 焼 良	胴部の破片 No.1・2と同一個体	前期後半

第24表　出土遺物観察表

JD—36号土坑

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	下層	口　— 底　— 高　(5.2)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・縦位の矢羽根状に施し、棒状貼付文を付す。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯c
2	下層	口　— 底　— 高　(5.1)	口縁直下に掘り起こした凹凸文が廻る。半截竹管による集合化された平行沈線を横位・縦位に施す。棒状貼付文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c

JD—37号土坑

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—37一括	口　— 底　— 高　(7.5)	押捺の施された隆帯を廻らす。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 4
2	JD—37一括	口　— 底　— 高　(4.9)	沈線で文様を描き、単節LRを横位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 4
3	JD—37一括	口　— 底　— 高　(5.0)	沈線による帯状区画で文様を描く。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 4～称名寺
4	JD—37一括	口　— 底　— 高　(3.7)	沈線による帯状無文帯で文様を描く。単節LRを横位施文する。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 4
5	JD—37一括	口　— 底　— 高　(6.7)	沈線で文様を描き、単節LRを横位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 4
6	JD—37一括	口　— 底　— 高　(8.8)	沈線を横位・弧状に施す。	色　明赤褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 4
7	JD—37一括	口　— 底　— 高　(4.4)	沈線で文様を描く。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 4
8	JD—37一括	口　— 底　— 高　(9.3)	単節RLを縦位・横位施文後、沈線で文様を描く。	色　にぶい黄色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 4
9	JD—37一括	口　— 底　— 高　(5.9)	押捺の施された隆帯を廻らす。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 4
10	JD—37一括	口　— 底　— 高　(4.4)	数条の沈線と半截竹管による刺突を横位に施す。	色　にぶい赤褐色 焼　良	胴部の破片	
11	JD—37一括	口　— 底　— 高　(6.0)	沈線を横位に施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 4～称名寺
12	JD—37一括	口　— 底　— 高　(4.3)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位の矢羽根状に施す。貼付文の剝落痕有り。	色　黄橙色 焼　良	口縁部の破片	諸磯c
13	JD—37一括	口　— 底　— 高　(4.9)	押捺の施された隆帯を廻らす。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 4
14	JD—37一括	口　— 底　— 高　(3.0)	押捺の施された隆帯を廻らす。	色　浅黄色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 4
15	JD—37一括	口　— 底　— 高　(4.4)	半截竹管による刺突を横位・弧状に施す。	色　にぶい橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯b
16	JD—37一括	口　— 底　— 高　(7.7)	隆帯と沈線で文様を描く。単節LRを横位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 4
17	JD—37一括	口　— 底　— 高　(4.4)	突起が欠損している。沈線で文様を描き、単節RLを縦位施文後、幅広の撫でを施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	加曾利E 4
18	JD—37一括	口　— 底　— 高　(4.5)	沈線で文様を描く。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 4
19	JD—37一括	口　— 底　— 高　(4.8)	沈線による帯状無文帯で渦巻文を配す。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	称名寺
20	JD—37一括	口　— 底　— 高　(4.1)	半截竹管によるコンパス文を横位施文する。地文には直前段合擦りを施す。	色　黄橙色 焼　良	胴部の破片	関山
21	JD—37一括	口　— 底　— 高　(3.2)	沈線を垂下して縦位区画し、単節LRを横位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利E 3～E 4

第25表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
22	JD—37一括	口　— 底　— 高　(3.7)	隆帯とその脇に添う沈線で文様を描く。	色　暗灰黄色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ４
23	JD—37一括	口　— 底　— 高　(6.9)	隆帯とその脇に添う沈線で文様を描く。	色　黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ４
24	JD—37一括	口　— 底　— 高　(6.6)	沈線による帯状無文帯で文様施文後、単節 LR を縦位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ４
25	JD—37一括	口　— 底　— 高　(6.5)	隆帯により文様施文する。沈線を垂下して縦位区画し、単節 RL を縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ３～Ｅ４
26	JD—37一括	口　— 底　— 高　(6.3)	波状口縁を呈し、波頂部に穿孔を有す。この穿孔を起点として口縁に沿って沈線を廻らす。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部の破片	堀之内
27	JD—37一括	口　— 底　— 高　(8.9)	押捺の施された隆帯を廻らす。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ４
28	JD—37一括	口　— 底　— 高　(3.3)	沈線を垂下して縦位区画し、単節 RL を縦位施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ３～Ｅ４
29	JD—37一括	口　— 底　— 高　(4.3)	単節 LR を条の縦走する斜位に施文後、沈線による帯状無文帯で曲線文を描く。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ４
30	JD—37一括	口　— 底　— 高　(24.4)	胴中央部で僅かに括れる器形。波状沈線を垂下する。	色　橙色 焼　良	口縁部～胴下部の破片	称名寺
31	JD—37一括	口　— 底　— 高　(12.4)	橋状把手。把手の正面上方が僅かに突出している。無文。	色　にぶい黄褐色 焼　良	把手部	中期後半
32	JD—37一括	口 底　9.4 高　36.3	正面口縁部が波状口縁となり、把手が付く。把手の頂部には浅いくぼみが有り、正面は馬の背状に突出している。裏面は盲孔を中心に沈線を弧状に配す。突起部には穿孔を施す。器形は、小さい底部から開き気味に立ち上がり胴中央部に最大径を有し、頸部ですぼまった後、口縁部が大きく開く。口縁部と胴下部の無文帯を区画するように列点を充填した沈線による帯状区画文を頸部と胴中央部に廻らす。中央に刺突の施された円形の粘土瘤から「Ｊ」字状・逆「Ｊ」字状に文様施文された帯状区画文を垂下する。４単位に配された「Ｊ」字状・逆「Ｊ」字状文を連結する帯状区画文を斜位に配す。	色　橙色 焼　良	ほぼ完形	称名寺

JD—38号土坑

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—38一括	口　— 底　— 高　(5.4)	口唇部に凹凸文を有す。口縁には半截竹管による集合化された平行沈線を横位に廻らし、棒状貼付文を付す。以下には平行沈線を斜位に施す。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部の破片 No.２と同一個体	諸磯ｃ
2	JD—38一括	口　— 底　— 高　(8.8)	口唇部に凹凸文を有す。口縁には半截竹管による集合化された平行沈線を横位に廻らし、棒状貼付文を付す。胴上部には平行沈線を縦位・斜位に施す。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部～胴上部の破片 No.１と同一個体	諸磯ｃ

JD—40号土坑

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—40一括	口　— 底　— 高　(5.0)	縄文施文されるが、縄文原体不明。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴下部～底部の破片	前期後半
2	JD—40一括	口　— 底　— 高　(6.8)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位・斜位に施す。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｃ
3	JD—40一括	口　— 底　— 高　(8.2)	無節 Lr を横位施文する。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	前期後半

JD—41号土坑

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	下層	口　— 底　— 高　(6.0)	口縁部が強く屈曲する。口縁部には半截竹管を集合化させた平行沈線を斜位・横位施文後、竹管による円形の刺突が加えられたボタン状貼付文を棒状貼付文の間に付す。胴部には平行沈線を縦位・斜位に施し、刺突の加えられたボタン状貼付文と横位の棒状貼付文を付す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	諸磯ｃ
2	下層	口　— 底　— 高　(4.7)	半截竹管による平行沈線を横位・斜位に施し、その間に沈線を弧状に施文する。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｂ

第26表　出土遺物観察表

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
3	下層	口 — 底 — 高 (6.1)	矢羽根状に刻みの加えられた浮線を斜位に施す。磨滅している。	色 橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
4	下層	口 — 底 6.8 高 (5.1)	半紙竹管による平行沈線を横位に廻らす。	色 にぶい黄褐色 焼 良	胴下部～底部	

JD—44号土坑

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—44一括	口 — 底 9.0 高 (9.3)	無文。	色 明黄褐色 焼 良	胴下部～底部	中期後半

JD—49号土坑

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—49一括	口 3.5 底 — 高 (3.4)	有孔浅鉢のミニチュア土器。胴上部で屈曲する。屈曲部より上に半截竹管による平行沈線を廻らし、屈曲部には半截竹管による押し引きが施された横位の棒状貼付文を付す。	色 黒褐色 焼 良	ほぼ完形	諸磯c

JD—51号土坑

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—51一括	口 — 底 — 高 (4.9)	波状口縁の波頂部から粘土瘤を垂下する。半截竹管による集合化された平行沈線を斜位に施す。地文には単節RLを横位施文する。	色 黄橙色 焼 良	口辺部の破片	諸磯b
2	JD—51一括	口 — 底 — 高 (3.9)	微隆起線を横位に廻らす。微隆起線に沿って列点を配す。	色 浅黄橙色 焼 良	胴部の破片	加曾利E 4
3	JD—51一括	口 — 底 — 高 (3.3)	単節RLを縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	色 明褐色 焼 良	胴部の破片	加曾利E 3～E 4
4	JD—51一括	口 — 底 — 高 (4.1)	単節RLを縦位施文後、沈線を弧状に施す。	色 にぶい赤褐色 焼 良	胴部の破片	加曾利E 3～E 4
5	JD—51一括	口 — 底 — 高 (4.2)	矢羽根状に刻みの加えられた浮線を横位に廻らす。地文には無節Lrを横位施文する。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
6	JD—51一括	口 — 底 — 高 (4.7)	沈線間に単節LRを縦位施文した帯縄文で曲線文を描く。沈線施文後、縄文を充塡する。	色 橙色 焼 良	胴部の破片	加曾利E 4

JD—55号土坑

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—55一括	口 — 底 — 高 (3.9)	半截竹管による平行沈線を斜位・弧状に施す。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
2	JD—55一括	口 — 底 15.0 高 (3.5)	刻みの加えられた浮線を横位に廻らす。地文には単節RLを横位施文する。	色 明黄褐色 焼 良	胴下部～底部の破片	諸磯b
3	JD—55一括	口 — 底 — 高 (3.6)	半截竹管による平行沈線内に刺突を加えた沈線を横位に廻らす。平行する撫でを施す。	色 明黄褐色 焼 良	胴部の破片	諸磯b

JD—56号土坑

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—56一括	口 — 底 — 高 (4.8)	無節Lrを条の横走する斜位に施す。	色 灰黄色 焼 良	胴部の破片	前期後半
2	JD—56一括	口 — 底 — 高 (4.9)	沈線による帯状無文帯で文様を描く。	色 浅黄橙色 焼 良	胴部の破片	加曾利E 4

JD—58号土坑

（ ）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JD—58一括	口 — 底 — 高 (6.3)	半截竹管による平行沈線を横位に廻らす。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯b
2	JD—58一括	口 — 底 — 高 (3.7)	刻みの加えられた浮線を横位に廻らす。地文には無節Lrを横位施文する。	色 にぶい黄橙色 焼 良	胴部の破片	諸磯b

第27表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
3	JD—58一括	口　— 底　— 高　(4.9)	刻みの加えられた浮線を横位に廻らす。	色　にぶい黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｂ
4	JD—58一括	口　— 底　— 高　(4.9)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位に廻らす。地文に縄文施文されるが、平行沈線を狭い区画で施すため縄文原体不明。	色　明赤褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｂ
5	JD—58一括	口　— 底　— 高　(4.0)	半截竹管による集合化された平行沈線を横位・斜位に施し、ボタン状貼付文を付す。	色　橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｃ
6	JD—58一括	口　— 底　— 高　(7.5)	刻みの加えられた浮線と刻みの加えられない浮線を横位に廻らす。地文には単節 RL を横位施文する。外面全面が磨滅している。	色　明黄褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｂ
7	JD—58一括	口　— 底　— 高　(5.4)	半截竹管による平行沈線を弧状に施す。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｂ
8	JD—58一括	口　— 底　— 高　(8.7)	半截竹管による平行沈線を横位・渦巻状に施す。地文に縄文があるか確認	色　暗褐色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｂ
9	JD—58一括	口　— 底　— 高　(10.4)	半截竹管による集合化された平行沈線を縦位に施し、棒状貼付文と刺突の加えられたボタン状貼付文を付す。	色　浅黄橙色 焼　良	胴部の破片	諸磯ｃ
10	JD—58一括	口　— 底　12.0 高　(6.1)	無文。	色　明黄褐色 焼　良	胴下部～底部の1/4	前期後半
11	JD—58一括	口　— 底　11.4 高　(3.0)	無文。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴下部～底部の1/5	前期後半

JU—１号埋甕

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JU—１	口　— 底　6.0 高　(30.2)	胴上部に隆帯による文様を施文した痕跡有り。細い沈線で「　」状区画文を４単位施文後、区画文内に単節 LR を縦位施文する。	色　橙色 焼　良	胴上部～底部	加曾利Ｅ３～Ｅ４

JU—２号埋甕

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	JU—２	口　— 底　— 高　(14.0)	隆帯を垂下して縦位区画後、無節 Lr を縦位施文する。	色　にぶい黄橙色 焼　良	胴部の破片	加曾利Ｅ３～Ｅ４

グリッド

（　）残存値

No.	出土位置	法量(cm)	文　　様	色調・調整	残存状態・備考	時　期
1	２Ａ—24ａ	口　22.0 底　— 高　(23.5)	僅かに内湾する口縁に向かって直線的に開く器形。無文。	色　明黄褐色 焼　良	口縁部～胴中央部の2/3	中期後半
2	２Ａ—25ａ	口　30.6 底　— 高　(30.4)	口縁部無文帯を区画する隆帯を廻らす。隆帯を垂下して縦位区画し、無節 Lr を縦位施文する。	色　浅黄色 焼　良	口縁部～胴中央部の1/4	加曾利Ｅ４

第28表　出土遺物観察表

〈 〉残存値　（ ）推定値

住居番号	図版番号	器　種	石　材	出土位置	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備　考
J－1住	1	石鏃	Ob	2区下層	1.3	1.3	0.3	0.43	基部抉入・側縁湾曲・丁寧な整形
J－1住	2	スクレイパーA	Ob(透明)	4区上層	〈1.8〉	〈2.20〉	0.4	0.79	非常に薄い剝片素材・刃部は両面調整
J－1住	3	ピエス・エスキーユ	Ob	2区下層	3.7	2.6	1.3	12.52	縁辺は鈍角箇所が多い・上下縁及び左右縁が潰れている
J－1住	4	石核B	Ob	3区下層	2.2	4.2	2.7	15.45	歪んだ打面から急角度で剝片剝取 打面と剝取面の稜に微細な刃こぼれ状剝離
J－1住	5	スクレイパーB	Sh	2区上層	5.8	4.7	1.5	45.48	片面調整により打面除去・刃こぼれ状の小剝離
J－1住	6	スクレイパーB	Sh	1区上層	5.1	5.8	2.8	76.63	裏面は自然面・節理が多い・片面調整により刃部作出
J－1住	7	石核B	Sh	2区上層	5.6	4.5	2.1	56.99	自然面を含むフラットな剝離面を打面として周縁から小剝片を連続して剝取
J－1住	8	凹石	An	下層	8.9	7.7	6.0	591.82	両面とも2凹やや浅い・両面とも丸磨
J－1住	9	磨石	An	2区下層	〈7.4〉	8.6	5.0	401.01	1/3欠損・全体にヒビ・全体的に弱い磨・表裏面ともに磨
J－2住	1	石核B	Sh	1区下層	5.1	6.6	2.8	105.54	1面の打面から小剝片を連続して剝取
J－3住	1	石錐	Ob	下層	1.6	1.8	0.4	0.92	T字型つまみ整形・錐部断面ほぼ菱形・両面調整
J－3住	2	石核B	Sh	拡張上層	8.1	9.5	3.8	351.77	礫の周囲から剝片剝離・一部に自然面
J－4住	1	石鏃	Sh	4区中層	〈2.4〉	2.0	0.6	1.32	先端と脚端を欠損・片面押圧剝離・中央部厚い
J－4住	2	スクレイパーB	Sh	4区中層	5.5	4.3	1.8	42.76	刃部両面調整・素材にヒンジフラクチャー
J－4住	3	石棒	Sc	JD－47	13.1	3.5	3.2	185.20	下半欠損・全磨・頭部がよく磨られている
J－4住	4	磨石	An	1区中層	10.8	6.3	4.2	463.20	表裏面とも弱い磨・上下両端に敲打痕
J－4住	5	凹石	An	4区上層	14.1	8.0	4.5	906.32	表面は連続する浅い凹・裏面は1凹・両面とも磨・裏面両側は特によく磨
J－4住	6	凹石	An	3区下層	10.6	8.8	4.8	491.35	表面に深凹と浅凹多・裏面2凹・一部欠損（剝）・両面磨・レンズ状
J－5住	1	石鏃	Ob(半分透明)	36	1.8	〈1.40〉	0.4	0.66	基部抉入・ややねじれのある剝片素材 片脚欠損・押圧による両面調整
J－5住	2	スクレイパーA	Ch	79	2.7	1.6	0.9	3.00	表面左側は折断もしくは欠損・刃部は両面調整
J－5住	3	石核A	Ob	－	2.1	2.7	1.3	7.21	単面打面・90～180°打面転移
J－5住	4	石核B	Sh	100	9.3	10.4	5.4	625.59	全体的に自然面が残る・数回の剝片剝取
J－5住	5	凹石	An	床直	10.1	5.4	4.1	357.15	表面のみ浅い凹・頭部や周縁に数カ所敲打痕・全体的に弱い磨
J－5住	6	凹石	An	132	〈7.2〉	8.1	3.8	315.12	下1/3欠損・片面に浅い凹・その他自然面の凹みか敲打痕か分からない 全面磨・よく磨かれている・断面をほぼレンズ状に整形
J－5住	7	石皿（破片）	Sc	№25	〈24.2〉	〈15.3〉	〈5.3〉	3039.46	平らな台石状・擂鉢状のくぼみ一部・裏面はフラット
J－6住	1	石核	Ob	2区下層	2.1	3.3	1.1	6.06	90～180°打面転移をくり返し
J－6住	2	凹石	An	9	11.5	9.2	4.2	565.18	表面のみ2凹（深と浅）・自然面の小凹が多く敲打痕と区別が難 裏面の縁辺付近がよく磨
J－8住	1	ピエス・エスキーユ	BAn	床直	2.8	2.2	0.7	5.97	折断剝片・上下縁剝離・縁辺潰れ
J－9住	1	ピエス・エスキーユ	Ob	11	2.9	1.2	0.8	2.62	上下両端縁潰れ・側縁に微細剝離
J－9住	2	石核B	Sh	49	11.1	4.9	3.3	223.17	片面は自然面・主要剝離の打面除去・小剝片を剝取
J－9住	3	石核B	Sh	4区下層	7.3	8.5	2.9	218.66	自然面を打面とする主要剝離の剝片素材小剝片を連続して剝取　折断面あり
J－9住	4	凹石	An	37	〈10.3〉	7.4	4.3	524.43	1/3欠損・表面のみ3凹・凹が浅い・全体的に弱い磨
J－9住	5	石皿（破片）	Sc	61・79	〈11.8〉	〈8.6〉	〈3.8〉	475.30	隅丸長方形・磨面はかなり薄くなっている・裏面は多孔石
J－11住	1	石錐	Ob	H－－15c	1.9	0.9	0.4	0.52	剝片端縁に微細な加工・片面調整
J－11住	2	ピエス・エスキーユ	Ob	I－146	1.8	1.6	0.8	2.13	節理の縞模様・上下縁辺と左側縁が潰れ
J－11住	3	石核A	Ob	I－156	2.6	3.6	1.4	11.22	90°打転して剝片剝取
J－11住	4	スクレイパーB	Sh	193	8.5	5.9	2.2	105.49	自然面と打面を残す・自然面側から調整・一部両面調整
J－11住	5	スクレイパーB	Sh	№180	9.0	7.2	2.5	193.05	刃部は両面調整・自然面及び打面を残す
J－11住	6	凹石	An	I－14a	11.2	7.2	4.7	520.30	表裏面とも2凹・表裏面とも弱い磨・片側面だけ面取り
J－11住	7	凹石	An	I－15a	9.7	8.5	4.8	517.50	表裏面とも2凹・表裏面とも強い磨
J－11住	8	磨製石斧	GrR	I－14a	〈7.6〉	4.5	3.3	188.84	上下欠損・定角・部厚い・偏った丸味
J－12住	1	石錐	Ob	G－14c	1.8	1.3	0.6	0.91	全体三角形・つまみ部無整形・錐部断面三角・縁辺片面調整
J－12住	2	石核A	Ob	I－15c	6.9	3.8	3.9	64.45	90～180°打面転移
J－14住	1	ピエス・エスキーユ	Ob(筋入り)	下層	2.8	2.7	1.0	8.64	裏は節理面か？・下縁と側縁に潰れぎみの小剝離
J－14住	2	石核B	Sh	直	9.2	12.0	7.9	1023.67	表裏面とも自然面を残す・円礫を素材・打面作出後数回剝片剝取 裏面等は90°と180°打面転移して剝取
J－14住	3	凹石	An	床直	11.3	6.4	3.5	401.38	表面のみ2凹・表面は弱い磨・周囲特に下面に敲打痕

第29表　石器観察表

〈 〉残存値　（ ）推定値

住居番号	図版番号	器　種	石　材	出土位置	計測値				備　考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
J—14住	4	磨石	An	床直	10.4	6.7	4.0	482.17	表面は弱い磨・裏面はくぼんでいるが自然面
J—14住	5	石皿（台石）	Sc	床直	〈30.4〉	〈12.9〉	5.5	2761.27	平坦面に磨痕・裏面残存部にも磨痕
J—15住	1	石錐	Sh	2区中層	4.5	1.8	0.7	4.04	完形・つまみ部両側折断・錐身部断面ほぼレンズ形・先端潰れ
J—15住	2	石錐	Ch	2区上層	(3.9)	2.8	1.1	8.65	先端欠損・素材つまみ・錐身断面ほぼ菱形
J—15住	3	石鏃	Ob(一部透明)	4区中層	1.7	1.4	0.3	0.53	基部若干凹・押圧による両面調整
J—15住	4	石鏃	Sh	2区中層	2.9	1.9	0.3	1.43	片脚端欠損・薄い剥片の周縁を調整
J—15住	5	石鏃	Ob(透明)	4区中層	〈1.4〉	1.6	0.4	0.73	1/2欠損・基部抉入・押圧による両面調整
J—15住	6	スクレイパーA	Ob	1区上層	1.7	2.3	0.7	2.14	打面除去・両側縁に微細な調整
J—15住	7	ピエス・エスキーユ	Ob	1区上層	1.7	1.4	0.6	1.07	上下から剥離・端縁潰れ
J—15住	8	スクレイパーA	Ob	2区中層	2.5	2.0	0.8	3.46	片面調整・細かい調整刃部
J—15住	9	スクレイパーA	Ob	3区下層	2.3	2.7	0.8	3.66	頭部礫面・側縁に片面調整の刃部・端縁に刃こぼれ状の微細剥離
J—15住	10	石核A	Ob	下層	3.6	3.6	2.9	33.57	3回以上同一方向から剥片剥取
J—15住	11	石核A	Ob	4区中層	2.2	3.1	2.9	16.62	数回の剥片剥取
J—15住	12	石核A	Ob	4区上層	3.3	2.9	1.8	16.00	裏はザラザラな自然面・同一方向から数回の剥取
J—15住	13	スクレイパーB	Sh	1区上層	6.5	4.9	1.1	40.98	全体的に片面調整で刃部作出・一部両面調整
J—15住	14	スクレイパーB	An	4区中層	7.4	4.3	1.0	30.00	横長剥片素材・片縁：両面調整・片縁：片面調整
J—15住	15	凹石	An	2区中層	8.9	6.8	5.0	511.33	隅丸長方形に整形・表裏面磨・表裏面及び両側面に2つずつ凹あり
J—15住	16	凹石	An	3区中層	8.7	7.3	3.8	359.97	表裏面とも凹あり・ほぼ全面磨・表裏の中央部が特によく磨
JD—6	1	石鏃	Ch	—	2.1	1.3	0.3	0.66	基部抉入・押圧剥離による両面調整
JD—33	1	石錐	Ob	下層	2.8	0.9	0.6	1.13	つまみ無し・錐部断面台形・両面調整

第30表　石器観察表

			J－1号住	J－2号住	J－3号住	J－4号住	J－5号住	J－6号住	J－7号住	J－8号住	J－9号住	J－10号住	J－11・12号住								
													G－14c	G－14d	G－15c	H－14a	H－14b	H－14c	H－14d	H－15a	H－15b
A類	石器類	石　鏃	3		1	1	1	1													
		石鏃未成品									1										
		石　錐			1								1								
		RFA	19			1	4	1		2	6				1		1		1		
		SCA	4				3	1		1										1	
		楔形石器								1	1										
	剥片類	FLA	115	14	17	41	25	76	11	58	14		4		6	1	2	3	3	1	
	石　核	石核A類	3			3	3	1			1							1		1	
	原　石	原石A類																			
B類	石器類	打製石斧									1										
		SCB	5	1	1	6	2										1			1	
	剥片類	FLB	53	7	5	63	21	4	3	2	5					1	2	3	2	1	
	石　核	石核B類	2	1	1		1				2									1	
C1類	C1類	凹　石	1		1	8	2	1			1										
		石　皿	1			1	2				1										
		磨　石	2			8	1	1			1			3							
C2類	C2類	砥　石																			
		敲　石																			
		台　石																			
D類	石　器	棒状礫	2			3	3														
		石　棒				1															
E類	石器類	磨製石斧																			
	剥片類	FLE																			
F類	F類	軽　石																			
個数合計			210	23	27	136	68	86	14	64	34	0	5	3	7	2	5	7	6	6	0

			J－11・12号住												J－13号住	J－14号住	J－15号住	JD－4	JD－5	JD－6	JD－8・9
			H－15c	H－15d	I－14a	I－14b	I－14c	I－14d	I－15a	I－15b	I－15c	I－15d	J－15a	J－16a							
A類	石器類	石　鏃															6			1	
		石鏃未成品															5				
		石　錐	1														2				
		RFA		1	1				1	1						1	70		1	2	
		SCA								1						1	17				
		楔形石器															2				
	剥片類	FLA	1		5	3		6	4	4	9	2	1	1	2	19	137	2	8	2	
	石　核	石核A類		1		1			1	1	2						40	1			
	原　石	原石A類															2				
B類	石器類	打製石斧																			
		SCB			1	2		2									14		1		
	剥片類	FLB	1	1		1		2	5	1	4		1			12	243			2	1
	石　核	石核B類														4	5				
C1類	C1類	凹　石			1				1		1					4	9				
		石　皿														1	3			1	
		磨　石							1	1	2					4	14				

第31表　石器器種組成

			J—11・12号住												J—13号住	J—14号住	J—15号住	JD—4	JD—5	JD—6	JD—8・9
			H—15c	H—15d	I—14a	I—14b	I—14c	I—14d	I—15a	I—15b	I—15c	I—15d	J—15a	J—16a							
C2類	C2類	砥石																			
		敲石																			
		台石																			
D類	石器	棒状礫															1				
		石棒																			
E類	石器類	磨製石斧			1																
	剥片類	FLE															2				
F類	F類	軽石																			
個数合計			3	3	9	6	0	10	13	9	18	2	3	1	2	46	572	3	10	8	1

			JD—12	JD—16	JD—21	JD—25	JD—28	JD—29	JD—30	JD—31	JD—33	JD—36	JD—37	JD—38	JD—40	JD—41	JD—44	JD—51	JD—55	JD—56	グリッド
A類	石器類	石鏃																			4
		石鏃未成品											1								
		石錐									1				1						
		RFA						1			1										14
		SCA																		1	3
		楔形石器																			
	剥片類	FLA		2				7	5	8	5	2	4		6				3	3	700
	石核	石核A類								1	3								1		10
	原石	原石A類						1													
B類	石器類	打製石斧																			6
		SCB	1										2			1					9
	剥片類	FLB	5		3	1		6		1			12			1	1			3	96
	石核	石核B類							1				1								
C1類	C1類	凹石																			
		石皿								1			1								1
		磨石																			
C2類	C2類	砥石																			
		敲石																			
		台石																			
D類	石器	棒状礫																			1
		石棒																			
E類	石器類	磨製石斧																			
	剥片類	FLE																			
F類	F類	軽石																			
個数合計			6	2	3	1	0	15	6	11	10	2	21	0	7	2	1	0	4	7	844

第32表　石器器種組成

		黒曜石	チャート	黒色安山岩	頁　岩	安山岩	緑色岩類	不　明	個数合計	重量合計(g)
J－1号住	点数	144			58	6	2		210	
	重量(g)	133.0			1114.6	1792.7	146.4			3186.7
J－2号住	点数	12	2		9				23	
	重量(g)	5.2	7.5		273.2					285.9
J－3号住	点数	18	1		7	1			27	
	重量(g)	7.3	1.7		834.7	742.5				1586.2
J－4号住	点数	38	7		68	19	4		136	
	重量(g)	28.4	60.1		1229.2	10865.6	710.8			12894.1
J－5号住	点数	33	3		22	8		2	68	
	重量(g)	64.2	18.9		1051.9	4455.3		139.8		5730.1
J－6号住	点数	79	1		3	3			86	
	重量(g)	47.1	0.9		76.8	1020.1				1144.9
J－7号住	点数	11			3				14	
	重量(g)	9.4			5.2					14.6
J－8号住	点数	58	3		2	1			64	
	重量(g)	10.6	10.0		40.4	6.0				67.0
J－9号住	点数	23			8	2	1		34	
	重量(g)	32.7			662.3	844.3	475.2			2014.5
J－10号住	点数								0	
	重量(g)									0
J－11・12号住	点数	5							5	
G－14c	重量(g)	1.4								1.4
J－11・12号住	点数					3			3	
G－14d	重量(g)					1340.3				1340.3
J－11・12号住	点数	7							7	
G－15c	重量(g)	3.9								3.9
J－11・12号住	点数	1			1				2	
H－14a	重量(g)	2.0			2.6					4.6
J－11・12号住	点数	3			2	1			5	
H－14b	重量(g)	5.4			33.6	47.3				60.4
J－11・12号住	点数	4			3				7	
H－14c	重量(g)	5.8			42.7					48.5
J－11・12号住	点数	4			1	1			6	
H－14d	重量(g)	2.9			7.0	75.0				84.9
J－11・12号住	点数	3			2	1			6	
H－15a	重量(g)	4.5			81.1	260.2				345.8
J－11・12号住	点数								0	
H－15b	重量(g)									0
J－11・12号住	点数	2			1				3	
H－15c	重量(g)	0.7			1.8					2.5
J－11・12号住	点数	2			1				3	
H－15d	重量(g)	3.9			8.6					12.5
J－11・12号住	点数	6			1	1	1		9	
I－14a	重量(g)	4.1			22.9	520.0	188.8			735.8
J－11・12号住	点数	3	1		2				6	
I－14b	重量(g)	3.4	2.2		32.4					38.0
J－11・12号住	点数								0	
I－14c	重量(g)									0
J－11・12号住	点数	6			4				10	
I－14d	重量(g)	3.5			314.5					318.0
J－11・12号住	点数	5	1		5	2			13	
I－15a	重量(g)	6.8	13.9		81.5	1371.2				1473.4
J－11・12号住	点数	7			1	1			9	
I－15b	重量(g)	28.8			15.4	214.7				258.9
J－11・12号住	点数	10	1		4	3			18	
I－15c	重量(g)	69.0	0.6		27.2	925.0				1021.8
J－11・12号住	点数	2							2	
I－15d	重量(g)	2.8								2.8
J－11・12号住	点数	1			1				2	
J－15a	重量(g)	5.3			8.3					34.2
J－11・12号住	点数	1							1	
J－16a	重量(g)	1.3								1.3
J－13号住	点数	2							2	
	重量(g)	2.5								2.5
J－14号住	点数	21		1	14	9	1		46	
	重量(g)	21.5		462.4	1653.0	4064.9	2761.6			8963.4
J－15号住	点数	245	34		251	39	3		572	
	重量(g)	506.6	227.7		4001.0	9030.1	380.9			14146.3

第33表　石器石材個数重量組成

		黒曜石	チャート	黒色安山岩	頁　岩	安山岩	緑色岩類	不　明	個数合計	重量合計(g)
JD－4	点数	3							3	
	重量(g)	12.2								12.2
JD－5	点数	9			1				10	
	重量(g)	4.5			23.1					27.6
JD－6	点数	3	2		1	2			8	
	重量(g)	3.1	8.5		45.1	2526.4				2583.1
JD－8・9	点数				1				1	
	重量(g)				13.6					13.6
JD－12	点数				6				6	
	重量(g)				120.4					120.4
JD－16	点数	1	1						2	
	重量(g)	1.2	1.4							2.6
JD－21	点数				3				3	
	重量(g)				24.5					24.5
JD－25	点数				1				1	
	重量(g)				6.5					6.5
JD－28	点数								0	
	重量(g)									0
JD－29	点数	8	1		2	4			15	
	重量(g)	4.7	153.9		16.7	78.5				253.8
JD－30	点数	5			1				6	
	重量(g)	5.0			195.1					200.1
JD－31	点数	8	1		1	1			11	
	重量(g)	9.0	0.8		7.6	2197.5				2214.9
JD－33	点数	10							10	
	重量(g)	22.5								22.5
JD－36	点数	2							2	
	重量(g)	2.8								2.8
JD－37	点数	5			14	2			21	
	重量(g)	2.7			329.5	467.7				799.9
JD－38	点数								0	
	重量(g)									0
JD－40	点数	7							7	
	重量(g)	7.7								7.7
JD－41	点数				2				2	
	重量(g)				9.1					9.1
JD－44	点数				1				1	
	重量(g)				5.8					5.8
JD－51	点数								0	
	重量(g)									0
JD－55	点数	4							4	
	重量(g)	14.4								14.4
JD－56	点数	4			3				7	
	重量(g)	4.3			17.6					21.9
グリッド	点数	714	13		107	8	2		844	
	重量(g)	425.9	46.9		1794.2	1372.8	19.5			3659.3

第34表　石器石材個数重量組成

H－2号住

（ ）残存値

No.	器種	出土位置	法量(cm)	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	下層	口 13.4 底 8.0 高 3.3	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰白色 焼 良	1/2
2	須恵器 坏	下層	口 12.3 底 7.0 高 2.9	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰白色 焼 良	1/4
3	須恵器 坏	上層	口 15.3 底 7.8 高 3.6	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰白色 焼 良	1/4
4	須恵器 坏	上層	口 — 底 8.1 高 (1.4)	外面：体下部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：体下部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	体下部～底部の1/3 外面底部に重ね焼き痕有り
5	須恵器 高台付坏	カマド内	口 — 底 7.8 高 (2.0)	外面：体下部回転横撫で　底部回転糸切り後付高台 内面：体下部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	体下部～底部の1/6
6	須恵器 坏	上層	口 12.4 底 — 高 (3.4)	外面：口縁部～体部回転横撫で 内面：口縁部～体部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰白色 焼 良	口縁部～体部の1/10

H－3号住

（ ）残存値

No.	器種	出土位置	法量(cm)	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 坏	カマド上面	口 13.2 底 7.8 高 4.4	外面：口辺部横撫で　体部横・斜方向篦削り　底部篦削り 内面：口縁部～体部横撫で後篦磨き　底部撫で	胎 砂粒を少量含む 色 にぶい赤褐色 焼 良	完形 歪み有り 内外面口縁部に煤付着
2	須恵器 坏	東西ベルト下層	口 12.5 底 8.5 高 3.5	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り後撫で 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 外面：緑灰色 内面：灰白色 焼 良	完形

H－4号住

（ ）残存値

No.	器種	出土位置	法量(cm)	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	1区下層	口 13.6 底 7.6 高 (3.2)	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	1/7
2	須恵器 坏	1区下層	口 — 底 7.0 高 (1.2)	外面：体下部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：体下部～底部回転横撫で	胎 砂粒を多量に含む 小石を含む 色 灰色 焼 良	体下部～底部の1/2 外面底部の切り離しは一度糸切りをした後に粘土を貼付して再度糸切りをした痕跡有り
3	須恵器 坏	4区下層	口 — 底 7.5 高 (1.1)	外面：体下部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：体下部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰白色 焼 やや不良	体下部～底部の1/2 外面体下部の一部に重ね焼き痕有り
4	須恵器 高台付碗	2区上層 2区下層	口 15.0 摘 7.8 高 5.7	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り後付高台 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を少量含む 色 灰白色 焼 良	2/3 内外面共に底部に重ね焼き痕有り
5	須恵器 高台付碗	2区下層	口 — 底 8.0 高 (3.7)	外面：体下部回転横撫で　底部回転糸切り後付高台 内面：体下部～底部回転横撫で	胎 砂粒・小石を含む 色 灰白色 焼 良	体下部～底部の1/3
6	須恵器 高台付碗	1区下層	口 — 底 — 高 (2.8)	外面：体下部回転横撫で　底部回転糸切り後付高台 内面：体下部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	体下部～底部の1/3
7	須恵器 高台付碗	南北ベルト上層	口 — 底 — 高 (2.5)	外面：体下部回転横撫で　底部回転糸切り後付高台 内面：体下部～底部回転横撫で	胎 砂粒・小石を含む 色 外面：灰色 内面：灰白色 焼 良	体下部～底部の1/2
8	須恵器 坏	2区上層	口 12.8 底 — 高 (2.8)	外面：口縁部～体部回転横撫で 内面：口縁部～体部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰褐色 焼 不良	口縁部～体部の1/6
9	須恵器 坏	2区下層	口 12.6 底 — 高 (3.2)	外面：口縁部～体部回転横撫で 内面：口縁部～体部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	口縁部～体部の1/8
10	須恵器 坏	カマド	口 14.4 底 — 高 (4.6)	外面：口縁部～体部回転横撫で 内面：口縁部～体部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	口縁部～体部の1/5
11	須恵器 蓋	カマド内	口 14.6 摘 — 高 (1.4)	外面：口辺部回転横撫で 内面：口辺部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰白色 焼 良	口辺部の1/10
12	須恵器 蓋	1区下層	口 11.6 摘 — 高 (1.8)	外面：天井部～口縁部回転横撫で 内面：天井部～口縁部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	天井部～口縁部の1/8
13	須恵器 蓋	—	口 — 摘 — 高 (2.9)	外面：天井部～口辺部回転横撫で 内面：天井部～口辺部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰白色 焼 やや不良	天井部～口辺部の1/6

第35表　出土遺物観察表

（ ）残存値

No.	器種	出土位置	法量(cm)	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
14	須恵器 甕	D－2一括	口 — 底 16.0 高 (16.8)	外面：胴中央部平行叩き後回転横撫で　底部磨滅が著しく調整不明 内面：胴中央部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を少量含む 色 灰白色 焼 良	胴中央部～底部の1/3 内面に工具痕有り
15	須恵器 甕	2区上層	口 25.8 底 — 高 (7.6)	外面：口縁部～頸部回転横撫で 内面：口縁部～頸部回転横撫で	胎 砂粒・小石を含む 色 灰色 焼 良	口縁部～頸部の1/10

H－7号住

（ ）残存値

No.	器種	出土位置	法量(cm)	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	西側	口 12.6 底 8.2 高 3.9	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転篦切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 外面：青灰色 内面：にぶい褐色 焼 不良	口縁部の一部～底部の2/3 外面底部に重ね焼き痕有り 外面底部に粘土の融着有り
2	須恵器 坏	一括	口 12.4 底 7.4 高 4.2	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転篦切り後撫で 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒・小石を含む 色 灰色 焼 やや不良	1/3
3	須恵器 蓋	一括 床直	口 13.2 摘 2.6 高 2.7	外面：回転横撫で　天井部回転篦削り　リング状摘み貼付 内面：口縁部～天井部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰白色 焼 良	2/3 外面口縁部と内面に重ね焼き痕有り
4	須恵器 蓋	西側上層	口 18.2 摘 5.5 高 4.0	外面：回転横撫で　天井部回転篦削り　リング状摘み貼付 内面：口縁部～天井部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	1/4 外面口縁部に重ね焼き痕有り
5	土師器 甕	西側上層	口 21.0 底 — 高 (12.1)	外面：口辺部横撫で　胴上部横方向篦削り　胴中央部斜方向篦削り 内面：口辺部横撫で　胴上部～胴中央部横方向篦撫で	胎 砂粒を多量に含む 色 明赤褐色 焼 良	口縁部～胴中央部の1/4

H－8号住

（ ）残存値

No.	器種	出土位置	法量(cm)	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	一括	口 11.4 底 6.6 高 3.5～3.7	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転篦切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	3/4 歪み有り 外面体部に粘土融着
2	土師器 甕	一括	口 20.8 底 — 高 (8.8)	外面：口辺部横撫で　胴上部横方向篦削り 内面：口辺部横撫で　胴上部斜方向篦撫で	胎 砂粒を多量に含む 小石を含む 色 明赤褐色 焼 良	口縁部～胴上部の1/2

H－10号住

（ ）残存値

No.	器種	出土位置	法量(cm)	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 小型台付甕	カマド内	口 — 底 6.6 高 (6.2)	外面：胴下部斜方向篦削り　脚部横撫で 内面：胴下部～底部不定方向篦撫で　脚部横撫で	胎 細砂粒を少量含む 色 褐色 焼 良	胴下部～脚部の1/2
2	須恵器 坏	南北ベルト下層	口 12.6 底 7.6 高 3.2～3.5	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を含む 色 灰褐色 焼 良	完形 歪み有り
3	須恵器 坏	カマド内 1区下層 1区中層 2区中層	口 12.0 底 7.4 高 3.2	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を含む 色 灰褐色 焼 良	口縁部の一部～底部の1/2
4	須恵器 坏	D－2 東西ベルト下層 2区中層	口 12.9 底 7.9 高 2.8～3.2	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を含む 色 灰白色 焼 やや不良	2/3 歪み有り
5	須恵器 坏	3区 4区上層	口 13.1 底 7.4 高 3.0～3.4	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒を少量含む 色 灰褐色 焼 良	口縁部の一部～底部 歪み有り
6	須恵器 坏	1区中層	口 13.4 底 7.2 高 3.7	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を含む 色 外面：黒色 内面：灰白色 焼 良	2/3
7	須恵器 坏	4区中層	口 13.1 底 7.4 高 3.4～3.6	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を少量含む 色 外面：灰色 内面：明褐灰色 焼 やや不良	口縁部の1/3～底部 内面口縁部と外面体部～底部に重ね焼き痕有り 歪み有り
8	須恵器 坏	2区中層	口 14.0 底 7.4 高 3.4～4.0	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を多量に含む 色 灰褐色 焼 良	完形 歪み有り

第36表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	器種	出土位置	法量(cm)	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
9	須恵器 坏	4区中層	口 13.4 底 7.0 高 3.1～3.3	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を少量含む 色 灰白色 焼 良	2/3 歪み有り
10	須恵器 坏	1区中層	口 12.4 底 7.4 高 3.1	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を含む 色 灰色 焼 良	1/3
11	須恵器 坏	土坑1 4区中層 3区中層 1区中層	口 14.0 底 — 高 (3.5)	外面：口縁部～体部回転横撫で 内面：口縁部～体部回転横撫で	胎 細砂粒を含む 色 灰色 焼 良	口縁部～体部の1/3
12	須恵器 高台付碗	南北ベルト下層 2区	口 13.8 底 — 高 (5.1)	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を少量含む 色 灰褐色 焼 良	口縁部の1/3～底部
13	須恵器 高台付碗	東西ベルト中層	口 15.0 底 7.8 高 6.5	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り後付高台 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒・小石を含む 色 灰褐色 焼 良	口縁部の一部～底部
14	須恵器 高台付碗	2区中層 カマド内 2区上層 3区上層	口 16.0 底 9.6 高 6.3	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り後付高台 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を含む 色 灰色 焼 良	1/3 外面口辺部に指頭圧痕有り
15	須恵器 高台付碗	東西ベルト上層 1区上層 1区中層 4区上層	口 14.2 底 8.2 高 6.5	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り後付高台 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を多量に含む 色 灰色 焼 良	1/2 外面残存部のほぼ全面に自然灰釉付着
16	須恵器 高台付碗	4区中層	口 15.0 底 8.0 高 6.5	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り後付高台 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を含む 色 灰色 焼 良	口縁部の一部～底部 内外面底部と内面体部に重ね焼き痕有り
17	土師器 甕	3区下層	口 18.8 底 — 高 (6.0)	外面：口辺部横撫で　胴上部横方向篦削り 内面：口辺部横撫で　胴上部横方向篦撫で	胎 砂粒を含む 色 にぶい褐色 焼 良	口縁部～胴上部の1/4 外面頸部に輪積痕顕著
18	土師器 甕		口 19.2 底 — 高 (7.0)	外面：口辺部横撫で　胴上部横方向篦削り 内面：口辺部横撫で　胴上部横・斜方向篦撫で	胎 砂粒を少量含む 色 赤褐色 焼 良	口縁部～胴上部の1/3 外面頸部に輪積痕顕著 外面頸部に指頭圧痕有り
19	土師器 甕	3区中層	口 21.8 底 — 高 (13.0)	外面：口辺部横撫で　胴上部～胴中央部横・斜方向篦削り 内面：口辺部横撫で　胴上部～胴中央部横方向篦撫で	胎 細砂粒を含む 色 橙色 焼 良	口縁部～胴中央部の1/3
20	土師器 甕	—	口 19.8 底 — 高 (6.0)	外面：口辺部横撫で　胴上部横方向篦削り 内面：口辺部横撫で　胴上部横方向篦撫で	胎 細砂粒を少量含む 色 淡橙色 焼 良	口縁部～胴上部の1/2
21	須恵器 小型甕	4区中層 1区中層	口 11.5 底 7.5 高 12.2	外面：口辺部横撫で　胴部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	ほぼ完形 内面に煤付着 外面に重ね焼き痕有り

H—13号住

（　）残存値

No.	器種	出土位置	法量(cm)	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 坏	2区下層	口 12.4 底 8.2 高 4.1	外面：口辺部横撫で　体部横方向篦削り　底部篦削り 内面：口縁部～体部横撫で　底部撫で	胎 砂粒を含む 色 橙色 焼 やや不良	完形 外面底部に煤付着
2	土師器 碗	2区下層	口 19.6 底 — 高 (7.8～8.2)	外面：口辺部横撫で　体部横・斜方向篦削り 内面：口縁部～体中央部横撫で　体下部横・斜方向篦撫で	胎 砂粒を含む 色 にぶい黄橙色 焼 良	口縁部～体下部の1/2 歪み有り
3	須恵器 坏	2区下層	口 13.2 底 6.0 高 3.6	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を少量含む 色 灰白色 焼 良	2/3 外面体部～底部に重ね焼き痕有り
4	須恵器 坏	2区下層	口 12.8 底 6.0 高 3.6	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 外面：明褐灰色 内面：黒色 焼 不良	口縁部の1/3～底部
5	須恵器 坏	2区下層	口 13.8 底 7.6 高 3.5	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を含む 色 灰白色 焼 良	ほぼ完形 内外面に重ね焼き痕有り 黒色鉱物を多量に含む

H—14号住

（　）残存値

No.	器種	出土位置	法量(cm)	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器 坏	南北ベルト	口 11.8 底 7.9 高 4.5	外面：口辺部横撫で　体部横方向篦削り・単位不明瞭底部篦削り 内面：口縁部～体部横撫で　底部撫で	胎 細砂粒を多量に含む 色 橙色 焼 やや不良	4/5 内外面共に磨滅
2	須恵器 坏	2区下層	口 9.7 底 5.8 高 3.0	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰白色 焼 やや不良	口縁部の一部～底部 重ね焼き痕有り

第37表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	器種	出土位置	法量(cm)	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
3	須恵器 坏	2区下層	口 11.4 底 7.6 高 3.3	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を多量に含む 色 灰色 焼 良	1/3
4	須恵器 坏	3区上層 2区下層	口 14.0 底 8.6 高 3.4	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 外面：灰白色～灰色 内面：灰白色 焼 良	1/3 重ね焼き痕有り
5	須恵器 坏	4土坑	口 12.6 底 7.2 高 3.5	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を少量含む 色 灰色 焼 良	1/3
6	須恵器 坏	1区床直	口 13.6 底 7.6 高 2.9	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を少量含む 色 灰色 焼 良	口縁部の1/8～底部の2/3 重ね焼き痕有り 自然灰釉付着 歪み有り
7	須恵器 坏	2区下層	口 7.0 底 8.0 高 3.4～3.5	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を含む 色 灰褐色 焼 不良	4/5 歪み有り
8	須恵器 坏	4区下層	口 13.0 底 8.0 高 3.1	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を少量含む 色 外面：浅黄橙色～灰色 内面：浅黄橙色～灰黄色 焼 不良	1/2 重ね焼き痕有り
9	須恵器 坏	2区下層	口 14.5 底 8.4 高 3.0～3.5	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を含む 色 外面：灰白色～灰色 内面：灰色 焼 良	4/5 歪み有り 重ね焼き痕有り
10	須恵器 坏	6号土坑 4土坑	口 13.6 底 8.8 高 3.0	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 細砂粒を多量に含む 色 灰色 焼 良	1/5 内面口縁部～体部に重ね焼き痕有り
11	須恵器 坏	1区下層	口 13.2 底 — 高 (2.8)	外面：口縁部～体下部回転横撫で 内面：口縁部～体下部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	口縁部～体下部の1/8
12	須恵器 坏	3区上層	口 13.4 底 8.0 高 3.0	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	1/6 外面体部に自然灰釉付着
13	須恵器 坏	2区下層	口 12.2 底 — 高 (3.4)	外面：口縁部～体部回転横撫で 内面：口縁部～体部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	口縁部～体部の1/6
14	須恵器 坏	4土坑 カマド内	口 12.8 底 — 高 (3.0)	外面：口辺部回転横撫で 内面：口辺部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰白色 焼 良	口辺部の1/4
15	須恵器 坏	3区上層	口 15.2 底 — 高 (3.7)	外面：口縁部～体下部回転横撫で 内面：口縁部～体下部回転横撫で	胎 細砂粒を含む 色 灰色 焼 良	口縁部～体下部の1/10
16	須恵器 坏	南北ベルト下層	口 16.2 底 — 高 (3.7)	外面：口縁部～体中央部回転横撫で 内面：口縁部～体中央部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 外面：暗灰色 内面：灰白色 焼 良	口縁部～体中央部の1/8 重ね焼き痕有り
17	須恵器 坏	2区下層	口 12.0 底 — 高 (3.5)	外面：口縁部～体下部回転横撫で 内面：口縁部～体下部回転横撫で	胎 細砂粒を含む 色 外面：灰色 内面：灰白色 焼 良	口縁部～体下部の1/12 重ね焼き痕有り
18	須恵器 坏	カマド上面	口 13.4 底 — 高 (1.6)	外面：口辺部回転横撫で 内面：口辺部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰色 焼 良	口辺部の1/7
19	須恵器 小型甕	1区下層	口 11.2 底 6.0 高 3.7	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰白色 焼 良	1/5 内面口縁部に重ね焼き痕有り
20	須恵器 坏	2区下層	口 — 底 7.4 高 (1.9)	外面：体下部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：体下部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰白色 焼 良	体下部～底部の1/4
21	須恵器 坏	3区下層	口 — 底 7.0 高 (1.6)	外面：体下部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：体下部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 外面：灰色 内面：灰黄色 焼 やや不良	体下部～底部の1/2 外面底部に重ね焼き痕有り 内面に墨書か
22	須恵器 坏	3区下層	口 — 底 9.4 高 (2.4)	外面：体下部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：体下部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰白色 焼 良	体下部～底部の1/3 外面に重ね焼き痕有り
23	須恵器 坏	南北ベルト上層	口 — 底 7.8 高 (1.0)	外面：体下部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：体下部～底部回転横撫で	胎 砂粒を含む 色 灰白色 焼 やや不良	体下部～底部の1/4 外面に重ね焼き痕有り

第38表　出土遺物観察表

（　）残存値

No.	器種	出土位置	法量(cm)	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
24	須恵器 坏	2区下層	口　— 底　7.8 高　(1.3)	外面：体下部回転横撫で　底部回転糸切り 内面：体下部～底部回転横撫で	胎　砂粒を含む 色　外面：暗灰色 内面：浅黄橙色 焼　やや不良	体下部～底部の3/4 重ね焼き痕有り
25	須恵器 坏	2区下層	口　— 底　7.2 高　(0.9)	外面：体下部回転横撫で　底部篦切り 内面：体下部～底部回転横撫で	胎　細砂粒を含む 色　外面：灰白色～灰色 内面：灰白色 焼　やや不良	体下部～底部の1/2 重ね焼き痕有り 外面底部切り離し後再度粘土を貼付する
26	須恵器 高台付坏	4区下層 7号土坑	口　11.6 底　7.2 高　4.8	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り後付高台 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎　細砂粒を含む 色　灰色 焼　良	ほぼ完形
27	須恵器 高台付碗	4区下層	口　11.8 底　7.2 高　4.7	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部切り離し後付高台 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎　細砂粒を多量に含む 色　灰色 焼　良	3/4
28	須恵器 高台付碗	土坑	口　15.8 底　9.2 高　5.4	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り後付高台 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎　細砂粒を少量含む 色　外面：灰色 内面：灰白色 焼　良	3/4 内面底部に他遺物融着 重ね焼き痕有り
29	須恵器 高台付坏	1区	口　14.6 底　— 高　(4.2)	外面：口縁部～体部回転横撫で　底部回転糸切り後付高台 内面：口縁部～底部回転横撫で	胎　細砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	1/4
30	須恵器 蓋	2区上層	口　14.5 摘　— 高　(1.7)	外面：口辺部回転横撫で 内面：口辺部回転横撫で	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	口辺部の1/8 重ね焼き痕有り
31	須恵器 蓋	2区上層	口　13.8 摘　— 高　(2.2)	外面：口辺部回転横撫で 内面：口辺部回転横撫で	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	口辺部の1/8
32	須恵器 蓋	H—14号住一括	口　— 摘　— 高　(1.8)	外面：天井部～体部回転横撫で 内面：天井部～体部回転横撫で	胎　細砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	天井部～体部の 重ね焼き痕有り
33	土師器 甕	カマド内一括	口　19.5 底　— 高　(16.2)	外面：口辺部横撫で　胴上部横方向篦削り　胴中央部縦方向篦削り 内面：口辺部横撫で　胴上部～胴中央部斜方向篦撫で	胎　砂粒を多量に含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～胴中央部 外面口辺部に指頭圧痕有り
34	土師器 甕	カマド内	口　21.2 底　— 高　(11.3)	外面：口辺部横撫で　胴上部横方向篦削り 内面：口辺部横撫で　胴上部横方向篦撫で	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の
35	土師器 甕	8号土坑 2号土坑 6号土坑 1区床直	口　18.8 底　— 高　(10.5)	外面：口辺部横撫で　胴上部横・斜方向篦削り 内面：口辺部横撫で　胴上部横・斜方向篦撫で	胎　細砂粒を多量に含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1/3 外面頸部に輪積痕顕著
36	土師器 甕	カマド内	口　19.6 底　— 高　(11.9)	外面：口辺部横撫で　胴上部横方向篦削り 内面：口辺部横撫で　胴上部横方向篦撫で	胎　砂粒を多量に含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1/3

第39表　出土遺物観察表

Ⅵ　ま と め

本遺跡では縄文時代前期から後期、平安時代の集落跡及び亀裂が確認された。

縄文時代は西側に隣接する道前久保遺跡からも、前期から後期かけての遺構・遺物が検出されている。道前久保遺跡からは前期の諸磯ｂ式期の住居址１軒、諸磯ｃ式期の住居址４軒、土坑墓１基などが、また中期末から後期初頭の住居址２軒などが検出されており、当該時期の集落が周辺に広がっていることが推測されている。また道前久保遺跡からも亀裂が検出されている。

そして道前久保遺跡・道前久保Ⅱ遺跡は前述したとおり、遺跡の存在する舌状台地上に前期古墳及び平安時代の集落跡の日向後原遺跡、古墳時代の豪族居宅の堀（推定）が検出された蔵畑遺跡、弥生後期から平安時代集落跡の下原・賽神遺跡、弥生時代から古墳時代後期まで継続する集落跡の諏訪ノ木遺跡、平安時代集落跡の蔵畑Ⅱ遺跡が存在していて、本遺跡を含めてこれら周辺の遺跡は時期的にも互いに補完関係があるため、「蔵畑・諏訪ノ木遺跡群」として捉えられている。

つぎに亀裂について触れておく。本遺跡で検出された亀裂は、縄文時代前期の住居址を壊している状況が確認された。道前久保Ⅱ遺跡で検出された亀裂も同様の状態で、縄文時代以降に発生した地震によるものと考えることが出来る。

本遺跡の亀裂は、前述したとおり調査区北側で東西に長く検出された。確認された長さは約24m、幅は最大で約４m、途中Ｊ－12号住を壊す状況で検出された。土層断面を観ると、亀裂に引き裂かれた部分が、ズレて平行移動するような状況で落ち込んでいるのが観察される。同一土層が最大で80cm程陥没している部分もあった。また一部には、地震の時に生じる噴砂も確認された。

地震によると考えられる亀裂は、「蔵畑・諏訪ノ木遺跡群」の蔵畑遺跡、蔵畑Ⅱ遺跡、下原・賽神遺跡、諏訪ノ木遺跡、山峰遺跡等でも確認されている。蔵畑Ⅱ遺跡で指摘されたように、これらの亀裂の一部は『類聚国史』等の古記録にある、関東地方一帯を襲った弘仁９年（818年）に発生した地震によるものと考えられる。道前久保遺跡・道前久保Ⅱ遺跡で検出された亀裂は縄文時代以降であることは確認されたが、それ以降いつのものかはっきりとしない。しかし周りの遺跡の状況から見て、弘仁９年（818年）に発生した地震の影響を受けたものと推測するのがもっとも妥当と考えられよう。

〈主要参考文献〉

大工原豊・千田茂雄・飯田陽一他　2001　『安中市史』第４巻原始古代中世資料編

井上慎也　2005　『下原・賽神遺跡』安中市埋蔵文化財発掘調査団

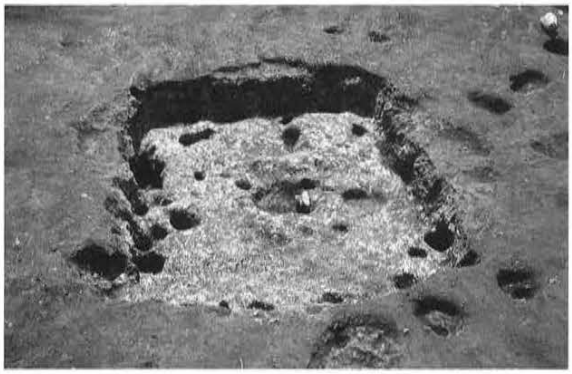
井上慎也　2006　『蔵畑Ⅱ遺跡遺跡』安中市埋蔵文化財発掘調査団

写 真 図 版

J－1住　全景

J－2住　全景

J－3住　全景



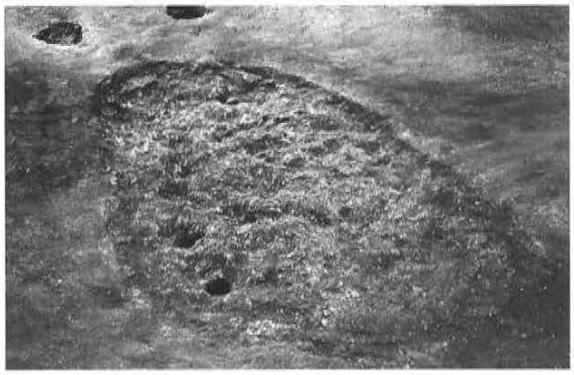
J－4住　全景

J－5住　全景

J－6住　J－D－29　全景

J－7住　全景

図版 2



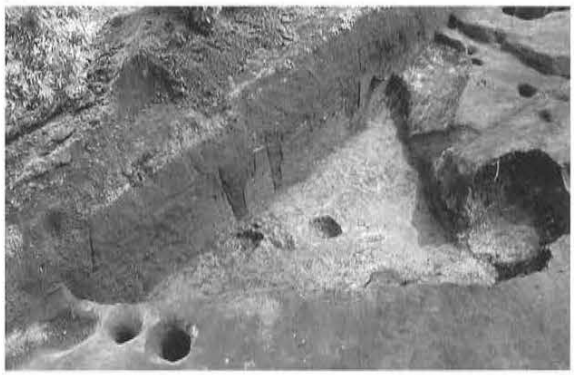
J－8住　全景

J－9住　全景

J－11・12住　全景

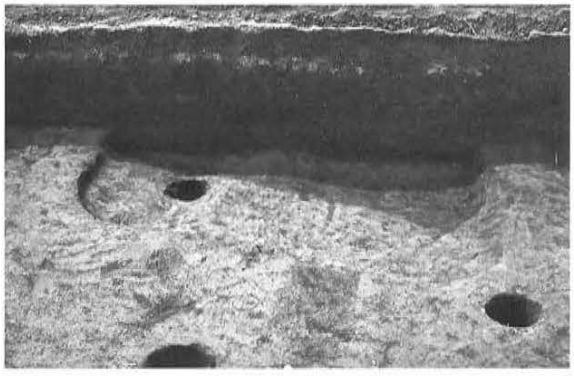
J－13住　全景

J－13住　全景



J－14住　全景

J－15住　全景

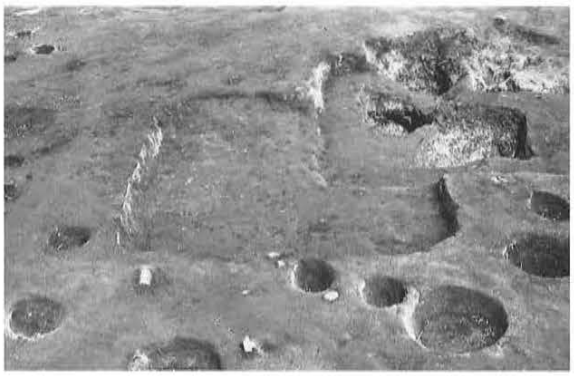


H－1・9住　全景

H－2住　全景

H－3住　全景

H－4住　全景



H－5住　全景

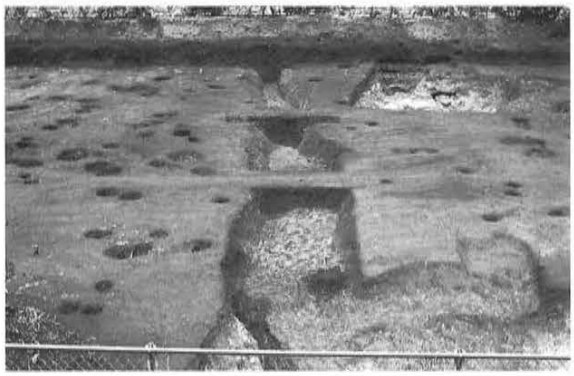
H－6住　全景

H－7住　全景

図版 4

H－10住　全景

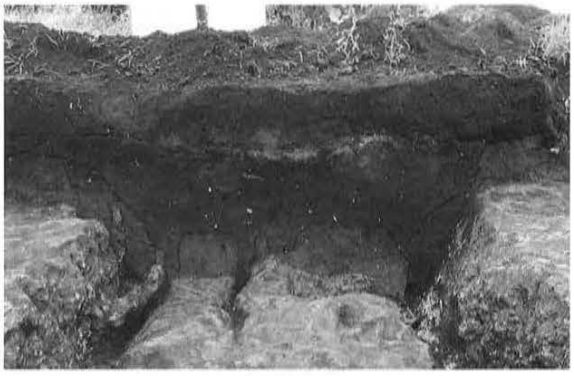
H－13・14住　全景



M－1

亀　裂

亀　裂



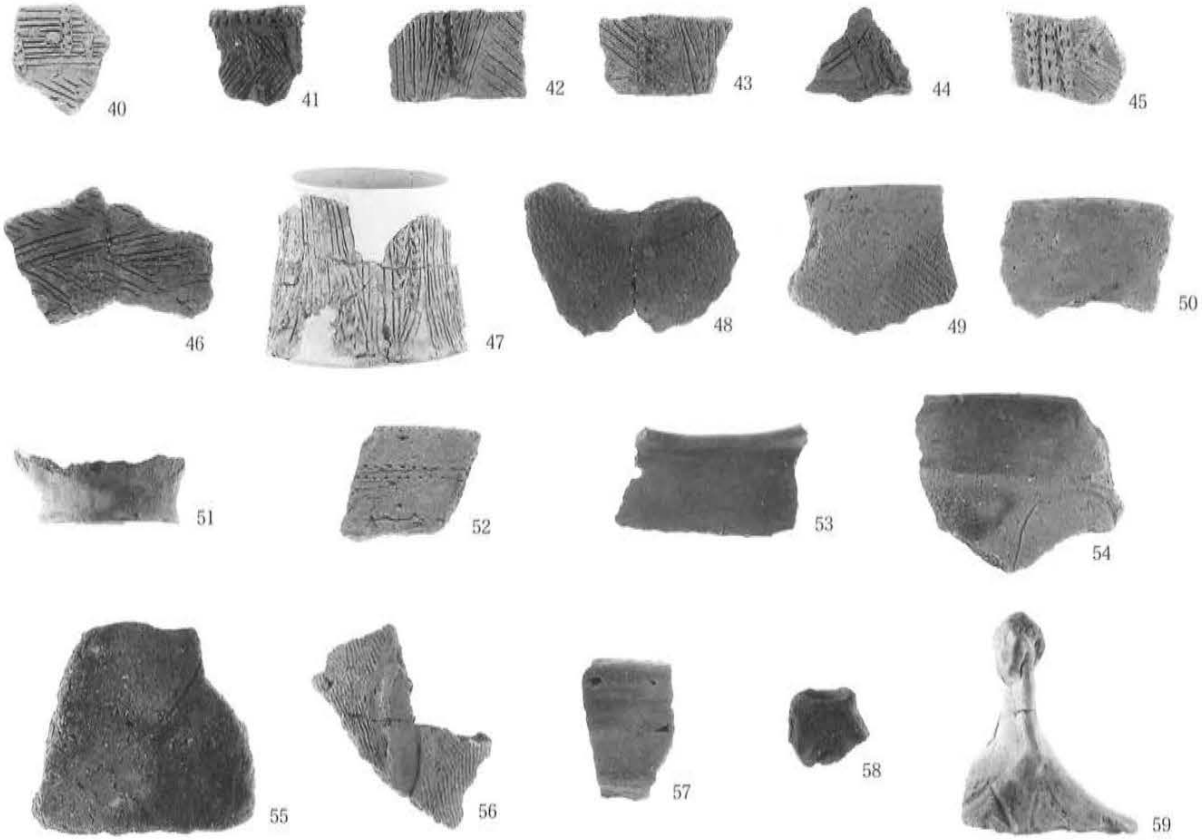
亀裂断面

亀裂断面

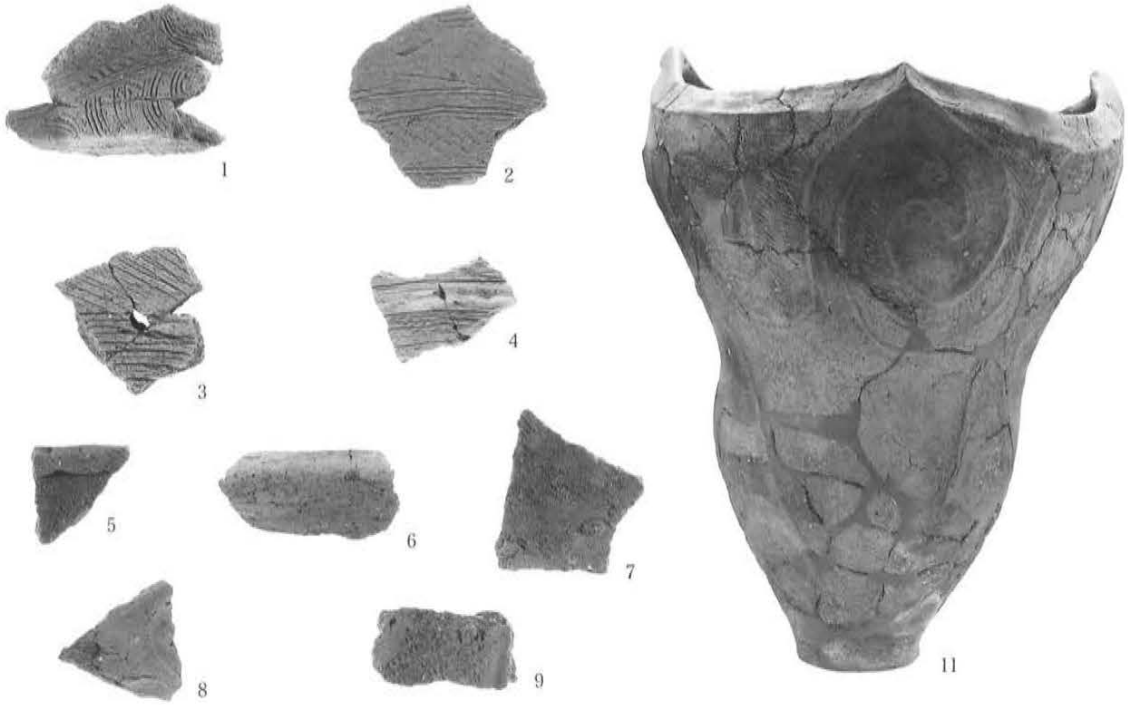
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39

J－1号住出土遺物(1)

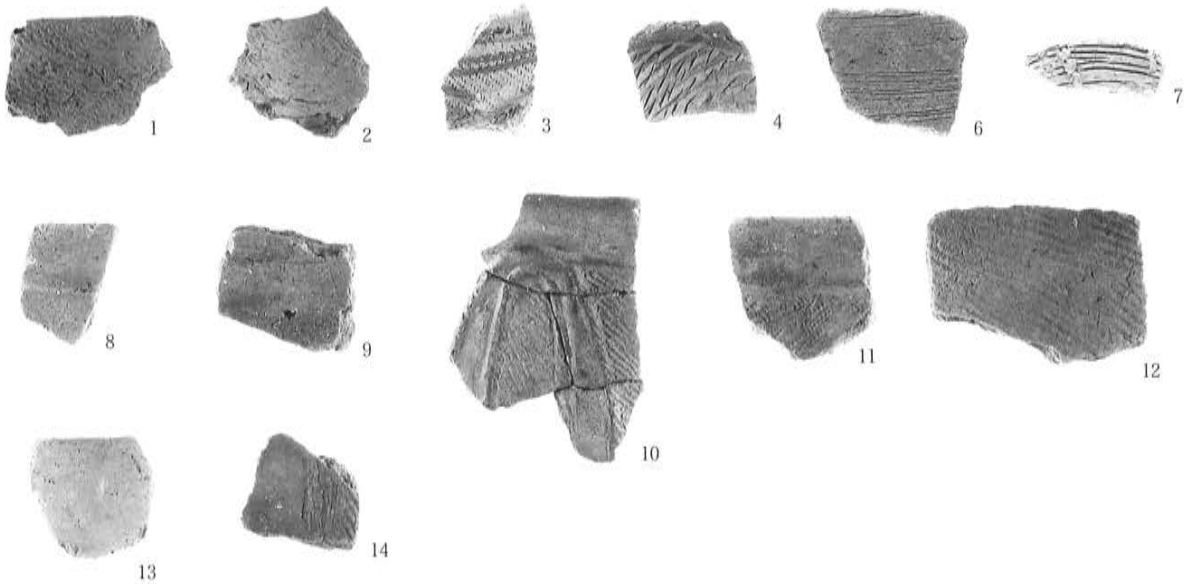
図版 6



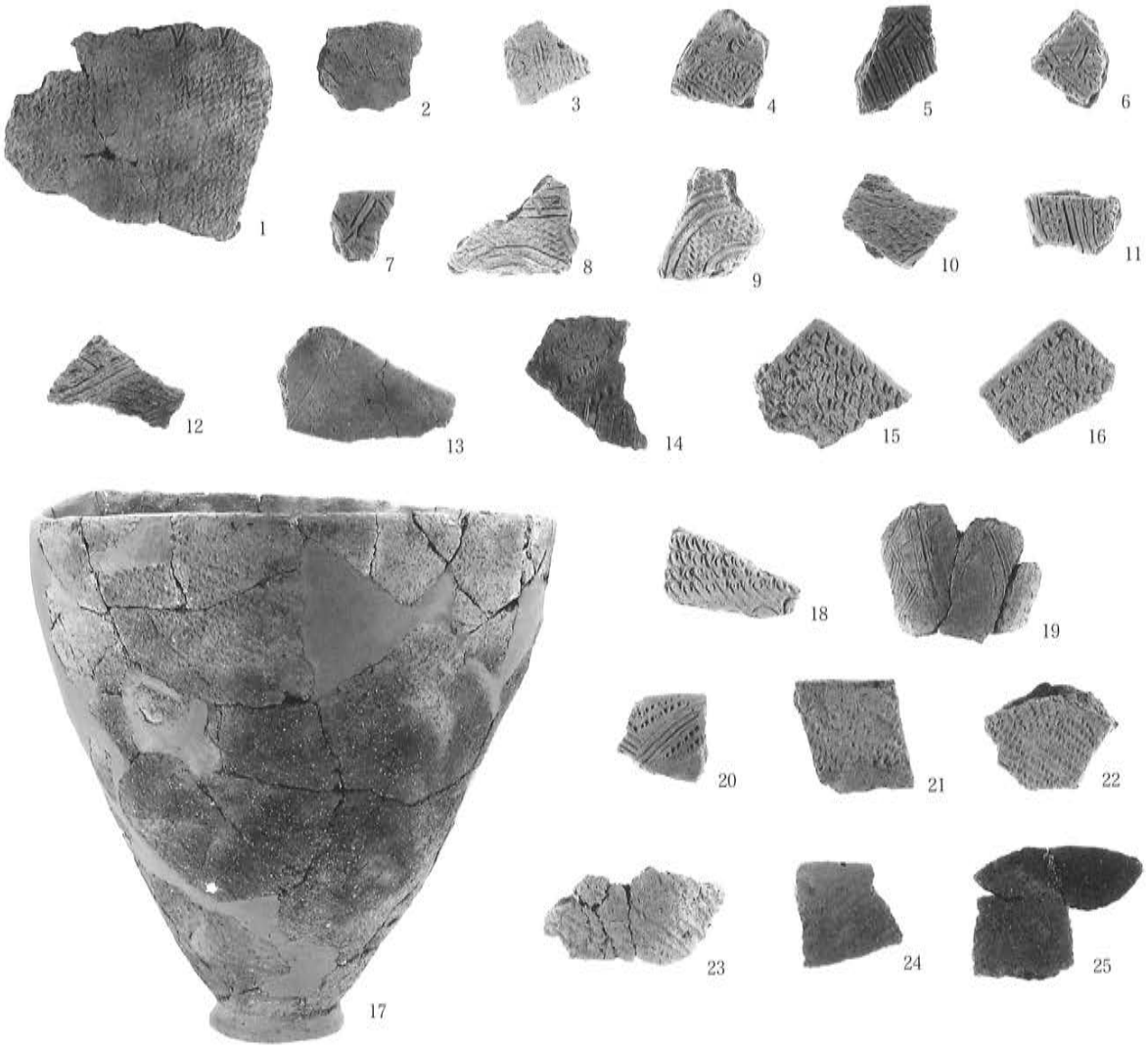
J－1号住出土遺物 (2)



J－2号住出土遺物

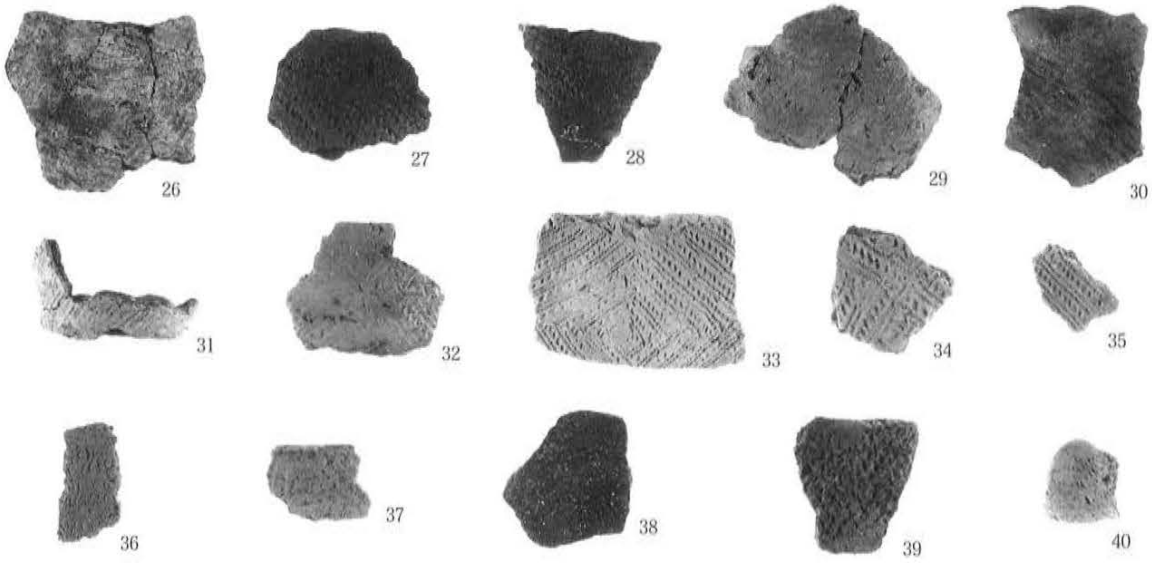


J－3号住出土遺物

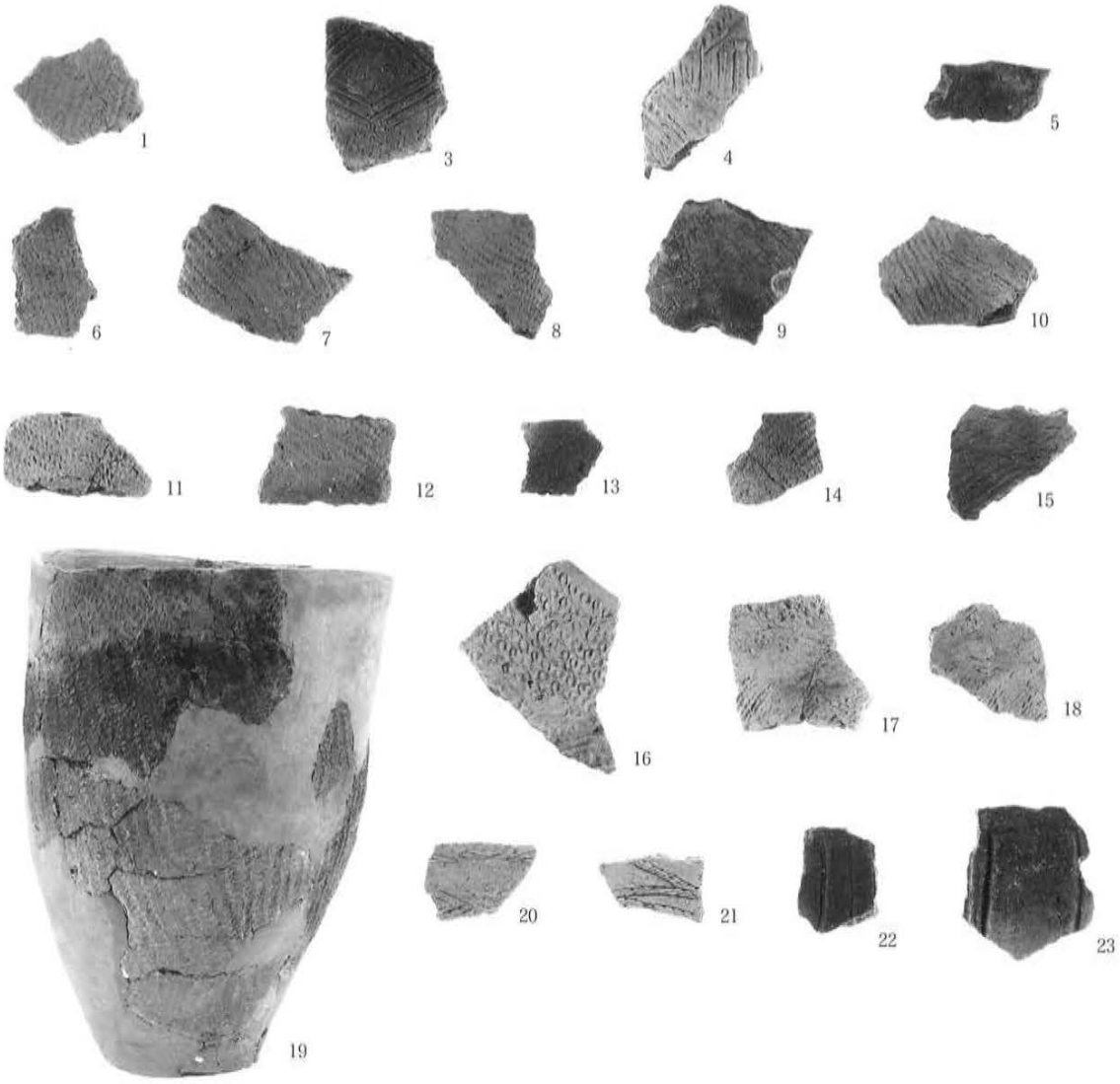


J－4号住出土遺物 (1)

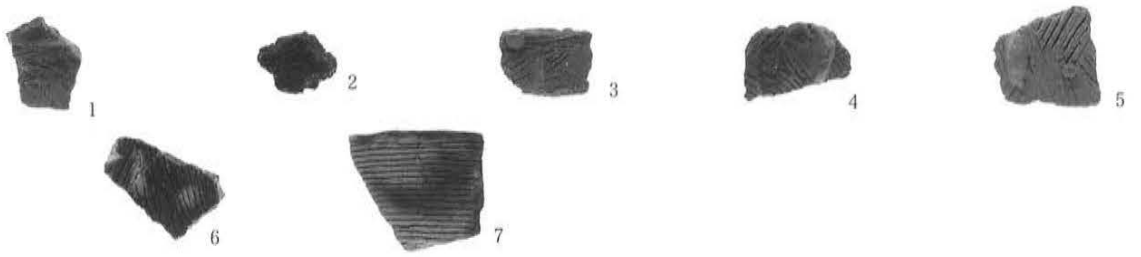
図版 8



J－4号住出土遺物 (2)

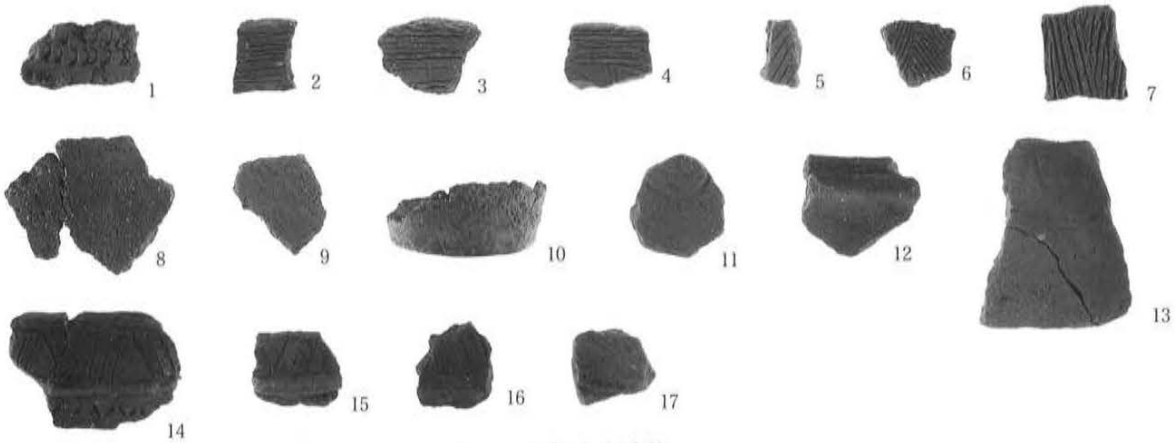


J－5号住出土遺物

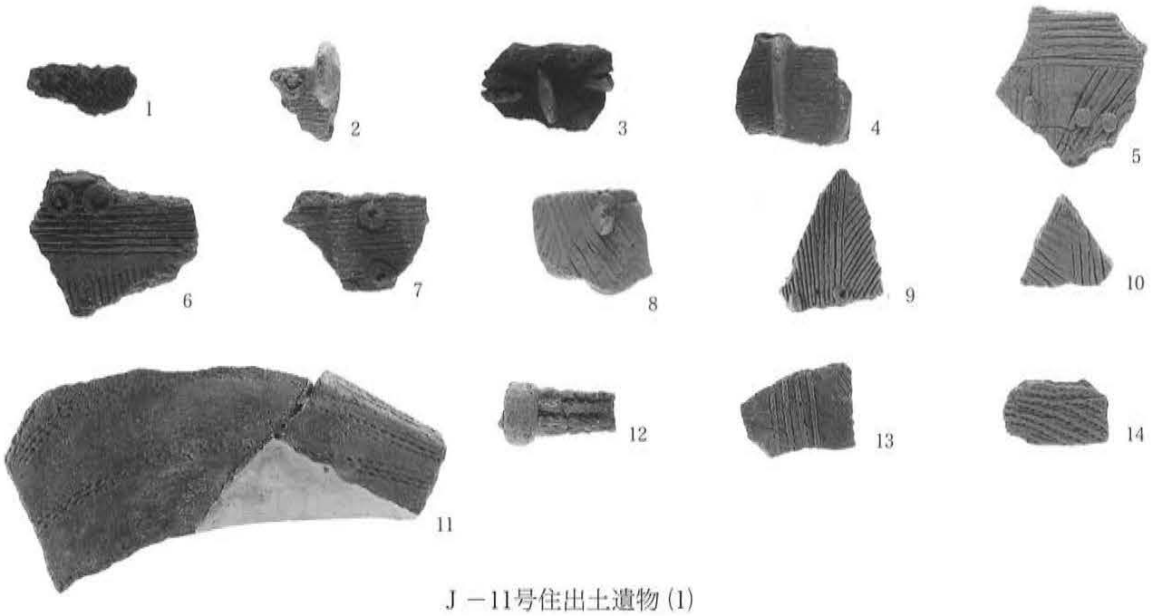


J－6号住出土遺物

J－8号住出土遺物

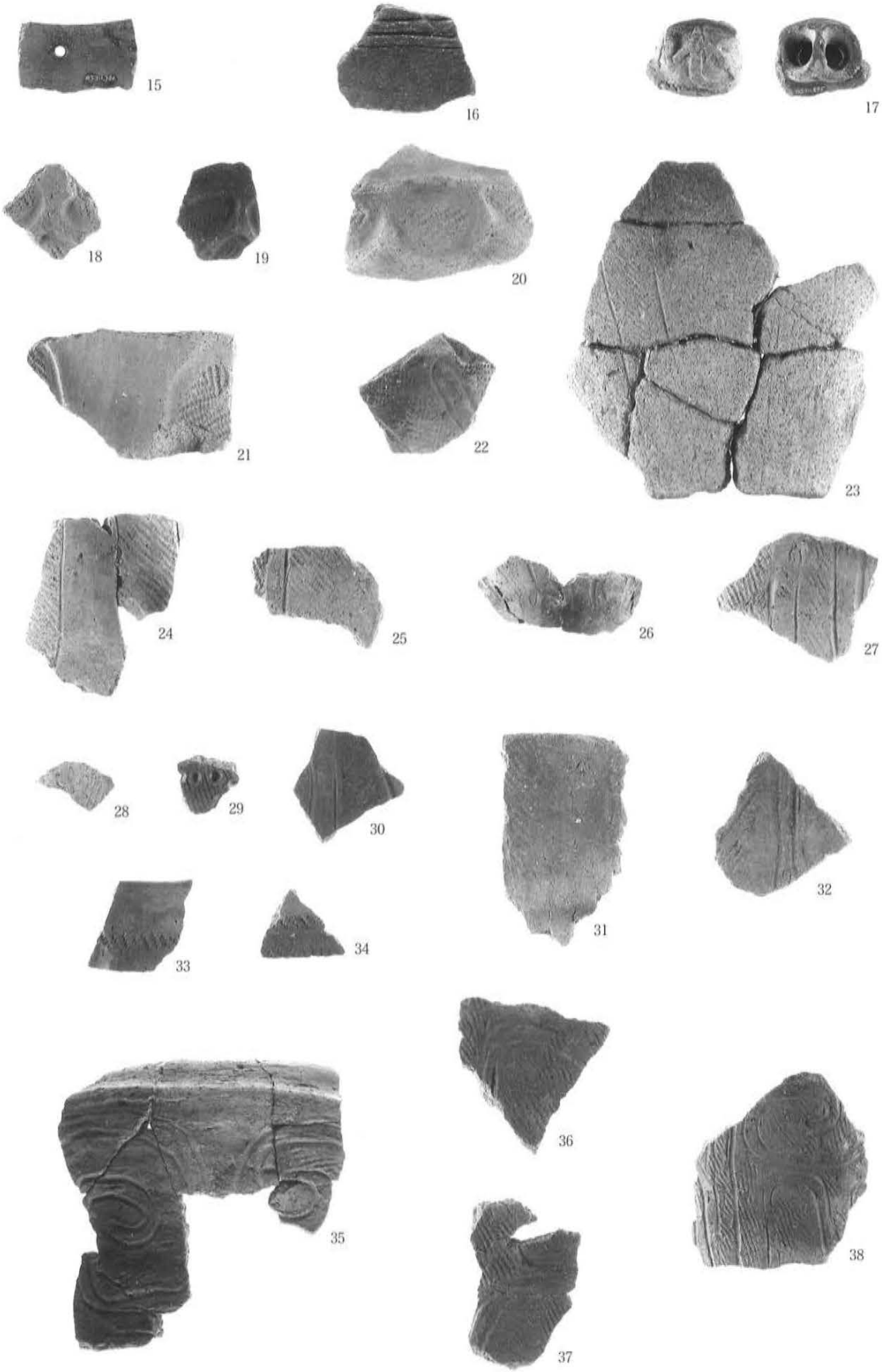


J－9号住出土遺物

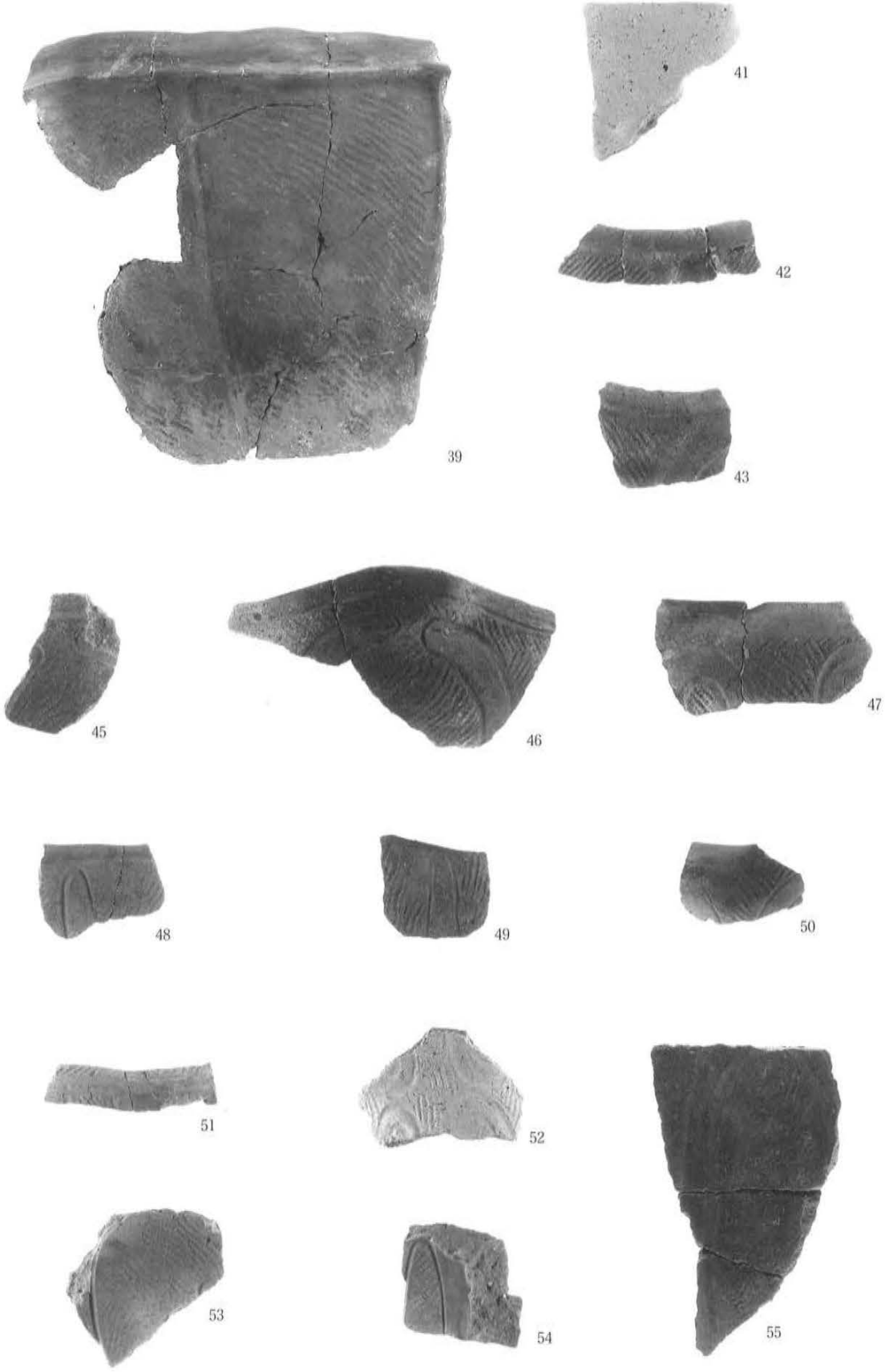


J－11号住出土遺物 (1)

図版10

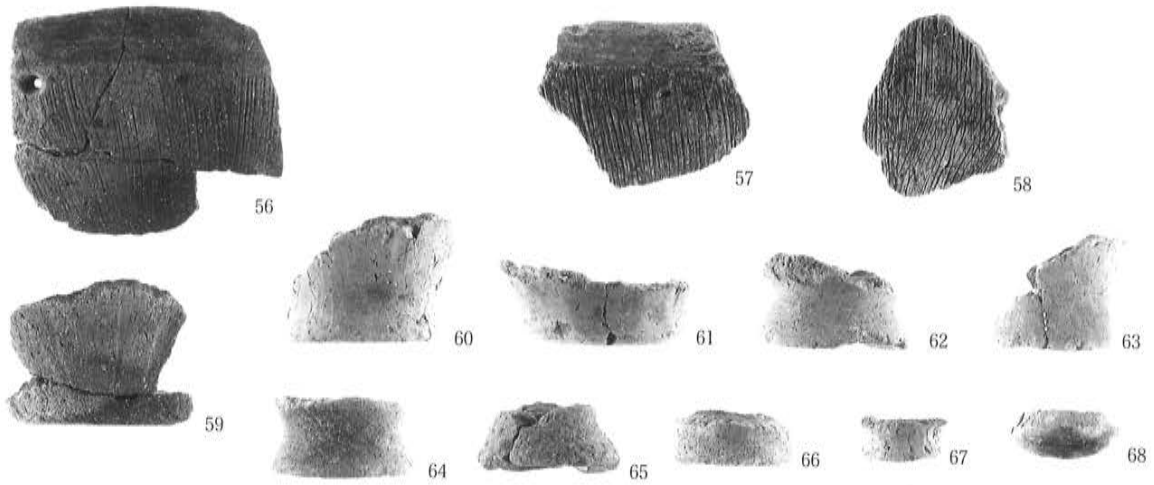


J－11号住出土遺物 (2)

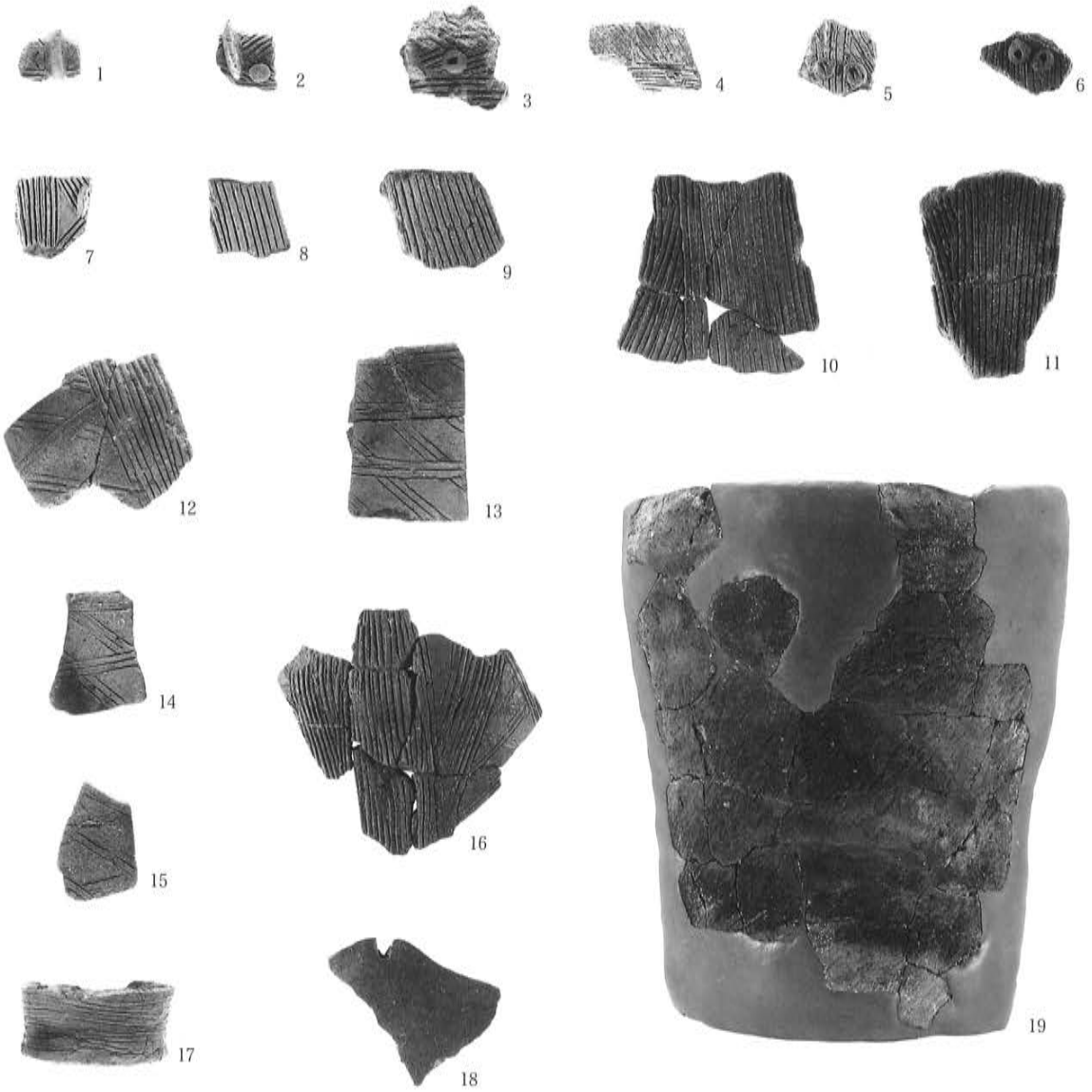


J －11号住出土遺物 (3)

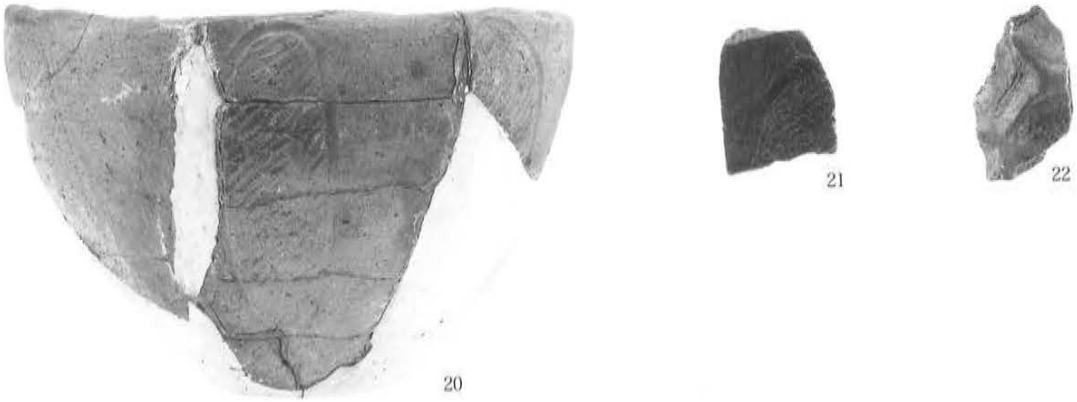
図版12



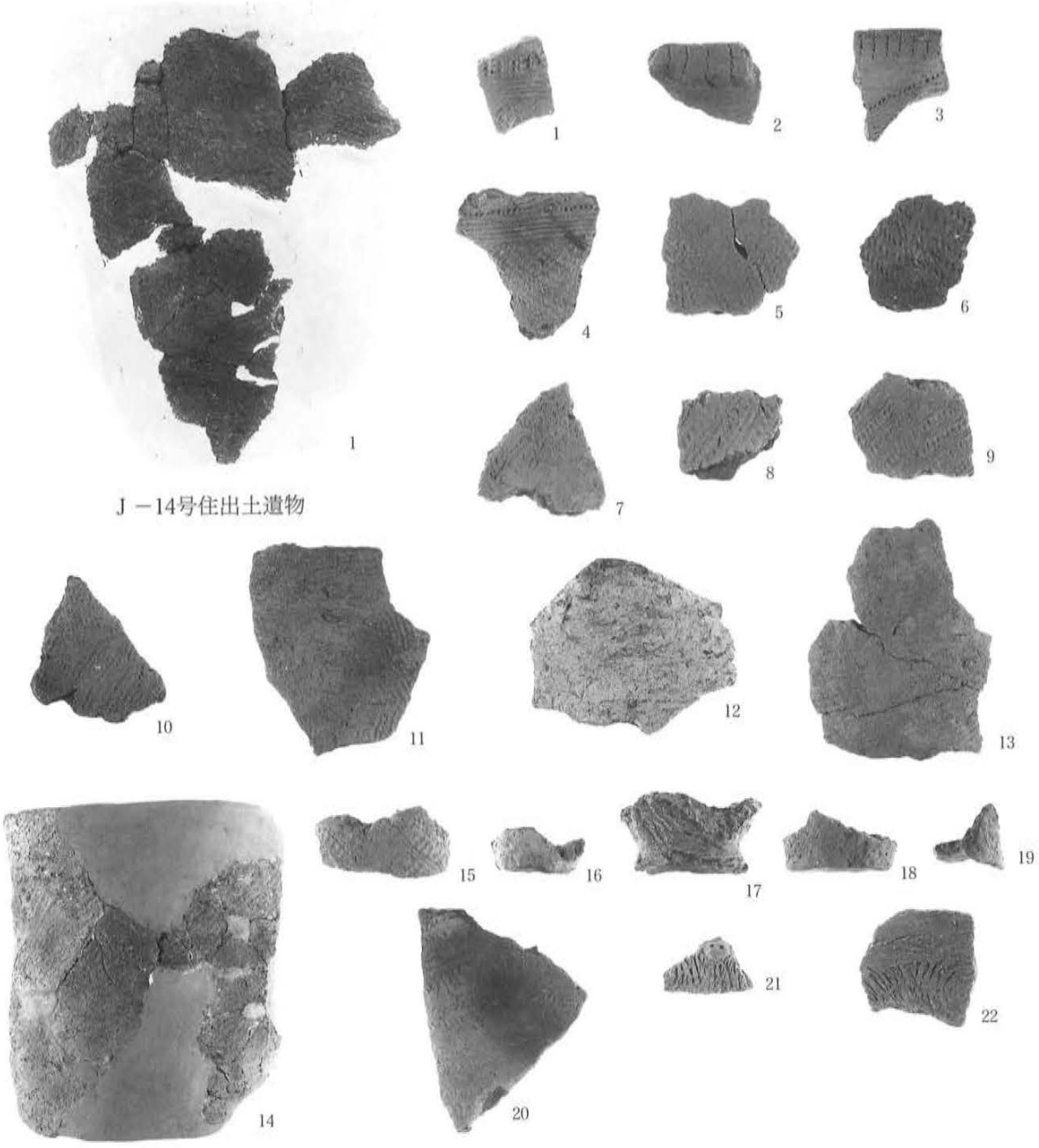
J －11号住出土遺物 (4)



J －12号住出土遺物 (1)



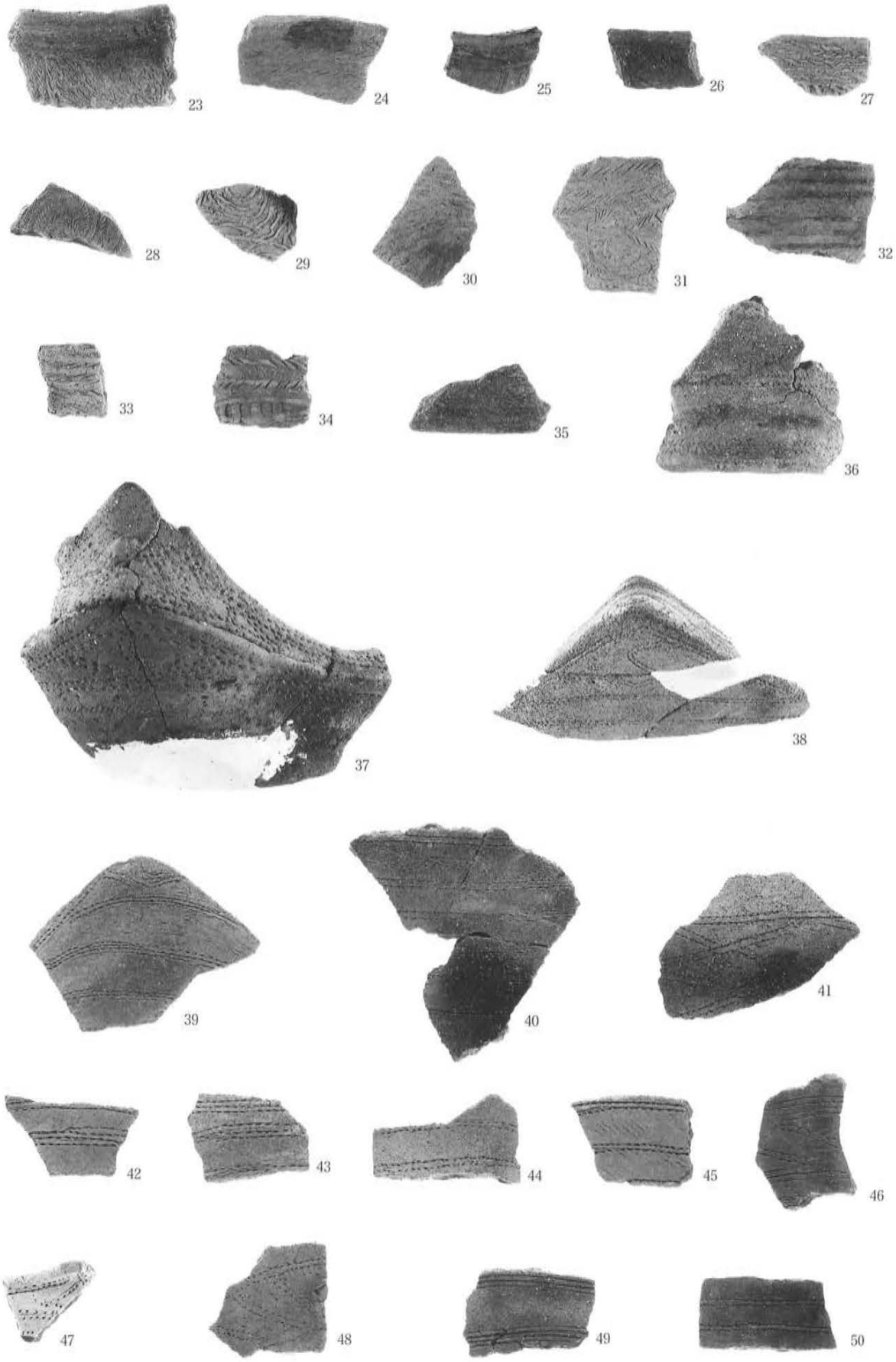
J －12号住出土遺物 (2)



J －14号住出土遺物

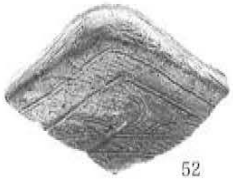
J －15号住出土遺物 (1)

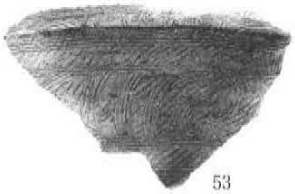
図版14



J－15号住出土遺物 (2)

51

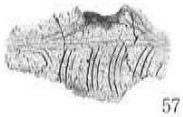

52


53

54

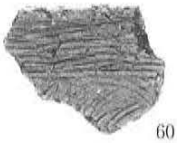
55

56


57

58

59


60

61

62

63

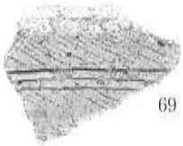
64

65

66

67

68


69

70

71

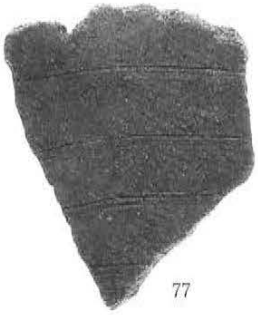
72

73

74

75

76


77

78

79

J －15号住出土遺物 (3)

図版16

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

100

99

101

102

103

104

105

106

107

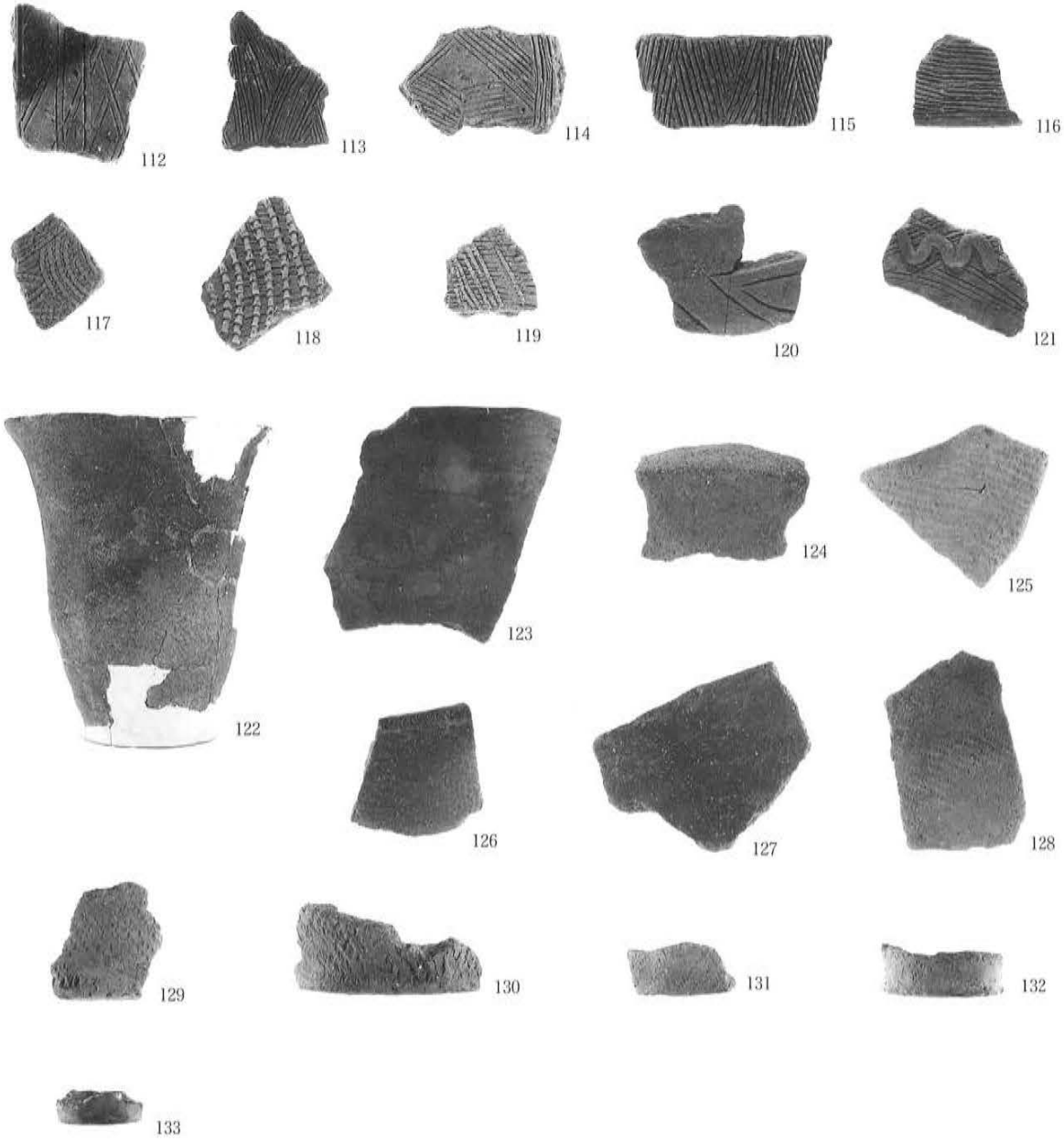
109

110

111

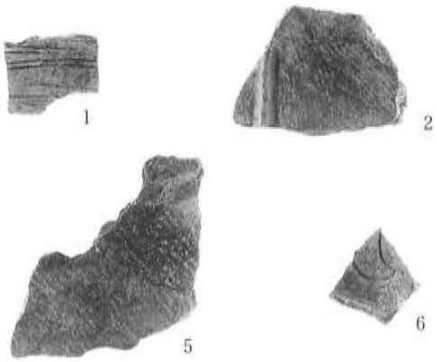
108

J－15号住出土遺物 (4)

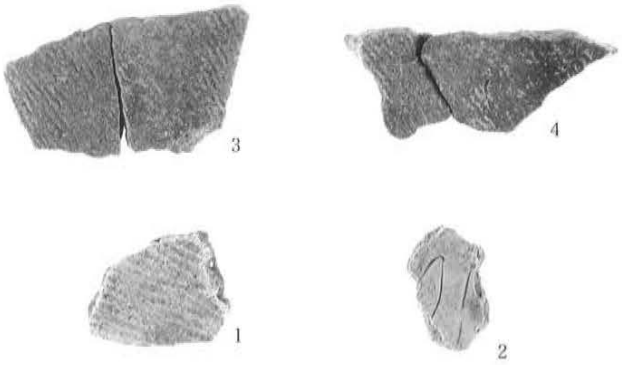

112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133

J －15号住出土遺物 (5)

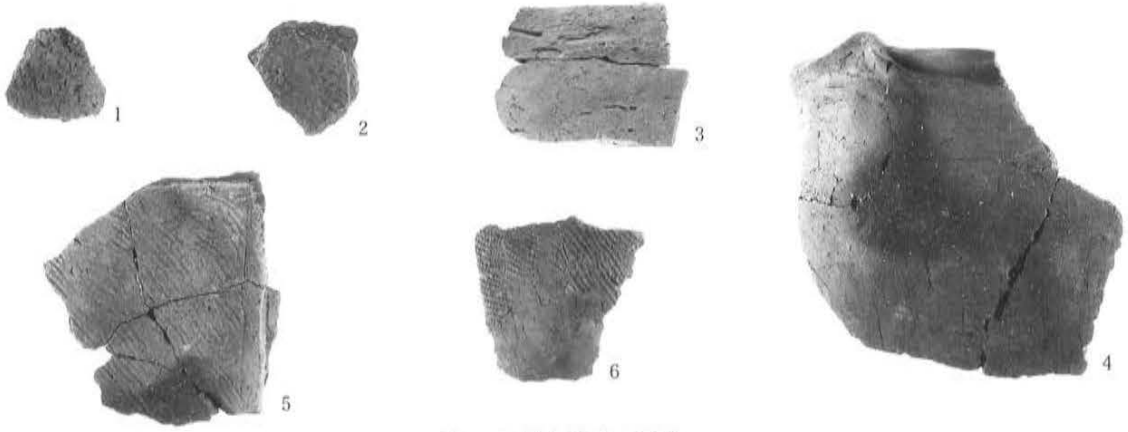
図版18



JD－１号土坑出土遺物



JD－２号土坑出土遺物



JD－３号土坑出土遺物

JD－４号土坑出土遺物

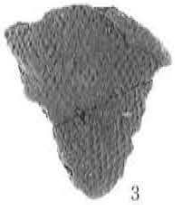
JD－５号土坑出土遺物

JD－６号土坑出土遺物 (1)

JD－６号土坑出土遺物 (2)

JD－９号土坑出土遺物

JD－16号土坑出土遺物



JD－12号土坑出土遺物

JD－21号土坑出土遺物

JD－25号土坑出土遺物

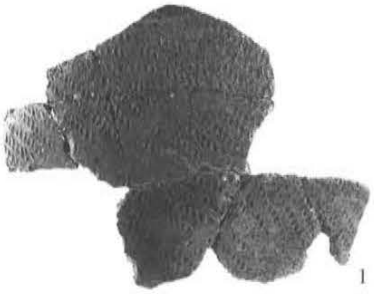
JD－28号土坑出土遺物

JD－29号土坑出土遺物

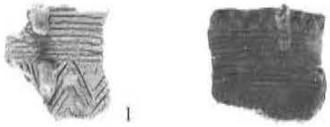
図版20

JD－30号土坑出土遺物

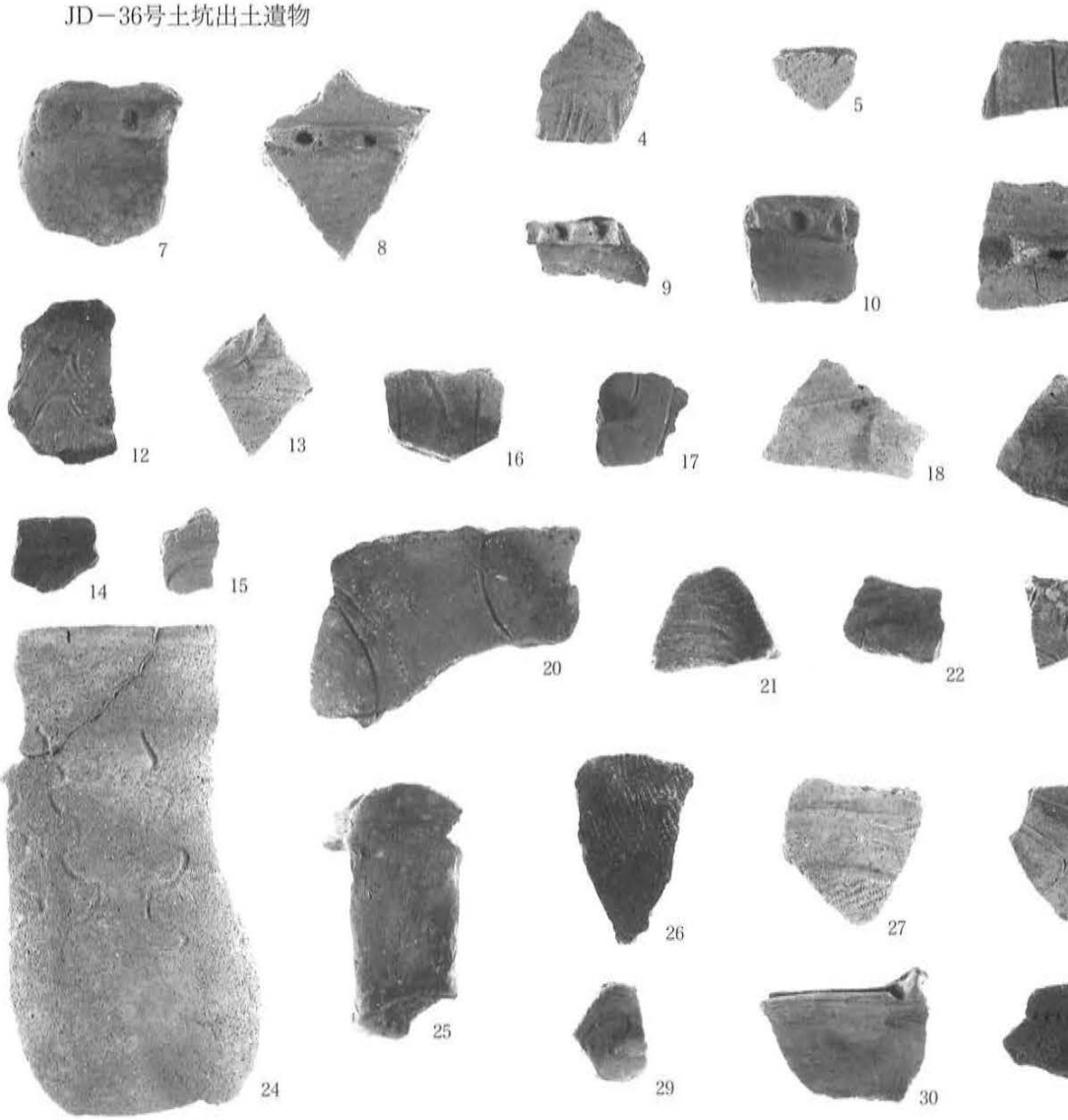
JD－31号土坑出土遺物



JD－33号土坑出土遺物



JD－36号土坑出土遺物



JD－37号土坑出土遺物 (1)

JD－37号土坑出土遺物 (2)

JD－40号土坑出土遺物

JD－38号土坑出土遺物

JD－44号土坑出土遺物

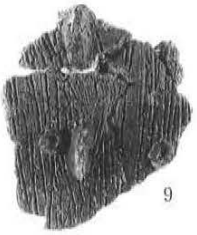
JD－41号土坑出土遺物

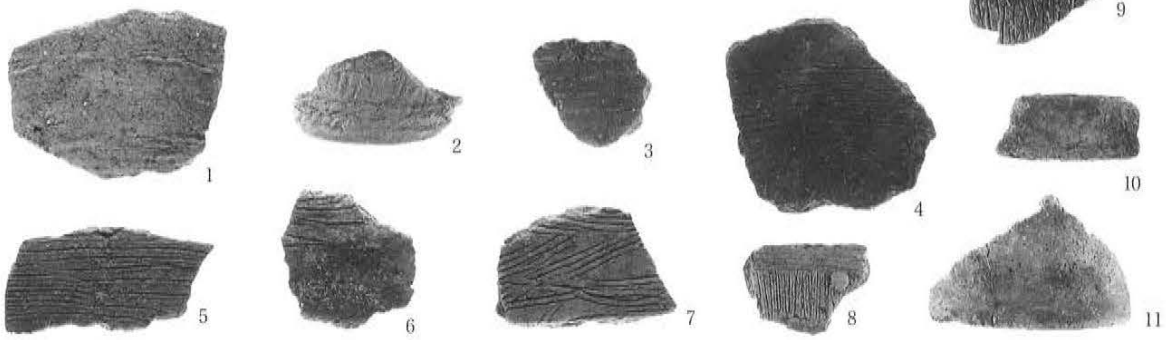
JD－49号土坑出土遺物

JD－51号土坑出土遺物

JD－55号土坑出土遺物

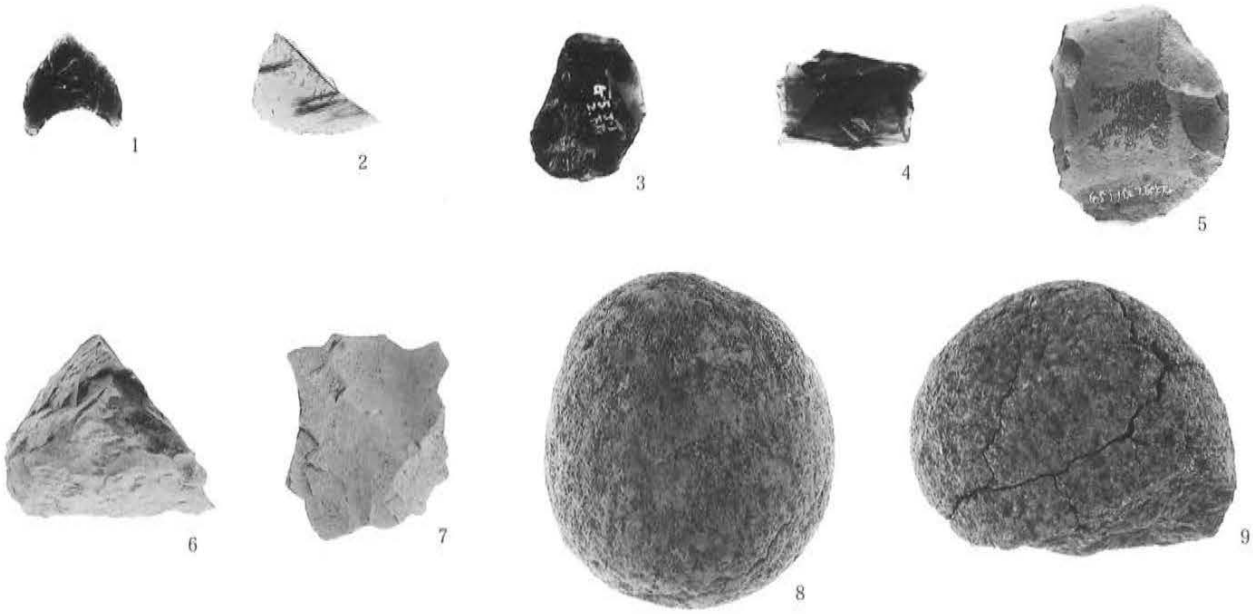
JD－56号土坑出土遺物





JD－58号土坑出土遺物

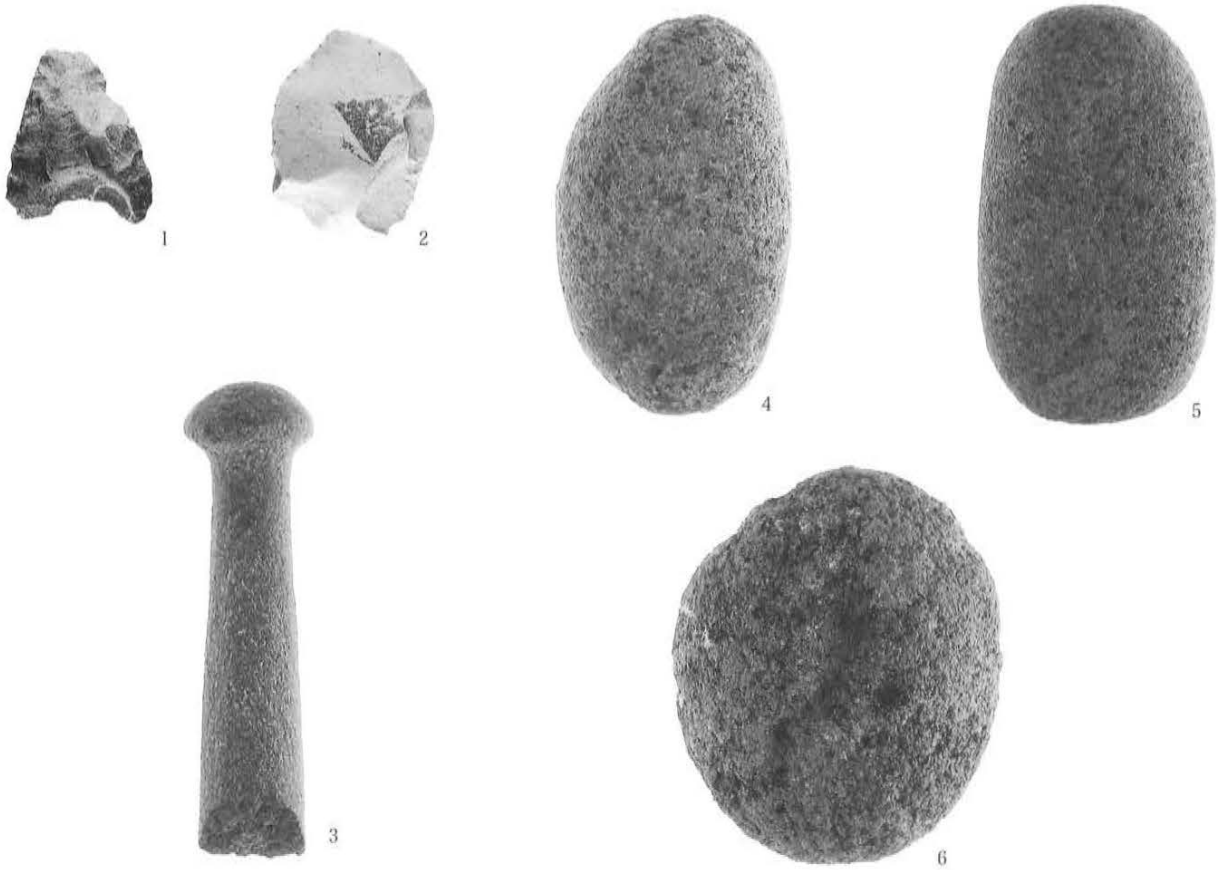
図版22



J－1号住出土の石器

J－2号住出土の石器

J－3号住出土の石器



J－4号住出土の石器

1

2

3

4

5

6

7

J－5号住出土の石器

1

2

J－6号住出土の石器

1

J－8号住出土の石器

1

2

3

4

J－9号住出土の石器(1)

5

1

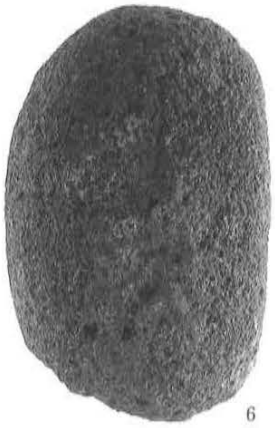
2

3

4

5

Ｊ－９号住出土の石器 (2)


6

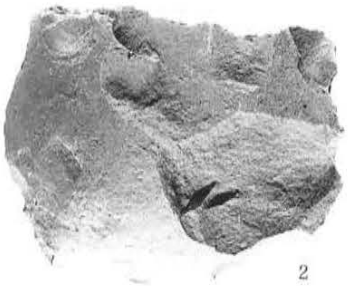
7

8

Ｊ－11号住出土の石器

1

1


2

2

3

4

Ｊ－12号住出土の石器

Ｊ－14号住出土の石器 (1)

5

1

2

3

4

5

6

7

J －14号住出土の石器 (2)

8

9

10

11

12

14

15

16

J －15号住出土の石器

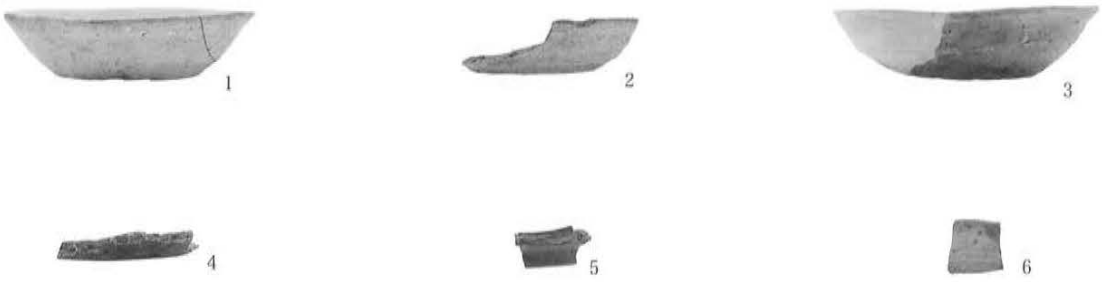
1

JD－６号土坑出土の石器

1

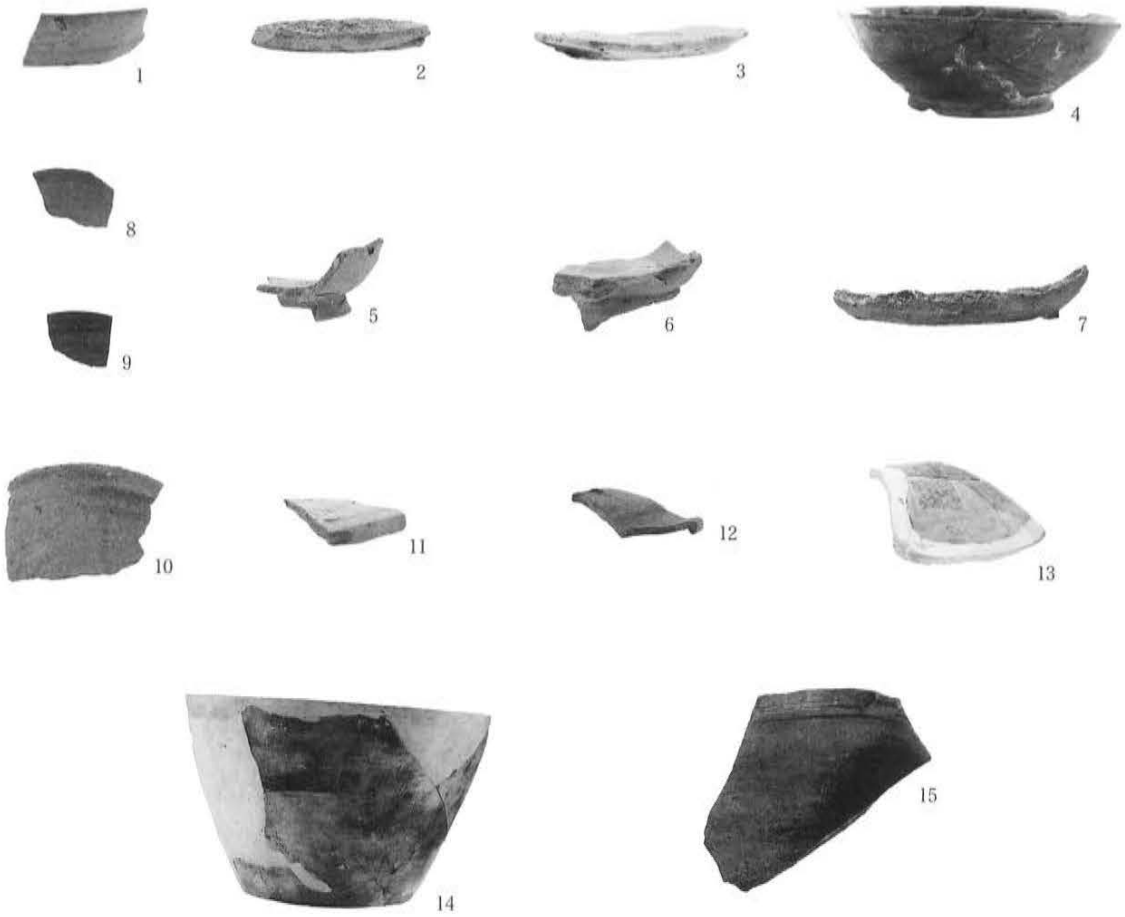
JD－33号土坑出土の石器

図版26

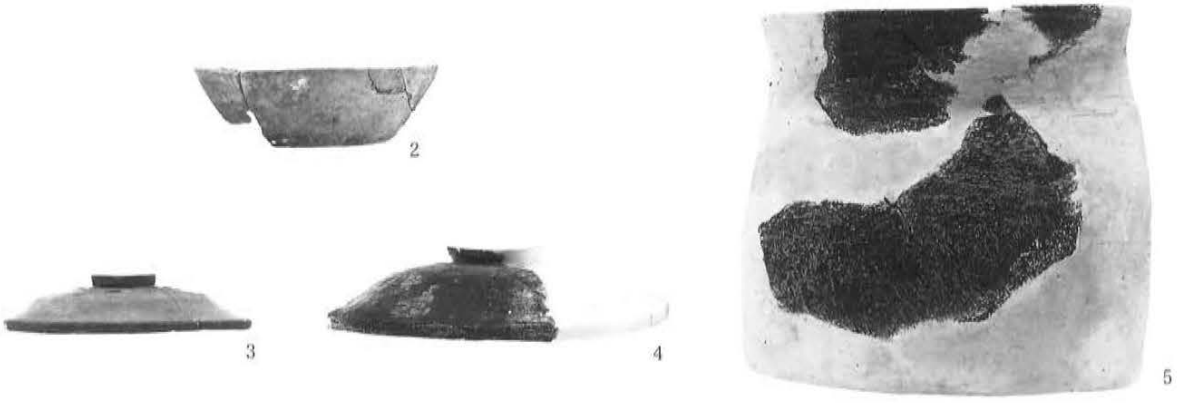


H－２号住出土遺物

H－３号住出土遺物

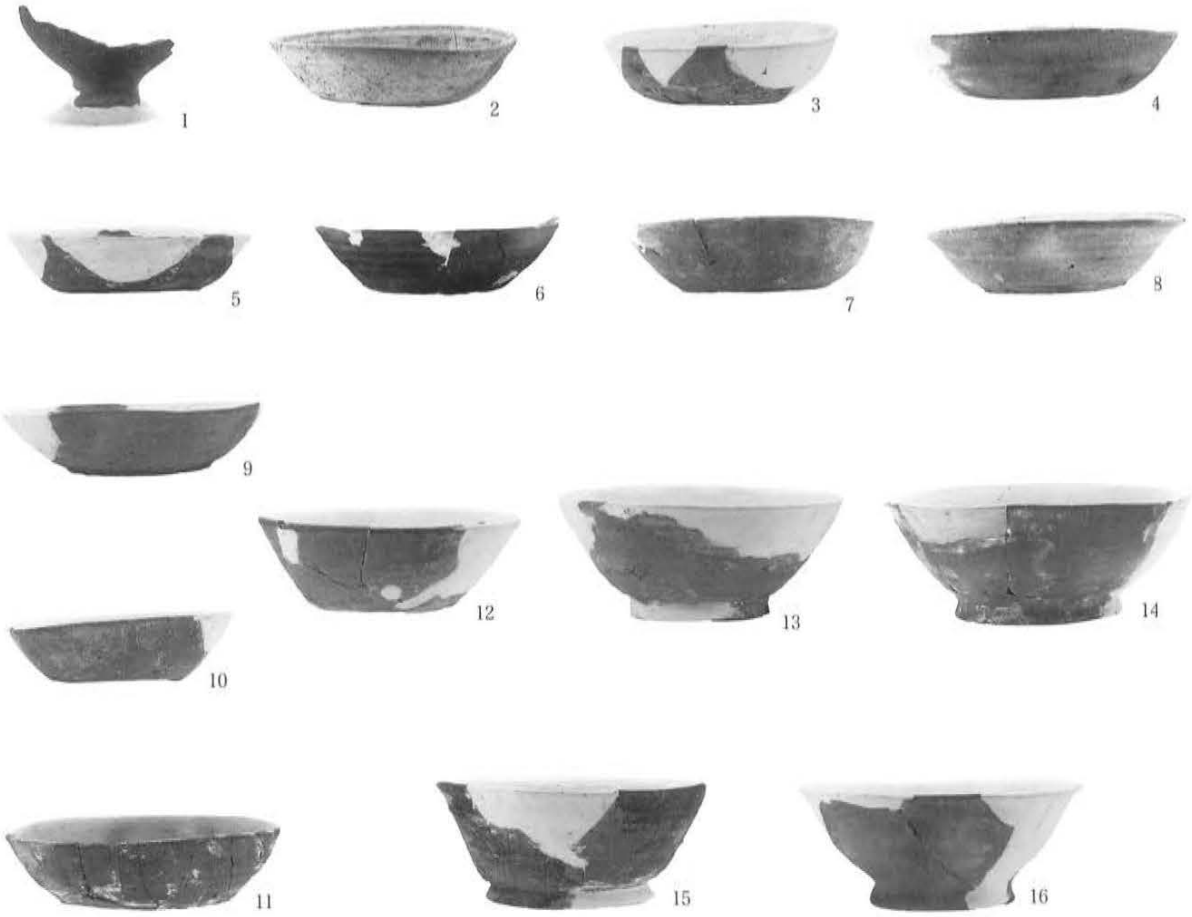


H－４号住出土遺物

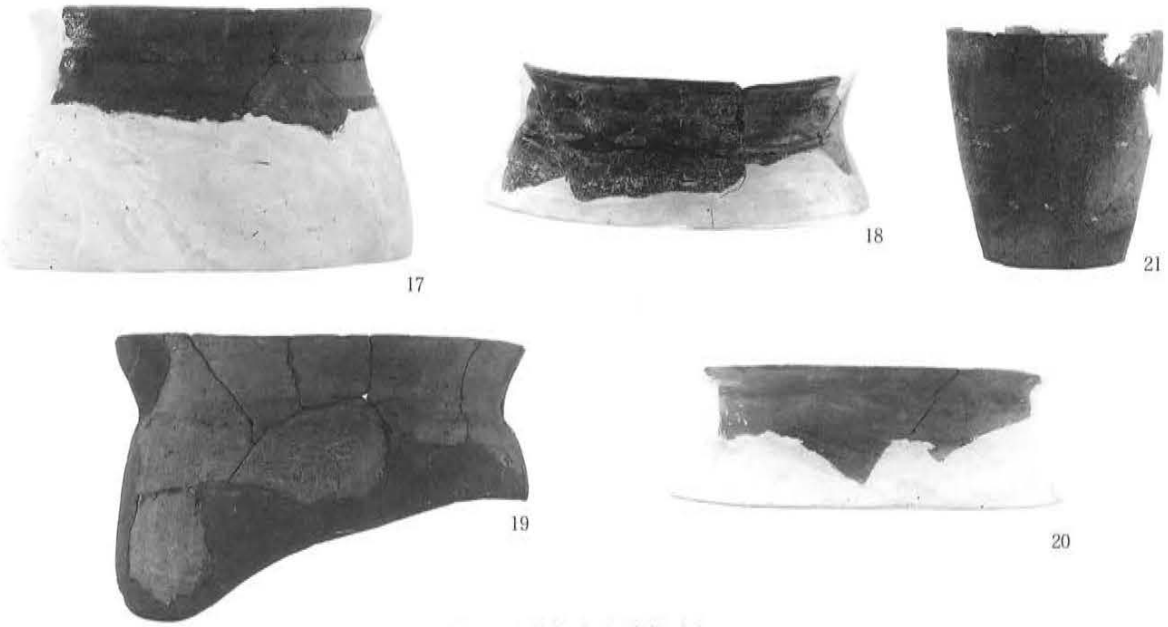


H－7号住出土遺物

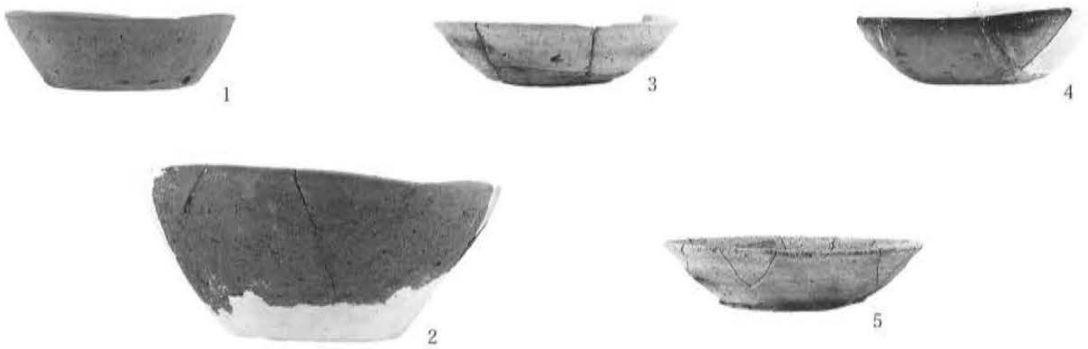
H－8号住出土遺物



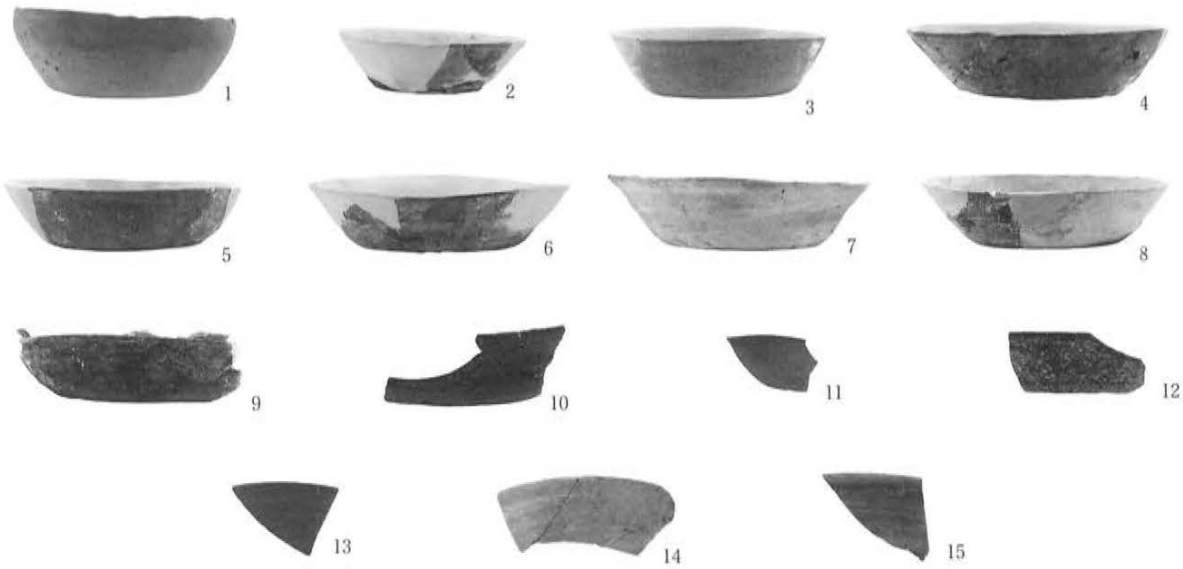
H－10号住出土遺物 (1)



H－10号住出土遺物 (2)



H－13号住出土遺物



H－14号住出土遺物 (1)

16

17

18

19

20

21

22

23

24

26

27

28

29

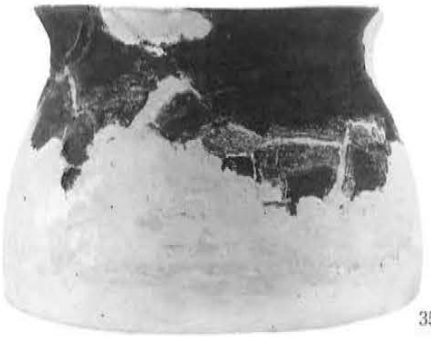
30

31

32

33

34


35

36

H－14号住出土遺物 (2)

発掘調査抄録

ふりがな	どうぜんくぼにいせき
書名	道前久保II遺跡発掘調査報告書
副書名	工場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	千田茂雄　鬼形敦子
編集機関	安中市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	379－0192　群馬県安中市安中一丁目23－13（安中市教育委員会内）
発行年	西暦2009年（平成21年）　3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
道前久保II遺跡（どうぜんくぼにいせき）	安中市上間（あんなかしかみま）仁田字道前久保（にたあざどうぜんくぼ）	102113	G－5			19880510 ～ 19880710	4200㎡	工場建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
道前久保II遺跡	集落	縄文時代 平安時代	住居址　15軒 住居址　14軒	土器・石器 土師器・須恵器	縄文時代時代前期・後期の集落。 平安時代の集落。 断層（地割れ）

道前久保Ⅱ遺跡発掘調査報告書
――工場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書――

発　行　日　平成21年３月30日
編集・発行　安中市埋蔵文化財発掘調査団
群馬県安中市安中一丁目23―13
（安中市教育委員会内）
印　　刷　朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67